密蘭協會ニ於テハ會員ノ掛金高ニ差異アルヲ見ルヘシ、即チ年齢二十歳未滿ノ會員ニアリテハ年々ノ掛金一「リラ」二〇及九「リラ」ナリトシ、二十歳以上ニアリテハ同シク九「リラ」六〇ト定ム、而シテ協會ヨリ給與セラルヽ保護金全額ハ三十「リラ」ニ踰ヘサルモノトス、羅馬協會ニテハ其給與スル所ノ保護金ハタヽイン協會ト全ク同一ナレトモ、會員ヨリ納付スル掛金ハ毎月僅カニ二十五「センテシミー」ニ過キス、布呂連斯協會ニテハ分娩ノ前後各々二十日間宛毎日一「リラ」半ヲ給與スルカ故ニ、合計六十「リラ」ノ保護金ヲ受クヘキコトヽナリ居レリ、而シテ其掛金モ亦タ前者ヨリ一層高シト知ルヘシ、即チ年齢二十一歳未滿ノ會員ナランニハ、毎月四十五「リラ」、二十一歳以上三十歳ー」及三十歳以上ナランニハ同シク五十五「センテシミー」ノ掛金ヲ爲サンコトヲ要ス

ベルガモー協會ニテハ會員毎月ノ掛金ヲ三段ニ區別セリ、即チ四十「センテシミー」、六十「センテシミー」及五十「センテシミー」是レナリ、而シテ之ニ對スル年齢別ハ布品連斯協會ノ年齢別ト全ク同一ナリト知ルヘシ、然レトモ此協會ニテハ更ニ入會スルノ當初入會手數料トシテ一「リラ」ヲ納メシムルコトヽシ、四十「リラ」ノ保護金ヲ給與スルモノトス

ブレツシア協會ニテモ亦タ是レ會員毎月ノ掛金ヲ四十「センテシミー」、五十五「センテシミー」及四十五「センテシミー」ノ三段ニ區別セリ、而シテ之ニ對スル年齢別ハ前者ト全ク同一ニシテ更ニ異ナル所之レナキナリ、又タ保護金給與斯間ハ三十日間ニシテ毎一日ニ就キ一「リラ」半ノ定メナルカ故ニ總計四十五「リラ」ナリト知ルヘキノミ

此等ノ協會ハ幾千カ自カラ支持スヘキ責任ヲ有スルモノナルカ、協會ト協會トノ間ニ於テ會員掛金等ニ若干ノ差異アリト雖モ、斯ル差異ハ事實上充分ナル基礎アリテ然ルモノニアラサルナリ

產婦保險問題ニ關シテ廣ク一般ノ人氣ヲ皷舞シタル之カ原因ナラスンハアラス、即チ一千九百二年六月十九日發布サレタル工場法ニ原因スルコトヲ是レナリ、抑モ此工場法中特ニ婦人分娩後一ケ月以內ニ之ヲ使用スルコトヲ禁止セリ、但シ除外例トシテ此期間ヲ短縮シテ三週間ト爲スコトヲ得ヘキナリ、勿論斯ク其期間ヲ短縮スル場合ニハ其婦人居住地ノ衞生局ヨリ下附サレタル證明書ナカルヘカラス、而シテ此證明書ナルモノハ此婦人ノ健康狀態ヲ見ルニ其希望スル業務ニ從事スルモ決シテ妨ケ之レナキヤアルモノヲ是レナリ、婦人ニシテ斯ル證明書ヲ携ヘ來リタル場合ニ限リテ三週間ニ短縮スルコトヲ得ヘキナリ、今マ斯ル工場法ノ精神ノアル所如何ト云フニ法律上產婦ノ勞働ニ堪ヘサル期間ヲ定メタルモノニシテ、從ツテ此期間ハ賃銀ヲ得ルコト能ハサルハ自然ノ結果ト云ハサルヘカラス、此ニ於テカ貴衆兩院ノ意見ト一致シテ斯ル法律ヲ發表スル以上ハ、必ラス之ニ伴フテ政府ハ國家的產婦保險制度ヲ設ケテ產婦救護策ヲ講セサルヘカラスト主張セリ

勞働取締局ノ調查

責任アル産婦保險制度ヲ設クヘキ法案ヲ提出セント欲セハ、實際之カ基礎トナルヘキ統計的材料ヲ調査セサルヘカラス、此ニ於テカ農工商務大臣ハ其調査方ヲ伊國勞働取締局ヘ委任シタリ、而シテ其調査方針ナルモノハ一千九百二年六月十九日ノ發布ニ係ル法律ニ記載サレタル婦人ノミニ關スルモノト知ルヘシ、斯クテ一千九百三年ニ於テ其調査ニ取リ掛リ其翌一千九百四年ニ至リテ其調査ノ結果ヲ報告シタリ、蓋シ勞働取締局カ統計的ニ斯ル調査ヲ爲シタルハ之ヲ以テ其嚆矢トナス、而シテ斯ル調査ニ係ル年月如何ト云フニ一千九百二年十二月一日ヨリ一千九百三年十一月三十日マテノ期間ナリト知ルヘク、又タ二千六百五十四會社ニ使用サレタル婦人十七萬二千三百六十五人ニ係ル調査是レナリ

一千九百一年ノ伊太利國々勢調査ニ據ルニ、婦人ノ被雇人ノ數及被雇人全數ニ對シテ婦人被雇人ノ比例數幾干ナルヤ、左表ヲ見レハ自カラ判然スル所アルヘシ

各工業團體ニ使用サレタル婦人ノ被雇人ノ數及百分比例　一千九百一年ノ調査

工業團體	被雇人ノ全數	婦人ノ被雇人 數	婦人ノ被雇人 百分比例
礦山業、冶金業、器械業及化學工業	一、〇〇二、七二八	二〇、二一九	二
食物製造業	一〇二、八八三	一九、三三三	一二
織物業	四五八、三〇二	三六六、五七一	八〇
其他ノ諸業	九七一、七八一	三二四、六七三	三三
總計	二、五九五、六九四	七三〇、八一六	二八

一千九百一年ノ國勢調査ニ據ルニ工場ニ雇ハレタル婦人ノ總數ハ右ノ表ニモ掲ケタルカ如ク七十三萬八百十六名ナリシカ、又タ他ノ方面ナル農工商務省統計局ニ於テ一千九百二年六月十九日發布ノ法律ニ從ツテ、調査シタル工場ノ數等ヲ公告シタルカ、今マ其表ヲ掲クレハ左ノ如シ

各工場ニ使用サレタル婦人ノ被雇人ノ數及百分比例　一千九百二年ノ調査

工業團體	工場ノ數	被雇人ノ全數	婦人ノ被雇人 十五歲未滿 數	十五歲未滿 百分比例	十五歲以上 數	十五歲以上 百分比例	總計	被雇人全數ニ對スル百分比例
礦山業、冶金業、器械業及化學工業	二九、〇〇〇	三七四、七一一	三、四〇七	一二・〇	二四、九二一	八八・〇	二八、三三八	七・六
食物製造業	九五、八〇〇	二四九、四六四	一、七〇〇	七・二	二一、七九九	九一・八	二三、四九九	九・四
織物業	六、五二三	四二一、六四三	五四、〇三九	一七・三	二五七、九二一	八二・七	三一一、九六〇	七四・〇
其他ノ諸業	一二、六七〇	二二八、八八八	二三、二〇二	二六・八	六三、四六九	七三・二	八六、六七一	三七・九
總計	一四三、九九三	一、二七四、七〇六	八二、三四八	一八・三	三六八、一二〇	八一・七	四五〇、四六八	三五・三

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ被雇人ノ總數百二十七萬四千七百六人ノ内四十五萬四百六十八人即チ三五・三%ハ婦人ナリシ、然レトモ此内十五歲以上ニ屬スルモノハ僅カニ三十六萬八千百二十人即チ八一・七%ニ過キサルナリ、之ヲ被雇人總數ニ對スレハ僅カニ二八・九%ニ過キサルモノト知ルヘシ

勞働取締局ノ調査ナルモノハ僅カニ二千六百五十四會社ニ過キス、抑モ會社ノ總數十四萬三千九百九十三ニ過キサルカ故ニ、此内調査サレタルモノハ僅カニ二%ニ過キサルモノト知ルヘシ、然レトモ斯ク調査サレタル會社ニテ使用サレタル女工ノ總數ハ十七萬二千三百六十五人ノ多キニ達セリ、而シテ此等ノ女工ノ年齡ハ十五歳ヨリ五十四歳マテノ間ニシテ、内十五歳以上ノ女工ハ女工總數ニ對シテ四六・八%ニ相當セリ蓋シ此調査ハ充分精密ナルモノト謂ツヘキナリ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ此調査ノ統計的結果ヲ示セルモノ是レナリ、且ツ左表ハ四會社ニ關スル左記ノ事實ヲモ示セルモノナリ、曰ク工女毎一千人ニ就テノ出生比例、十五歳ヨリ五十四歳マテノ工女ノ平均工賃子ヲ生マントスル工女ノ平均工賃（通常ノ工女ノ工賃ヨリ一層高キモノ）、産婦保險金ニ充ツヘキ保險料ト工女ノ工賃トノ比例等是レナリ、而シテ斯ル保險協會ヨリ日々工女ニ給與スヘキ補助金如何ト云フニ日々ノ工賃ノ半額若クハ四分ノ三ニシテ、其ノ給與セラル、期間ハ三十日間ナリト知ルヘシ、又タ出生比例ハ成年ニ達シタル工女毎一千人ニ就テ僅カニ四五%過キス、然ルニ伊太利全國ニ於テ同シク成年ニ達シタル婦人ノ毎一千人ニ就テノ出生比例如何ト云フニ一二〇%ニ當レリト云フ、斯ク二者ノ間ニ差異アル所以ノモノハ畢竟スルニ工女中ニハ未婚者割合ニ多キニ歸セスンハアラス、此ニ於テカ自カラ左ノ如キ結論ニ達セサルヲ得ス、曰ク産婦補助金トシテ三十日間日々工賃ノ半額ヲ受ケント欲スルモノハ、必ラス其工賃ノ一%ノ〇・二ヲ納付スヘク、又タ日々ノ工賃ノ四分ノ三ニ當ル金額ヲ産婦保護金トシテ受ケント欲スルモノハ必ラス其工賃ノ一%ノ〇・四五ヲ納付セサルヘカラス

出生比例、平均工賃、及工業團體ヨリ受クヘキ産婦保護金ニ對スル工賃ノ割合

工業團體	工場數	一千九百二年十一月現在女工數	成年ニ達シタル女工數	工女毎一千名中成年ニ達シタル女工ヲ生ミタル工女數	成年ニ達シタル工女一千名ニ就キ子ヲ生ミタル工女數	工女日々ノ平均工賃	生母トナレル工女日々ノ平均工賃	三十日間産婦保護金ヲ得ンカ爲メニ豫シメ納付スヘキ保險料（工賃ノ一分ノ一）	保護金カ工賃ノ半額タル場合	保護金カ工賃ノ四分ノ三タル場合
纖維業、冶金業、器械業及化學工業	二四四	七、〇二九	五、八二四	八三〇	二七一	四六	〇・三	〇・一六	三六	五五
食物製造業	九〇	一、五九五	一、〇八五	六八〇	四二	三九	・五	・二六	三四	五一
纖維物業	一、六四三	一、三四、七七〇	一、二〇、七七八	八九六	四、六八三	三九	・三	・三	二五	三八
其他ノ諸業	六七七	二八、九七一	二五、九九八	八九七	一、八九七	七三	・三〇	・三二	四六	六九
總計	二、六五四	一七、三六五	一五、三九五	八九二	六、八九三	四六	・三	・二六	三〇	四五

一千九百五年ノ法案

右ノ如キ調査ノ結果及産婦保險問題ニ關シテ法制局會議ト勞働取締上局トニ於テ討論ノ末一ノ法案ヲ作成シテ農工商務大臣ノ手ヨリ一千九百五年五月二十七日國會ニ提出シタリ、蓋シ此法案ノ目的トスル所ハ責任アル産婦保險制度ヲ設立セントスルニアリ、而シテ此法案ノ範圍ハ鑛山其他ノ工場ニ從事スル十五歳ヨ

リ五十歳マテノ婦人ニ限リテ適用セラレルルモノト知ルヘシ

此産婦保險制度ハ其經營ヲ國家事業トナシ、羅馬府ニ其本部ヲ置キ其事務取扱ハ國家的養老保險及働力損耗保險會社ニ附托スルコトトセリ

凡ソ勞働社會ニ屬スル婦人ニシテ右ニ述ヘタル年齢ニ相當スルモノハ、强制的ニ産婦保險團體ニ加入セシムヘキモノトス、而シテ産婦保護金ナルモノハ殆ント日々得ル所ノ工賃ノ四分ノ三ニ相當スルモノニシテ、之ヲ受クヘキ期間ハ三十日間トス、且ツ産婦保護金ハ斯ク日々ノ工賃ニ比例スルモノニシテ、其地方々々ノ生活費如何ニ從ツテ毫モ變更スヘキモノニアラス、又タ此等ノ工女ノ雇主タラレモノハ斯ル保險料ノ幾分カヲ負擔スヘキカ適當ナルコトト思惟セラルルナリ

今マ女工ノ日々得ル所ノ工賃如何ニ從ツテ其納付スヘキ保險料ト交付セラルヘキ保護金ヲ定メンニ、一人々々ニ就テ之ヲ定メンハ極メテ複雜ナリト云ハサルヘカラス、故ニ此法案ニテハ女工全般ヲ七團體ニ區分セリ、但シ是レハ大別シタルマテニシテ實際事務取扱上ニ就テハ多少ノ差異ナクンハアラス、是レ畢竟スルニ止ムヲ得サルニ出ルモノナリ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ工賃ニ準シテ保險料ト保護金トヲ定メタルモノ是レナリ

工賃ニ準スル保險料ト保護金

團體	日々ノ工賃	年々ノ保險料	日々ノ保護金
第一	「リラ」0、六〇以下	弗0、一一六以下	「リラ」一、二〇	弗0、二三二	「リラ」一、〇〇	弗0、一九三
第二	〇六一ヨリ一、二〇迄	〇、一一八ヨリ〇、二三二迄	二、四〇	四六三	一、〇〇	〇、一九三
第三	一、二一ヨリ一、八〇迄	、二三四ヨリ、三四七迄	三、六〇	六九五	一、三五	、二六一
第四	一、八一ヨリ二、四〇迄	、三四九ヨリ、四六三迄	四、八〇	、九二六	一、八〇	、三四七
第五	二、四一ヨリ三、〇〇迄	、四六五ヨリ、五七九迄	六、〇〇	一、一五八	二、二五	、四三四
第六	三、〇一ヨリ三、六〇迄	、五八一ヨリ、六九五迄	七、二〇	一、三〇〇	二、七〇	、五二一
第七	三、六一ヨリ以上	、六九七ヨリ以上	八、四〇	一、六二一	三、一五	、六〇八

右ノ表ニ據リテ之ヲ觀レハ年々納付スヘキ保險料ハ其得ヘキ工賃ノ二日分ニ相當スルモノ是レナリ、尙ホ之ヲ言ヒ換フレハ一年間ニ得ル所ノ賃銀ノ一%ノ殆ント三分ノ二ニ匹敵スルモノナリ、而シテ此標準ハ各團體ノ最高工賃ニ基キタルモノト知ルヘシ、但シ第七團體ハ其保險料ヲ八「リラ」四(一弗六二)ニ限ラレタレハ此限ニアラス、又タ日々交付セラルヘキ保護金ハ日々得ヘキ最高工賃ノ四分ノ三ニ當ルモノ是レナリ、但シ第二及第三ノ團體ニテハ其日々受ル所ノ保護金カ其日々得ル所ノ工賃ヨリ一層多キカ故ニ此限ニアラス、又タ最後ノ第七團體ハ日々受ル所ノ保護金カ三「リラ」一五(六十一仙)ニ限ラレタレハ矢張リ此限ニアラス

此協會ニ取リテ尙ホ其他ノ財源之レアリヤ否ナト云フニ、此法律ノ要求スル所ニ違犯シタルカ爲メ徵收サレタル過料罰金、其他有志家ノ寄附金等皆ナ是レ此財源ニ屬スルモノト知ルヘシ、然レトモ會員ニ對シテ

仕拂フヘキ保險金ハ此等ノ會員ヨリ納付シタル掛金ヲ以テ夫ニ處分スルコトトナリ居レリ、而シテ會員ノ掛金ナルモノハ雇主ノ方ニ於テ之ヲ仕拂ヒ置キ、被保險人ノ工賃ヨリ其半額ヲ引キ去ルモノトス、又タ斯ル被保險人ノ掛金ニ關シテハ毎三年目(必要ナランニハ尙ホ頻繁ニ爲スモ妨ケナシ)ニ調査スヘク、其調査ノ結果必要ナリト認メタランニハ其掛金額ヲ變更スルコトアルヘシ

一千九百五年制定ノ法案ニテハ此等ノ掛金率ナルモノ殆ント二日分ノ工賃ニ相當ス、即チ一ケ年間ノ工賃ノ一%ノ〇●六七ニ相當スルモノナルカ、之ヲ一千九百三年ノ調査ニ係ル掛金率ニ比較スレハ稍ヤ高シト云ツヘキナリ、是レ他ナシ後者ノ掛金率ハ一ケ年間ノ工賃ノ一%ノ〇●四五ナレハナリ、斯クノ如ク掛金率ニ差異アルモノハ從來ノ統計的調査上ニ誤謬アリシニ基カスンハアラス、又タ此種ノ保險事業ヲシテ養老保險及働力損耗保險會社ニ取リ扱ハシメタランニハ、之カ事務費ナルモノ左マテ多キニ上ラサルヘシ、然レトモ此事務費ナルモノ決シテ度外視スヘキモノニアラス、之ヲ念頭ニ置キテ計上セサルヘカラス

一千九百七年ノ法案

一千九百五年ノ法案ハ數多ノ勞働機關カ活潑ニ援助シタルニモ拘ラス、國會議場ニ於テハ左マテノ注意ヲ惹キ起ササリシナリ、然レトモ國會ニテハ此問題ヲ委員附托トナセシモ、尙ホ其後二ケ年間ハ國會ノ記錄ニ上ラサリシナリ、斯クテ農工商務大臣ノ任務カ他ノ大臣ノ兼攝スル所トナリシヨリ、右ノ問題ヲ附托セラレタル委員ハ此兼攝大臣ノ意見ニ從ッテ一千九百五年ノ法案ニ幾分カ變更ヲ加フル所アリタリ、今マ國會議員ノ多數ノ意見ヲ擧ンニ曰ク、彼ノ保險料ナルモノハ雇主ト被雇人トニ於テ夫々平等ニ分擔スル所ナルカ、之ニ對シテ國庫ヨリ幾分ノ補助金ヲ與ヘラレンコトヲ希望スト、然レトモ政府ヨシテ此等ノ意見ニ同意セシムルコト能ハス、此ニ於テカ此法案ハ其採用ヲ猶豫スト云ハンヨリ廢案ニ歸セシメタリト謂ッヘキナリ

右法案中ノ最モ重要ナル部分ハ全ク變更セラレタルナリ、女工ヲ工賃別ニ從ッテ七團體ニ分チ、『其仕拂フヘキ掛金ト其受ケ取ルヘキ保護金トノ割合ヲ定メタル複雜ナル計算法ハ、全ク之ヲ廢止シテ左ノ如キ方法ニ從フコトトセリ、曰ク各女工ヨリ納付スヘキ掛金ハ皆ナ是レ平等晝一ニ一「リラ」、五〇トナシ、而シテ保護金ハ一纏メニシテ一時ニ三十「リラ」ヲ交付スルコト是レナリ、然ルニ彼ノ委員等ハ斯ル變更說ニ反對セルカ、其反對ノ理由ニ曰ク變更說ノ重モナル理由トスル所如何ト云フニ、複雜ナル方法ヲ廢止シテ單純ナル方法ニ從ハントス云フモノノ如シ、サレハ複雜ナル方法ハ其實行上云々ノ便益アリト云フ實證果シテ何所ニアリヤ、我伊太利國ト外國トヲ問ハス、斯ル實證之レナキヲ如何セン、且ッ彼ノ被保險人タル婦人一ケ年間ノ負擔額ハ僅カニ七十五「センテシミー」ニ過キス、是レ如何ニ貧困ナル工女ニ取リテモ重キ負擔ニアラサルナリ、而シテ分娩セル婦人ノ受ル所ノ保護金ハ三十日間ニ就キテ三十「リラ」ナルカ故ニ、平均日々得ル所ノ工賃ノ四分ノ三ニ當レリ尙ホ之ヲ言ヒ換フレハ殆ント二十二日分ノ工賃ニ相當スルモノト謂ッヘキナリ

一千九百九年ノ法案

一千九百七年十二月二十日付ヲ以テ發表サレタル國會委員會ノ報告ナルモノハ、其實國會ノ議決ト云フヘキモノニアラサルナリ、是レ他ナシ其當時ハ國會ノ開期中ニアラサレハナリ、而シテ此報告中ノ事實ハ一千九百九年三月廿九日ニ至リテ初メテ新法案トナリタルモノナリ、故ニ此新法ナルモノハ其實一千九百七年十二月廿日ヲ以テ發表サレタル委員會ノ報告ト全ク同一ナルモノト知ルヘシ

此新法案中最モ重要ナル變更ト云ヘルハ會員ノ掛金ノ割合ニ關スルモノ是ナリ、此變更以前ノ法案ニ從フ時ハ年齡十五歳以上ノ各女工ハ皆ナ平等晝一ニ一ケ年ニ就キ掛金率一「リラ」、五〇ト之レアリシカ、此新法案ニテハ左ノ如ク變更シタリ、曰ク十五歳ヨリ二十歳マテノ女工ハ一ケ年ノ掛金率ヲ一「リラ」ト定メ、二十歳以上五十歳以下ノ女工一ケ年ノ掛金率ヲ二「リラ」ト定メタリ、蓋シ年齡別ノ相違スルニ從ツテ掛金率ニ差異アル所以ハ他ナシ、年長スルニ從ツテ生兒ノ機會多ケレハナリ、尙ホ詳ラカニ之ヲ計算セン二年齡十五歳ヨリ二十歳マテノ女工一ケ年ノ掛金率一%ノ〇・三ナルニ、二十歳ヨリ三十一歳マテノ女工ハ同シク八・四%ニ當レルナリ、且ツ伊太利國ニ於テ勞働ニ從事スル女子ノ統計ニ據レハ左ノ如キ事實アルヲ知ルヘキナリ、曰ク年齡十五歳ヨリ二十歳マテノ女子ノ數ハ十五歳以上ノ女工全數ノ三八・五%ニ當リ、二十歳ヨリ五十五歳マテノ女子ハ同シク五八・七%ニ當レルモノ是レナリ、而シテ右年齡別ノ前者ニ對シテハ一ケ年ノ掛金率ヲ一「リラ」ト定メ、後者ニ對シテハ同シク二「リラ」ト定メタリ

其他此新法案中重要ナル變更ト云ヘルハ左ノ如キ事ヲ規定セル是レナリ、曰ク女工ニシテ故意ニ墮胎スルモノアランカ、斯ル女工ハ保護金ヲ受クヘキ權能ヲ褫奪セラルルモノトス、然レトモ故意ニアラス自然ニ流產スルカ若クハ牢產スルモノハ普通ノ場合ト毫モ異ナル所ナクシテ取リ扱ハルルモノトス

此新法案中何レノケ所ニモ既婚者ト未婚者トヲ區別シテ掛金率ニ差異ヲ來スヘキ規定ハ更ニ之レナキナリ

產婦保險制度ニ關スル彼ノ國會ノ委員會ハ一千九百十年六月此法案ニ就テ喜ハシキ報告ヲ齎ラシ來レリ、

开ハ他ニアラス產婦保險事業ニ對シテ國庫ヨリ補助金ヲ給與センコトヲ要ストノ意見ヲ提出シタルコト是レナリ、此提議ハ內閣ヲ動カシテ同意ヲ表セシムルニ至レリ、是レヨリ先キ產婦ノ保險料仕拂ノ事ニ就テハ之ニ關係アル三者ヨリ等分ニ支出セシメントノ要求アリシカ、今回ハ然ラスシテ國庫ヨリ補助金ヲ支出スルコトトナレリ、今マ其支出額如何ト云フニ、產婦每一人ニ給與スル保護金三十「リラ」ノ中國庫ヨリ十「リラ」ノ補助金ヲ與フヘシトノ意見ヲ委員會ヨリ提出セシニ、政府ハ之ニ同意ヲ表シタリ、國會委員會ヨリ改正意見ヲ提出セシハ僅カニ此重要問題一アルノミ

斯クテ一ケ月ヲ經テ後右委員會ヨリ此法案ノ全部ヲ國會議場ニ提出セシニ更ニ異議ナク原案ノ儘可決シタリ、而シテ此法案ハ一千九百十年七月十七日ヲ以テ愈ヨ法律トナリタリ、是レ世界ニ於テ國家的產婦保險制度ノ設ケラレタル嚆矢ト謂ツヘキナリ

一千九百十年七月十七日ノ發布ニ係ル法律ノ條項

此法律制定ノ目的トスル所ハ勞働社會ニ屬スル婦人ニシテ子ヲ產ミタル塲合、之ハ保護金ヲ給與センカ爲メ、國家的產婦資金ヲ調達セント欲スルモノ是レナリ、

此新法律ノ適用セラルル範圍如何ト云フニ、一千九百七年十一月十日ノ發布ニ係ル條例ト全ク同一ナルモノト知ルヘシ、但シ此條例ハ婦人及幼童ノ勞働取締ニ關スルモノ是レナリ、故ニ此新產婦資金ヲ給與セラルヽモノハ先キノ條例ニ依リテ保護セラルヘキ婦人ニ限ルヘキモノトス、但シ例外ニ屬スヘキモノナクンハアラス、例之ヘハ政府ニ使役セラルヽ婦人ニシテ特別ニ全ク同一ナル保護ヲ受クヘキ規定アル塲合之レナリ

產婦ニ給與セラルヽ保證金總額ヲ四十「リラ」トナシ內四分ノ三ハ產婦資金中ヨリ支出シ、殘リ四分ノ一ヲ國庫ヨリ補助スルモノト定ム、子ヲ產メル母タルモノハ少ナクモ七週間ハ勞働ニ就クコトヲ得ス、是レ法律ノ規定スル所ナリ、產婦ニ給與セラルヽ保護金ナルモノハ此法律ト相關聯シテ實行セサルヘカラス、且ツ斯ク產婦ヘ保護金ヲ給與スルニ就テハ、左ノ如キ事實ヲモ念頭ニ置カサルヘカラス、曰ク伊國相互共益協會ヨリ疾病保護金ヲ給與スルハ、一日ニ就テノ最少額一「リラ」ナリトス、產婦ニ給與スヘキ保護金ハ最モ速カニ給與セサルヘカラス、是レ此新法律ノ要求中最モ重要ナルモノト謂ツヘキナリ、少ナクモ其保護金ノ半額ハ分娩後一週間以內ニ交付セサルヘカラス、又行政廳ハ此法律ニ從ツテ左ノ如キ規定ヲ設クルコトヲ得ヘシ、曰ク雇主タランモノハ其女工タル產婦ニ對シテ保護金ノ前渡ヲ爲シ置キ、而シテ產婦資金中ヨリ拂戻ヲ受クヘキモノトス

抑モ此產婦保護金ナルモノハ他ニ讓リ渡スコトヲ得ス、又タ他ヨリ奪ヒ取ルコトヲ得ス、假令保護金ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄スヘキ契約ヲ爲スモ其契約ハ全ク無效タルヘキモノトス、且ツ產婦資金トシテ掛金ヲ爲スト否ラサルトニ論ナク、保護金ヲ受クヘキ權利ハ依然トシテ變セサルモノトス、又タ分娩後若クハ半產後一ケ年間（分娩當日ヨリ計算シテ）ハ彼ノ保護金ヲ要求シ得ヘキ訴權ヲ有スルモノトス

雇主、被雇人及國家ノ三者ハ各々產婦資金ノ內ヘ分擔額ヲ納付セサルヘカラス、凡ソ被雇人タルモノハ皆ナ是レ年々其分擔額ヲ產婦資金ノ內ヘ納ムヘキコトハ、強制的ニシテ有無ヲ言フヘキモノニアラス、所謂ル被雇人トハ年齡十五歲ヨリ五十歲マテノ女工是レナリ、而シテ尙ホ之ヲ詳言センカ、十五歲ヨリ二十歲迄ノ女工ハ一ケ年間ニ一「リラ」ヲ納付シ、同シク二十歲以上五十歲マテノ女工ハ一ケ年間ニ二「リラ」ヲ納付センコトヲ要ス、且ツ雇主被雇人トノ分擔額ハ全ク同一ナリト知ルヘシ

雇主タランモノハ其女工ノ分擔額ヲモ併セテ仕拂ヒ置キ、其女工ノ分ハ其工賃ノ中ヨリ引キ去ルヘキモノトス、而シテ其滯納ヲ防止センカ爲メニ罰金ニ處スヘキ手段ヲ取レリ

好シ雇主ノ側ニ於テ規定ノ分擔額全部若クハ其一部分ヲ納付セサル塲合アリトスルモ、其被雇人ノ權利ニ至リテハ毫モ妨ケナカルヘキナリ、通常ノ保護金ハ矢張リ其被雇人ニ給與セラルヽモノト知ルヘシ、雇主ヨリ納付スヘキ分擔額（課セラレタル罰金アレハ罰金モ共ニ）ハ其筋ニ於テ徵收サルヘキモノトス

國家ノ分擔額ハ毎産婦ニ就テ十「リラ」即チ保護金全額ノ四分ノ一ニ當ルヘキモノトス、但シ適當ニ言ヘハ此分擔額ハ産婦資金ノ歳入中ニ編入スヘキモノニアラス

右資金ノ歳入中ニ入ルヘキモノト法律上豫定サレタルモノアリ、曰ク雇主ニ於テ法律上ノ要求ニ違犯シタル場合課セラレタル罰金、寄附金、遺産寄附其他ノ雜收入等是レナリ

右ノ外國家ヨリ補助セラル、間接ノ收入トモ謂ツヘキモノアリ、曰ク事務費ヲ要スヘキモノトシテ其事務費ノ省ケル事、課セラルヘキ稅金ノ免除セラル、事其事業ノ活動上要スヘキ登記ニ就テ其登記手數料ノ免除セラル、カ如キコト是レナリ

産婦資金ニ關スル事務取扱ハ之ヲ他ニ依托スル事トセリ、即チ國立養老及働力損耗保險會社ヘ依托シタルコト是レナリ、但シ其事務取扱ハ之ヲ依托スト雖モ其會計出納ノ事ニ至リテハ二者ノ間決シテ混同セサル樣判然區別セラレタルモノト知ルヘシ、斯クテ此新團體ハ之ヲ羅馬府ニ置キ其事務ハ直接ニ特別委員會ニ於テ之ヲ取リ扱フコト、セリ、所謂ル此特別委員會トハ養老保險會社ノ行政會議ヨリ任命シタルモノ是レナリ、且ツ此特別委員會ノ內ニテ雇主ノ代表者ト被雇人ノ代表者トノ區別ヲ立テタリ、乃チ此委員會ノ三分ノ一ヲ前者ノ代表者トナシ、尙ホ其三分ノ一ヲ後者ノ代表者トナセリ、而シテ此二種類ノ代表者ハ農工商務大臣カ工事紛爭審理委員ノ中ヨリ指名スルモノトス

産婦資金ノ會計機關ハ國立養老及働力損耗保險會社ニ一任セリ、但シ其出納計算ハ二者ノ間判然區別アリテ混同セサルヘカラス、而シテ本條例ニ基キテ編成スル必要ナル費用ヲ立テ替ヘ置キ、年四步ノ利子ニテ五ケ年間ニ償却セラル、モノトス

農工商務大臣ヨリ此産婦資金ノ活動如何ニ關スル年報ナルモノヲ國會ヘ提出センコトヲ要ス、且ツ此年報中ニハ産婦資金ノ根底改良ニ必要ナル意見モ記載シアルモノト知ルヘシ

此法律ノ實地適用ニ關スル詳細ナル手續ハ皆ナ是レ規則ニ從ハサルヘカラス、而シテ本條例ニ基キテ編成セラレタル規則ナルモノハ、本條例ノ裁可セラレタル當時ヨリ起算シテ六ケ月以內ニ正式ニ從ツテ勅令ノ裁可ヲ仰カサルヘカラス、斯クノ如クシテ本條例ノ實行セラル、ハ右ノ如キ規則ノ公布セラレタルヨリ三ケ月ノ後ニアルコト、知ルヘシ

養老及働力損耗保險

養老及働力損耗保險會社ノ事

伊太利國カ强制的工業上變災保險制度ヲ編成セントスルヤ、重モニ日耳曼國ノ實例ニ則レルモノナリ、然レトモ養老保險制度ニ至リテハ其模範ヲ佛蘭西及白耳義ニ取リタルモノナリ、而シテ一千八百九十八年七月十七日發布ノ法律ニ基キテ設立セラレタル國立職工働力損耗保險及養老保險ノ如キハ獨リ有志者ノミナラス其筋ノ保護金ヨリ組織セラレタルモノナリ、蓋シ此保險會社ハ主トシテ其模範ヲ佛蘭西及白耳義ニ取リタルモノナリ

伊太利國ニ於テ初メテ國立養老保險會社ヲ設ケントテ活動シ出シタルハ一千八百九年ノ往時ナリシナリ、又タ斯ル保險會社ニ關スル法案ノ初メテ法律トナリシハ一千八百五十九年七月十五日ナリシナリ、然レトモ此法律ニテハ會計上ノ責任ヲ國庫ニ負擔セシメサリシナリ、然レトモ其後多年間政事上ノ事變頻繁ナリシカ爲メ此法律ハ實行セラレサリシナリ、斯クテ一千八百七十七年二月三日國會議事堂ニ於テ此舊法ヲ復活セシムヘキ發言アリシモ不幸ニシテ成リ立タサリシナリ

ボログナニ於ケル勞働機關カ自カラ首導者トナリテ養老年金給與制度ヲ設ケントテ大ニ活動スル所アリシカ遂ニ之カ爲メ內務大臣及農工商務大臣ヨリ一ノ委員會ヲ任命スルニ至リタリ、蓋シ斯ク委員會ヲ任命シタルハ此問題ヲ研究調査シ、而シテ養老年金及働力損耗年金制度ニ關スル法案規則ヲ編成セシメンカ爲メナリ、斯クテ此委員會ハ其研究調査ノ結果ヲ編輯シテ一ノ報告書ヲ作成シ、且ツ一ノ法案ヲモ編成シタリ、而シテ其法案中ニハ專ラ賃銀ヲ得ヘキ勞働者ノ保險ニ加フルニ養老保險制度ヲ以テセンコトヲ主張シ、且ツ其保險金ノ最高額ヲ六十「リラ」ニナスヘシト云ヘリ、又タ此等ノ保險制度ニ關スル歲入ハ重モニ被保險人ヨリ納付スヘキ保險料、第二ニハ有志者ノ寄附金若クハ遺產寄附、最後ニハ國庫ノ補助金等ヨリ成リ立ツモノトス

此保險制度ノ事務取扱方ハ貸出預入國立銀行ニ委托スルコトトナシ、又タ地方々々ノ郵便局カ其代理部トシテ事務ヲ取リ扱ハンコトヲ要ス、又タ此會社ノ創設費及事務費ハ一時國庫ヨリ立テ替ヘ置キ、而シテ此會社ノ特別歲入ヨリ拂ヒ戻サシムヘキモノトス、斯クテ會社ト相互共益會社ト聯合一致スルコトトナリ、尙ホ其他地方郵便局トモ聯合セシムルコトトセリ、是レ他ナシ掛金納付及年金支拂ヲ容易ナラシメンカ爲メナリ、蓋シ斯ク聯合セシムルコトハ委員會ノ意見ニ基キタルモノト知ルヘシ

尙ホ此等ノ委員ノ勸誘ヲ根據トシテ農工商務大臣ハ一千八百八十一年十一月三十日ヲ以テ國會ヘ一ノ法案ヲ提出シタリ、即チ國立職工年金給與會社設立ニ係ル法案是レナリ、而シテ此新法案ノ最モ主要ナル點如何ト云フニ、第一勞働者ニ適用スル事、第二此新法案ニ從ツテ設立セラルル會社ニ對シテ國庫ヨリ補助金ヲ給與スル事、而シテ此補助金ノ財原ヲ何レニ求ムルヤト云フニ、總テ貯蓄銀行（私設貯蓄銀行及郵便貯金局等ヲモ含ム）ノ實收益ノ二〇％ヲ納付セシメテ之ニ充ルモノトスト云フカ如キ是レナリ、然ルニ新法案ハ甚ハタシキ世人ノ批難スル所トナリ、且ツ貯蓄銀行ヨリハ痛タ之ニ反對スルニ至リタリ、其之ニ反對スル言ニ曰ク斯ル課稅ハ我々銀行界ノ權利ヲ侵害スルモノト云ハサルヘカラス、實際斯ル重稅ヲ課セラレタランニハ終ニ我々ノ義務ヲ果スコト能ハサルノ恐レアルヘキナリ、尙ホ他ノ方面ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ、伊太利國勞働者ノ賃銀率ハ甚ハタ低下ナルカ故ニ、養老年金給與會社カ好シ設立セラルルトスルモ、國家ヨリ實際若干カノ補助金ヲ下賜スルニアラスンハ其成功覺束ナキナリ、去リナカラ國庫ノ現況ヲ視察スルニ更ニ新稅ヲ課スルニアラサル以上ハ、或ル事業ニ對シテ直接ニ補助金ヲ給與スルコト能ハサルナリ

斯クテ一千八百八十一年ノ法案ハ曾テ國會議場ノ論議ニ上ラサリシカ、一千八百八十三年二月十九日ニ至リテ、此法案ニ何等カノ修正ヲ加ヘテ再ヒ國會議場ニ提出セラレタリ

今マ此法案ノ規定スル所ヲ擧レハ概ネ左ノ如シ

曰ク養老年金給與會社ノ事務ハ國立預入及貸出銀行ニ於テ之ヲ取リ扱フモノトス、養老年金給與會社ハ其組織全ク獨立シタルモノナリト雖モ便宜上事務ヲ右銀行ニテ取リ扱ハシムルモノトス、凡ソ年齡十八歲以上ノ職工ハ其男性タルト女性タルトヲ問ハス、此養老年金給與會社ノ會員タルコトヲ得ヘキモノトス、而シテ會員毎月ノ掛金ハ一「リラ」ヨリ多カラサルモノトシ、且ツ當初入會手數料トシテ五「リラ」乃至五十「リラ」ヲ納付セシメンコトヲ要ス、養老年金給與會社ノ歲入ナルモノハ會員ヨリノ掛金ノ外數種ノ財源ヨリ成レルモノトス、即チ郵便貯金銀行ノ實收益ノ十分ノ二及其他ノ小財源ヨリ成レルカ如キ是レナリ、斯クテ此會社ヨリ養老年金ヲ給與セラルル時期如何ト云フニ、被保險人ノ年齡カ五十歲ニ達シテ後或ル時期ニ於テ給與セラルルモノトス、但シ該保險人ハ十五ケ年間約定ノ掛金ヲ滯リナク納付シタルモノナランコトヲ要ス、尙ホ其他被保險人ノ年齡カ五十歲ニ達セスト雖モ其働力損耗シテ事ニ耐ヘサル場合ニ於テハ、委員會ノ意見ニ從ツテ特別年金ヲ給與セラルルモノトス、

養老年金保險會社ノ組織ニ二樣アリ其一ヲ『普通』ト云ヒ今一ヲ『相互』ト云フ、而シテ二者ノ差異如何ト云フニ普通ノ方ニアリテハ被保險人ニシテ年金ヲ受クヘキ年齡ニ達セサルニ先ンシテ死シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其死者ノ相續人ニ其年金ヲ給與スルコトトシ、相互ノ方ニアリテハ斯ル場合ニ於テハ其年金ヲ沒收スルモノトス、然レトモ相互年金給與會社ノ金ハ一層多額ナルモノトス

相互養老年金保險會社ノ方ニ於テハ被保險人ノ年齡ニシテ六十五歲ニ達シタラン場合ニハ、强制的ニ其年金ヲ仕拂ハサルヘカラス、然レトモ其年金ヲ仕拂フ場合ニハ右二種ノ保險會社トモニ是レ其趣ヲ同フセスンハアラス、即チ被保險人ノ意志ニ從ツテ其年金ヲ處分スルコト是レナリ、其年金ノ全額ヲ直チニ交付スル事、其全額若クハ其內ノ幾千カヲ尙ホ會社ニ預ケ置キテ其相續人ニ之ヲ拂ヒ渡ス等皆ナ是レ被保險人ノ意思ニ從ツテ取リ扱フカ如キコト是レナリ、其他養老年金保險會社ハ一種ノ場合ニ於テ相當代價ニテ年金ヲ賣リ渡スヘキ權能ヲ有セリ、所謂ル一種ノ場合トハ勞働者ニシテ甚ハタシキ變災ニ遭遇シタル時、國立變災保險會社ヨリ其親戚ヘ若干ノ扶助料ヲ給與シタル場合ヲ云フモノニシテ、養老年金保險會社ハ斯ル親戚ヘ相當代價ヲ以テ年金ヲ賣リ渡スヘキ權能ヲ有スルコト是レナリ

此法案中ニハ伊太利國死亡率ニ基キテ調製セラレタル極メテ精密ナル表ニ揭出セラレタリ

此法案ノ起草者ハ其主意目的トスル所ヲ說明シテ曰ク、其目的トスル所專ラ勞働社會ノ爲メヲ圖ラントスルニアリ、故ニ佛蘭西及白耳義ニ於テ行ハルルカ如ク小資本家ノ貯金ヲ奬勵スルケ所トナルヘキモノニアラサルナリ

又タ此法案ノ起草者ノ意見ニ曰ク人ノ自助心ヲ皷吹センカ爲メニハ此養老保險制度ヲ國立トナスノ必要ナ

クンハアラス、而シテ之カ財源ヲ得ンカ爲メニ地方ノ貯金銀行若クハ相互共益協會抔ヘ課稅セントスルハ決シテ得策ニアラス、蓋シ好結果ヲ得ルノ見込ナケレハナリ

此法案ハ全ク私立保險制度ノ原則ニ則トリテ起草セラレタルモノナリ、且ツ此法案ノ起草者ハ養老年金保險制度ヲ義務的タラシムヘシト云ヘル意見ニ對シテ痛ク反對ノ地位ニ立チタリ

右ノ如キ次第ニテ一千八百八十一年ノ法案ト同一ノ運命ニ遭遇シ、一千八百八十三年ノ法案ハ不幸ニシテ一千八百八十五年六月ニ至リテ、新農工商務大臣ヨリ一ノ法案ヲ提出セラレサリキ、斯クテ二ケ年ヲ經テ後即チ一千八百八十五年六月ニ至リテ、新農工商務大臣ヨリ一ノ法案ヲ提出セリ、但シ此法案中ノ條項ノ多クハ前述シタル法案トハ大ニ其意義ヲ異ニスル所アリ、而シテ之ト同時ニ一千八百八十三年ノ法案ハ勅令ヲ以テ廢止セラレタリ

一千八百八十五年ノ法案ハ前二法案ノ如ク直接ニ國立保險制度トナスヘシト云ヘル條項之レナキナリ、佛蘭西及白耳義ニテハ實驗上斯ル法案ハ決シテ好結果ヲ得サリシナリ、伊太利國ニテハ此法案カ種々ノ批評ヲ受ケタリシカ、終ニ左ノ如キ論斷ヲ下セリ、曰ク斯ル保險制度ハ之ヲ私營(單獨ト聯合トヲ問ハス)トナス方却ツテ好結果ヲ奏スヘキナリ、然レトモ政府ノ監督制御ノ下ニ置カンコトヲ要ス、今マ一例ヲ擧ケテ之ヲ證サンカ、一千八百八十三年ニ設立セラレタル國民變災保際會社ノ如キ是レナリ、又タ此法案ノ規定ニ曰ク各貯蓄銀行ハ五萬「リラ」ノ保證金ヲ貯ヘ置キテ養老年金申込ニ應センコトヲ要ス、尙ホ數個ノ貯蓄銀行ハ養老資金ヲ調達センカ爲メニ互ニ聯合センコトヲ要ス、而シテ斯クノ如ク組織セラレタル各養老年金保險會社ハ地理的地方別ニ分ツヘキモノトス、年齡十五歲以上ノ勞働者ハ皆ナ是レ此等ノ保險會社(加入スルコトヲ得ベシ、抑モ養老年金ハ被保險人ノ年齡モ五十歲ニ達シタル時ヨリ始メテ之ヲ拂ヒ出スノ定メナルカ、或ハ其仕拂期ヲ延引スルコトモアルヘキナリ、養老年金ヲ仕拂フ際ニハ被保險人ノ意見ニ從ハンコトヲ要ス、即チ成規ノ如ク年金ヲ仕拂フ事、仕拂フヘキ年金トシテ預カリ置ク事、及年金トシテ幾回ニモ交付スルコトヲ爲サス一纏メニ一時金トシテ仕拂フカ如キコト是レナリ

被保險人ニ對シテ國庫ヨリ補助金ヲ與フル規定ハ殆ント前法案ト同樣ナレトモ、此法律ニテハ稍ヤ異ル所ナクンハアラス、即チ之ヲ分チテ二大別トナシタルコト是レタリ、其一ヲ年々ノ補助金トナシ、他ノ一ヲ最後ノ補助金トス、中ニ就テ最後ノ補助金ナルモノハ其資金ノ或ル金額ニ達スルマテ其仕拂ヲ猶豫スルモノトス、而シテ補助金ノ給與法如何ト云フニ、被保險人ニシテ一ケ年間ニ六「リラ」ヨリ少ナカラサル掛金ヲナシタランモノニ對シテハ、皆ナ是レ同一ナル金額ヲ給與スルモノトス、猶ホ此外國庫補助ノ一方法アリ、即チ被保險人ノ掛金收集ノ便ヲ圖ランカ爲メニ郵便貯金銀行ノ聯合スルコト是レナリ、然レトモ此ノ法案ハ前述セル法案ト同一ナル運命ニ遭遇シタリ、即チ國會ハ之ヲ討論ニ付セサルニ先ンシテ廢止セシメタリ

好結果ヲ得サリシ法案中第四ノ法案ハ一千八百八十七年十二月九日ヲ以テ衆議院ニ提出セラレタリ、蓋シ此法案ニテハ直接國立保險制度ヨリ國庫補助金給與制度ニ變スルノ傾向アリ、且ツ私立地方年金保險會社

ヲ監督スルニ至リテハ、前述セル法案ヨリ一層優レル所アリト謂ツヘキナリ、尚ホ一千八百八十七年ノ此法案ハ預入及貸出銀行ト相關聯シテ特別資金ノ調達ヲ規定スルモノナリ、尚ホ之ヲ詳言センニ此特別資金ナルモノハ、老年勞働者保險會社ヘ補助金トシテ給與スルノ資ニ充ルモノ是レナリ、而シテ此補助金ヲ給與スヘキ保險會社ヲ撰擇スルコトハ當該大臣ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム、但シ當該大臣カ斯ル告示ヲ爲サン場合ニハ左記ノ規定ニ從ハンコトヲ要ス、曰ク保險會社ヘ給與セラルヘキ補助金額ハ年齡十五歳以上ノ被保險人ノ員數ニ比例セサルヘカラス、而シテ此等ノ被保險人ハ一ケ年間ニ五「リラ」ヨリ少ナカラサル保險料ヲ納付シタルモノナラサルヘカラス、斯クテ給與セラルヘキ補助金ハ一名ニ就キテ二十「リラ」ヲ踰ヘサルモノトス、苟クモ年金給與保險會社ニシテ斯ル補助金ヲ給與セラレタランニハ、其收支決算等ニ關スル年金ヲ調製シテ其筋ヘ差シ出サンコトヲ要ス、又タ此會社カ其業務ヲ取リ扱ハンニハ毎ニ此法律ニ基キテ編成セラレタル規定ニ適從セサルヘカラス

此法案ヲ前三法案ニ比較スレハ稍ヤ進歩シタルモノト謂ツヘキナリ、此法案ハ國會ノ委員會ニ付託セラレタリシカ、一千八百八十八年七月二日ニ至リテ委員會ヨリ此法案ニ贊成スヘキ報告ヲ爲シタリ、然レトモ同年十二月國會ノ閉會トナリシヲ以テ此報告ヲ議題トシテ論議スルニ至ラサリシ斯クテ一千八百八十九年十二月十一日ニ至リテ再ヒ此法案カ國會ニ提出セラレテ委員會ノ付託トナリシカ委員會ハ一千八百九十年七月十一日ヲ以テ此法案ニ關スル報告ヲ爲シタリ、即チ何等カノ修正ヲ加ヘテ承

認シタルモノ是レナリ、然レトモ玆ニ止マリテ更ニ進捗ヲ見サリシナリ

是レヨリ以前ノ法案ハ私設養老保險ノ緊要ナル感動ヲ與フルニ至ラサリシナリ、斯ル次第ニテ荏苒空シク時月ヲ經過シ來リシカ、終ニ一千八百九十三年二月二十三日ニ至リテ一ノ法案カ國會ニ提出セラレタリ、名ケテ『國立勞働者働力損耗救濟所設立之提案』ト云フ

此法案ノ名義ハ斯クノ如ク異樣ナリト雖モ、其實一千八百八十一年及一千八百八十三年ニ提出セラレタル法案ト同一ナリト謂フヘキナリ、今マ此法案ノ主意ノアル所如何ト云フニ、地方ニ於テ私設ニ屬スル養老保險會社ニ對シテ補助金ヲ給與スルヲ主トスルト云ハンヨリ、寧ロ國立養老保險會社ヲ設置センコトヲ主トスルモノ是レナリ、抑モ此保險會社ナルモノハ其性質自治體ナリト雖モ、農工商務大臣ノ編成ニヨリ勅令ヲ以テ承認サレタル法律ノ取締ヲ受ケンコトヲ要ス、又タ此法案ハ是レヨリ以前ノ法案ト均シク賃銀取ノ勞働者ニ對シテ特別ノ保護金ヲ與フヘキ會社及私設保險會社ニ對シテ國庫ヨリ補助金ヲ給與スルコトヲ提議スルモノナリ、然レトモ此法案ニテハ補助金ノ表中ヨリ郵便貯金銀行ノ歳入中ヨリ給與セラル、補助金ハ之ヲ削除スルコト、セリ、且ツ被保險人ヨリ年々納付スヘキ保險料ハ十二「リラ」ヨリ少ナカラス百「リラ」ヨリ多カラサルモノトス、被保險人ニシテ其年齡六十歳若クハヨリ以上ニ達シタラン場合ニハ年金ヲ給與セラル、モノトス、但シ斯ル年齡ニ達シテ年金ヲ受クヘキモノハ、被保險人トナリテヨリ以來十五ケ年ヲ經過シタルモノノミニ限ルモノトス、然レトモ例外ナクンハアラス、被保險人ノ動力損耗シテ最早勞

働ニ堪ヘサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ尚ホ未タ右ノ期限ニ達セスト雖モ規定ノ年金ヲ給與セラルヘキモノトス、何レノ場合ト雖モ被保險人ニ交付セラルヘキ年金額ハ左記ノ事柄ニ準據スヘキモノトス、曰ク本人ノ納付シタル保險料ノ貯蓄額、其利子及國庫ヨリ下賜セラレタル補助金ノ分配金ノ分配額等ニ準據スルコト是レナリ、但シ國庫ヨリ下賜セラル、補助金ノ最小額ハ各被保險人ニ對シテ年々六十「リラ」ヲ踰ヘサルモノトス、又タ是等ノ保險會社ヘハ種々ノ小特權カ與ヘラル、ナリ、此外農工商務大臣ハ此等ノ會社ノ事務取扱、表ノ調製法、及會計々算等ニ關スル規定ヲ編成センコトヲ要ス

然レトモ此法案ハ終ニ國會ノ討論ニ付スルニ至ラサリシナリ

斯クテ一千八百九十七年四月十三日ニ至リテ「國立賃銀取勞働者働力損耗及養老保險會社設立法案」カ國會ニ提出セラレ、其翌一千八百九十八年七月十四日國會ヲ通過シ、而シテ一千八百九十八年七月十七日ヲ以テ國王陛下ノ御裁可ヲ經タリ、此ニ至リテ從來ノ工業的變災强制保險制度ナルモノ廢止セラレテ此新法行ハル、コト、ナレリ

立法

今マ左ニ揭クル所ノ條目ハ國立賃銀取勞働者働力損耗及養老保險制度ノ制定以來之ニ關スル重要ナル法律訓令及此等ト同樣ナル規定等是レナリ

（一）此制度ニ關スル原來ノ法律ニハ一千八百九十八年七月十七日國會ヲ通過シ、此法律ノ御裁可ヨリ一ケ月ノ後實施セラレタリ

（二）此制度ニ關スル法律カ勅令ヲ以テ御裁可ノ御沙汰アリシハ一千八百九十九年六月十八日ナリシ

（三）此制度實行ニ關スル規定ハ一千八百九十九年六月十八日勅令ヲ以テ御裁可ノ御沙汰アリタリ

（四）此制度ノ支會ニ關スル規定ハ一千九百年六月廿九日勅令ヲ以テ布告セラレタリ

（五）給與年金ノ計算ニ關スル規定ノ表ハ一千九百一年二月三日勅令ヲ以テ御裁可ノ御沙汰アリタリ

（六）一千九百一年七月七日制定ノ法律ハ一千八百九十八年七月十七日制定ノ法律ヲ改正シタリ

（七）一千八百九十八年七月十七日制定ノ條例ヲ改正スヘキ右條例ハ、一千九百一年七月廿八日勅令ヲ以テ公布セラレタリ

（八）一千九百一年十二月廿二日發布ノ勅令ハ終身年金保險契約ヲ爲スヘキ權能ヲ國立保險會社ニ與ヘタリ

（九）國立保險會社ヘ右ノ如キ權能ヲ與フヘキ新法ハ一千九百二年三月廿一日勅令ヲ以テ御裁可ノ御沙汰アリタリ

（十）右新法ヲ實施スヘキ規則ハ一千九百二年三月廿二日勅令ヲ以テ御裁下ノ御沙汰アリタリ

（十一）一千九百二年七月三日制定ノ法律ハ從來郵便貯金銀行ニ於テ取リ扱ヒ來リシ少額ノ金圓ヲ養老保險會社ニ移シテ取リ扱ハシムルコト、ナシタリ

（十二）一千九百四年三月十三日發布ノ法律ハ一千九百一年七月廿八日發布ニ係ル法律（改正法律）ヲ改正シタリ

（十三）一千九百四年六月二十六日發布ノ勅令ハ左記ノ事項ノ御裁下ニ係ルモノナリ、曰ク一千九百一年十二月二十二日發布ノ勅令ヲ以テ許可セラレタル終身年金保險制度ノ保險料率及概則ノ御裁可ニ係ルモノ是レナリ（本條項中第八條ヲ參照セヨ）

（十四）一千九百四年九月二日發布ノ勅令ハ實施規則ノ改正ニ係ルモノナリ

（十五）一千九百四年九月二日發布ノ勅令ハ此制度ノ憲法ノ改正ニ係ルモノナリ

（十六）一千九百五年十一月十八日發布ノ勅令ハ左記ノ改正ニ係ルモノナリ、曰ク終身年金保險制度ノ保險料率及概則ニ關スル一千九百四年六月二十六日發布ノ勅令改正ニ係ルモノ是レナリ

（十七）一千九百六年十二月十六日發布ノ勅令ハ勞働者ニ給與スル年金率ニ係ルモノナリ

（十八）一千九百六年十二月三十日發布ノ法律ハ一千九百一年七月二十八日發布ノ法律及一千九百四年三月十三日發布ノ法律ノ本文改正ニ係ルモノナリ

（十九）右改正法律ハ一千九百七年五月三十日發布ノ勅令ヲ以テ裁可セラレタリ

（二十）此保險制度ノ憲法ハ一千九百九年三月十八日發布ノ勅令ニ依リテ御裁可ト相成リタリ

（廿一）此法律實施ニ關スル規則ハ一千九百九年三月十八日發布ノ勅令ニ依リテ御裁可ト相成リタリ

以上掲ケ來リタル法律ノ全部カ目今實行セラレ居ルヤト云フニ決シテ然ラサルナリ、隨時新陳代謝スル所ナクンハアラス、即チ更ニ新法制定セラルヽト共ニ舊法ノ廢止ヲ免カレサルコト是レナリ、今マ現行セラレヅヽアル法律條例ノミヲ左ニ掲ケテ以テ研究スル所アラントト欲ス、然レトモ此研究ニ先ンシテ簡短ニ述ヘサルヘカラサル事件ナクンハアラス、即チ國立貸銀取勞働者働力損耗及養老保險制度ニ關スル法律條例ノ變遷ヲ簡短ニ叙述スルコト是レナリ、是レ他ナシ斯ル法律條例ノ變遷ヲ知ルニアラスンハ、此保險制度ノ發達進歩ノ有樣如何ヲ知ルノ途ナケレハナリ、今マ短簡ニ之ヲ言ハンカ、此保險制度ニ關スル立法ノ沿革ナルモノ是レナリ、先ツ之ニ關スル第一ノ法律ハ一千八百九十八年七月十七日ヲ以テ裁可セラレ、而シテ此保險資金ノ實際活用ヲ始メシハ一千八百九十九年十月ナリシ、此條例ノ始メテ改正セラレタルヲ御裁可ト相成リタルハ一千九百一年七月七日ニシテ、此改正條例ハ勅令ヲ以テ同年七月廿八日布告セラレ而シテ同年八月一日ヨリ實行セラレタリ、此條例第二回ノ改正ハ一千九百六年十二月三十日御裁可ト相成リ、此改正條例ハ一千九百七年五月三十日勅令ヲ以テ布告セラレタリ、然レトモ此改正條例中ノ或ル條項ハ一千九百九年三月十八日マテハ實行スルニ至ラサリシナリ、即チ此時ヲ以テ保險制度ニ關スル新憲法ト實施規則カ裁可セラレタレハナリ

一千八百九十八年制定ノ法律、一千八百九十八年七月十七日ヲ以テ發布セラレタル國立貸銀取勞働者働力損耗及養老保險制度ナルモノハ、畢竟スルニ伊太利國民タル貸銀取勞働者ハ何人ト雖モ加入シ得ヘキ有志

者ノ團體組織ニ外ナラサルナリ、而シテ被保險人ヨリ納付スヘキ保險料ノ高ハ全ク各人ノ隨意タルモノトス、但シ一ケ年間ニ納付スヘキ最多額ヲ一百「リラ」マテトシ、五十「センテシミー」以下ノ少額ハ之ヲ受領セサルモノトス、斯クノ如ク各被保險人ヨリ納付シタル保險料ハ帳簿上皆ナ各人ノ所有ニ屬スルモノトス、然レトモ各被保險人ヨリ納付シタル保險料ニ追加セラル、若干ノ金圓アルモノトス、但シ此追加金ヲ得ンニハ一ケ年間ニ少ナクモ六「リラ」ノ保險料ヲ納メ居ラサルヘカラス、而シテ此追加金ノ出所如何ト云フニ一部分ハ寄贈資金ノ利子ヨリシ、一部分ハ會社ノ年々ノ歲入中ヨリ支出スルモノトス

寄贈資金ハ其高一千萬「リラ」ニ上レリ、蓋シ此金額ハ二ケ所ヨリ等分ニ寄贈セラレタルモノナリ、所謂ル二ケ所ノ寄贈トハ郵便貯金銀行ノ實收入中ヨリ五百萬「リラ」ト不通用ノ銀行券ニシテ尙ホ未タ廢物トナラサルモノ五百萬「リラ」ノ寄贈是レナリ、其他新設保險會社ノ財源ハ一ニシテ足ラス、此等ノ財源ノ一部分ハ年々ノ歲入トナシ、一部分ハ寄贈資金ノ內ヘ編入スヘキモノトス、又タ此等ノ保險會社ノ創立後十ケ年間ハ其歲入中ノ一部分ヲ割キテ寄贈資金ノ內ヘ編入セサルヘカラス、但シ其金額一千六百萬「リラ」ニ達シタランニハ然カスルコトヲ得ス

被保險人ハ果シテ幾千ノ追加金ヲ得ヘキヤハ豫シメ知ルコトヲ得サルナリ、抑モ此追加金ナルモノヲ被保險人ヘ給與セラル、ハ、殆ント突如トシテ不意ニ起ルモノ、如シ、而シテ此追加金ハ被保險人ヘ給與スル額ハ其保險會社ノ歲入如何ニモ依ルヘク、又タ之ヲ給與セラル、被保險人ノ員數ニモ比例スヘキナリ、然レトモ一ケ年間ニ各被保險人ヘ給與スヘキ追加金ノ最多額ノミヲ十二「リラ」ト定メタリ

此保險會社ノ歲入表ナルモノハ一種ノ趣味アルモノト謂ツヘキナリ、即チ國庫ヨリ直接ニ補助金ヲ與フルコト之レナシト雖モ、之カ資金トナルヘキ方法ヲ設ケタルコト一ニシテ足ラサルナリ、今マ其概略ヲ擧レハ左ノ如シ

此保險會社ノ資金トシテ先ツ第一ニ五百萬「リラ」ヲ得タリ、抑モ此資金ナルモノハ何レノ方面ヨリ得タリヤト云フニ、一千八百七十四年ノ發布ニ係ル法律ニ從ツテ發行セラレタル銀行券ノ價格ナルモノ之レナリ、尙ホ之ヲ詳言センニ銀行券ニシテ强制的ニ通用スルコト能ハサルモノアリ、一千八百八十一年四月七日發布ノ法律ニ從ツテ償却スヘキモノトスルコト能ハサルヨリ廢物トナリタルモノナリ、然レトモ此等ノ銀行券ハ或ル期間ニ限リテ正金若クハ國庫ノ紙幣ヲ以テ償還セラルヘキモノナルカ故ニ、保險會社ノ資金ニ充テラレタルナリ、斯クテ一千八百九十四年十月五日斯ル銀行券ノ資金ニ編入セラレタルモノ一千三百三十四萬三千七百九十六「リラ」ナリシナリ

第二ノ資金トシテ此保險會社ヘ五百萬「リラ」ノ收入アリシハ、一千八百七十六年ノ創設ニ係ル郵便貯金銀行ノ實收入中ヨリノ寄贈ニ係ルモノ是レナリ、斯クテ一千八百九十六年ノ末ニ至リテハ此種ノ資金積ンテ一千九百六十五萬二千七百二十一「リラ」トナリシナリ

此保險會社ノ歲入中今マ左ニ揭クル所ノ財源ハ他ヨリ寄附セラレタルモノニシテ、之ニ由リテ更ニ資金一

千萬「リラ」ノ增加ヲ見ルコト、ナレリ

（一）紙幣發行ノ銀行ヲ再興スヘキ法律カ一千八百九十三年八月十日ヲ以テ國會ヲ通過シタリ、斯クテ一千八百九十七年十二月三十一日ニ至リテ舊銀行紙幣ハ通用ヲ禁止スルコト、ナリシカ、其後五ケ年以內ニ舊紙幣ノ償却セラレサルモノアリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其殘額ノ半額ヲ養老保險會社ヘ寄贈スヘキモノトス

（二）一千八百七十五年五月二十八日發布ノ法律ニ從ツテ左記ノ事ヲ實行センコトヲ要ス、曰ク郵便貯蓄銀行ノ預金ニシテ全ク三十ケ年間据ヘ置キトナリテ更ニ動カサルモノハ、之ヲ預入及貸出銀行ノ方ヘ轉送シ該銀行ハ之ヲ受ケテ養老保險會社ヘ寄贈センコトヲ要ス

（三）預入及貸出銀行ノ預金ニシテ三十ケ年間引出人ノ之レナキ場合アランカ、斯ル場合ニ於テハ是レマテ一千八百六十三年五月十七日發布ノ法律ニ從ツテ廢棄セラルルコトトナリ居タリシカ、今日ニ至リテハ斯ク廢棄セラルヘキ預金ヲ養老保險會社ヘ寄贈スルコトトナレリ

（四）宗教的團體ノ瓦解シタル場合ニハ一千八百六十六年七月七日發布ノ法律ニ從ツテ、其團體ノ財產ヲ所謂ル宗教的資金トシテ必用ノ費途ニ充ルコトトセリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證サンニ、此資金ヨリ生スル利子ヲ以テ元ノ團員ニ給與スル年金ノ資ニ充テ及其他ノ宗教上ノ費途ニ充ルカ如キ是レナリ、斯ル費途ニ充テテモ尙ホ且ツ餘裕アランニハ其四分ノ一ヲ割キテ斯ル資金ノ保管セラル地方ノ委員會ヘ仕拂フヘク、其四分ノ三ハ國庫ヘ納付センコトヲ要ス、而シテ斯ク分配シタル內十分ノ一ハ養老保險會社ヘ寄贈スヘキモノトス

（五）其他個人ノ寄附、遺產等皆ナ是レ保險會社ノ歲入タルヘキモノトス

今マ左ニ記載スル所ノ財源ハ保險會社ノ規定サレタル歲入ト謂ツヘキモノナリ

（一）郵便貯金銀行ノ實收益ノ一部分即チ一千八百九十九年一月一日以降ヲ同シク五〇%トナレリ、而シテ其預金ノ總額カ五億「リラ」ヨリ超過シタラン場合ニハ其實收益ノ七〇%ヲ寄贈スルモノトス

（二）裁判所手數料ノ預入ヨリ生スル實收益ノ五〇%及一千八百八十二年六月二十九日發布ノ法律ニ從ツテ預入及貸出銀行ヘ預ケ入レタル同一ノ金圓ヨリ生スル實收益ノ五〇%ハ保險會社ヘ寄贈スヘキモノトス、（一千八百九十七年及一千八百九十八年ニ於テハ實收益ノ僅カニ二五%ニ過キサリシナリ）

（三）一旦國庫ヘ納付セラレタル人民ノ遺產

（四）寄贈資金ヨリ生スル所ノ利子及（五）其他總テノ歲入

以上揭ケ來リタル歲入ノ種々ナル財源及寄贈資金ノ利子等ハ、皆ナ是レ會員タル被保險人ヘ分配額ノ增加スヘキ本源トナルヘキモノナリ、乃チ此等ノ財源ハ被保險人ヘ仕拂フヘキ年金ノ基礎トナルヘキモノナルカ故ニ、其計算法ニ至リテハ法律上規定サレタル方法手續ニ從ツテ最モ精密ニ爲ササルヘカラス

今マ被保險人ニ對シテ年金仕拂ノ方法手續如何ト云フニ、被保險人ノ年齢カ六十歳若クハ六十五歳ニ達シタル時、始メテ茲ニ年金ヲ給與スヘキモノトス、但シ被保險人カ始メテ會員トナリテ保險料ヲ納付スルコトトナリシヨリ少ナクモ二十五ケ年間ヲ經過シ居ラサルヘカラス、然レトモ年齢四十歳以上ニ達シタルモノハ規則上被保險人タルコトヲ得ス被保險人トナリテヨリ年金ヲ受ケ得ヘキ迄ノ期間ヲ少ナクモ二十五ケ年ト定メタルモ、此法律實施後二ケ年間此期間ヲ短縮スルコトヲ許シタリ、(二十ケ年、十五ケ年若クハ十ケ年ニ短縮スルカ如シ)、而シテ此法律實施後二ケ年間ト云ヘルヲ一千九百一年七月七日發布ノ法律ニ依リテ一千九百三年十二月三十一日マテ延長シ、尚ホ且ツ一千九百四年三月十三日發布ノ法律ヲ以テ一千九百五年十二月三十一日迄延長スルコトトナリタリ、又タ種々ノ方法ヲ以テ蓄積セラレタル資金ヲ變更シテ年金トナスハ、普通一般ノ保險法及伊太利國ノ死亡統計表ニ基キテ調製セラレタル特別表ニ從ハンコトヲ要ス

被保險人ノ有樣如何ニ依リテ平生蓄積セラレタル金圓ヲ年金トシテ交付セス、一時ニ其全額ヲ仕拂フカ若クハ其幾分カヲ仕拂フコトアルヘキモノトス、又タ此年金ナルモノハ貯蓄資金若クハ他ヨリ讓リ受ケタル資金ヲ以テ買受ルコトヲ得ヘキモノトス

此養老保險ヲ分チテ二種トス、其一ヲ貯金拂渡保險ト云ヒ他ノ一ヲ相互共益保險ト云フ、今マ此二種ノ互ニ異ナル要點如何ト云フニ、前者ノ方ニアリテ被保險人ニシテ若シ其年齢カ年金ヲ受クヘキマテニ達セスシテ死亡シタル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ今マテ其被保險人ノ積立テタル保險金ハ其相續人ニ渡スヘキ規定ナリ、然ルニ後者ノ方ニアリテハ斯ル塲合ニ於テ其相續人ニ拂ヒ渡スコトヲナサス、其死亡シタル者ノ保險金ハ同保險會社ニ屬スル被保險人ヘ分配スルノ規定ナリ、然レトモ事實ニ就テ之ヲ見ルニ兩者ノ間ノ相違スルコト相像シ得ラルル程甚ハタシキ者ニハアラサルナリ、貯金拂渡ノ方ニアリテモ亦タ是レ相互共益スル所ナクンハアラス、死亡シタル被保險人ノ相續人ヘ渡スヘキモノハ實際其被險人ノ積ミ立テタル金額丈ケニ過キス、該被保險人ニ屬スヘキ追加額ナル者ハ他ノ被保險人ニ分配セラルヘキモノトス、今マ或ル金額ヲ以テ年金ヲ買得セントスル塲合ニ於テハ、相互共益保險ノ方年金額一層多キナリ、然レトモ貯金拂渡保險ノ方ニアリテハ被保險人ニシテ早ク死亡スルモ、其相續人カ其保險金ヲ受ケ得ヘキ望ミアルカ故ニ、此保險ニ加入セントスル勞働者多キニ居ルモノノ如シ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ一ケ年ニ就キ一弗ノ金圓ヲ以テ買ヒ得ラルヘキ年金額ヲ示セルモノナリ

相互共益保險及貯金拂渡保險ニ於テ一ケ年ニ就キ一弗ノ金圓ヲ以テ買ヒ得ラルヘキ年金額

保險ヘ加入セル年齢	年金交付ヲ始ムヘキ年齢			
	六十歳		六十五歳	
	相互共益保險	貯金拂渡保險	相互共益保險	貯金拂渡保險
二十五歳	十一弗、四〇	七弗、八七	廿一弗、〇八	十二弗、三七

三十歳	八弗、三六	五弗、九九
三十五歳	五弗、九五	四弗、四五
四十歳	四弗、〇七	三弗、一八
	十五弗、六六	九弗、五九
	十一弗、三七	七弗、三〇
	八弗、〇二	五弗、四二

右ノ表ニ據リテ之ヲ考フルニ先ツ設立セラレタルモノハ養老保險ノ一ニシテ、働力損耗保險ノ如キハ左マテ重キヲ置カレサリシコトヲ知ルヘキナリ、働力損耗保險ニ至リテハ掛金ノ蓄積セラレタルモノヲ基礎トシテ年金ヲ給與スルコトヲ許可セラレタリ、但シ斯ル年金ヲ得ント欲スルモノハ此保險ニ加入シテヨリ五ケ年ヲ經過シ居ラサルヘカラス、尙ホ働力損耗ノ勞働者ヘ給與スル年金額ヲ增加スルノ目的ヲ以テ、働力損耗資金ノ制度設ケラレタリト雖モ其財源乏シキカ故ニ充分ノ發達ヲ見ルニ至ラサリシ

一、一千九百一年ノ改正條例、一千九百一年七月七日ノ改正條例ハ從來ノ法律ノ變更ニ係ルモノ少ナカラサルナリ、斯ル變更ハ甚ハタ重要ナルヘシト雖モ右ニ記載シタル養老保險制度ノ總則ニ對シテ左マテノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラサルナリ、抑モ此等ノ變更ナルモノハ重モニ此保險制度ニ關スル會計上ノ些細ナル利益ニ過キサルナリ

一、一千八百九十三年及一千八百九十四年ニ於テ大藏省ヨリ一「リラ」及二「リラ」ノ小紙幣カ發行セラレタリ、而シテ此發行紙幣ノ總金額ハ一億一千萬「リラ」ナリシカ、一千八百九十九年二月十一日發布ノ法律ニ依レハ、此等ノ紙幣ハ一千九百一年十二月三十一日限リニテ通用ヲ止メルコトヽナレリ、而シテ未償還ニシテ諸拂ニ利用セラレス、一千九百二年ノ末尾ニ至リテ廢物トナルヘキ此等ノ紙幣ハ、一千九百三年一月ヲ以テ預入及貸出銀行ヘ預ケ入ルコトヽナレリ、蓋シ此預金ハ未償還紙幣ノ償却資金ニ充ツヘキモノニシテ、其預金ニ對スル利率ノ如キハ豫シメ之ヲ定メス、該銀行ノ意見ニ一任スルモノトス、而シテ此等ノ預金ヨリ生スル所ノ利子ハ之ヲ養老保險會社ヘ交付シテ其寄附資金ノ增殖ヲ圖ルヘキモノトス

二、從來ノ有樣ヲ見ルニ銀行紙幣ニシテ一千九百四年六月以前ニ償却セサルモノ、半額ヲ養老保險會社ヘ交付スルノ定メナリシカ、今ヤ其方法ヲ變更スルニ至レリ、今マ政府ノ見積ル所ニ從ツテ之ヲ云ハンニ、從前ノ方法ニテハ恐ラクハ銀行紙幣ノ八百萬「リラ」カ之カ爲メニ失ハレテ通用セサルコト、ナルモノト謂ツヘキナリ、此ニ於テカ左ノ如キ法律ヲ發シタリ、曰ク紙幣發行ノ三銀行（伊太利銀行、涅保利銀行、志々利亞銀行是レナリ）ハ八百萬「リラ」ノ金額ヲ預入及貸出銀行ヘ拂ヒ込ムコトヲ要ス、但シ此等ノ各銀行負擔ノ割合ハ其發行紙幣ノ未償還ノ分ニ準スルモノト知ルヘシ、而シテ此預入金額ハ政府ニ於テ年八分ノ利子ヲ保證スルモノニシテ、其半額ハ養老保險會社ノ所有ニ歸セシメ、殘リ半額ハ右三銀行ノ所有ニ歸セシムヘキモノトス、但シ其分取ノ割合ハ其預入金額ニ準スルモノト知ルヘシ、且ツ此等ノ預入資金ハ銀行紙幣償却ノ用ニ充テラルヽモノトス、斯クテ此等ノ紙幣カ全ク不効トナリタル場合ハ其預金ノ半額ヲ養老保險會社ノ方ヘ返シ他ノ半額ヲ右三銀行ヘ返スヘキモノトス、斯クノ

如クシテ此等ノ銀行紙幣カ結局無効トナルニ先ンシテ養老保險會社ノ歳入ノ一部分トナリシコト三ケ年間ナリシ

三、宗教的資金ヨリ分チテ養老保險會社ヲ補助スルコトニ就テノ規定ハ既ニ前段ニ於テ述ヘタル所ナルカ、新タニ發布セラレタル法律ヲ以テ左ノ如ク規定セラレタリ、曰ク一千九百一年――二年ヨリ起算シテ五ケ年以内ニ此補助金額二百九十五萬「リラ」ニ達セシメンコトヲ要ス

以上述ヘ來リタル改正法律ハ重モニ保險會社歳入ノ財源ニ關スルモノナルカ、其他ノ改正法律ハ保險法ニ就テ或ル變化ヲ生セシメタリ、今マ之ヲ詳言センニ婦人ノ被保險人ニシテ年金ヲ受クヘキ年齢之ヲ從前ニ比較スレハ一層短縮セラレタリト謂ツヘキナリ、即チ從前ハ六十歳ニ達シテ初メテ玆ニ年金ヲ受ルコト、ナリ居タリシカ、新法ニテハ之ヲ改メテ五十五歳トセリ、尚ホ此上之ヲ短縮スルノ期間ヲ一千九百三年十二月三十一日マテ延期スルコトヽセリ、且ツ被保險人ニシテ通常ノ年金ヨリ稍ヤ多キ年金ヲ受ケント欲スル場合ニハ、其納付スヘキ保險料ヲモ幾千カ增加センコトヲ要ス、但シ之ヲ許可セラルヽハ納付スヘキ保險料ノ年額六「リラ」(最少額)ニ達ヤサル會員ニ限ルヘキモノトス、此外勞働者ニシテ賃銀ヲ得ルコトヲ能ハサルモノトナリタルモノモ、尚ホ且ツ引キ續キテ保險會社ノ會員タルコトヲ得ヘキ規則カ設ケラレタリ一千九百四年發布ノ法律、一千九百四年三月十三日發布ノ簡短ナル條例ニ從ツテ右ノ外尚ホ多少ノ變化ヲ生シタリ、所謂ル此簡短ナル條例ニ曰ク保險會社ニ於テ十ケ年間ト云ヘル短期保險ヲ爲スヘキ權能ヲ有スルハ一千九百三年十二月三十一日限リトナリシカ、更ニ之ヲ延期シテ一千九百五年十二月三十一日限リトナスト、是レマテ被保險人トナリタルモノヽ、全數ノ殆ンド三分ノ一ハ二十五ケ年以内ノ保險期間ナリシカ故ニ、此短期保險ノ事ハ一般ノ人氣ニ適シタリ

一千九百六年二月二日ヲ以テ一ノ議案カ衆議院ニ提出セラレタリ、今マ其議案ノ主意ヲ擧レハ左ノ如シ、曰ク抑モ此議案ノ内容タルヤ養老及働力損耗保險會社ヲ統治シ、及斯ル保險會社ノ業務會議ノ思想如何ヲ定ムル所ノ法律全般ヲ含メル新法案ナルモノ是レナリ、而シテ今マ此法案ノ言明セル重モナル變更ヲ示セハ左ノ如シ

保險期間二十五ケ年ヨリ尚ホ短期ニ屬スルモノ(年齢四十歳以上ノ者モ尚ホ且ツ被保險人タルコトヲ許セリ)ハ根源的法律ニテハ之ヲ一時的許可ヲ與フルコト、セリ、而シテ此一時的許可カ幾回トナク延期ヲ繰リ返ヘサルヽコト、ナレリ、斯ク一時的許可カ數々延期セラルヽヲ見レハ、其短期保險カ一般ノ人氣ニ適シ居ルコトヲ證スルニ足ルヘシ、此ニ於テカ此法案起草員ハ短期保險ヲ一時的許可トセス、永久的トナスヘシトノ意見ヲ有セリ、此外短期保險ノ實行ヲ容易ナラシメンカ爲メニ左ノ如ク變更セシムルコト、セリ、曰ク是レマテ保險期間二十五ケ年ヨリ短期ノ被保險人ハ皆ナ是レ年金ヲ一纏メニシテ一時拂ヲ要求シ居タリシカ、以後ハ二十五ケ年以内ノ被保險人ニ對シテハ毎年一「リラ」宛ノ追加額ヲ給與スルコト、ナシタルコト是レナリ

一千九百六年五月十七日ニ於テ政府議案ナルモノヲ國會ヘ提出シタリ、然レトモ此議案提出後幾干モナク內閣ノ更迭アリシヲ以テ實際同一ノ議案カ新任農工商務大臣ヨリ再ヒ國會ヘ提出セラレタリ、蓋シ此議案ハ他ノ新任大臣ノ贊成ヲ得タリシモノト知ルヘシ、斯クテ此議案ハ一千九百六年十一月二十七日ヲ以テ國會ノ委員會附托トナリシカ、即日多少ノ變更ヲナシテ其ノ委員會ノ報告中ニ登載セラレタリ、而シテ一千九百六年十二月三十日ヲ以テ此議案ハ遂ニ法律トナリタリ、但シ其主意ハ委員會ニ於テ改正シタル通リニシテ更ニ變更スル所ナカリシナリ

今マ本條例ヲ以テ從來ノ法律ヲ變更シタル重モナルモノヲ擧レハ左ノ如シ

(一)、各被保險人カ會社ヨリ受クル所ノ益金ノ計算法ハ從前ノ複雜シタル再渡法及利子ノ計算法ニ依ラス、表ニ從ツテ年金給與ノ計算ヲ爲スコト、セリ

(二)、働力損耗年金給與ノ最少額ヲ百二十「リラ」ト定メタリ、是レハ働力損耗資金中ヘ更ニ一千萬「リラ」增加シタルニ依ル

(三)、郵便貯金銀行ヨリ養老保險會社ヘノ寄附金額ハ其銀行實收益ノ七〇%ト定ム

(四)、保險會社ノ會員トナリテ會社ヨリ保險金ヲ受ヘキモノ、範圍ヲ擴メテ、每年租稅トシテ三十「リラ」以上ヲ納メサル獨立ノ生產者ノ加入ヲ妨ケナキコト、セリ

(五)、從來被保險人ノ納付年額ノ最大限ヲ百「リラ」ト定メタリシカ、之ヲ取リ消シテ其最少ヲ五十「センテシミー」乃至一「リラ」トセリ

(六)、從來ノ規則ニ從ヘハ旣ニ若干ノ年金ヲ受クヘキコトヽナリ居レルニ尙ホ此上ニ付加スルコトヲ許シタリシカ、斯クテハ其年金額非常ニ多大ナルノ弊ナクンハアラス、此ニ於テカ旣ニ一千「リラ」以上ノ年金ヲ受クヘキコトヽナリ居レルモノハ、最早此上ニ加フルコトヲ得サルコトヽセリ

(七)、年金ヲ受クルニ足ルヘキ規定ノ年齡ハ從前ニ異ナル所ナシト雖モ、甚ハタシキ體力ヲ要スル或ル勞働ノ種類ニ依リテハ、一層早ク、シテ五十五歲ニ達シタランニハ年金ヲ給與スルコトヽセリ、即チ其勞働ノ種類トハ礦山業、溶鐵鑪、鑄造所、蒸氣機關、硝子製造所及鐵道工事等ニ從事スルモノヲ是レナリ

(八)、右ノ如ク年齡一層早クシテ年金ヲ得ンコト欲スルモノハ、其掛金ノ最少額幾分カ上ラサルヲ得ス、即チ從前六「リラ」ナリシモノ上リテ九「リラ」トナレリ

(九)、二十五ケ年ノ保險期間ハ從前ノ規定通リナルカ、若シ此期限ニ先ンシテ年金ノ拂渡ヲ要求スルモノハ、其掛金ノ最少額ヲ幾干カ高メテ以テ之ヲ許可スルコトヽセリ

(十)、會計上ノ機關カ稍ヤ變更セラレタリ、現ニ成立シ居ル資金ニ四種類アリ、更ニ會員資金ナルモノヲ之ニ加ヘテ都合五種類トセリ、而シテ現ニ成立シ居ル四種類ノ資金トハ寄附資金、年金資金、働力損耗資金及貯蓄資金ナルモノハ當ニ年金資金ヲ保護スル最後ノ貯蓄資金ナルモノ是レナリ、中ニ就テ最後

ノミナラス會員資金ヲ保護スルモノト知ルヘシ

(十一)、歳入中ヨリ割キテ永久資金ヲ增加セシムル方法ハ業務會議ノ意見ニ一任スヘキモノトス、然レトモ寄附資金、働力損耗資金及臨時貯蓄資金等ノ永久資金ノ增殖ヲ計ラン爲ニハ、必ラス歳入ノ三〇%ヲ割ラサルヘカラス

(十二)、年々被保險人ニ給與スヘキ益金ノ最大額ハ從來十二「リラ」ナリシヲ減少シテ十「リラ」トナセリ

一千九百六年十二月三十日制定ノ改正條例ハ直チニ實行セラルヘキモノ(此モノハ例外ナリト知ルヘシ、而シテ此改正條例ハ一千九百七年五月三十日勅令ヲ以テ公布セラレタリ

右ノ除外例ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

(一)業務會議ニ於テ變更ノ規定、(二)被保險人一人々々ニ關スル計算法ノ變更、年金計算法ノ變更(此變更ハ養老保險會社ノ新憲法及規則ノ公布ニ從ツテ實行セラルヘキモノ)ノ如キ是レナリ、斯クテ此保險會社ノ業務會議ハ一千九百七年十二月開催ノ會議ニ於テ同會社ノ新憲法及規則ヲ承認シタリシカ、一千九百九年三月十八日勅令ヲ以テ認許セラレタリ

現行法律ノ要略

國家的勞働者働力損耗養老保險會社トハ官界ニ於テ稱セラレタル保險會社ノ名ニシテ、其目的トスル所ハ其題名ノ文字上ニテ既ニ明カナレハ更ニ說明スルヲ要セサルナリ、抑モ此保險ニ加入スルトセサルトハ全ク隨意タルヘキモノナリ、凡ソ伊太利國ノ勞働者タル者ハ何人タリトモ皆ナ是レ此保險會社ノ被險人タルヘキ權能ヲ有スルモノナリ、所謂ル此勞働者トハ日雇稼、若クハ些少ノ賃銀ヲ取ルモノ、若クハ一ケ年間ニ或ル種ノ稅金三十「リラ」以上ヲ納付セサルモノノ總括シタルモノト知ルヘシ、結婚シタル婦人ト雖モ其夫ノ許諾ヲ得スシテ被保險人タルコトヲ得ヘク、又タ幼年者ト雖モ其父母ノ許諾ヲ得スシテ被保險人タルコトヲ得ヘキモノトス

此保險會社ニシテ養老保險事務ヲ取扱ハントスルノ場合ニ於テ、或ハ他ノ團體(所謂ル平民年金保險會社ノ類)ニ於テ之ヲ取リ扱フモ妨ケナキモノトス、但シ斯ク爲サンニハ特別ノ條件ナカルヘカラス、此條件ヲ直チニ說明スル所アルヘシ

今マ規則ニ從ツテ被保險人トナリタルモノカ右ニ記載シタル要求ニ應セサル場合アリタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ之ヲシテ平民年金保險會社ノ方ヘ移ラシメンカ、斯ル保險ノ種類、今マ玆ニ人アリテ相當ノ手續ヲ踐ンテ被保險人トナラント欲スル場合ニハ、二種ノ保險ノ內何レカ其一種ヲ擇ヒ取ラサルヘカラス、所謂ル其二種ノ保險トハ相互共益保險ト貯蓄保險トノ二者是レナリ、甲種ニアリテハ其被保險人カ中途ニシテ死亡シタルノ場合、從來納付シタル保險料ハ其遺族抔ヘ返付セサルモノナリ、然ルニ乙種ニ至リテハ然ラス、從來其被保險人ヨリ若クハ之ニ代リテ他ノ者ヨリ納付シ

タル實際ノ保險料ハ其遺族等ニ交付スルノ定メナリ、蓋シ其之ヲ交付センニ左記ノ規則ニ從ハサルヘカラス

被保險人ノ死亡シタル場合ニ於テ只タ其配偶者ノミ生存シテ、其他子供モナク尊族系ノ親戚更ニ之レナシトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其配偶者タルモノカ其保險金ノ全部ヲ受領スヘキモノトス、若シ死亡シタル被保險人ノ子供ノ生存シタル場合アリトセンカ、其子供等カ其保險金ノ六〇%ヲ受領シ、殘リ四〇%ヲ其配偶者ノ受領スヘキモノトス、若シ又タ斯ル子供等ナクシテ尊族系ノ親戚ノ生存シタル場合アリトセンカ斯ル場合ニ於テハ配偶者カ其六〇%ヲ受領シ其親戚カ殘リ四〇%ヲ受領スヘキモノトス

配偶者之レナキ場合ニハ其子供等カ全額ヲ受領シテ之ヲ平等ニ分タンコトヲ要ス、又タ配偶者ナク子供モ之レナキ場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ尊族系ノ親戚カ其全部ヲ受領スヘキモノトス、而シテ結局配偶者、子供若クハ尊族系ノ親戚何レモ皆ナ生存セサル場合之レアリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其他ノ親戚之ヲ受領センコトヲ要ス、即チ年齡十八歳未滿若クハ無能力者タル其兄弟姉妹之ヲ受領スヘキモノトス、蓋シ其無能力者トハ其身體若クハ精神上ニ缺點アリテ他ノ扶助ヲ仰クニアラサレハ生存シ得サルモノヲ是レナリ

遺族ノ者ヨリ保險金下付願ヲ差シ出サンハ、被保險人ノ死亡後二ケ年以內ナランコトヲ要ス、若シ以上掲ケタル規則ニ該當スヘキ相續人ニシテ右期限內ニ發見セラレサル場合之レアリトセンカ、斯ル場合ニ於テ

彼ノ下付セラルヘキ保險金ハ之ヲ擧ケテ働力損耗賣金中ニ編入スヘキモノトス

被保險人ノ分擔額　被保險人タランモノハ規則トシテ必ラス爾カ〳〵ノ保險料ヲ納付セサルヘカラスト云ヘルコトハ決シテ之レナキナリ、其保險料納付額ノ如何ハ全ク被保險人ノ隨意タルヘキモノトス、但シ一「リラ」以下ノ少額ニ至リテハ之ヲ受ケサルノ規定ナリ、然レトモ納付額ノ最少限ヲ斯クノ如ク一「リラ」ト定メタルハ高キニ失シタル者ト謂ツヘキナリ、故ニ少額ノ貯金習慣ヲ鼓舞奬勵スル者ト云フヲ得ス、此ニ於テカ此缺陷ヲ補ハンカ爲メニ一ノ方法カ案出セラレタリ、即チ郵便切手貼用法ニテ極メテ少額ノ金錢ヲ貯畜スル方法ヲ設ケラレタルコト是レナリ、而シテ此目的ヲ達センカ爲メニ特別ナル郵便切手貼用「カード」ナルモノカ調製セラレ、此「カード」ハ保險會社ノ各支部ヨリ郵便局ヲ經由シテ所用ノ人々ニ交付セラルヽモノトス、斯ル「カード」ノ交付ヲ受ケタルモノハ幾千カノ郵便切手ヲ買ヒ求メテ之ニ貼付スヘク、斯ク貼付シタル郵便切手ノ總計カ終ニ一「リラ」ニ達スルマテ幾回トナク貼付センコトヲ要ス、既ニシテ其貼付シタル便郵切手ノ總計カ一「リラ」ニ達シタランニハ通貨ニ代用セラルヘキモノトス、斯クノ如キ次第ニテ保險會社ト郵便電信局トノ間ニ於テ郵便切手貼付「カード」ニ關スル計算カ行ハル、モノトス

被保險人カ保險會社ヨリ若干ノ保險金ヲ受ケンカ爲メニハ必ラス平生相當ノ保險料ヲ拂ヒ込マサルヘカラス、今マ其保險料トシテ年々納付スヘキ最少額ハ六「リラ」ノ規定ナルカ、此等ノ被保險人ニシテ保險滿期トナリ從ツテ保險金ヲ得ヘキ年齡ハ男子ニテ六十歳、女子ニテ五十五歳ナリトス、而シテ特別ノ職業ニ從

事シ五十五歳ニテ保険満期トナルヘキモノ、一ケ年ノ保険料ハ九「リラ」ヲ納メンコトヲ要ス然レトモ被保険人ニシテ保険満期トナルマテ其納付スヘキ負擔額ノ平均ヲ得タランモノハ、好シ其最後ノ一ケ年間ハ未納ナルモ皆納者ト見做シテ處分セラル、モノトス

此外保険期間ヲ一層短縮セシメント欲スル被保険人ハ少ナクモ年々左ノ如キ差額ヲ納付セサルヘカラス、曰ク其短縮スヘキ年數ニ適スル丈ケノ保険料ヲ增加シテ納付セサルヘカラス

會員ノ保険料ニ關スル計算法　會員即チ被保険人ノ納付シタル保険料ナルモノハ其個人々々ノ預金ト見做シテ取リ扱ハルヘキモノトス、僅カニ近コロ實行サレタルハカリナル新法ノ規定スル所ニ從ヘハ、斯ル保険料ノ計算法ハ從前ヨリ一層單純トナレルコト知ルヘシ

保険ノ種類變更ノ事　保険ノ種類ハ右ニモ述ヘタル如ク相互共益保険ト貯蓄保険トノ二種アリ、而シテ苟クモ保険ニ加入セント欲スルモノハ二者ノ内何レカ其一ヲ擇ヒ取ラサルヘカラス、然レトモ何レカ其一方ニ加入シタル後他ノ一方ヘ轉スル方然ルヘシト思惟セラル、事情起ラスンハアラス、此ニ於テカ斯ル變更ニ關スル新タナル規則カ設ケラレタリ、今マ此規則中相互共益保険ヨリ貯蓄保険ノ方ヘ轉スル塲合ニ於ル規定ヲ擧ケンニ、此被保険人ノ年齢カ四十五歳以下ニシテ結婚後若クハ子ヲ設ケタル後一ケ年以内ナランニハ此變更ヲ許可セラルヘキモノトス、而シテ其保険料ノ計算法如何ト云フニ、其轉換以前ノ拂込ニ係ル保険料ハ其本人ノ死亡シタル塲合其家族ニ下付セラルヘキモノトス、然レトモ該被保険人ニシテ此等ノ要

求ニ適合セサル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ是レマテ拂ヒ込ミタル保険料ハ如何トモスルコトヲ得ス、轉換後拂ヒ込ミタル保険料ニ對シテノミ權利ヲ有スルモノトス

又タ他ノ方面ニ於テ貯蓄保険ノ方ヘ轉セント欲スル塲合ニハ、何等ノ條件ナクシテ許可セラルヘキモノトス、但シ其轉換以前納付シタル保険料ハ本人ノ受クヘキ年金ノ資ニ充テラル、モノトス

附加ノ益金ノ事　貯蓄習慣ヲ鼓舞奬勵シ及年金ノ價値ヲ增加セシメンカ爲メニ、養老保険會社ハ被保険人ニ對シテ普通ノ保険金ノ外ニ若干ノ益金ヲ附加スルコト、セリ、苟クモ此方法律ノ規定スル所ニ從ツテ被保険人トナリタルモノハ、何人ニ限ラス皆ナ是レ此附加ノ益金ヲ受領スヘキ權利ヲ有スルモノトス、但シ此等ノ被保険人ハ最少額ノ保険料納付ニ關スル規定ヲ遵守シタル者ナラサルヘカラス、且ツ年金ノ積立額一千「リラ」ニ達セサルモノニ限ルヘキモノトス、又タ保険會社ヨリ各被保険人ヘ對シテ支拂フヘキ保険金額ハ固ヨリ拂ヒ込ミタル保険料ノ高ニ準スヘキモノニシテ、業務會議ニ於テ之ヲ定ムヘキモノナレトモ、一ケ年ニ就テ十「リラ」ヲ踰ユヘカラサルモノトス、尙ホ此外二十五ケ年以内ノ短期保険ノ被保険人ニ對シテモ或ル特別ナル益金ヲ交付スルモノトス

保険金支拂ノ事　各被保険人ニ對シテ保険金ヲ支拂フニ二樣ノ別アルモノトス、即チ其一ハ被保険人ノ死亡シタル塲合、他ノ一ハ格段ナル年齡ニ達シテ保険期限ノ完了シタル塲合是レナリ、今前者ニ就テ之ヲ云

ハンニ、被保險人ニシテ保險期限ニ達セサルニ先シテ死亡シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ相互共益保險ノ種類ナランニハ、是レマテ保險料トシテ納付シタル金額ハ其遺族ニ交付セラレサルモノトス然レトモ貯蓄保險ノ種類ニ至リテハ然ラス、前段ニ述ヘタル規定ニ從ツテ夫々遺族ニ給與セラルヘキモノトス

正當ニ年金ヲ給與セラルヘキ時期ノ熟スルハ男子六十歲ニ達シ女子五十五歲ニ達シタル時是レナリ、且ツ此等ノ被保險人カ初メテ保險ニ加入セシメ以來少ナクモ二十五ケ年ヲ經過シタル後ナラサルヘカラス、又タ年齡五十五歲ニ達シタランニハ年金下渡願ヲ差シ出シ得ヘキモノアリ、礦山業、溶鑛爐、硝子製造所、蒸氣罐、鐵道工事等ノ業務ニ從事スル者及勅令ヲ以テ定メラレタル其他ノ工事ニ服スル者等是レナリ、尙ホ此外國家及地方廳等ヨリ任命サレタル火夫稅務取締役、夜警、病院若クハ顚狂院等ノ雇員モ皆ナ是レ勅令ヲ以テ右ノ範圍內ニ屬セシムルコト、セリ

年齡五十五歲ニシテ早既ニ年金ヲ受クヘキ權能ヲ有スルモノハ、以上揭ケタルカ如キ例外ニ屬スル職業中ノ何レニカ現ニ從事シ居ル者ニ限ラスンハアラス、而シテ五十五歲ニシテ年金ヲ受クヘキ資格ヲ有シ居ルコトハ兼ネテ其由保險會社ヘ屆ケ置カサルヘカラス、斯クテ此屆出期間ハ保險加入ノ時ヨリカ、若クハ此等ノ職業ノ一ニ從事シタル時ヨリ起算シテ一ケ年以內ナランコトヲ要ス

右ノ如ク規定ノ年齡ニ達シタランニハ年金ヲ給與セラルヘキモノトス、或ハ二十五ケ年以內ト雖モ尙ホ且ツ給與セラル、コトアルヘシ、然レトモ保險加入以後少ナクモ十ケ年ハ經過シ居ラサルヘカラス、尙ホ之ヲ詳言センカ、凡ソ保險ニ加入セント欲スルモノハ其年齡三十五歲以上タルヘクシテ五十歲以上タラサランコトヲ要ス、且ツ苟クモ被保險人タランモノハ必ラス左ノ要求ニ適應セサルヘカラス、曰ク普通ノ最少額ノ保險料ヲ納付スルノ外更ニ年々若干ノ金圓ヲ納付セサルヘカラス、此若干ノ金圓トハ年限中ノ不足ヲ補ハンカ爲メニ外ナラス、例之ヘハ保險期限ヲ二十五ケ年トナサンニ、一定ノ年齡ニ達センニ僅カニ十ケ年ニ過キサルモノトセンカ、十五ケ年ノ不足ナクンハアラス、サレハ此不足ヲ補ハンカ爲メニ年々十五「リラ」ノ附加金ヲ納付セサルヘカラス、若シ一定ノ年齡ニ達センニ十五ケ年アリトセンカ、其不足十ケ年ヲ補ハンカ爲メニ年々十「リラ」ノ附加金ヲ納メサルヘカラス、一ケ年ノ拂込金多キニ過キタル場合ハ次年拂込額ノ不足ヲ償フコトヲ得ヘシトハ是レ保險制度ノ通則ナルカ、此通則ハ右附加金拂込ノ場合ニモ亦タ適用スヘキナリ、又タ右ノ如ク短縮セラレタル期限ニテ被保險人トナリタルモノハ通常保險金ノ外附加ノ益金ヲモ受クルコトヲ得ヘシ、但シ此益金額如何ニ至リテハ一ニ業務會議ノ意見ニ從ハンコトヲ要ス、此外被保險人ノ要求ニ依リテ其年齡六十五歲ノ末マテ年金拂渡ヲ延期スルコトアルヘシ

年金表　一千九百九年三月十八日其筋ノ承認ヲ經タル規定ニ依ルニ、保險料トシテ一弗ノ拂込ニ對シテ如何程ノ年金ヲ給與スヘキヤハ、左ニ揭クル所ノ表ヲ視レハ自カラ判然スル所アルヘシ、抑モ年金ヲ支拂フヘキ箇所ハ相互共益保險會社ト貯蓄保險會社ノ二箇所是レナリ、斯クテ年金ヲ拂ヒ渡スヘキ年齡トハ五十

五歳ヨリ七十歳マテニシテ、本源ノ表ニ依リテ之ヲ見レハ一「リラ」ノ保險料ヲ拂ヒ込ミテ終ニ受ケ取リ得ヘキ保險金即チ年金ノ高如何ヲ示シ居レリ、尚ホ年金ヲ拂ヒ渡スヘキ年齡ノ詳細ナルコトヲ云ハンカ、五十五歳、六十歳、六十五歳、及ヒ七十歳是レナリ

右二種ノ保險會社ヨリ拂ヒ渡スヘキ年金ニ至リテ兩者ノ間ニ差異アルハ實ニ一考ヲ要スヘキコト、謂ツヘキナリ、而シテ年金ヲ受ケ取リ得ヘキ年齡ノ增加スル從ツテ其ノ差異モ一層甚タシカラサルヲ得ス、斯ク年齡ノ增加スルニ從ツテ其年齡ニ達スルノ機會自カラ少ナカルヘキナリ、其年齡ニ達セサルニ先ンシテ死亡スルモノ自カラ多大ナルヘキナリ、例之ヘハ年齡十二歳ニシテ一弗ヲ投シテ年金ヲ受クヘキ年金額如何ト云フニ、相互共益保險ノ方ニテハ五十一仙二トナリ、貯蓄保險ノ方ニテハ四十四仙トナルヘキナリ、即チ乙ハ甲ヨリ少ナキコト一四%ニ當レリ、然ルニ年齡七十歳ニ達シテ初メテ年金ヲ受クヘキ規定ナラン塲合ニハ、甲保險ニハ二弗六六七トナルヘク乙保險ニテハ二弗一六三トナルヘキナリ、即チ乙ハ甲ヨリ少ナキコト一九%ニ當レリ

右ノ如キ次第ナルカ故ニ右二種ノ保險會社ニテ一弗ヲ投シテ年金ヲ受クヘキ資格ヲ買得シタリトセンカ、斯ル塲合ニ於テ適當ノ年齡ニ達シテ受クヘキ年金額ニ至リテ兩者ノ間ニ差異アルコトハ亦タ疑フヘカラサルナリ、然レトモ年金ヲ受クヘキ年齡カ增加シタランニハ、年金額ノ差異ハ直チニ減少スヘキモノト知ルヘシ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證サンカ、年齡十二歳ノ時ニ際シテ一弗ヲ投シテ年金ヲ受クヘキ資格ヲ買得シ、五十五歳ニ達シタル時初メテ年金ヲ受クルコト、ナラン塲合、其年金ノ差ハ七仙二トナルヘク、二十歳ノ時ナランニハ五仙六、三十歳ノ時ナランニハ三仙五、四十歳ノ時ナランニハ〇、仙六、五十四歳ノ時ナランニハ〇、仙一トナルヘキナリ、然レトモ其差異ノアル所ヲ百分比例ノ上ヨリ見タランニハ、二十五歳マテハ其差異一四%若クハ一五%ナルヘキモ、夫レヨリ以後ハ其差異次第ニ減少スヘキモノト知ルヘシ、今マ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ相互共益保險ノ方ニアリテハ年少者ニ取リテ最モ利益大ナリト謂フヘキナリ

一弗ヲ以テ年金ヲ受クヘキ資格ヲ買得スル時ニ於ル年齡如何ニ依リテ年金額ニ差アル事、保險ノ種類、及年金ヲ受領スヘキ年齡別

左ノ保險會社ヨリ一弗ニテ買得スヘキ年金額

相互共益保險會社ニ於テノ年金受領ノ年齡別

年金資格買得ノ時ニ於ル年齡別	五十五歳	六十歳	六十五歳	七十歳
十二歳	〇・五一二弗	〇・七九八弗	一・二六三弗	二・六六七弗
十三歳	〇・四九三	〇・七六八	一・二一三	二・五六八
十四歳	〇・四七四	〇・七四〇	一・一六四	二・四七三
十五歳	〇・四五七	〇・七一二	一・一二七	二・三八〇
十六歳	〇・四三九	〇・六八五	一・〇九二	二・二九二

貯蓄保險會社ニ於テノ年金受領ノ年齡別

年金資格買得ノ時ニ於ル年齡別	五十五歳	六十歳	六十五歳	七十歳
十二歳	〇・四四〇弗	〇・六七五弗	一・〇三一弗	二・一六三弗
十三歳	〇・四二三	〇・六四八	一・〇八五	二・〇七三
十四歳	〇・四〇六	〇・六二三	一・〇四〇	一・九八七
十五歳	〇・三九〇	〇・五九七	一・〇九八	一・九〇三
十六歳	〇・三七四	〇・五七三	〇・九五六	一・八二三

年齢																														
十七歳	一・四一三	〇・六五九	一・七四六	〇・九一七	一・七四一	〇・九一七	一・七四〇	〇・九一七	一・七三九	〇・九一七	一・七三八	〇・九一七	一・七三七	〇・九一七	一・七三六	〇・九一七	一・七三五	〇・九一七	一・七三四	〇・九一七	一・七三三	〇・九一七	一・七三二	〇・九一七	一・七三一	〇・九一七	一・七三〇	〇・九一七	一・七二九	〇・九一七
十八歳	一・四〇六	〇・六八〇九	一・六七二	〇・八四二	一・六七一	〇・八四二	一・六七〇	〇・八四二	一・六六九	〇・八四二	一・六六八	〇・八四二	一・六六七	〇・八四二	一・六六六	〇・八四二	一・六六五	〇・八四二	一・六六四	〇・八四二	一・六六三	〇・八四二	一・六六二	〇・八四二	一・六六一	〇・八四二	一・六六〇	〇・八四二	一・六五九	〇・八四二
十九歳	一・三七五	〇・六八五九	一・五八五	〇・七七四	一・五八一	〇・七七四	一・五七七	〇・七七四	一・五七三	〇・七七四	一・五六九	〇・七七四	一・五六五	〇・七七四	一・五六一	〇・七七四	一・五五七	〇・七七四	一・五五三	〇・七七四	一・五四九	〇・七七四	一・五四五	〇・七七四	一・五四一	〇・七七四	一・五三七	〇・七七四	一・五三三	〇・七七四
二十歳	一・三七九	〇・六八九四	一・五八五	〇・七七四	一・五八一	〇・七七四	一・五七七	〇・七七四	一・五七三	〇・七七四	一・五六九	〇・七七四	一・五六五	〇・七七四	一・五六一	〇・七七四	一・五五七	〇・七七四	一・五五三	〇・七七四	一・五四九	〇・七七四	一・五四五	〇・七七四	一・五四一	〇・七七四	一・五三七	〇・七七四	一・五三三	〇・七七四
二十一歳	一・三八四	〇・六九二〇	一・五九〇	〇・七九五	一・五八六	〇・七九五	一・五八二	〇・七九五	一・五七八	〇・七九五	一・五七四	〇・七九五	一・五七〇	〇・七九五	一・五六六	〇・七九五	一・五六二	〇・七九五	一・五五八	〇・七九五	一・五五四	〇・七九五	一・五五〇	〇・七九五	一・五四六	〇・七九五	一・五四二	〇・七九五	一・五三八	〇・七九五
二十二歳	一・三八九	〇・六九四六	一・五九五	〇・八〇〇一	一・五九一	〇・八〇〇一	一・五八七	〇・八〇〇一	一・五八三	〇・八〇〇一	一・五七九	〇・八〇〇一	一・五七五	〇・八〇〇一	一・五七一	〇・八〇〇一	一・五六七	〇・八〇〇一	一・五六三	〇・八〇〇一	一・五五九	〇・八〇〇一	一・五五五	〇・八〇〇一	一・五五一	〇・八〇〇一	一・五四七	〇・八〇〇一	一・五四三	〇・八〇〇一
二十三歳	一・三九三	〇・六九七二	一・五九九	〇・八〇四	一・五九五	〇・八〇四	一・五九一	〇・八〇四	一・五八七	〇・八〇四	一・五八三	〇・八〇四	一・五七九	〇・八〇四	一・五七五	〇・八〇四	一・五七一	〇・八〇四	一・五六七	〇・八〇四	一・五六三	〇・八〇四	一・五五九	〇・八〇四	一・五五五	〇・八〇四	一・五五一	〇・八〇四	一・五四七	〇・八〇四
二十四歳	一・三九七	〇・六九九八	一・六〇三	〇・八〇八	一・五九九	〇・八〇八	一・五九五	〇・八〇八	一・五九一	〇・八〇八	一・五八七	〇・八〇八	一・五八三	〇・八〇八	一・五七九	〇・八〇八	一・五七五	〇・八〇八	一・五七一	〇・八〇八	一・五六七	〇・八〇八	一・五六三	〇・八〇八	一・五五九	〇・八〇八	一・五五五	〇・八〇八	一・五五一	〇・八〇八
二十五歳	一・四〇一	〇・七〇〇一	一・六〇七	〇・八一二	一・六〇三	〇・八一二	一・五九九	〇・八一二	一・五九五	〇・八一二	一・五九一	〇・八一二	一・五八七	〇・八一二	一・五八三	〇・八一二	一・五七九	〇・八一二	一・五七五	〇・八一二	一・五七一	〇・八一二	一・五六七	〇・八一二	一・五六三	〇・八一二	一・五五九	〇・八一二	一・五五五	〇・八一二
二十六歳	一・四〇五	〇・七〇二一	一・六一一	〇・八一七	一・六〇七	〇・八一七	一・六〇三	〇・八一七	一・五九九	〇・八一七	一・五九五	〇・八一七	一・五九一	〇・八一七	一・五八七	〇・八一七	一・五八三	〇・八一七	一・五七九	〇・八一七	一・五七五	〇・八一七	一・五七一	〇・八一七	一・五六七	〇・八一七	一・五六三	〇・八一七	一・五五九	〇・八一七
二十七歳	一・四一〇	〇・七〇四二	一・六一五	〇・八二二	一・六一一	〇・八二二	一・六〇七	〇・八二二	一・六〇三	〇・八二二	一・五九九	〇・八二二	一・五九五	〇・八二二	一・五九一	〇・八二二	一・五八七	〇・八二二	一・五八三	〇・八二二	一・五七九	〇・八二二	一・五七五	〇・八二二	一・五七一	〇・八二二	一・五六七	〇・八二二	一・五六三	〇・八二二
二十八歳	一・四一四	〇・七〇六三	一・六一九	〇・八二七	一・六一五	〇・八二七	一・六一一	〇・八二七	一・六〇七	〇・八二七	一・六〇三	〇・八二七	一・五九九	〇・八二七	一・五九五	〇・八二七	一・五九一	〇・八二七	一・五八七	〇・八二七	一・五八三	〇・八二七	一・五七九	〇・八二七	一・五七五	〇・八二七	一・五七一	〇・八二七	一・五六七	〇・八二七
二十九歳	一・四一八	〇・七〇八四	一・六二三	〇・八三二	一・六一九	〇・八三二	一・六一五	〇・八三二	一・六一一	〇・八三二	一・六〇七	〇・八三二	一・六〇三	〇・八三二	一・五九九	〇・八三二	一・五九五	〇・八三二	一・五九一	〇・八三二	一・五八七	〇・八三二	一・五八三	〇・八三二	一・五七九	〇・八三二	一・五七五	〇・八三二	一・五七一	〇・八三二
三十歳	一・四二二	〇・七一〇五	一・六二七	〇・八三七	一・六二三	〇・八三七	一・六一九	〇・八三七	一・六一五	〇・八三七	一・六一一	〇・八三七	一・六〇七	〇・八三七	一・六〇三	〇・八三七	一・五九九	〇・八三七	一・五九五	〇・八三七	一・五九一	〇・八三七	一・五八七	〇・八三七	一・五八三	〇・八三七	一・五七九	〇・八三七	一・五七五	〇・八三七
三十一歳	一・四二六	〇・七一二八	一・六三一	〇・八四二	一・六二七	〇・八四二	一・六二三	〇・八四二	一・六一九	〇・八四二	一・六一五	〇・八四二	一・六一一	〇・八四二	一・六〇七	〇・八四二	一・六〇三	〇・八四二	一・五九九	〇・八四二	一・五九五	〇・八四二	一・五九一	〇・八四二	一・五八七	〇・八四二	一・五八三	〇・八四二	一・五七九	〇・八四二
三十二歳	一・四三〇	〇・七一五二	一・六三五	〇・八四七	一・六三一	〇・八四七	一・六二七	〇・八四七	一・六二三	〇・八四七	一・六一九	〇・八四七	一・六一五	〇・八四七	一・六一一	〇・八四七	一・六〇七	〇・八四七	一・六〇三	〇・八四七	一・五九九	〇・八四七	一・五九五	〇・八四七	一・五九一	〇・八四七	一・五八七	〇・八四七	一・五八三	〇・八四七
三十三歳	一・四三四	〇・七一七六	一・六三九	〇・八五二	一・六三五	〇・八五二	一・六三一	〇・八五二	一・六二七	〇・八五二	一・六二三	〇・八五二	一・六一九	〇・八五二	一・六一五	〇・八五二	一・六一一	〇・八五二	一・六〇七	〇・八五二	一・六〇三	〇・八五二	一・五九九	〇・八五二	一・五九五	〇・八五二	一・五九一	〇・八五二	一・五八七	〇・八五二
三十四歳	一・四三八	〇・七二〇五	一・六四三	〇・八五七	一・六三九	〇・八五七	一・六三五	〇・八五七	一・六三一	〇・八五七	一・六二七	〇・八五七	一・六二三	〇・八五七	一・六一九	〇・八五七	一・六一五	〇・八五七	一・六一一	〇・八五七	一・六〇七	〇・八五七	一・六〇三	〇・八五七	一・五九九	〇・八五七	一・五九五	〇・八五七	一・五九一	〇・八五七
三十五歳	一・四四二	〇・七二三二	一・六四七	〇・八六二	一・六四三	〇・八六二	一・六三九	〇・八六二	一・六三五	〇・八六二	一・六三一	〇・八六二	一・六二七	〇・八六二	一・六二三	〇・八六二	一・六一九	〇・八六二	一・六一五	〇・八六二	一・六一一	〇・八六二	一・六〇七	〇・八六二	一・六〇三	〇・八六二	一・五九九	〇・八六二	一・五九五	〇・八六二
三十六歳	一・四四六	〇・七二五九	一・六五一	〇・八六七	一・六四七	〇・八六七	一・六四三	〇・八六七	一・六三九	〇・八六七	一・六三五	〇・八六七	一・六三一	〇・八六七	一・六二七	〇・八六七	一・六二三	〇・八六七	一・六一九	〇・八六七	一・六一五	〇・八六七	一・六一一	〇・八六七	一・六〇七	〇・八六七	一・六〇三	〇・八六七	一・五九九	〇・八六七

年齢																														
十七歳	一・四一三	〇・六五九	一・七四六	〇・九一七	一・七四一	〇・九一七	一・七四〇	〇・九一七	一・七三九	〇・九一七	一・七三八	〇・九一七	一・七三七	〇・九一七	一・七三六	〇・九一七	一・七三五	〇・九一七	一・七三四	〇・九一七	一・七三三	〇・九一七	一・七三二	〇・九一七	一・七三一	〇・九一七	一・七三〇	〇・九一七	一・七二九	〇・九一七
十八歳	一・四〇六	〇・六八〇九	一・六七二	〇・八四二	一・六七一	〇・八四二	一・六七〇	〇・八四二	一・六六九	〇・八四二	一・六六八	〇・八四二	一・六六七	〇・八四二	一・六六六	〇・八四二	一・六六五	〇・八四二	一・六六四	〇・八四二	一・六六三	〇・八四二	一・六六二	〇・八四二	一・六六一	〇・八四二	一・六六〇	〇・八四二	一・六五九	〇・八四二
十九歳	一・三七五	〇・六八五九	一・五八五	〇・七七四	一・五八一	〇・七七四	一・五七七	〇・七七四	一・五七三	〇・七七四	一・五六九	〇・七七四	一・五六五	〇・七七四	一・五六一	〇・七七四	一・五五七	〇・七七四	一・五五三	〇・七七四	一・五四九	〇・七七四	一・五四五	〇・七七四	一・五四一	〇・七七四	一・五三七	〇・七七四	一・五三三	〇・七七四
二十歳	一・三七九	〇・六八九四	一・五八五	〇・七七四	一・五八一	〇・七七四	一・五七七	〇・七七四	一・五七三	〇・七七四	一・五六九	〇・七七四	一・五六五	〇・七七四	一・五六一	〇・七七四	一・五五七	〇・七七四	一・五五三	〇・七七四	一・五四九	〇・七七四	一・五四五	〇・七七四	一・五四一	〇・七七四	一・五三七	〇・七七四	一・五三三	〇・七七四
二十一歳	一・三八四	〇・六九二〇	一・五九〇	〇・七九五	一・五八六	〇・七九五	一・五八二	〇・七九五	一・五七八	〇・七九五	一・五七四	〇・七九五	一・五七〇	〇・七九五	一・五六六	〇・七九五	一・五六二	〇・七九五	一・五五八	〇・七九五	一・五五四	〇・七九五	一・五五〇	〇・七九五	一・五四六	〇・七九五	一・五四二	〇・七九五	一・五三八	〇・七九五
二十二歳	一・三八九	〇・六九四六	一・五九五	〇・八〇〇一	一・五九一	〇・八〇〇一	一・五八七	〇・八〇〇一	一・五八三	〇・八〇〇一	一・五七九	〇・八〇〇一	一・五七五	〇・八〇〇一	一・五七一	〇・八〇〇一	一・五六七	〇・八〇〇一	一・五六三	〇・八〇〇一	一・五五九	〇・八〇〇一	一・五五五	〇・八〇〇一	一・五五一	〇・八〇〇一	一・五四七	〇・八〇〇一	一・五四三	〇・八〇〇一
二十三歳	一・三九三	〇・六九七二	一・五九九	〇・八〇四	一・五九五	〇・八〇四	一・五九一	〇・八〇四	一・五八七	〇・八〇四	一・五八三	〇・八〇四	一・五七九	〇・八〇四	一・五七五	〇・八〇四	一・五七一	〇・八〇四	一・五六七	〇・八〇四	一・五六三	〇・八〇四	一・五五九	〇・八〇四	一・五五五	〇・八〇四	一・五五一	〇・八〇四	一・五四七	〇・八〇四
二十四歳	一・三九七	〇・六九九八	一・六〇三	〇・八〇八	一・五九九	〇・八〇八	一・五九五	〇・八〇八	一・五九一	〇・八〇八	一・五八七	〇・八〇八	一・五八三	〇・八〇八	一・五七九	〇・八〇八	一・五七五	〇・八〇八	一・五七一	〇・八〇八	一・五六七	〇・八〇八	一・五六三	〇・八〇八	一・五五九	〇・八〇八	一・五五五	〇・八〇八	一・五五一	〇・八〇八
二十五歳	一・四〇一	〇・七〇〇一	一・六〇七	〇・八一二	一・六〇三	〇・八一二	一・五九九	〇・八一二	一・五九五	〇・八一二	一・五九一	〇・八一二	一・五八七	〇・八一二	一・五八三	〇・八一二	一・五七九	〇・八一二	一・五七五	〇・八一二	一・五七一	〇・八一二	一・五六七	〇・八一二	一・五六三	〇・八一二	一・五五九	〇・八一二	一・五五五	〇・八一二
二十六歳	一・四〇五	〇・七〇二一	一・六一一	〇・八一七	一・六〇七	〇・八一七	一・六〇三	〇・八一七	一・五九九	〇・八一七	一・五九五	〇・八一七	一・五九一	〇・八一七	一・五八七	〇・八一七	一・五八三	〇・八一七	一・五七九	〇・八一七	一・五七五	〇・八一七	一・五七一	〇・八一七	一・五六七	〇・八一七	一・五六三	〇・八一七	一・五五九	〇・八一七
二十七歳	一・四一〇	〇・七〇四二	一・六一五	〇・八二二	一・六一一	〇・八二二	一・六〇七	〇・八二二	一・六〇三	〇・八二二	一・五九九	〇・八二二	一・五九五	〇・八二二	一・五九一	〇・八二二	一・五八七	〇・八二二	一・五八三	〇・八二二	一・五七九	〇・八二二	一・五七五	〇・八二二	一・五七一	〇・八二二	一・五六七	〇・八二二	一・五六三	〇・八二二
二十八歳	一・四一四	〇・七〇六三	一・六一九	〇・八二七	一・六一五	〇・八二七	一・六一一	〇・八二七	一・六〇七	〇・八二七	一・六〇三	〇・八二七	一・五九九	〇・八二七	一・五九五	〇・八二七	一・五九一	〇・八二七	一・五八七	〇・八二七	一・五八三	〇・八二七	一・五七九	〇・八二七	一・五七五	〇・八二七	一・五七一	〇・八二七	一・五六七	〇・八二七
二十九歳	一・四一八	〇・七〇八四	一・六二三	〇・八三二	一・六一九	〇・八三二	一・六一五	〇・八三二	一・六一一	〇・八三二	一・六〇七	〇・八三二	一・六〇三	〇・八三二	一・五九九	〇・八三二	一・五九五	〇・八三二	一・五九一	〇・八三二	一・五八七	〇・八三二	一・五八三	〇・八三二	一・五七九	〇・八三二	一・五七五	〇・八三二	一・五七一	〇・八三二
三十歳	一・四二二	〇・七一〇五	一・六二七	〇・八三七	一・六二三	〇・八三七	一・六一九	〇・八三七	一・六一五	〇・八三七	一・六一一	〇・八三七	一・六〇七	〇・八三七	一・六〇三	〇・八三七	一・五九九	〇・八三七	一・五九五	〇・八三七	一・五九一	〇・八三七	一・五八七	〇・八三七	一・五八三	〇・八三七	一・五七九	〇・八三七	一・五七五	〇・八三七
三十一歳	一・四二六	〇・七一二八	一・六三一	〇・八四二	一・六二七	〇・八四二	一・六二三	〇・八四二	一・六一九	〇・八四二	一・六一五	〇・八四二	一・六一一	〇・八四二	一・六〇七	〇・八四二	一・六〇三	〇・八四二	一・五九九	〇・八四二	一・五九五	〇・八四二	一・五九一	〇・八四二	一・五八七	〇・八四二	一・五八三	〇・八四二	一・五七九	〇・八四二
三十二歳	一・四三〇	〇・七一五二	一・六三五	〇・八四七	一・六三一	〇・八四七	一・六二七	〇・八四七	一・六二三	〇・八四七	一・六一九	〇・八四七	一・六一五	〇・八四七	一・六一一	〇・八四七	一・六〇七	〇・八四七	一・六〇三	〇・八四七	一・五九九	〇・八四七	一・五九五	〇・八四七	一・五九一	〇・八四七	一・五八七	〇・八四七	一・五八三	〇・八四七
三十三歳	一・四三四	〇・七一七六	一・六三九	〇・八五二	一・六三五	〇・八五二	一・六三一	〇・八五二	一・六二七	〇・八五二	一・六二三	〇・八五二	一・六一九	〇・八五二	一・六一五	〇・八五二	一・六一一	〇・八五二	一・六〇七	〇・八五二	一・六〇三	〇・八五二	一・五九九	〇・八五二	一・五九五	〇・八五二	一・五九一	〇・八五二	一・五八七	〇・八五二
三十四歳	一・四三八	〇・七二〇五	一・六四三	〇・八五七	一・六三九	〇・八五七	一・六三五	〇・八五七	一・六三一	〇・八五七	一・六二七	〇・八五七	一・六二三	〇・八五七	一・六一九	〇・八五七	一・六一五	〇・八五七	一・六一一	〇・八五七	一・六〇七	〇・八五七	一・六〇三	〇・八五七	一・五九九	〇・八五七	一・五九五	〇・八五七	一・五九一	〇・八五七
三十五歳	一・四四二	〇・七二三二	一・六四七	〇・八六二	一・六四三	〇・八六二	一・六三九	〇・八六二	一・六三五	〇・八六二	一・六三一	〇・八六二	一・六二七	〇・八六二	一・六二三	〇・八六二	一・六一九	〇・八六二	一・六一五	〇・八六二	一・六一一	〇・八六二	一・六〇七	〇・八六二	一・六〇三	〇・八六二	一・五九九	〇・八六二	一・五九五	〇・八六二
三十六歳	一・四四六	〇・七二五九	一・六五一	〇・八六七	一・六四七	〇・八六七	一・六四三	〇・八六七	一・六三九	〇・八六七	一・六三五	〇・八六七	一・六三一	〇・八六七	一・六二七	〇・八六七	一・六二三	〇・八六七	一・六一九	〇・八六七	一・六一五	〇・八六七	一・六一一	〇・八六七	一・六〇七	〇・八六七	一・六〇三	〇・八六七	一・五九九	〇・八六七

年齢																														
廿七歳	一・四五二	〇・七二五九	一・六五六	〇・八七二	一・六五二	〇・八七二	一・六四八	〇・八七二	一・六四四	〇・八七二	一・六四〇	〇・八七二	一・六三六	〇・八七二	一・六三二	〇・八七二	一・六二八	〇・八七二	一・六二四	〇・八七二	一・六二〇	〇・八七二	一・六一六	〇・八七二	一・六一二	〇・八七二	一・六〇八	〇・八七二	一・六〇四	〇・八七二
廿八歳	一・四五八	〇・七二八九	一・六六一	〇・八七七	一・六五七	〇・八七七	一・六五三	〇・八七七	一・六四九	〇・八七七	一・六四五	〇・八七七	一・六四一	〇・八七七	一・六三七	〇・八七七	一・六三三	〇・八七七	一・六二九	〇・八七七	一・六二五	〇・八七七	一・六二一	〇・八七七	一・六一七	〇・八七七	一・六一三	〇・八七七	一・六〇九	〇・八七七
廿九歳	一・四六四	〇・七三一八	一・六六七	〇・八八二	一・六六三	〇・八八二	一・六五九	〇・八八二	一・六五五	〇・八八二	一・六五一	〇・八八二	一・六四七	〇・八八二	一・六四三	〇・八八二	一・六三九	〇・八八二	一・六三五	〇・八八二	一・六三一	〇・八八二	一・六二七	〇・八八二	一・六二三	〇・八八二	一・六一九	〇・八八二	一・六一五	〇・八八二
三十歳	一・四七〇	〇・七三四五	一・六七三	〇・八八七	一・六六九	〇・八八七	一・六六五	〇・八八七	一・六六一	〇・八八七	一・六五七	〇・八八七	一・六五三	〇・八八七	一・六四九	〇・八八七	一・六四五	〇・八八七	一・六四一	〇・八八七	一・六三七	〇・八八七	一・六三三	〇・八八七	一・六二九	〇・八八七	一・六二五	〇・八八七	一・六二一	〇・八八七
三十一歳	一・四七六	〇・七三七四	一・六七九	〇・八九二	一・六七五	〇・八九二	一・六七一	〇・八九二	一・六六七	〇・八九二	一・六六三	〇・八九二	一・六五九	〇・八九二	一・六五五	〇・八九二	一・六五一	〇・八九二	一・六四七	〇・八九二	一・六四三	〇・八九二	一・六三九	〇・八九二	一・六三五	〇・八九二	一・六三一	〇・八九二	一・六二七	〇・八九二
三十二歳	一・四八二	〇・七四〇四	一・六八五	〇・八九八	一・六八一	〇・八九八	一・六七七	〇・八九八	一・六七三	〇・八九八	一・六六九	〇・八九八	一・六六五	〇・八九八	一・六六一	〇・八九八	一・六五七	〇・八九八	一・六五三	〇・八九八	一・六四九	〇・八九八	一・六四五	〇・八九八	一・六四一	〇・八九八	一・六三七	〇・八九八	一・六三三	〇・八九八
三十三歳	一・四八八	〇・七四三四	一・六九一	〇・九〇三	一・六八七	〇・九〇三	一・六八三	〇・九〇三	一・六七九	〇・九〇三	一・六七五	〇・九〇三	一・六七一	〇・九〇三	一・六六七	〇・九〇三	一・六六三	〇・九〇三	一・六五九	〇・九〇三	一・六五五	〇・九〇三	一・六五一	〇・九〇三	一・六四七	〇・九〇三	一・六四三	〇・九〇三	一・六三九	〇・九〇三
三十四歳	一・四九四	〇・七四六四	一・六九七	〇・九〇九	一・六九三	〇・九〇九	一・六八九	〇・九〇九	一・六八五	〇・九〇九	一・六八一	〇・九〇九	一・六七七	〇・九〇九	一・六七三	〇・九〇九	一・六六九	〇・九〇九	一・六六五	〇・九〇九	一・六六一	〇・九〇九	一・六五七	〇・九〇九	一・六五三	〇・九〇九	一・六四九	〇・九〇九	一・六四五	〇・九〇九
三十五歳	一・五〇〇	〇・七四九五	一・七〇三	〇・九一五	一・六九九	〇・九一五	一・六九五	〇・九一五	一・六九一	〇・九一五	一・六八七	〇・九一五	一・六八三	〇・九一五	一・六七九	〇・九一五	一・六七五	〇・九一五	一・六七一	〇・九一五	一・六六七	〇・九一五	一・六六三	〇・九一五	一・六五九	〇・九一五	一・六五五	〇・九一五	一・六五一	〇・九一五
三十六歳	一・五〇六	〇・七五二四	一・七〇九	〇・九二一	一・七〇五	〇・九二一	一・七〇一	〇・九二一	一・六九七	〇・九二一	一・六九三	〇・九二一	一・六八九	〇・九二一	一・六八五	〇・九二一	一・六八一	〇・九二一	一・六七七	〇・九二一	一・六七三	〇・九二一	一・六六九	〇・九二一	一・六六五	〇・九二一	一・六六一	〇・九二一	一・六五七	〇・九二一
三十七歳	一・五一二	〇・七五五〇	一・七一五	〇・九二七	一・七一一	〇・九二七	一・七〇七	〇・九二七	一・七〇三	〇・九二七	一・六九九	〇・九二七	一・六九五	〇・九二七	一・六九一	〇・九二七	一・六八七	〇・九二七	一・六八三	〇・九二七	一・六七九	〇・九二七	一・六七五	〇・九二七	一・六七一	〇・九二七	一・六六七	〇・九二七	一・六六三	〇・九二七
三十八歳	一・五一八	〇・七五八六	一・七二一	〇・九三三	一・七一七	〇・九三三	一・七一三	〇・九三三	一・七〇九	〇・九三三	一・七〇五	〇・九三三	一・七〇一	〇・九三三	一・六九七	〇・九三三	一・六九三	〇・九三三	一・六八九	〇・九三三	一・六八五	〇・九三三	一・六八一	〇・九三三	一・六七七	〇・九三三	一・六七三	〇・九三三	一・六六九	〇・九三三
三十九歳	一・五二四	〇・七六一七	一・七二七	〇・九三八	一・七二三	〇・九三八	一・七一九	〇・九三八	一・七一五	〇・九三八	一・七一一	〇・九三八	一・七〇七	〇・九三八	一・七〇三	〇・九三八	一・六九九	〇・九三八	一・六九五	〇・九三八	一・六九一	〇・九三八	一・六八七	〇・九三八	一・六八三	〇・九三八	一・六七九	〇・九三八	一・六七五	〇・九三八
四十歳	一・五三〇	〇・七六四七	一・七三三	〇・九四四	一・七二九	〇・九四四	一・七二五	〇・九四四	一・七二一	〇・九四四	一・七一七	〇・九四四	一・七一三	〇・九四四	一・七〇九	〇・九四四	一・七〇五	〇・九四四	一・七〇一	〇・九四四	一・六九七	〇・九四四	一・六九三	〇・九四四	一・六八九	〇・九四四	一・六八五	〇・九四四	一・六八一	〇・九四四
四十一歳	一・五三六	〇・七六七八	一・七三九	〇・九五〇	一・七三五	〇・九五〇	一・七三一	〇・九五〇	一・七二七	〇・九五〇	一・七二三	〇・九五〇	一・七一九	〇・九五〇	一・七一五	〇・九五〇	一・七一一	〇・九五〇	一・七〇七	〇・九五〇	一・七〇三	〇・九五〇	一・六九九	〇・九五〇	一・六九五	〇・九五〇	一・六九一	〇・九五〇	一・六八七	〇・九五〇
四十二歳	一・五四二	〇・七七〇九	一・七四五	〇・九五六	一・七四一	〇・九五六	一・七三七	〇・九五六	一・七三三	〇・九五六	一・七二九	〇・九五六	一・七二五	〇・九五六	一・七二一	〇・九五六	一・七一七	〇・九五六	一・七一三	〇・九五六	一・七〇九	〇・九五六	一・七〇五	〇・九五六	一・七〇一	〇・九五六	一・六九七	〇・九五六	一・六九三	〇・九五六
四十三歳	一・五四八	〇・七七四〇	一・七五一	〇・九六二	一・七四七	〇・九六二	一・七四三	〇・九六二	一・七三九	〇・九六二	一・七三五	〇・九六二	一・七三一	〇・九六二	一・七二七	〇・九六二	一・七二三	〇・九六二	一・七一九	〇・九六二	一・七一五	〇・九六二	一・七一一	〇・九六二	一・七〇七	〇・九六二	一・七〇三	〇・九六二	一・六九九	〇・九六二
四十四歳	一・五五四	〇・七七七一	一・七五七	〇・九六八	一・七五三	〇・九六八	一・七四九	〇・九六八	一・七四五	〇・九六八	一・七四一	〇・九六八	一・七三七	〇・九六八	一・七三三	〇・九六八	一・七二九

| | | |

(イ)、國庫ヨリ支出セラルヘキモノヲ一千萬「リラ」トス

(ロ)、法律上働力損耗ノ勞働者ヲ扶助スヘキ義務アル人若クハ會社ヨリノ支出

(ハ)、臨時歲入中ヨリ年々ノ支出

(ニ)、正當ナル相續人ナクシテ死亡シタル被保險人ノ保險金

(ホ)、此働力損耗特別資金中ヘ寄贈セラレタル遺產ヨリ生スル利子

國庫ヨリ支出セラルヘキ一千萬「リラ」ハ一千九百六一七年ヨリ一千九百十一十一年ニ至ル五ケ年間ニ、年々平等ノ金額ニテ支出セラルヘキモノトス

働力損耗年金ニ關スル規則、新タニ發布セラレタル規則ニ從ヘハ『働力損耗』ノ意義ヲ解釋シテ左ノ如ク云ヘリ、曰ク玆ニ一ノ勞働者アリ或ハ事變ニ遭遇シタルカ爲メ、其働力カ損耗シテ同一ノ場所ニ於テ同一ノ職業ニ從事スルモ、其得ル所ノ賃銀カ平生ノ三分一ニモ足ラサルモノヲ稱シテ働力損耗ノ勞働者ト稱スルモノ是レナリ、而シテ斯ル勞働者ヨリ働力損耗年金下付願ヲ其筋ヘ提出セン場合ニハ其働力損耗ノ事實ヲ證明セサルヘカラス、蓋シ此證明中ニハ固ヨリ左記ノ事柄ヲモ含ミ居ラサルヘカラス、曰ク醫師ノ證明書、地方廳ノ證明書、及此勞働者カ最近勞働中或ル變災ノ爲メ働力ノ損耗ヲ來シタル工場ノ持主ノ證明書等是レナリ、加之會社ノ事務所ハ醫師ニ此勞働者ヲ診察セシムルコト、セリ、而シテ此事務所ハ働力損耗年金下付願ヲ却下スルコトアリ、斯ル場合ニ於テ此出願者ハ更ニ此保險會社ノ業務會議ヘ上告スルコトヲ

得ヘシ、然レトモ此會議ノ裁決ハ最終ノモノニシテ復タ動カスヘカラサルモノトス

斯クテ被保險人ヨリ最少額ノ保險料ヲ納付シ來リタル結果トシテ得タル年金及會社ヨリ交付セル一定ノ益金ニシテ百二十「リラ」ニ達セサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ働力損耗資金中ヨリ補給シテ此金額ニ達セシメンコトヲ要ス、又タ保險料ノ納付額カ規定ノ最少額以上ニシテ年金ノ一層多キ場合ニハ之ヲ右百二十「リラ」ニ加ヘテ交付スヘキモノトス

均シク是レ被保險人ノ中ニテモ今マ左ニ記載スル被保險人ノ種類ハ上述セル働力損耗資金中ヨリ補助金ヲ受クヘキ權利ヲ有セサルモノトス、曰ク(一)働力損耗ノ變災ニ遭遇シタル時日カ保險加入ノ當時ニ溯ルヘキ人、(二)年齡五十歲以上ニシテ保險ニ加入シタル人、(三)其働力損耗原因カ故ラニ、惡意ニ出ルカ亞留格保爾中毒カ若クハ犯罪的行爲ニ出ルノ人、(四)工業上ノ變災ノ爲メニ好シ働力ヲ損耗シタリトスルモ、變災保險法ノ規定ニ基キテ少ナクモ働力ノ五〇ヲ失フタルモノニ匹敵スヘキ補償金ヲ得タル人、(五)公費ニ依リテ支持セラル、顚狂院ニ入リタル者等是レナリ、即チ此等ノ五種類ノ人ハ働力損耗資金中ヨリ補助金ヲ受クヘキ權利ヲ有セサルモノナリ

合成保險ノ事、合成保險トハ既ニ被保險人トナリタルモノヲシテ今一ツノ保險ヲ契約セシムルモノヲ是レナリ、即チ二者ヲ合セ成サシムルノ謂ナリ、尙ホ之ヲ言ヒ換フレハ其被保險人ニ對シテ會社ヨリ特別ノ保險金ヲ支拂フコト、ナルモノナリ、會社ト被保險人トノ間ニ斯ル保險契約ヲ爲サンニハ勿論特別ノ條件ナク

ンハアルヘカラス

既ニ双方ノ間ニ斯ル契約カ成リ立チタリトセンカ、被保險人ニシテ保險年齡期限中最少年齡（男女別及職業如何ニ依リテ五十歲乃至五十五歲）ニ達スルト均シク通常ノ保險金ヲ支拂フヘキハ今更云フヲ要セス、尙ホ之ニ加フルニ年ニ十「リラ」ノ特別配當金ヲ支拂ハサルヘカラス、然レトモ通常ノ保險金カ十「リラ」以下ナル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ之ヲ支拂フヘキ特別配當金ハ十「リラ」以上ニ踰ルヲ許サス

又タ此保險會社ハ左記ノ如キ事務取扱ヲ引キ受クヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ヘシ、曰ク公立ト私立トヲ問ハス養老資金ノ事務取扱及働力損耗救助ノ事務取扱是レナリ、然レトモ斯ル契約ノ特別條件ニ至リテハ皆ナ是レ業務會議ノ裁決ニ從ハサルヘカラス、且ツ政府ノ認可ヲモ受ケンコトヲ要ス

養老及働力損耗救助ノ爲メ勞働者ヲシテ合成保險ニ入ラシメンコトヲ奬勵スル法律上ノ見地ヨリ之ヲ言ハンニ此種ノ保險制度ニ關スル規則ハ極メテ重要ナルモノト言ハサルヘカラス

斯ル合成保險ハ一千八百八十六年四月十五日發布ノ法律ニ從ツテ認可サレタル會社ニ於テ取リ扱フコトヲ得ヘキモノトス、又タ右法律上認可ヲ得サル會社ト雖モ或ハ此合成保險取扱ヲ許サヽルコトアリ、蓋シ不認可會社ニシテ斯ク許サル、ハ該會社ノ會員ノ大多數カ法律上ノ要求スル所ニ適シタル場合ナリト知ルヘシ、此法律トハ會社ヨリ配當金ヲ受クヘキ權利ヲ有スル人々ニ關スルモノ是レナリ、會社ノ會員全部カ皆被保險人タラン場合ノミ合成保險ノ認可セラルヽモノト知ルヘシ、但シ會社側カラ之ヲ言ヘハ勞働者ナラサルモノ、好シ勞働者タリトモ其年齡五十歲以上ナランニハ被保險人トナルコトヲ許サス

保險會社カ其被保人ヲシテ合成保險ニ依リテ特別配當金ヲ得ヘキ權利ヲ得セシメント欲セハ左ノ如キ方法ヲ取ラサルヘカラス、曰ク會社ノ憲法ニ改正ヲ加ヘテ其會員ヲシテ强制的ニ保險契約ヲ爲サシメ、保險料ノ年々納付額モ通常ノ保險料最少額ヨリ下ラサランコトヲ要ス

右ノ如クニシテ合成保險契約カ成リ立チタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ保險會社ハ其被保險人ニ對シテ通常ノ保險金ヲ支拂フノ外更ニ年々一「リラ」ノ特別配當金ヲ給與センコトヲ要ス、尙ホ此外會社カ年長シタル會員ニ對シテ短期限ノ保險契約ヲ爲サン場合ニハ此等ノ會員ハ年二「リラ」ノ特別配當金ヲ受クヘキモノトス

此保險會社ノ會員中勞働者タルノ資格ナク、或ハサヽヤカナル獨立ノ產業家ニシテ勞働者名簿中ニテ保險契約ヲ爲スヘキ權能アリトセンカ、斯ル人々ハ『平民的年金保險』ノ帳簿中ニ記入セラルヘキモノトス、若シ一ノ會員ニシテ相互共益協會ヨリ除名セラレタリトセンカ、此會員ハ此除名處分ヲ受ケタルト同時ニ合成保險ノ特別配當金ヲ受クヘキ權利ヲ失フモノトス

其他ノ保險ノ種類、働力損耗勞働者補償制度ト云ヘルモノアリ、抑モ此制度ノ目的如何ト云フニ勞働者カ何等カノ工業ニ從事シ居ル內或ル變災ニ罹リテ其働力ヲ損耗シタルカ、或ハ老年ニ及ヒテ事ニ堪ヘサルカ、若クハ疾病ノ爲メ働クコト能ハサルカ如キ場合アランカ、斯ル場合ニ於テ一私人タル其雇主ヨリカ或ハ變災

保險會社ヨリ斯ル勞働者ニ對シテ若干ノ補償金ヲ給與スルノ仕組ナルモノ是レナリ、而シテ此等ノ補償金ヲ變シテ年金ト爲サンカ爲メニ養老保險會社ニ預クルコトヲ得ヘキモノトス

勅令ヲ以テ養老保險會社ニ於テ尚ホ其他ノ保險事務ヲ取リ扱フコトヲ許可スルコトアリ、但シ其事務取扱ノ手數料ハ養老保險會社ノ歲入中ニ組ミ入レンコトヲ要ス

保險ノ種類一ニシテ足ラスト雖モ中ニ就テ『平民的年金保險會社』ナル者アリ、蓋シ此會社ニ加入センニハ他ノ保險制度ト異ナリテ何等ノ制限セラル、所ナク何人タリトモ自由ニ加入スルコトヲ許サル、モノトス然レトモ此保險會社ニ加入シタランカ如キ特別配當金抔ハ更ニ之レナキモノト知ルヘシ、又タ一旦或ル勞働者保險會社ノ被保險人タル資格ヲ失フタル場合（例之ヘハ被雇人タル範圍ヲ脫シテ更ラニ雇主トナリタル場合ノ如キモノヲ云フ）從來受クヘカリシ特別配當金及保險金ノ如キハ最早受ケ取ルコトヲ得ス、斯ル被保險人ノ所有ニ歸スヘキ斯ル金圓ハ皆ナ是レ平民的保險會社ニ轉入スヘキモノトス、之ニ反シテ一旦平民的保險會社ノ被保險人トナリタルモノハ大ニ其趣ヲ異ニスル所ナクンハアルヘカラス、即チ斯ル被保險人ニシテ『勞働者保險會社』ノ被保險人トナルニ必要ナル資格ヲ得タリトセンカ、斯ル場合ニ於テ此被保險人ニ屬スヘキ保險金等ハ甲ヨリ乙ニ轉入スヘク、且ツ乙ニ於テ特別配當金及保險金ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノトス、又保險期限ノ如キモ甲ヨリ乙ニ移リテ通算セラルヘキモノトス

會計上ノ機關ノ事、此保險會社ノ會計上ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンカ爲メニ會計上ノ機關中ニ左記ノ如キ特別資金ヲ備ヘ置クコト、セリ、（イ）、前段ニ述ヘタルカ如キ寄附的資金、（ロ）、被保險人ヨリ保險料トシテ納付シタル保險資金、（ハ）、年金給與資金ナルモノアリ、年金ヲ給與スヘキ時期成熟シタラン場合ニハ此年金給與資金ノ內ヨリ年金ヲ仕拂フヘキモノトス、但シ斯ク年金給與資金ノ內ヨリ年金ヲ支拂ハントスル場合ニハ必ラス之カ塡補ヲ爲サ、ルヘカラス、其之ヲ塡補スルハ果シテ何レノ邊ナリヤト云フニ、被保險人ヨリ納付シタル保險資金中ヨリ塡補セサルヘカラス、而シテ少ナクモ五ケ年目毎ニ精密ニ此等ノ二種ノ資金ニ就テ差引計算ヲ爲サ、ルヘカラス

（ニ）、右二種ノ資金ニ就テノ擔保トシテ特別貯蓄資金ナルモノカ設ケラレヌ、蓋シ此特別貯蓄資金ノ設ケラレタル目的如何ト云フニ、被保險人ノ保險資金ノ不足ヲ生シタル場合ニ於テ共ニ之ヲ補充スルニアルモノト知ルヘシ、而シテ此特別貯蓄資金ノ財源ハ何所ニアリヤト云フニ、右兩資金ノ差引勘定ヲ爲スノ場合ニ於テ生シタル剩餘金、臨時歲入中ヨリ年々ノ補助金其他規則上定メラレタル或ル金額ノ如キ是レナリ

（ホ）、最後ニ揭クヘキハ働力損耗資金ナルモノ是レナリ蓋シ之ニ關スル憲法ノ如キハ働力損耗保險ニ關聯シテ既ニ說明シタル所ノ如シ

此保險會社ノ一定ノ歲入中ヨリ年々若干ツ、ヲ此特別貯蓄資金中ヘ補助スル定メナルカ、時ニ或ハ此補助

金ヲ中止スルコトナクンハアラス、即チ此特別貯蓄資金カ積ンテ被保際人ノ保險資金及年金給與資金ノ十分一ニ達シタラン場合ニ於テハ、其補助金ヲ中止セサルヘカラサルカ如キ是レナリ

若シ又タ此特別貯蓄資金ニシテ不足ヲ告ケ彼ノ兩資金ヨリ生スル所ノ缺損ヲ補フニ足ラサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ會社ノ歲入中ヨリ一ケ年若クハ數年ニ跨カリテ、支出額ヲ一層多クシテ其缺損ヲ償ハサルヘカラス、但シ斯ル處分ヲ爲サンニハ業務會議ノ裁決ニ從ハンコトヲ要ス

此會社ノ資金ヲ放下スヘキ目的事業ハ一ニシテ足ラスト雖モ、今マ其重モナルモノヲ擧レハ左ノ如シ、曰ク伊太利國々庫債券、政府ヨリ補助金ノ擔保アル鐵道公債、地方廳若クハ市役所等ヨリ發シタル公債、灌漑工事、改良工事、不動產擔保ノ貸金、勞働者ノ家屋建築用ノ貸金等ノ如キモノ是レナリ、但シ不動產擔保ノ貸金額ハ放下金全部ノ五分ノ一ニ踰ユヘカラサルモノトス

少額ノ保險金、補償金ヲ支拂ハサル養老保險會社ハ郵便貯金銀行ト合同シテ事ヲ執ルコトヲ得ヘキモノトス、斯ク合同シタランニハ會員ノ加入、會員ヨリノ納付金、年金及其他ノ金圓支拂等ニ關シテ便利ナルコト少ナカラスト知ルヘシ

右ノ如ク郵便貯蓄銀行ト合同シタル以上ハ各所ト文書等ヲ往復スルニ郵便稅ヲ要セサルモノトス、所謂ル其各所トハ他ノ公共團體、其支部及被保險人等ノ如キモノヲ是レナリ

免稅ノ事、國家的養老及働力損耗保險會社ナルモノハ郵便貯金銀行及其他ノ貯金銀行ト均シク各種ノ稅金ヲ免セラルヽモノトス、今マ其免稅ノ種類ヲ擧クレハ左ノ如シ、曰ク特別保險稅、登記稅、印紙稅及同會社ヘ寄贈サレタル遺產ニ對スル稅ノ如キ是レナリ

資金ノ放下（政府ノ所管ニ關スル事業若クハ政府ノ擔保ニ係ルモノハ例外トス、）ヨリ生スル歲入ニ對シテハ所得稅ヲ免セラルヽモノトス

『勞働者保險』機關及『平民的保險』機關ノ名ヲ以テ給與サレタル年金ニシテ一千五百「リラ」ヲ超過セサル場合ニ於テハ、皆ナ是レ所得稅ヲ免セラルヽモノトス、其他死亡シタル被保險人ノ相續人ヘ金圓ヲ拂ヒ戻シタル場合ニハ相續稅ヲ免セラルヽモノトス

停止、沒收等ニ關スル件、此會社ヨリ給與セラルヽコトナリタル年金ナルモノハ、之ヲ停止シ若クハ沒收スヘキモノニアラス、但シ年々給與スヘキ金額四百「リラ」ヲ超過スル場合ハ此限ニアラス、年金拂渡ノ際不都合ナカラシメンカ爲メニ萬止ムヲ得サル場合トハ疾病ニ罹リタル時カ若クハ如何ニスルモ自カラ出頭スルコト能ハサル場合ノ如キ是レナリ

蓋シ斯ク疾病ニ罹リタル時ハ醫師ノ診斷證明ヲ要シ、今一ツハ地方廳ノ保證ナカルヘカラス

事務取扱ノ事、國家的養老及働力損耗保險會社ノ行政機關ナルモノハ中央政府トハ全ク別種ノモノニシテ所謂ル自治體ヲ成セルモノ是レナリ、故ニ特ニ規定サレタルモノ、外更ニ政府ヨリ關涉セラルヘキモノニアラサルナリ、抑モ事務取扱ノ詳細ナルコトニ至リテハ會社ノ憲法ニ依リテ定メラル、所ナリト雖モ、左

ニ記載スルカ如キ事柄ハ法律上ノ要求スル所ナリトス、曰ク此會社ノ重モナル行政團體ハ勅令ヲ以テ定メラル、所ナリト雖モ、此團體ヲ組織スヘキ人員等ニ至リテハ此會社ノ憲法ノ定ムル所ナリトス、所謂ル行政會議ナルモノ是レナリ、而シテ法律上此行政會議ヲ組織スル人員ノ三分ノ一ハ、被保險人タル勞働者ノ代表者タラスンハアルヘカラス、此外貯蓄銀行及其他ノ會同者ノ代表者モ亦タ此會議員中ニ加ハラサルヘカラス、尙ホ其他左ノ各省ヨリ一人宛ノ代表者ヲ出サンコトヲ要ス、曰ク農務省、大藏省遞信省ノ如キモノ是レナリ、斯クテ最後ニ至リテ預入貸附銀行ノ頭取及農工商務省ノ勞働取締局長等ハ番外委員トシテ臨マンコトヲ要ス

而シテ此會社ノ行政會議ナルモノ、主トシテ司トル所如何ト云フニ、此會社ノ憲法ヲ制定スルコト、支部ノ設立及行政ニ關スル條項ヲ定ムルコト、年金計算ニ關スル規則ヲ設クルコト等是レナリ、蓋シ行政會議ニシテ斯ク憲法及規則等ヲ制定シタランニハ、之ヲ考定セラレンカ爲メ保險事業調査會議、州會議、農務、大藏、遞信ノ諸大臣ノ提出シ、而シテ勅令ヲ以テ裁可セラレンコトヲ要ス、又此等ノ條例ノ改正ヲ爲サントスル場合ニモ亦タ同樣ノ手續ヲ踐マサルヘカラス

此會社ハ農工商務省ノ監督ノ下ニアルヘク而シテ總テ會計上ノ事及差引決算ノ事等皆ナ同省ヘ報告セサルヘカラス、又タ彼ノ兩資金差引決算ノ事ニ至リテハ五年目毎ニ大藏省ヘ報告セサルヘカラス、但シ五ケ年目ノ起算點ハ一千九百八年一月一日ナリト知ルヘシ

此會社ノ行政上ニ關スル詳細ナル事ハ其憲法ニ規定セラルヘキモノナリト雖モ、所ナリ、蓋シ此憲法ハ一千九百二年五月廿四日ヲ以テ公布サレタルモノナルカ、一千九百四年三月十三日發布ノ法律ニ依リテ生シタル變更ニ適應センカ爲メニ、一千九百四年九月二日ヲ以テ改正セラル、所アリタリ、且ツ一千九百七年十二月廿一日ニ於ル會議ノ提出ニ係ル新憲法ノ草案ハ實際何等ノ變更スル所ナクシテ一千九百九年三月十八日ヲ以テ採用セラレタリ

今マ此新憲法中ニハ左記ノ如キ事柄カ規定セラレタリ、曰ク此會社ヲ統治スル所ノ行政會議ハ二十三名ノ議員ヨリ組織セラル、モノニシテ、内十八名ハ國王ヨリ任命セラレ、三名ハ國務大臣ノ代表者、二名ハ番外役員ナリトス、尙ホ之ヲ細別センニ國王ヨリ任命セラレタル十八名ノ内六名ハ被保險人タル勞働者ノ代表者、二名ハ貯蓄銀行ノ代表者、二名ハ保險事業聯合團體ノ代表者タラン事ヲ要ス、而シテ此等ノ議員ノ任期ハ三ケ年ノ規定ナルモ再選ノ權利ヲ有シ、且ツ議員總數ノ三分ノ一ハ毎年改選セラル、モノトス、會議ノ役員ハ議員中ヨリ之ヲ選擧スルコト、シ、開會ハ少ナクモ三ケ月目ニ一回ナランコトヲ要ス、然レトモ總テノ業務ハ實行委員會ノ指揮ニ從ツテ實行スヘキモノトス、蓋シ此實行委員會ナルモノハ行政會議ノ選定スル所ニシテ、會長一名、副會長一名、議員五名ヨリ成リ立ツモノトス

行政會議ノ議員等ハ皆ナ名譽職ニシテ無給ナリトス、然レトモ例外ナル場合ナクンハアラス、即チ旅費ヲ給與セラル、事、羅馬市外ニ居住セル議員ニ對シテハ一日ニ就キ二十「リラ」ノ日當ヲ給與シ、又タ羅馬市

ニ居住セル勞働者ノ代表者ニ對シテハ會議毎ニ十「リラ」ノ補助金ヲ給與セラル、カ如キ是レナリ

總長ハ此保險會社ノ行政官ニシテ行政會議之ヲ任命ス

支部　此保險會社ノ支部ノ職責業務ハ之ヲ他ニ委託スルコト是レナリ、若シ斯ク委託スヘキ團體、相互共益協會、保險會社及此等ト類ヲ同フセル團體等ヘ委託スルコトアリ、即チ貯蓄銀行、國民銀行、種々ノ工業團體ノ如キ團體之レナキ場合ニ於テハ、特別ナル支部ヲ設立シ地方委員會ニ委任シテ其事ヲ取ラシメンコトヲ要ス

斯クノ如クシテ設立セラレタル地方支部ハ曾ニ必要ナル會計上ノ行動ヲ遂クルノミナラス、我保險會社ノ活動スル有樣及世人ニ利益ヲ與フル事ヲ地方人民ニ知ラシムヘキ方策ヲ取ラサルヘカラス

處分法　養老及勞力損耗保險事業ニ關スル處分法ハ新タニ編成サレタル規則ニ從ツテ規定セラル、モノトス

凡ソ被保險人タラント欲スルモノハ自分若クハ代人ヲ以テ其願書ヲ左記ノケ所ヘ差シ出サンコトヲ要ス、羅馬府ニ於ル中央本部、支部、出張所若クハ郵便局等是レナリ、但シ支部出張所等ニテ斯ル願書ヲ受ケタル場合ニ於テハ直チニ中央本部ニ回送セサルヘカラス、然レトモ保險會社ノ事務所ハ場合ニ依リテ斯ル出願書ヲ拒否スルコトヲ得ヘキモノトス、但シ斯ク拒否セラレタル出願人ハ之ニ就テ行政會議ヘ上告スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スルモノトス、尤モ此ノ行政會議ノ裁決ハ最終ノモノニシテ復ヒ動カスコトヲ得ス

既ニ保險契約カ整フタランニハ保險會社ハ會社ニ備ヘ付ケアル臺帳中ニ其被保險人ニ關スル一欄ヲ設ケテ夫々記入センコトヲ要ス、而シテ地方出張所ヲ經由シテ預金通帳ナルモノヲ本人ニ交付セサルヘカラス、尙ホ此被保險人ハ保險料拂込毎ニ此通帳ヲ携ヘ行カンコトヲ要ス

被保險人ハ毎ニ其保險料ヲ右ニ述ヘタルカ如ク出張所ニ納メテ苦シカラス、然レトモ年ニ一回ハ其通帳ヲ出張所ヲ經由シテ中央本部ニ差シ出サンコトヲ要ス、蓋シ本部ニ於テ保險料ノ記入ト保險金整理トノ平均計算ヲ爲サンカ爲メナリト知ルヘシ

外國ニ居住セル伊太利國ノ勞働者ハ自カラ本條例ノ利益ヲ受クヘキモノトス、而シテ斯ル場合ニ於テハ外國ニ在ル伊國領事館ニ於テ保險事務ヲ取リ扱フカ、若クハ保險會社カ適當ノ人ヲ選定シテ其事務ヲ取リ扱ハシムヘキモノトス

被保險人ニシテ法律上定メラレタル勞働者保險ニ適合スヘキ資格ヲ失フタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其旨會社ニ屆ケ出テサルヘカラス、然ルニ被保險人カコトカ會社ニ知レタランニハ、會社ヨリ書面ヲ以テ適當ナル處分ヲ爲スヘキ旨本人ニ通告セサルヘカラス而シテ該被保險人カ之ヲ不當ナリト思惟シタランニハ行政會議ニ上告スルコトヲ得ヘシ、行政會議ノ裁決ニ至リテハ最終ノモノニシテ復ヒ動カスヘカラス、斯クテ此資格問題カ愈ヨ該保險人ノ不利ナルコトニ判決サレタラン場合ニハ、是レマテ納付シタル保險料ノ如キハ『平民的保險會社』ノ方ヘ移ルヘキモノトス

若シ又タ勞働者保險ノ方ニ對シテ再ヒ資格アルモノト判定セラレタル場合アランカ、斯ル場合ニ於テハ該

被保險人タランモノハ最初保險契約ヲ爲セシ時ト全ク同一ノ證據ヲ擧ケサルヘカラス、斯クテ年金ヲ給與スル塲合ニハ年金交付證書ヲ與ヘテ之ト引替ニ預金通帳ヲ取リ上ケンコトヲ要ス、此年金支拂ノ期日ハ年ニ四回タルヘキモノトス、即チ三月一日、六月一日、九月一日及十二月一日是レナリ、但シ此年金仕拂ニ就テハ出張所若クハ支部ヲ經由シテ年金交付證書ヲ差シ出サヽルヘカラス

年金交付方ヲ滿一ケ年間申シ出テサル塲合ニハ一時之ヲ中止スヘキモノトス、而シテ之ヲ受ケ取ラント欲スル塲合ニハ中央本部ヘ出願セサルヘカラス、又タ被保險人ニシテ年金ヲ受ケ取ラスシテ死亡シタル塲合アランカ、斯ル塲合ニ於テハ二ケ年以內ニ其相續人ヨリ其受取方ヲ申出テンコトヲ要ス

年金ノ見積額

年金拂渡額ヲ計算スルニ就テノ新法ハ僅カニ近コロ實行スルノ運ヒニ至リタルカ、被保險人カ毫モ異常ナク順當ニ經過シタル塲合ニ於テ果シテ幾干ノ年金ヲ受クヘキヤ、之ニ關シテ最モ精密ナル計算ヲ立テンハ甚ハタ困難ナリト云ツヘシ、然レトモ一タヒ買得シタル年金ノ實際ノ價値ニ至リテハ、好シ其計算法ニ變化ヲ生スル塲合ト雖モ決シテ變化ヲ生スヘキモノニアラス、故ニ一千八百九十八年及一千九百一年ノ舊法ニ依リテ定メラレタル價値ハ決シテ動キナキモノト謂ツヘシ、但シ全ク精密ナルモノト云フヲ得ス、多少ノ差異テクンハアラス、抑モ實際ノ年金額ハ豫ジメ幾干ト確保スルコト能ハス、是レ他ナシ金利ノ割合、會社ヘノ保護金額及働力損耗表ニ於テ多少ノ變動アルヘケレハナリ

今マ左ニ金利等ニ關スル假定說ヲ揭ケン、年利子ノ割合ハ二分七五ニシテ會社ヨリ各被保險人ニ給與スル追加年金ハ六「リラ」ナリ、尙ホ左ニ揭クル所ノ表ハ年齡六十歲若クハ六十五歲ニ達シタル塲合ニ於テ受ケ取ルヘキ年金額如何ヲ示セルモノナリ、而シテ此等ノ被保險人カ保險料拂込ヲ開始シタル年齡ハ區々ニシテ一定シ居ルモノニアラス、即チ二十歲、二十五歲、三十歲、三十五歲及四十歲ノ如キ是レナリ、又タ一ケ年ニ就キ納付スヘキ保險料モ一定シ居ルモノニアラス、即チ六「リラ」、十二「リラ」、十八「リラ」二十四「リラ」及三十六「リラ」等ノ差アルカ如キ是レナリ、

於テハ實際年金額ニ差ナクンハアラス、

今マ年齡二十歲若シクハ二十五歲ニシテ養老保險契約ヲ爲シタリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ其受クル所ノ年金充分ナルヘキモノトス、然レトモ此等ノ年齡ヨリ餘程長シタル年齡ニ達シテ後斯ル保險契約ヲ爲シ殊ニ每年其納付スル所ノ保險料カ最少額ナル六「リラ」ナリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ其受クル所ノ年金額自カラ少ナカラサルヲ得ス、然レトモ左ノ如キ事實ハ讀者ノ心頭ニ留メ置カンコトヲ要ス、曰ク年金ヲ受クルコト、ナルヘキ年齡ヲ延長スレハスル程其受クヘキ年金額自カラ增加スルモノト知ルヘシ、例之ヘハ六十歲ヲ延長シテ六十五歲トナスカ如キ、若クハ年金額新表ノ示ス所ニ從ツテ七十歲ニ延長スルカ如キ是レナリ

保險會社ヨリ給與スル年金額、保險契約ノ時ニ於ル被保險人ノ年齡及保險

保險ノ種類及保險契約ノ時ニ於ル年齢

左ノ年々納付スル保險料ニ對スル年金豫定額

	一弗、一六（六「リラ」）	二弗、三二（一二「リラ」）	三弗、四七（一八「リラ」）	四弗、六三（二四「リラ」）	六弗、九五（三六「リラ」）
相互共益保險會社					
左記ノ年齢ニテ保險契約ヲ爲シ六十歳ニ達シタル以後受クヘキ年金額					
二十歳	二九・七二弗	四五・七四弗	六一・七六弗	七七・七八弗	一〇九・八二弗
廿五歳	二二・五八	三四・五五	四六・五一	五八・四八	八二・四一
三十歳	一六・六〇	二五・四八	三四・三五	四三・二三	六〇・九九
卅五歳	一一・一九	一七・五六	二三・九三	三〇・三〇	四三・〇四
左記ノ年齢ニテ保險契約ヲ爲シ六十五歳ニ達シタル以後受クヘキ年金額					
二十歳	五三・二七	八二・六〇	一一一・九四	一四一・二八	一九九・九五
廿五歳	四〇・七二	六二・九二	八五・一一	一〇七・三一	一五一・七〇
三十歳	三〇・六九	四七・二九	六三・八八	八〇・四八	一一三・六八
卅五歳	二二・五八	三四・五五	四六・七一	五八・六七	八二・八〇
四十歳	一六・二一	二四・七〇	三三・三九	四一・八八	五九・〇六
貯蓄保險會社					
左記ノ年齢ニテ保險契約ヲ爲シ六十歳ニ達シタル以後受クヘキ年金額					
二十歳	二四・七〇	三五・五一	四六・五一	五七・三二	七九・一三
廿五歳	一九・一一	二七・六〇	三六・〇九	四四・五八	六一・五七
三十歳	一四・二八	二〇・八四	二七・四一	三三・九七	四七・〇九
卅五歳	九・八四	一四・六七	一九・六九	二四・五一	三四・三五
左記ノ年齢ニテ保險契約ヲ爲シ六十五歳ニ達シタル以後受クヘキ年金額					
二十歳	四〇・九二	五七・九〇	七四・五〇	九一・四八	一二五・〇六
廿五歳	三一・八五	四五・三六	五八・六七	七二・一八	九九・〇一
三十歳	二四・五一	三四・九三	四五・三六	五五・七八	七六・六二
卅五歳	一八・三四	二六・四四	三四・五五	四二・六五	五八・八七
四十歳	一三・五一	一九・四九	二五・四八	三一・四六	四三・四三

相互共益保險會社及貯蓄保險會社ノ二者共ニ其被保險人トナリタルモノカ、其年齢六十歳若クハ六十五歳ニ達シテヨリ年金百八十「リラ」若クハ三百六十「リラ」ノ年金ヲ得ント欲スル塲合ニハ毎月如何程ノ保險料ヲ拂ヒ込ミテ然ルヘキヤト云フニ左表ニ示ス所ノ如シ、曰ク例之ヘハ玆ニ一ノ人アリ其年齢二十五歳ニシテ初メテ保險契約ヲ爲シ、六十五歳ニ達シテヨリ三百六十リラノ年金ヲ得ント欲セハ日々幾許ノ保險料ヲ納付シテ可ナルヤト云フニ、貯蓄保險會社ノ方ニアリテハ一「リラ」九〇ヲ納付スヘク相互保險會社ノ方ニアリテハ一「リラ」一五ヲ納付センコトヲ要ス、然ルニ養老保險會社ノ詳細ナル報告ヲ見ルニ、被保險人ノ

納付スヘキ保險料ノ平均額ノ如何程ナルヤヲ見出スコト能ハス、實ニ遺憾ナリト謂ツヘキナリ

百八十「リラ」及三百六十「リラ」ノ年金ヲ得ント欲スルニ必要ナル毎月拂込ノ保險料ノ豫定額、保險會社ノ種類及保險契約ノ際ニ於ル年齢

保險契約ノ際ニ於ル年齢	左ノ年金ヲ得ント欲スルニ必要ナル毎月拂込ノ保險料豫定額							
	三十四弗、七四（百八十「リラ」）				六十九弗、四八（三百六十「リラ」）			
	相互共益保險會社、左ノ年齢ニ達シタル時年金ヲ受クルコト、ナル		貯蓄保險會社、左ノ年齢ニ達シタル時年金ヲ受クルコト、ナル		相互共益保險會社、左ノ年齢ニ達シタル時年金ヲ受クルコト、ナル		貯蓄保險會社、左ノ年齢ニ達シタル時年金ヲ受クルコト、ナル	
	六十歳	六十五歳	六十歳	六十五歳	六十歳	六十五歳	六十歳	六十五歳
二十歳……	弗 0.一二五	弗 0.〇九七	弗 0.一八三	弗 0.〇九七	弗 0.三三八	弗 0.一五四	弗 0.四九一	弗 0.二六一
廿五歳……	0.一九三	0.〇九七	0.二七〇	0.一一六	0.四七三	0.二二二	0.六六六	0.三六七
三十歳……	0.二九〇	0.一一六	0.三九六	0.一九三	0.六六六	0.三一八	0.九〇七	0.五一一
卅五歳……	0.四五四	0.一九三	0.五九八	0.二九〇	0.九八四	0.四七三	一.二九三	0.七〇四
四十歳……	—	0.三〇九	—	0.四三四	—	0.七〇四	—	0.九九四

通常ノ年金保險

有志者ノ組織ニ成レル通常ノ年金給與保險會社ニアリテ被保險人ヨリ納付スヘキ保險料金率ハ、一千九百一年七月廿八日發布ノ法律ヲ以テ定メラレ、一千九百一年十二月廿二日勅令ヲ以テ裁可セラレタルカ一千九百四年六月二十六日ヲ以テ一般ニ公布セラレタリ、蓋シ此保險ノ種類ニテハ被保險人ニ對シテ通常ノ年金ヲ給與スルモ其他特別ニ金圓ヲ給與スルコトアラサルナリ、又タ相互共益保險及貯蓄保險ノ二種モ許可セラレタルナリ、而シテ前者ニアリテ被保險人死亡シタル塲合ニ於テハ從來納付シタル保險料ナルモノヲ全ク沒收スルモ後者ニアリテハ之ヲ遺族ニ返スコト、セリ、或ハ此二種ノ保險會社共ニ一時ニ一百弗ノ保險料ヲ納付シテ、或ル年齢ニ達シタル時若干ノ年金ヲ給與セラル、コトアルモ此等ノ實例ハ甚ハタ稀レナルモノト謂ツヘキナリ、此保險ノ種類ハ好シ人氣ヲ惹クヘキモノ、如ク見ユルモ、伊太利國ノ勞働者ノ得ル所ノ賃銀ニテハ到底實行スルコトハ困難ナルヘシ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ云ハンカ玆ニ一ノ勞働者アリ年齢ナル其子ノ爲メニ一時ニ一百弗ノ保險料ヲ納付シタランニハ、其子ノ年齢六十五歳ニ達シタル時ヨリ百六十八弗九〇ノ年金ヲ受ケシムルコトヲ得ヘキナリ、然レトモ伊太利國ノ勞働者ニシテ其子ノ爲メニ斯ル設備ヲ爲スニ足ルヘキ歳入アルモノ果シテ幾人カアル殆ント之レナカルヘシト云フモ過言ニアラサルヘシ、又タ玆ニ一ノ勞働者アリ其年齢二十五歳ニ達シタル時ヨリ老後ノ計ヲ爲シ始メタリトセンカ、即チ年々一弗宛保險料ヲ納付シタリトセンカ、其年齢六十歳ニ達シタル時ヨリ四十六仙宛ノ年金ヲ受ルコト、ナルヘキナリ、但シ年々納付スヘキ保險料ハ同一ナルモ、其保險契約ヲ爲ス時ノ年齢カ增加スルニ從ツテ其受ル所ノ年金自カラ減少スルモノト知ルヘシ、此種ノ保險ニ關スル統計ノ之レナキハ遺憾ナリト謂ツヘシ

通常保險ニ於テ一時ニ保險料一百弗ヲ納付シ置キ而シテ後受クヘキ年金額、

保險契約ノ時ニ於ル年齢別及年金ヲ受クヘキ年齢別

保險ノ種類保險契約ノ時ニ於ル年齡別

一時ニ百弗ノ保險料ヲ納付シ置キ左ノ年齡ニ達シタル時ヨリ受クヘキ年金額

相互共益保險會社	貯蓄保險會社	二十歲廿五歲三十歲廿五歲四十歲四十五歲五十歲五十五歲六十歲六十五歲七十歲
五歲	六十五歲	八・五七弗　一〇・九一弗　一四・〇二弗　一八・二七弗　二四・二四弗　三一・八三弗　四五・八一弗　六六・五六弗　一〇二・〇九弗　一六八・九〇弗　三一一・七〇弗
十歲	六十歲	七・〇三　八・九五　一一・五一　一四・九九　一九・八八　二六・九四　三七・六〇　五四・六三　八三・七九　一三八・六三　二五五・八四
十五歲	五十九歲	五・八〇　七・三九　九・五〇　一二・二八　一六・四一　二二・二四　三一・〇五　四五・一〇　六八・一七　一一四・四六　二一一・二三
二十歲	五十五歲	六・〇四　七・七七　一〇・一二　一三・四二　一八・一八　二五・〇八　三六・八七　五六・五四　九二・五五　一七二・九五
廿五歲	五十歲	六・三一　八・三三　一〇・九一　一四・一〇　一九・七八　二七・三一　三九・九六　六一・八〇　一〇二・〇九　一九二・〇三
三十歲	四十九歲	六・六八　八・八六　一一・六一　一四・七八　二〇・六二　二八・七六　四一・三五　六一・八〇　一〇二・〇九　一九二・〇三
四十歲	四十五歲	七・一〇　九・七五　一二・六一　一七・八九　二四・五五　三四・一九　五〇・一九　七四・九七　一二三・三四　二三一・七〇
四十五歲	四十歲	七・八九　一一・〇二　一六・〇一　二二・八六　三〇・三四　四二・五五　六二・三三　九二・六三　一五三・三三　二八七・二八
五十歲	三十九歲	八・八五　一二・五一　一七・九九　二五・〇八　三四・一九　四八・〇三　七一・三四　一〇六・〇三　一七六・三四　三三〇・二三
五十五歲	三十五歲	九・八八　一四・〇二　二〇・一二　二八・二三　三九・〇一　五五・〇一　八一・五九　一二一・九九　二〇一・五〇　三七七・〇二
六十歲	三十歲	一一・〇九　一五・七一　二二・六八　三一・四二　四三・一三　六〇・八二　八九・九五　一三三・八三　二二一・三八　四一四・〇九
六十五歲	二十五歲	一二・六一　一八・一八　二六・一〇　三六・四四　五〇・一九　七〇・四二　一〇四・〇三　一五五・八四　二五八・四一　四八二・七〇
七十歲	二十歲	一四・四二　二〇・九一　二九・一四　四〇・一九　五五・九一　七七・一〇　一一四・九九　一七〇・二三　二八三・八四　五二九・一〇
七十五歲	十五歲	一九・一三　二七・一九　三八・一九　五三・一九　七四・一九　一〇三・一九　一五三・一九　二二八・一九　三八三・一九　七一三・一九
八十歲	十歲	二五・九二　三六・一八　五一・五七　七二・〇八　一〇一・一九　一四一・一九　二〇三・一九　三〇三・一九　五〇三・一九　九三三・一九
八十五歲	五歲	三四・一九　四八・〇三　六八・四〇　九五・八四　一三四・〇九　一八七・九〇　二六九・〇九　四〇三・〇九　六七三・〇九　一二四六・一五
九十歲	一歲	四五・八一　六六・五六　九二・七〇　一二八・九〇　一七九・〇九　二四九・〇九　三五九・〇九　五三九・〇九　八九九・〇九　一六四九・〇九
九十五歲	一歲	六一・〇九　八八・九〇　一二二・八四　一七〇・九〇　二三八・九〇　三三八・九〇　四七八・九〇　七一八・九〇　一一九八・九〇　二一九八・九〇
百歲	一歲	八一・七〇　一一八・四〇　一六三・八四　二二七・四〇　三一八・四〇　四五八・四〇　六四八・四〇　九七三・四〇　一六二三・四〇　二九七三・四〇

今ヲ左ニ揭クル所ノ表ハ保險料トシテ年々納付スヘキ金額ヲ十二「リラ」ト假定シテ其筋ヨリ補助金ヲ附加セラルヽ年金額ト否ラサル通常ノ年金額トヲ比較シタルモノト知ルヘシ

各種ノ保險會社ニ於テ保險契約ヲ爲セル當時ノ年齡別ニ從ツテ給與スヘキ年金豫定額ノ比較

歲	五十歲	五十五歲	六十歲	六十五歲	七十歲	七十五歲	八十歲	八十五歲	九十歲	九十五歲	百歲
五歲	五・四二	四・三三									
十歲	六・九一	五・五一	四・三六								
十五歲	八・八九	七・〇八	五・六一	四・四〇							
二十歲	一一・五八	九・二三	七・二〇	五・七三	四・四六						
廿五歲	一五・三六	一二・二五	九・六九	七・六二	五・九三	四・五五					
三十歲	二〇・八一	一六・六〇	一三・一三	一〇・三三	八・〇二	六・一六	四・六五				
三十五歲	二九・〇五	二三・一六	一八・三三	一四・三九	一一・一〇	八・六〇	六・四九	四・七九			
四十歲	四二・二〇	三三・六五	二六・三三	二〇・九一	一六・二七	一二・二四	九・四三	六・九六	四・九九		
四十五歲	六四・七二	五一・六一	四〇・八五	三一・〇七	二四・九四	一九・一六	一四・四六	一〇・六七	七・六五	五・二六	
五十歲	一〇七・〇八	八九・三九	六七・五八	五三・〇七	四一・二八	三一・七〇	二三・九二	一七・六六	一二・六五	八・七一	六・三三
五十五歲	一九七・六一	一五七・五九	一二四・七〇	九七・九三	七六・一七	五八・四九	四四・一六	三二・五九	二三・三五	一六・〇七	一〇・四七
六十歲	三九二・一五	三一四・一二	二四六・一五	一九二・三九	一四七・一七	一一三・一九	八五・一六	六二・一六	四五・一六	三二・一六	二一・一六

年々二弗三二十二「リラ」ヲ保險料トシテ納付シタルニ對シ給與セラルヘキ年金假定額

保險ノ種類及保險契約當時ニ於ル年齡別	勞働者ノ組織ニ係レルモノ		通常ノ組織ニ係レルモノ	
	勞働者組織ノ方年金一層多キコト			
相互共益保險會社				
保險契約當時ニ於ル年齡別左記ノ如クニシテ六十歲ニ達シテヨリ給與セラルヘキ年金額				
二十歲	一七弗五八	一九弗三三	二八弗一六	四五弗七四
廿五歲	一二●四四	一五●七四	二二●一一	三四●五五
三十歲	八●二八	一二●三五	一七●二〇	二五●四八
卅五歲	四●三六	八●八〇	一三●二〇	一七●五六
保險契約當時ニ於ル年齡別左記ノ如クニシテ六十五歲ニ達シテヨリ給與セラルヘキ年金額				
二十歲	三八●二七	三〇●五四	四四●三三	八二●六〇
廿五歲	二八●六〇	二五●一四	三四●二二	六二●九二
三十歲	二一●一〇	一九●一四	二六●一九	四七●二九
卅五歲	一四●九七	一五●一三	一九●五八	三四●五五
四十歲	九●四八	一二●五三	一四●二二	二四●七〇
貯蓄保險會社				
保險契約當時ニ於ル年齡別左記ノ如クニシテ六十歲ニ達シテヨリ給與セラルヘキ年金額				
二十歲	一六●一八	一九●三三	三五●五一	五七●九〇
廿五歲	一一●八六	一五●七四	二七●六〇	四五●三六
三十歲	八●四九	一二●三五	二〇●八四	三四●九三
卅五歲	五●八七	八●八〇	一四●六七	二六●四四
四十歲				一九●四九

右ノ比較表ニ據リテ之ヲ觀レハ勞働者年金ノ大部分ハ補助金ヨリ成レルコトヲ知ルヘキナリ、同一ノ保險料ヲ拂ヒ込ミナカラ勞働者保險ノ年金ノ方カ普通保險ノ年金ヨリ一層多キモノナリ、蓋シ是レ補助金アレハナリ

統計表

養老及働力損耗保險會社ニ關スル統計的報告ハ尚ホ未タ完全ナルモノアラサルナリ、今マ左ニ揭クル所ノ表ハ被保險人ノ數ヲ示セルモノナリ、即チ一千八百九十九年十月此保險會社ノ創設以降一千九百八年末ニ

至ルノ間ニ於テ被保險人トナリタルモノ、數是レナリ、被保險人ノ數ハ時ニ或ハ消長高下ナキ能ハスト雖モ其最モ、多數ヲ示シタルハ一千九百二年及一千九百六年是レナリ、是レ他ナシ此等ノ年ニ於テ保險制度ニ關スル法律改正ノ結果ニ外ナラス、左表ニ示セル年間ニ於ル被保險人ノ數ヲ計上スレハ其總數殆ント三十萬人ト謂ツヘキナリ、尚ホ一千九百十年十一月三十日ヲ以テ公表セラレタル所ニ據レハ、其被保險人ノ全數三十五萬二千三百七十六人ニ達シ居レリ、然レトモ斯ル被保險人ノ男女別、年齡別、職業別等ノ判明シ居ラサルハ實ニ遺憾ナリト云ハサルヘカラス

一千九百四年ヨリ一千九百八年ニ至ルノ間ニ於テ保險契約ニ關スル一ノ事實ヲ見出セリ、此期間ニ於テ保險契約ヲ取リ扱フタル箇所ハ保險會社ノ本部、支部若クハ郵便局等ナリシカ、今マ表ノ示ス所ニ據レハ中ニ就テ郵便局カ一般ニ貯蓄心ヲ奬勵スル爲メ最モ重要ナル任務ヲ果シタルモノト謂ツヘシ、若干年間ハ郵便局ニ於テ保險契約ヲ取リ扱フタルノ數ハ全數ノ半ハ以上ニ及ヘリト云フ

今マ此二種ノ保險會社ノ事業如何ヲ比較センニ一般ノ人氣ニ投スルノ有樣、現時ノ要求ニ應スルノ模樣等殆ント同一ト謂ツヘキナリ、例之ヘハ一千九百四年ヨリ一千九百八年ニ至ル五ケ年間ニ於テ保險證書ヲ發シタル總數ニ就テ之ヲ云ハンニ、相互共益保險會社ヨリ發シタル總數ハ八萬四千九百三枚ニシテ、貯蓄保險會社ヨリ發シタル總數ハ八萬四千八百四十九枚ナリシナリ、此間ノ差ハ甚ハタ些カニシテ殆ント同一ナリト謂フヘシ

一千八百九十九年ヨリ一千九百八年ニ至ル、十箇年間ニ於テ每年國家的養老及働力損耗保險會社其他ノ保險會社等ニ於テ保險契約ヲ爲シタル人員

年次	左ノ箇所ニ於テ保險契約ヲナセル人員		左ノ箇所ニ於テ保險契約ヲナセル人員		年間ニ於ル被險人總數
	郵便局		相互共益保險會社	貯蓄保險會社	
一千八百九十九年(イ)……	(ロ)		(ロ)	(ロ)	七六、
一千九百年……	(ロ)		(ロ)	(ロ)	一〇、二七九
一千九百一年……	(ロ)		(ロ)	(ロ)	二〇、三二四
一千九百二年……	(ロ)		(ロ)	(ロ)	四四、四七〇
一千九百三年……	(ロ)		(ロ)	(ロ)	二八、七七九
一千九百四年……	一三、六八七		一五、八四〇	(ロ)	三一、四二六
一千九百五年……	二三、三六八		二〇、八八九	(ロ)	二三、六八〇
一千九百六年……	二五、五九〇		二七、八七五	二二、九一六	五〇、七九二
一千九百七年……	四一、六二一		二〇、九九八	一八、五三〇	三五、一六〇
一千九百八年……	二一、三〇二		一七、三九二	一五、〇二六	二八、六九五

(イ)ハ僅カニ最後ノ三ケ月ノミ

(ロ)ハ一個別ニ報告ナキモノ

養老保險會社ニ於テハ一千九百五年會員ヨリ納付スヘキ保險料率ニ關スルコトヲ公表セリ、是レ甚タ趣味

アルコトナレトモ僅カニ一千九百年ヨリ一千九百二年ニ生ル短期間ニ限ラレテ其後公表セラレサリシハ遺憾ナリト云ハサルヘカラス、然レトモ資金ノ活用上如何ヲ窺フニ足ルヘキナリ

一千九百年ヨリ一千九百三年ニ至ルノ期間ニ於ル國家的養老及働力損耗保險會社ノ被保險人ノ納付スヘキ保險料金

年內ニ納付スヘキ保險料金	一千九百年			一千九百一年			一千九百二年		
	保險料納付スヘキ人員	全數ノ百分比	保險料金	保險料納付スヘキ人員	全數ノ百分比	保險料金	保險料納付スヘキ人員	全數ノ百分比	保險料金
全會員									
毫モ保險料ヲ納メサルモノ	二三八	二〇七	二、三八〇	二〇八	一、七二四	二、〇八〇	一九四	一、六一四	一、九四〇
六「リラ」未滿	二四四九	四、八九〇	四、八九〇	四、六一三	九、二二六	四、六一三	四、三八四	八、七六八	四、三八四
六「リラ」	六一五	五、三六	六一、五〇	一、九一八	一六、七九五	一九、一八五	一、八一四	一五、九一二	一八、一四〇
六「リラ」、〇一ヨリ十「リラ」ニ至ル	一四四一	一二、五七	一四四、五六〇	二、四五〇	二一、四〇〇	二四、九〇〇	二、三五一	二〇、五九一	二三、九四〇
十「リラ」、〇一ヨリ廿五「リラ」ニ至ル	八八一	七、八九	一三一、九〇〇	三、二五五	二八、四〇〇	三一、九〇〇	三、〇五五	二六、七〇一	二九、七五六
廿五「リラ」、〇一ヨリ五十「リラ」ニ至ル	三六四	三、一七	一八一、五〇〇	一、七九九	一五、七〇〇	一七、五〇〇	一、八〇九四	一五、七九一	一七、六〇〇
五十「リラ」、〇一ヨリ百「リラ」ニ至ル	三一七	二、七一三	二七一、三〇〇	三、五四五	三一、〇〇〇	三四、五四五	三、八七	三四、一〇一	三七、九八八
百「リラ」以上	一、九八	一、七二	一七二、〇〇〇	二、二一六	一九、二〇〇	二一、四一六	二、八二一	二四、九一四	二七、七三五
合計	二一四五三	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九一、五一四	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二六、三九五	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
相互共益保險會社ニ屬スル會員									

毫モ保險料ヲ納メサルモノ	一五五	二、三二	二、三二〇	一六、五一	一、二三八	一、二三八	一、三二七	一、四八八	一、四八八
六「リラ」未滿	一、六七九	三一、一二	三一、一二〇	一八、五九	一、八八一	一、八八一	二、〇四	二、〇四〇	二、〇四〇
六「リラ」	一、五八六	二九、三九	二九、三九〇	三、三〇四	五四、四六	五四、四六〇	四、三五	七一、三〇	七一、三〇〇
六「リラ」、〇一ヨリ十「リラ」ニ至ル	三五一	六、五〇	六五、〇〇〇	一、一〇〇	二〇、四〇〇	二一、五〇〇	一、二五〇	二三、一〇〇	二四、三五〇
十「リラ」、〇一ヨリ廿五「リラ」ニ至ル	八六一	一五、九六	一五九、六〇〇	二、七一八	五〇、二〇〇	五二、九一八	三、〇七九	五六、九八一	五九、九六〇
廿五「リラ」、〇一ヨリ五十「リラ」ニ至ル	五九八	一一、〇八	一一〇、八〇〇	一、七八二	三二、九〇〇	三四、六八二	一、九八二	三六、六八四	三八、六六六
五十「リラ」、〇一ヨリ百「リラ」ニ至ル	一一九	二、二一	二二、一〇〇	一、二八〇	二三、六〇〇	二四、八八〇	一、三二〇	二四、五二〇	二五、八四〇
百「リラ」以上	四七	八七	八七〇	一、三二〇	二四、五二〇	二五、八四〇	一、四七〇	二七、一三〇	二八、六〇〇
合計	五、三九六	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一九、八〇〇	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一一、一〇〇	一〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
貯蓄保險會社ニ屬スル									
毫モ保險料ヲ納メサルモノ	一、一〇七	一、一〇七	一、一〇七	一、二八四	一、二八四	一、二八四	一、三六二	一、三六二	一、三六二
六「リラ」未滿	一八、五九	一八、五九〇	一八、五九〇	一二、四四	一二、四四〇	一三、七二四	一三、〇四	一三、〇四〇	一四、四〇四
六「リラ」	五四、四六	五四、四六〇	七二、六一〇	四、五五一	四五、五一〇	五〇、〇六一	四、三五	四三、五〇	四七、八五四
六「リラ」、〇一ヨリ十「リラ」ニ至ル	四、三五	四三、五〇	五七、八五四	一、八六四	一八、六四〇	二〇、五〇四	一、七六二	一七、六二〇	一九、三八二
十「リラ」、〇一ヨリ廿五「リラ」ニ至ル	一、一〇〇	一一、〇〇	一四、六〇四	四、〇一一	四〇、一一〇	四四、一二一	三、八一九	三八、一九〇	四二、〇〇九
廿五「リラ」、〇一ヨリ五十「リラ」ニ至ル	二、五一八	二五、一八	三三、二二四	一、八六四	一八、六四〇	二〇、五〇四	一、七五二	一七、五二〇	一九、二七二
五十「リラ」、〇一ヨリ百「リラ」ニ至ル	四、〇四	四〇、四〇	七三、四四四	一、四〇八	一四、〇八〇	一五、四八八	一、三五二	一三、五二〇	一四、八七二
百「リラ」以上	二、〇七	二〇、七〇	九四、一四四	一、四三三	一四、三三〇	一五、七六三	一、四九〇	一四、九〇〇	一六、三九〇
合計	八、三二七	一〇〇、〇〇	一、三二六、八八九	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇	一〇、四六四	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇
毫モ保險料ヲ納メサルモノ	一、四八八	一、四八八	一、四八八	一、六四二	一、六四二	一、六四二	三、〇五八	三、〇五八	三、〇五八
六「リラ」未滿	一八、八一	一、八八一	一、八八一	二二、四四	四、五五一	四、五五一	八、〇三	七、三〇	七、三〇〇
六「リラ」	五五、四六	五四、四六〇	五六、三五一	三一、九六	二二、四五一	二七、〇〇一	二六、九一	三五、九九	三五、九九〇
六「リラ」、〇一ヨリ十「リラ」ニ至ル	一一、八〇五	一一、八〇五〇	一二、六八五	五、一一〇	二、五三三	二、五三三	四、〇四	四、〇四〇	四、〇四〇
十「リラ」、〇一ヨリ廿五「リラ」ニ至ル	五二、〇三	五二、〇三〇	六四、七三五	一八、六四	一八六、四〇〇	一九一、〇四〇	一七、一九九	一七一、九九〇	一七五、〇三〇
廿五「リラ」、〇一ヨリ五十「リラ」ニ至ル	五、二九	五、二九〇	七〇、〇三五	一、八六四	一八、六四〇	二〇、五〇四	一、七六二	一七、六二〇	一九、三八二
五十「リラ」、〇一ヨリ百「リラ」ニ至ル	一、一〇	一一、〇	七一、一三五	一、九八一	一九、八一〇	二一、七九一	一、八五二	一八、五二〇	二〇、三七二
百「リラ」以上	七、五七〇	七五、七〇〇	一四六、八三五	一、四〇八	一四、〇八〇	一五、四八八	一、三五二	一三、五二〇	一四、八七二
合計	四、五九六	四六、四七〇	一、〇〇〇、〇〇	一〇、二〇〇	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇	九、六四〇	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇
毫モ保險料ヲ納メサルモノ	一、二七	一、二七	一、二七	一、二八四	一、二八四	一、二八四	一、三六二	一、三六二	一、三六二
六「リラ」未滿	一、八五九	一、八五九	一、八五九	一二、四四	一二、四四〇	一三、七二四	一三、〇四	一三、〇四〇	一四、四〇四
六「リラ」	五四、四六	五四、四六〇	五六、三二七	四、五五一	四五、五一〇	五〇、〇六一	四、三五	四三、五〇	四七、八五四
六「リラ」、〇一ヨリ十「リラ」ニ至ル	一一、八〇五	一一、八〇五〇	一二、六八五	五、一一〇	二、五三三	二、五三三	四、〇四	四、〇四〇	四、〇四〇
十「リラ」、〇一ヨリ廿五「リラ」ニ至ル	五二、〇三	五二、〇三〇	六四、七三五	一八、六四	一八六、四〇〇	一九一、〇四〇	一七、一九九	一七一、九九〇	一七五、〇三〇
廿五「リラ」、〇一ヨリ五十「リラ」ニ至ル	五、二九	五、二九〇	七〇、〇三五	一、八六四	一八、六四〇	二〇、五〇四	一、七六二	一七、六二〇	一九、三八二
五十「リラ」、〇一ヨリ百「リラ」ニ至ル	一、一〇	一一、〇	七一、一三五	一、九八一	一九、八一〇	二一、七九一	一、八五二	一八、五二〇	二〇、三七二
百「リラ」以上	七、五七〇	七五、七〇〇	一四六、八三五	一、四〇八	一四、〇八〇	一五、四八八	一、三五二	一三、五二〇	一四、八七二
合計	四、五九六	四六、四七〇	一、〇〇〇、〇〇	一〇、二〇〇	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇	九、六四〇	一〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇

右ニ掲ケタル表ニ據リテ之ヲ觀レハ其年々々ノ內ニ毫モ保險料ヲ納付セサルモノ、數、甚ハタ速カニ增加シタルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ、例之ヘハ一千九百年ニ於テハ其數僅カニ二●一%ニ過キサリシカ、一千九百一年ニ至リテハ六●四%ニ增加シ、一千九百二年ニ至リテハ一一●九%ニ增加シ、而シテ一千九百三年ニ至リテハ最モ大ニ增加シテ二八●五%トナレリ、尙ホ之ヲ換言スレハ一千九百三年ニ至リテハ保險料ヲ納付セサルモノ、被保險人全部ノ殆ント十分ノ三ニ當レルモノ是レナリ、嗚呼亦タ多數ナラスヤ

或ハ被保險人ノ內或ル年ノ保險料ヲ納付セサルモ、其翌年ニ至リテ納付スルモノ之レアルハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、一千九百三年中ニ若干ノ保險料ヲ納付スルモノ、內殆ント半數ハ六「リラ」ノ保險料ヲ納付シタルモノナリ、蓋シ此程度ノ保險料ヲ納付シタルモノハ補助金ノ分配ヲ受ルニ足ルヘキモノト知ルヘシ、一千九百年ニ於テハ斯ル保險料ヲ納付スルモノ、數、全數ノ四二●七%ニ當リシカ、一千九百三年ニ至リテハ全數ノ三一●四ニ當レリ、尙ホ之ヲ詳言センニ幾千カノ保險料ヲ納付シタルモノ、殆ント四四%ニ當レリ

一千九百二年ニ於テハ六「リラ」未滿ノ保險料ヲ納ムルモノ、數甚ハタ多カリシカ、一千九百三年ニ至リテハ此等ノ事ニ關スル官邊ノ報告更ニ之レナキナリ、是レ他ナシ既ニ被保險人トナリタル勞働者ノ大多數カ窮況ニ陷井リテ保險料ヲ納付スルコト能ハス、從ツテ其資格ヲ失ヒタレハナリ

養老及働力損耗保險會社ノ會計上ノ有樣ニ至リテハ、其報告ヲ得ルコト極メテ少ナキカ故ニ其詳細ナルコトヲ知ルニ由ナシ、是レ甚ハタ遺憾ノ次第ト謂ツヘキナリ、今マ一千八百九十九年ヨリ一千九百九年ニ至ル同會社ノ資產及負債トスヘキモノヲ擧クレハ概ネ左ノ如シ

同會社ノ預金及其他ノ歲入ハ法律規則ノ定ムル所ニ從ツテ數多ノ資金中ニ分タレタルモノト知ルヘシ、蓋シ此等ノ資金ノ詳細ナルコトハ左表ニ之ヲ示スヘシ

（一）寄附資金ノ事、此資金ナルモノハ此保險會社ニ取リテ會計上最モ有力ナル源泉ニシテ、且ツ未來ニ於ケル歲入ノ基礎トナルヘキモノナルカ、此資金ハ二種ノ財源ヨリ甚ハタ速カニ增殖スルヲ見ルコトヲ得タリ、所謂ル二種ノ財源トハ一ヲ特別歲入ト云ヒ、今マ一ヲ通常ノ歲入ヨリ轉入スルモノト云フ、但シ此資金ヲ增殖セシムルノ方法手段ハ法律ノ命スル所ニ從フモノト知ルヘシ、然レトモ會員ヨリ納付セル預金ノ增加スルニ從ツテ資金全額ニ對スル寄附資金ノ割合ハ徐々トシテ減少シ行クモノト知ルヘシ

（二）働力損耗資金ノ事、此資金ハ働力損耗セル勞働者ニ給與スヘキ資金ニ充ツルモノ是レナリ

（三）特別貯蓄資金ノ事　是レハ右兩資金ノ不足シタル塲合之ヲ補ハンカ爲メナリ、其詳細ナルコトハ前段ニ於テ述ヘタルカ如シ

（四）相互共益保險會社資金ノ事、是レハ保險金一纏一時拂ノ契約ヲ爲セル被保險人ニ對シテ年金外ニ給與スヘキ特別配當金ノ資ニ充ルモノトス

（五）『短期』保險特別資金ノ事、是レハ相互共益保險會社ノ被保險人ノ保險期間十ケ年未滿ニシテ、年金ヲ受領スヘキ時期ニ達シタル時、其年金外ニ給與スヘキ特別配當金ノ資ニ充ルモノトス

（六）保險契約ニ從ツテ預金者ノ團體ヘ特別ノ金圓ヲ給與スルコトアリ、斯ル場合ニ於テハ規則ニ從ツテ特別計算センコトヲ要ス

（七）年金資金ノ事、被保險人ニシテ年金受領ノ年齡ニ達シタル時之ヲ給與スルノ資ニ充ルモノ是レナリ

（八）傷害資金ノ事、勞働者カ其業務ニ從事シ居ル際何等カノ傷害ヲ受ケ、其傷害ハ一時ニ止マラス生涯恢復ノ見込ナキ場合ニ於テ給與スヘキ補償金ノ資ニ充ルモノ是レナリ、而シテ此等ノ預金ハ二ケ年間國家的養老及働力損耗保險會社ヘ信託センコトヲ要ス、但シ此等ノ手續ハ變災保險法ニ從フヘキモノニシテ、被保險人ノ要求ニシテ適當ナリト判決セラレタル場合ニ於テ之ヲ給與センコトヲ要ス

（九）預金者資金　是レハ數多ノ資金中最モ重要ナルモノト謂ツヘキナリ、蓋シ此資金中ニハ實際被保險人若クハ其代理者ヨリ納付シタル預金ヲ含ミ、且ツ保險會社ヨリ年々仕拂フタル保險金ヲモ含ミ居ルモノト知ルヘシ

（十）茲ニ平民的養老保險ナルモノアリ、本會社ノ計畫ニ出ルモノニシテ全ク特別會計ニ屬スルモノトス、蓋シ活動ノ範圍甚ハタ小ナリト雖モ見ルヘキ進歩ヲ示シ、且ツ保險料ノ割合至リテ低廉ナルコト知ルヘキノミ

（十一）中央本部雇人ノ準備資金、此資金ハ中央本部ニ使役セラルル雇人ノ爲メニ積ミ立テラルル、モノ是レナリ、而シテ其財源如何ト云フニ此等ノ雇人カ年々其事務所ヨリ慰勞金トシテ受クル所ノ少額ノ金錢ヲ積ミ立ルモノニ外ナラス

（十二）而シテ最後ノ資金ト云ヘルモノアリ、此貸金ハ通常歲入ト其歲出トノ差金ヲ示スモノニ外ナラス、但シ法律上寄附資金ノ內ヘ編入セサルヘカラサルモノハ通常歲入中ニ算スヘキモノニアラス、此外被保險人ヨリ直接ニ納付シタル預金ノ如キモ亦タ是レ通常歲入中ニ算入スヘキモノニアラス

被保險人ヘ給與スヘキ年金ヲ除クノ外總テノ費用ハ右ノ通常歲入中ヨリ支出スヘキモノトス、而シテ尙ホ剩餘金アラン場合ニハ再ヒ他ノ資金中ニ分配センコトヲ要ス、抑モ此差金ニ關スル資金ノ高ハ各年十二月三十日ノ現在高ニシテ、剩餘金ノ分配ハ其年ノ三月末ニ行ハルルモノト知ルヘシ、然ルニ一千九百二年以後ニ係ル通常歲入、歲出及其剩餘金分配ニ關スル事實ノ判明セサルハ實ニ遺憾ナリト云ハサルヘカラス、今マ其年即チ一千九百二年ノ報告書ノ示ス所ニ據レハ、其年末ニ於テ分配スヘキ剩餘金ナルモノ二百六十九萬八千九百九十七「リラ」アリ、之ヲ分配スルコト左ノ如シ、曰ク寄附資金ヘ三十萬四千四百八十五「リラ」即チ一一・三%、働力損耗資金ヘ三十九萬二千二百八十五「リラ」、即チ一四・五%、特別貯蓄資金ヘ九萬八千零七十一「リラ」、即チ三・六%、短期保險資金ヘ四十五萬八千「リラ」

即チ一七%、特別相互共益保險會社ヘ五萬五千八百「リラ」、即チ二・一%、補助金十「リラ」ヲ分配スヘキモノヘ九十萬「リラ」、即チ三三・三%ヲ分配シ、而シテ殘餘四十九萬零三百五十六「リラ」即チ一八・二%ハ翌年度ヘ繰越スヘキモノトス

一千八百九十九年ヨリ一千九百八年ニ至ル養老及働力損耗保險會社ニ於ル各種ノ資金々額

年次	寄附資金	働力損耗資金	特別貯蓄資金	相互共益保險會社ヨリ一時一纏拂資金	短期保險特別資金	預金者ノ納付ニ係ル特別資金	年金資金	永久的能力者トナレル場合變災保險法ニ依レル預金
一千八百九十九年	二、二二九、一六七弗	二一、八三六弗	五、四五九弗	—弗	九四、三九二弗	九、六五〇弗	—弗	—弗
一千九百年	二、二三九、八六八	二一、八三六	五、四五九	—	九四、三九二	一三、六〇七	—	—
一千九百一年	二、四三六、八六五	七〇、九〇九	一七、七二七	—	一二〇、〇五〇	一四、二二一	二、三六〇	—
一千九百二年	二、七三九、七三四	一一三、六六八	二八、四一二	二〇、一一一	二〇一、一〇六	一五、二四七	一六、三四一	—
一千九百三年	二、九一三、六八五	一九六、八七八	四九、二一四	三二、一〇三	三〇〇、九六四	一五、四七四	四八、九七八	—
一千九百四年	三、〇八八、八三一	三六〇、七七九	七四、六四七	四〇、一二八	二一七、九七七	一五、七四四	五九、三四三	二二、一八六
一千九百五年	三、二八二、二七三	四六二、二六一	九九、七五八	八一、七五二	二六一、六九七	一五、六七三	六九、一九六	一五七、五七三
一千九百六年	三、四七三、五五二	六三六、五五二	一三六、四四一	一四五、〇一四	四〇九、七七二	一六、二七五	一〇四、一四三	二一二、一九九
一千九百七年	三、九一七、九五二	九一六、八五〇	二〇〇、四一一	四〇〇、七四六	五一六、四四四	一六、二五四	一八六、一七三	二五〇、八三七
一千九百八年	四、八一七、〇八八	一、一六二、〇六三	二六一、五三五	六〇〇、五九七	六八三、三三七	二一、四七九	二六八、一〇五	二三五、九〇四

年次	被保險人ノ資金	個人ノ預金中ヘ再ヒ分配スヘキ金額	平民的養老年金保險	會社ノ中央本部ノ雇人ノ準備資金	雜部	十二月三十一日分配セラルヘキ資金	合計
一千八百九十九年	七四八弗	三八六弗	—弗	—弗	五二八弗	二七、二九六弗	二、三七九、四六二弗
一千九百年	三一、七四四	三八六	—	九二六	二〇〇	三五九、二二六	二、七六七、六五四
一九九百一年	二五六、四九一	—	—	一、九四一	四六五	四六二、四八七	三、三八三、五一六
一千九百二年	五七九、〇一五	一一、四〇五	—	三、一七六	四五六	五二〇、九〇六	四、二五四、五七七
一千九百三年	一、一五一、三八五	三四、七四〇	—	四、七七三	二、三一二	六〇八、一三九	五、四四八、六四五
一千九百四年	一、九一三、五三五	七八、一二五	—	六、三八三	一四、〇九五	六七七、四二〇	六、五七九、一九三
一千九百五年	二、六六二、八七二	八二、〇二五	二七、七〇六	八、二〇一	五三、七四一	一、〇三〇、四七二	八、二九五、二〇〇
一千九百六年	三、四七八、五一四	一三六、二五四	五二、六四七	一〇、九一九	三三、八五八	一、一六一、四一四	一〇、〇六六、九五四
一千九百七年	四、〇〇二、五四三	七七八、〇〇三	八八、〇六〇	一三、八八八	五六、二五九	一、二三八、五八二	一二、六〇二、〇〇二
一千九百八年	五、〇二五、三五八	八九七、四五〇	一五〇、一四六	一六、二八九	一二二、八六一	一、四八〇、三四七	一五、七五一、五五九

此保險會社ノ資産ノ大半ハ法律規則ノ要求スル所ニ從ツテ利殖ノ方法ヲ立テンコトヲ要ス、即チ彼ノ預入及貸出銀行ノ擔保ニ係ル利殖法ニ振リ向ケサルヘカラス、一千九百八年ニ於テハ其全資産ノ殆ント八〇%ハ此方面ニ振リ向ケラレタリ、又タ一千九百二年發布ノ條例ニ從ツテ此等ノ資産ノ幾分カヲ郡區等ニ行政團體ヘ貸與スルコトアルモ、是レ謂レナキモノト謂ツヘキナリ、其他改正條例ニテハ不動産ヲ抵當トシテ貸出ヲ許スト雖モ、利殖法其宜シキヲ得タルモノト云フヲ得ス

年次	預入貸出銀行債券	此債券ヨリ生スル利子	聖區等ノ行政團體ヘノ貸付金	都市ノ不動産	預入貸付銀行ヨリノ入金及郵便局ニ於ケル現在高	中央本部支部ノ雜收入	合計
一千八百九十九年	二、三四五、二三五 弗	二、六八二 弗	— 弗	— 弗	六、四四七 弗	九九六 弗	一九三 弗	二、三七九、四六二 弗
一千九百年	二、七一四、五四二	三、一四六	—	—	六、九七五	一二、一八五	二〇六	二、七六七、六五四
一千九百一年	三、一五二、七三七	四、二〇四	—	—	四七、七五六	一一〇、二六三	三〇、七一五	三、三八三、五一六
一千九百二年	三、七五九、八七六	六八、一一六	—	—	三二九、八六七	九六、七一六	二	四、二五四、五七七
一千九百三年	四、五三〇、四三五	八五、六三二	四〇三、六〇五	—	二四〇、四二九	一六九、七九一	一八、七五三	五、四四四、八六四九
一千九百四年	四、七六三、五三七	八八、七六八	六三一、四五五	七七四、七三三	一八六、七六八	一二四、六一八	九三一八	六、五七九、一九三
一千九百五年	六、一七九、八〇一	一二六、二六五	七四六、六三三	九〇一、五八七	二一八、九四一	二二六、七九〇	五、一八三	八、二九五、二〇〇
一千九百六年	七、七九三、七五五	一五六、〇二九	六六〇、六九四	九〇一、六四五	三三一、八六二	一五七、〇三三	五、九四六	一〇、〇〇六、九五四
一千九百七年	一〇、五七五、九九五	一七八、四五六	五三七、六五五	九〇一、九九二	三九八、四〇七	九六九	八、五二八	一二、六〇二、〇〇二
一千九百八年	一二、四四四、四四六	二〇七、九五六	四六三、〇九四	九三三、一五〇	一四三、二九〇八	二七一、四一二	二八、五九三	一五、〇五一、五五九

或ル州ノ雇人强制的養老保險

伊太利政府ハ時ヲ異ニシテ雇人ノ種々ノ國體ニ對シテ養老年金ヲ給與シタルコト數回ニ及ヘリ、蓋シ今マ養老年金ニ關スル法律ニ就テ兎ヤ角論述スルノ餘地ナキナリ、然レトモ此等ノ年金計畫ヲシテ彼ノ國家的養老及働力損耗保險會社ニ合併セシメントスル傾向アルコトニ就テハ一言スル所ナクンハアルヘカラス、

好シ此事ニ就テ詳細ニ論述セスト雖モ、責メテ政府ノ工業上ニ使役セラルヽ雇人ノ事ニ關シテ論述スル所ナクンハアラス

恐ラクハ右合併ノ傾向アル好適例ハ政府ノ煙草專賣事業ニ關スル雇人ト相關聯シ居ルコトヲ知ルヘキナリ

煙草專賣事業ノ事

煙草專賣事業ニ使役セラルヽ雇人ニ對シテ年金ヲ給與スヘキ法律ヲ設ケンカ爲メニ、一千八百八十六年十一月廿三日ヲ以テ其議案ヲ提出シタリ、然レトモ此議案ハ議題トナリテ討論スルマテニ至ラサリシ、又タ其後一千八百八十七年十一月十九日同議案ヲ國會ニ提出セシモ、矢張リ前同樣ノ有樣ニテ埒明カサリシ、斯クノ如ク二回マテ失敗シタルニモ拘ラス、行政廳ハ無能力ニナリタル雇人及老朽セル雇人ニ對シテ一定ノ保護金ヲ與ヘサルヘカラサル有樣トナレリ、蓋シ此等ノ保護金ハ最初一定ノ時日ニ賃銀ヲ得ヘキ雇人ニノミ給與シ居タリシカ、一千八百九十二年以後ハ時々拾ヒ儲ケヲ爲ス勞働者マテ給與セラルヽコトヽナレリ、此保護金ナルモノハ所謂ル年金ニシテ一千八百九十二年ヨリ一千八百九十九年ニ至ルマテハ一ノ勞働者ニ給與スヘキ年金ノ最少額ハ百二十「リラ」ナリシカ、一千八百九十九年ニハ增加シテ百八十「リラ」トナリ、一千九百一年ニハ二百十六「リラ」トナリ、又タ一千八百九十七年ニハ其最多額ハ二百四十「リラ」ナリシカ、一千九百二年ニハ二百四十「リラ」トナリ、一千八百九十九年ニハ尙ホ增加シテ三百六十「リラ」トナリシモ、一千九百二年ニ至リテハ全ク廢止セラレタリ、尙ホ一千八百九十二年ノ發布ニ係ル規則ニ從フ時

ハ、勞働者ニシテ好シ働クコト能ハサルニ至ルモ、其年齢六十歳ニ達セサル以上ハ年金ヲ受クル資格ナキモノト定メタリ、然レトモ一千八百九十四年ニ至リテハ此規則ヲ改メテ左ノ如ク定メタリ、曰ク勞働者ニシテ一ノ職業ニ從事スルコト三十五ケ年ニ達スル時ハ、年金下渡願ヲ差シ出スノ時ニ於ル年齢如何ニ關セス年金ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノトス、而シテ一千八百九十九年ニ至リテハ其勤續年限ヲ短縮シテ二十五ケ年トシタリ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ一千八百九十四年ヨリ一千九百三年ニ至ルノ期間ニ於テ、年金制度ノ速カニ發達シタル有樣ヲ示スモノナリ、但シ雇人ノ平均數ハ殆ント一萬五千人ナリシト知ルヘシ

一千八百九十四年ヨリ一千九百三年ニ至ルノ期間ニ於ル年金受領者ノ數、及煙草專賣事業ニ從事スル雇人ニ仕拂フタル年金額

會計年度	年末ニ於ル年金受領者ノ數	年内ニ仕拂フタル年金額	左ノ兩性ニ給與サレタル年末ニ於ル年金平均額 女	男
一千八百九十四—五年	二二一	六、八〇七、九四	—	—
一千八百九十五—六年	三四八	一一、八七二、〇三	—	—
一千八百九十六—七年	三六九	一三、八三二、四四	(イ)	ロ 三六・二〇
一千八百九十七—八年	五三一	二一、五二一、七七	(イ)	ロ 四〇・五一
一千八百九十八—九年	六八五	二八、五八九、五一	(イ)	ロ 四一・七四
一千八百九十九—一千九百年	一、二三八	六二、七一八、九九	(イ)	ロ 五〇・六六
一千九百—一年	一、七五四	一〇五、五九四、二九	(イ)	ロ 六〇・五一
一千九百一—二年	二、〇九四	一三八、二四七、七一	六二・〇九	一二八・四八
一千九百二—三年	二、四四五	一五八、四三六、一七	六六・一九	一二九・六三

(イ)印ハ一個別ニ報告ナキモノ　(ロ)印ハ兩性ノ平均數

一千八百九十年九月二十九日即チ養老保險會社ノ事業實行ノ恰カモ前年ニ際シテ、國務大臣カーミネ氏ハ一ノ規則ヲ發布セリ、曰ク煙草事業ニ服スル雇人ト雖モ、國家的養老保險會社ノ被保險人タラサルモノハ永久ノ雇人ト見做スコトヲ得ス、而シテ此等ノ雇人ヨリ仕拂フヘキ分擔額ハ其賃銀中ヨリ之ヲ引キ去リ工業事務所ヨリ當事者ヘ仕拂ハン事ヲ要ス但シ女性ノ雇人ナランニハ其賃銀中ヨリ毎月一「リラ」宛ヲ引キ去リ男性ノ雇人ナランニハ同シク二「リラ」宛ヲ引キ去ル者トス、而シテ工業事務所ハ此等ノ雇人ノ分擔額ト同一ノ金額ヲ之ニ加ヘテ當事者ヘ拂ヒ込ンコトヲ要ス、斯クテ此養老年金制度ハ一千八百九十九年ニ至リテ廢止セラレタリ、但シ既ニ使役セラレ居ル雇人ハ此限ニアラス、均シク是レ雇人ノ名アルモ舊來ノ雇人ト新參者トハ其間著シキ差ナクンハアラス、一千八百九十九年九月三十日ニ於テ現ニ使役セラレ居ルカ、若クハ其以前ヨリ使役セラレ居ルモノトセンカ、斯ル雇人ハ勤續二十五ケ年ニ達シタランニハ年金ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノトス、又タ雇人ニ給與セラル、年金額ノ割合如何ト云フニ、最近五ケ年間ノ給料年平均額ニ準據スルモノトス、且ツ其年金額ハ其勤續年數ニモ關係スル所ナクンハアラス、例之ヘハ勤續年限三

十ケ年未滿ナランニハ其平均年給料ノ十分ノ四、勤續年限三十ケ年以上三十五ケ年未滿ナランニハ同シク年給料ノ十分ノ五、三十五ケ年以上四十五ケ年未滿ナランニハ同シク十分ノ六、四十五ケ年以上五十年未滿ナランニハ同シク十分ノ七、五十年若クハ五十年以上ナランニハ同シク十分ノ八ヲ給與スヘキモノトス、然レトモ此年金ナルモノハ何レノ場合ト雖モ勞働スルコト不可能ナルニアラスンハ給與セラレサルモノトス、又タ勞働者ニ給與セラルヘキ年金ノ最少額如何ト云フニ、女子ニ對シテハ二百四十「リラ」トシ男子ニ對シテハ四百八十「リラ」ナリトス、今マ假リニ勞働者ノ勞働不可能ニナリタルコトカ勤續十年以上二十五年未滿ノ場合ナランニハ、是レヨリ前五ケ年間ニ於ル年給料ノ平均額ノ十分ノ四ニ該當スル年金ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノトス、然レトモ其勞働者ノ勤續カ十二ケ年未滿ナリシ場合ナランニハ、斯ル年金ヲ受クルコト僅カニ二ケ年ニ過キサルモノトス、尙ホ其勤續カ十五ケ年以上二十ケ年未滿ナランニハ、斯ル年金ヲ受クルコト三ケ年トシ、二十ケ年以上二十五ケ年未滿ノ勤續ナランニハ斯ル年金ヲ受クルコト四ケ年ト定ム、又タ一千八百九十九年九月三十日以後業務ニ從事シタラン者ハ全ク其趣ヲ異ニセスンハアラム、是レ他ナシ此等ノ人々ハ養老保險會社ノ總則ニ該當スヘケレハナリ

右ニ揭ケタル二種類ノ雇人ヲ全ク同一ニ取リ扱ハシメ、且ツ法律上ノ活用ヲ以テ之ヲ取リ締ラシカ爲メニ、一千九百四年三月十七日ヲ以テ一ノ議案ヲ國會ニ提出セシカ、多少ノ改正ヲ加ヘテ一千九百四年六月十六日ニ至リテ一ノ法律トナリタリ

右ノ新法律ハ左ノ如キコトヲ規定シタリ、曰ク一千八百九十九年九月三十日以前ニ於テ既ニ一定ノ業務ニ從事シ居タルカ如キ雇人ニ對シテ年金ヲ給與スルコト、シ、斯ル雇人ヲ稱シテ『舊雇人』ト云ヒ、右年月以後業務ニ從事シテ左ノ如キ狀態ニアルモノヲ稱シテ『新雇人』ト云フ、此二種類ノ雇人ノ有樣ハ固ヨリ差異ナクンハアラス、然レトモ法律ハ此二者ヲシテ出來得ヘキ丈ケ平等ナラシメンコトヲ計リタリ、但シ兩者ノ間最モ著シキ差ト云フヘキハ新雇人ニ限リテ强制的ニ養老及働力損耗保險會社ノ被保險人トシテ保險料ヲ納メシムルコト是レナリ

煙草製造專賣局ニ於テ常雇トシテ使用セラル、勞働者ヲ區別スレハ六種類トナルヘシ、即チ日當取勞働者手間賃勞働者、器械長、工人、監督及書記是レナリ、此等ノ者ヲ總稱シテ勞働者ト云フ

法律ヲ以テ養老年金及働力損耗保護金ヲ給與スルコト、セリ

舊雇人ナルモノハ行政部ヨリ年金ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモ、新雇人ニ至リテハ左記ノ三條項ノ何レニカ該當シタル時、養老保險會社ヨリ年金ヲ受ケサルヘカラス

(一)、勞働者ノ年齡六十歲ニ達シタル時、(婦人ノ勞働者ナランニハ五十五歲ニ達シタル時)

(二)、勤續スルコト二十五ケ年以上ニシテ最早勞働スルコト不可能ニナリタル時

(三)、業務上契約書ニ記載サレタルカ如キ危害ヲ受クルカ若クハ疾病ニ罹リテ、勞働スルコト不可能ニナリタル場合、但シ斯ル場合ニ於テハ變災救護法ニ從ツテ補償金ヲ得ヘキ權能ヲ有スルコトヲ其筋ヘ

屆ケ出テンコトヲ要ス

今マ假リニ舊雇人カ勤續スルコト十ケ年ヲ經過スルモ、尙ホ未タ年金ヲ受クヘキ時期ニ達セサルニ際シテ勞働スルコト不可能ニナリタル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ働力損耗保護金ヲ一纏メニシテ一時ニ拂ヒ渡サンコトヲ要ス、又タ他ノ方面ニ於テ新雇人カ之ト同一ナル境遇ニ陷リタリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ養老保險會社ニ對シテ年金拂渡ヲ要求スルカ若クハ一纏メニシテ一時金下渡ヲ要求センコトヲ要ス

今マ茲ニ一ノ舊雇人アリ、勞働スルコト不可能トナリタル塲合（働力損耗）止ヲ得ス其業務ヲ廢セネハナラス境遇ニ陷リタリトセンカ斯ル塲合ニ於テハ養老年金、カ若クハ働力損耗年金ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノトス、然レトモ此種ノ雇人ニシテ勤續スルコト十ケ年以上ナランニハ、是レヨリ以前ニ溯ホリテ五ケ年間ニ於ル日々得タル賃銀ノ平均高ヲ算出シ、之ヲ基礎トシテ若干ノ一時金ヲ受クヘキモノトス、而シテ其勤續カ十五ケ年未滿ナランニハ三百「リラ」ヲ受ケ、其勤續カ十五ケ年以上二十ケ年未滿ナランニハ六百「リラ」ヲ受ケ、同シク二十ケ年以上二十五ケ年未滿ナラン又タ新雇人ノ側ニ就テ之ヲ言ハンニ國家的保險會社ハ此種ノ雇人ニ對シテ年金ヲ給與スルカ若クハ一纏メニシテ若干ノ一時金ヲ給與センコトヲ要ス但シ其何レニ從フヘキカハ本人ノ隨意タルヘキモノトス、然レトモ其給與スヘキ金額ニシテ前者ヨリ一層少ナキ塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ煙草專賣事務所タ

ランモノハ其差額ヲ補足シテ前者ト同一ナラシメンコトヲ要ス

勤續二十五年ノ舊雇人ノ受クヘキ養老年金若クハ働力損耗年金ハ、是レヨリ前十ケ年間ニ於ル日々ノ賃銀平均額ト同一ニシテ尙ホ之ニ百五十「リラ」ヲ加フヘキモノトス、而シテ斯ル金額ハ此雇人ノ年給ノ半ハニ當ルモノト知ルヘシ、此他勤續二十五ケ年以上四十五年ニ達シタリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ一ケ年毎ニ三「リラ」宛ヲ加フヘキモノトス、故ニ勤續四十五ケ年ノ末ニ至リテハ追加額百五十「リラ」ニ尙ホ六十「リラ」ヲ加ヘテ都合二百十「リラ」トナルヘキナリ、即チ年給十分ノ七ニ相當スル年金ヲ受ルモノト謂ツヘキナリ、又タ勤續四十五ケ年以上六十ケ年ニ達シタル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ四十五ケ年ヨリ後ハ一ケ年毎ニ六「リラ」ヲ加フヘキモノトス、因リテ勤續六十ケ年ニ至リテハ年給ト全ク同一ナル年金ヲ受クルモノト知ルヘシ、然レトモ年金ナルモノハ如何ナル塲合ト雖モ女性ノ勞働者ニハ三百「リラ」ヨリ少ナカラス、男性ノ勞働者ニハ四百八十「リラ」ヨリ少ナカラサルモノトス

又タ新雇人ハ國家的養老及働力損耗保險會社ヨリ年金ヲ受クヘキモノトス、蓋シ此新雇人ナルモノハ相互共益保險會社ノ被保險人タランコトヲ要ス、而シテ此國家的保險會社ヨリ給與セラルヘキ年金ニシテ、前段ニ記載サレタル最少額ヨリ尙一層少ナク且ツ相互共益保險會社ノ被保險人タル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハ之ヲ補フテ最少額ニ達セシメンコトヲ要ス、即チ煙草製造事務所カ其不足額ヲ補フテ最少額ニ達セシメンコトヲ要ス、又タ

貯蓄保險會社ノ被保險人タル場合モ全ク同樣ナリト知ルヘシ、尙ホ之ヲ細言セン=雇人ニ給與スヘキ年金ノ最少額ハ斯ル雇人ノ爲メニ保證セラレタルモノト謂ツヘキナリ、然レトモ雇人ニシテ貯蓄保險會社ノ被保險人トナリテ年金額ノ少ナキニ甘ンスル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ追加金ヲ受ルコト能ハサルモノトス

雇人ノ勤續年限ヲ計算センニハ左ノ如キ方法ニ從フヘキモノトス、曰ク雇人カ疾病ニ罹リテ休業シタル場合若クハ兵役ニ服シタル期間ノ如キ皆ナ之ヲ勤續年限中ニ算入スヘキモノトス、其他シ、リー島ニ於テ私營煙草事業ニ從事セル期間モ尙ホ是レ勤續年限中ニ算入スヘキモノトス

舊雇人ニ給與スヘキ年金ニ關スル費用全部ハ煙草事業ニ要スル費用中ノ一部分トシテ政府ノ負擔ニ屬スルモノトス、然レトモ新雇人ニ至リテハ然ラス自カラ其保險料ヲ仕拂ハサルヘカラス、尙ホ之ヲ細說スレハ左ノ如シ、勞働者ノ大部分ヲ占メ居ル女性勞働者ハ其賃銀ノ內ヨリ月々一「リラ」宛ヲ差シ引カレ、男性勞働者ハ其賃銀ノ內ヨリ同シク月々二「リラ」宛ヲ差シ引カル、モノトス、而シテ尙ホ之ニ加フルニ政府ヨリノ補助金ト保險會社ヨリノ補助金トヲ以テス、即チ此等ノ二者ヨリ一ケ年間ノ補助金全額ハ女性雇人ニ對シテ二十二「リラ」、男性雇人ニ對シテ三十四「リラ」トス、故ニ此等ノ雇人ヨリ納付シタル保險料ト合算スレハ女性雇人ノ全額ハ三十四「リラ」トナリ、男性雇人ノ全額ハ五十八「リラ」トナルヘキモノトス

各雇人タルヘキモノハ二種ノ保險會社即チ相互共益保險會社及貯蓄保險會社ノ內、何レノ被保險人トナルヤ各自ノ適意ニ決セサルヘカラス、而シテ此法律ノ公布以後一ケ年以內ナランニハ、相互共益保險會社ノ被保險人ヨリ貯蓄保險會社ノ被保險人ニ轉センコトハ妨ケナキモノトス

從來ノ規則ニ從ツテ給與シ來リタル年金及勞力損耗年金ハ、此新法ノ規定スル所ニ從ツテ年金ニ變更センコトヲ要ス、然レトモ此等ノ年金ヲ交付スヘキ時期ニ於ケル賃銀ト勤續年限ニ關係ヲ有スコトハ無論ナリト知ルヘシ

一千九百三年三月三十一日ハ恰カモ是レ此法律ヲ發布セントスル時ナリシカ、此時ニ當リテ煙草專賣所ニ使用セラルヽモノ一萬六千百八十四名アリ、內年金ヲ受ケ居ルモノ二千三百七十一名アリ、而シテ現ニ勞働ニ從來シ居ル者一萬三千八百十三人アリ、內男性勞働者ハ僅カニ一千三百八十八名ニ過キス、即チ現在勞働者ノ一〇%ニ過キサルナリ、而シテ一千八百九十九年九月三十日以降業務ニ從事シタルモノハ僅カニ三千百七十名アリシノミ、即チ右總數ノ四分ノ一ニ過キサルナリ、即チ此等ノ雇人ハ强制的ニ被保險人タラサルヲ得ス、是レ新法令ノ然ラシムル所ナリ、然ルニ一萬六百四十三名即チ總數ノ四分ノ三以上ハ何等ノ貢獻スル所ナクシテ年金ヲ受ルモノト謂ツヘキナリ、而シテ此一萬六百四十三名ニ給與スヘキ年金額如何ト云フニ殆ント二千五百萬「リラ」ニ達セリト云フ、實ニ莫大ナル金額ナラスヤ

鹽業ノ事

一千九百五年七月八日發布ノ法律ハ實ニ左ノ如キコトヲ規定セリ、曰ク煙草事業ニ從事スル雇人ニ對シテ

ハ法律上年金ヲ給與スルコト、ナリ居レルカ、此法律ハ毫モ變更スルコトナク其儘政府事業トナリ居レル鹽業ニ從事スル雇人ニモ適用センコトヲ要ス、但シ此年金給與ノ事ハ一千八百九十九年九月若クハ其以前ヨリ此鹽業ニ從事セルモノ、及其時以來之ニ從事スルモノモ皆ナ其ニ年金ヲ給與セラルヽモノトス、今マ此鹽業ニ雇ハレ居ルモノハ殆ント二千人ノ多キニ及ヘリ

銅版及印刷局

銅版及印刷事業ニシテ官營トナリ株券、證券及其他重要ナル書類ヲ製出スル事業ニ從事スル男女ノ職工ニ對シテ、年金ヲ給與スル所ノ特別法ハ一千九百五年七月七日ヲ以テ裁可セラレタリ、蓋シ此特別法ナルモノハ畢竟スルニ煙草業ニ從事スル雇人ニ給與スル年金法繰リ返シタルモノニ過キス、只タ此二者ノ間ニ於テ異ナル所ハ左記ノ如キ事實ニ外ナラサルナリ、曰ク煙草業ノ雇人ニアリテハ舊雇人ト新雇人トノ區別ハ一千八百九十九年九月三十日ト定メタリシカ、鹽業ノ雇人ニ至リテハ此法律發布ノ日（一千九百五年七月十五日）ト定メタルカ如キコト是レナリ

失職保險ノ事

失職保險問題竝ニ失職者救護問題ナルモノハ或ル期間內由々シキ事柄トシテ討論サレタリシカ、之カ爲メ何等ノ結果モナカリシナリ、即チ賃銀取勞働者ノ爲メニ失職保險ニ關シテハ、現ニ伊太利國政府ハ何等ノ設備ヲモ爲サヽルナリ、今マ勞働者ノ職業ヲ失ヘルモノヲ救護センカ爲メニ實際ヲ運動ヲ爲シ居レルハ、同情相憐レムノ慈善心ニ出テタルモノニシテ其區域甚ハタ狹小ナラスンニアラス、又タ政府トシテ失職保險問題ヲ重大視シテ討論スルニ至リタルハ僅カニ此一兩年ニ過キサルナリ、此失職保險問題ハ隨分複雜シタル問題ニシテ吾人ハ今マ玆ニ詳論スルコト能ハス、僅カニ伊太利國ニ於テ適用サレタル方法ノ結果ヲ簡短ニ述ヘント欲ス

今マ失職保險問題ヲ適當ニ論評セント欲セハ伊國ニ於テ失職セルモノ、事實ヲ統計的ニ調査セサルヘカラス、失職保險ノ進步發達上最モ重要ナル關係アルハ商業組合ナルモノ是レナリ、此ニ於テカ商業組合ニ關スル事實ヲ蒐集シ從ツテ失職保險ノ事ニ論及セント欲ス

失職統計ノ事

伊國ニ於テ職業ヲ失ヘル者ノ總數如何ニ關スル事實ノ調査ハ甚ハタ不充分ナリト云ハサルヘカラス、勞働取締局ハ一千九百四年以來勞働者集會所ニ對シテ團體ヲ組織セル勞働者ノ數及其職ヲ失ヘル勞働者ノ數ヲ調査シテ差シ出スヘキ旨命シタリシカ、之ヨリ得タル事實ハ尙ホ不充分ナリト謂ツヘキナリ

失職者ハ統計的ニ調査スルニ最モ適當ナル材料ト云ヘルハ恐ラクハ左ノ如キモノナラン、即チ一千九百五年ニ於テ博愛慈善協會ヨリ出版セラレタル一書是レナリ、此書ハ一千九百三年七月一日ニ於ルミランノ有樣ニ關係セルモノト知ルヘシ、今マ此書中ニ記載シアル事實ノ概要ヲ擧ケンニ同町ニ於ル生產的人口十六萬五千三百五人アリ、內失職者ニ關係セル者トシテ報告セラレタルモノハ僅カニ二萬七千三百六名ニ過キ

ス、即チ全人口ノ一六・五%ニ當レリ、尙ホ此報告ノ人員中一千九百三年七月一日現ニ其職ニアリツキ居ラサリシモノハ六千三百八十八人ニ過キス、即チ其報告數ノ二三・四%ニ當レリ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ失職者六千三百八十八人ヲ年齡別ト男女別ト男女別ニシタル數ト百分比例トヲ示シタルモノ是レナリ

一千九百三年七月ミラン ニ於ル失職者六千三百八十八人ノ年齡別及男女別

年齡	男		女		合計	
	數	百分比例	數	百分比例	數	百分比例
十三歳未滿……	三〇	〇・六	一九	一・二	四九	〇・八
十三歳ヨリ十七歳ニ至ル	四〇三	八・七	二二八	二・四	六三〇	九・七
十七歳ヨリ二十一歳ニ至ル	七六四	一六・五	一七八	一・八	一、〇七七	一六・九
廿一歳ヨリ廿六歳ニ至ル	六七三	一四・五	三三三	一六・八	九六八	一五・二
廿六歳ヨリ三十歳ニ至ル	四三〇	九・三	二九五	九・三	五九一	九・三
卅一歳ヨリ四十歳ニ至ル	六五七	一四・二	二四三	一三・八	九〇〇	一四・一
四十一歳ヨリ五十歳ニ至ル	六〇三	一三・〇	二〇四	一一・六	八〇七	一三・六
五十一歳ヨリ六十歳ニ至ル	五九四	一三・八	一五二	八・七	七四六	一一・七
六十歳以上……	三六四	七・九	九九	五・六	四六三	七・二
報告ナキモノ……	一二五	二・五	五二	三・〇	一六七	二・六
合計	四、六三二	一〇〇・〇	一七五六	一〇〇・〇	六三八八	一〇〇・〇

失職シ居タル期間ノ長短ハミラン ニ於ル失職者ノ回答ニ示スカ如ク左表ニ依リテ之ヲ示スコト、セリ、職業ヲ失ヒ居タル事ニ就テ報告センコトヲ要求セラレタル者總計十六萬五千三百五名ナリシカ、内全ク何等ノ回答ヲモナサ、ルモノ十三萬七千九百九十九人アリ、即チ總數ノ八三・五%ニ當レリ、又タ前年中ニ於ル失職日數ヲ報告シ來レルモノ一萬八千七百二十人アリ、即チ總數ノ一一・三%ニ當レリ、此外決シテ失職シタルコトナシト報告シタルモノ八千五百八十六人アリ、即チ總數ノ五・二%ニ當レリ、而シテ一千九百三年七月一日ヲ以テ職業ヲ失ヒ居レリト報告シタルモノ六千三百八十八人ノ内八百七十八人即チ總數ノ一四%ハ引キ續キテ失職シ居ルコト一ケ年乃至四ケ年若クハ其以上ナリシト云フ

一千九百三年七月一日ノ調査ニ係ル失職者六千三百八十八人ヲ男女別ニシテ其失職期間ヲ示セルモノ

失職期間	男		女		合計	
	數	百分比例	數	百分比例	數	百分比例
八日……	二七八	六・六	一〇七	六・一	三八五	六・〇
十五日……	三八四	八・三	一五一	八・六	五三五	八・四
一ケ月……	三一三	一一・二	一四四	八・二	七六六	一二・〇

| | | |

伊國勞働協會ノ大半ハ他ノモノト合同一致セスンハアラス、即チ商業協會聯合會、農耕勞働者聯合會、若クハ勞働會議等ト合同一致スルカ如キ是レナリ

勞働會議所ナルモノハ我米國ノ中央勞働組合ニ比較スヘキモノナリ、然レトモ伊太利國ノ勞働會議所ハ半官半民的ニシテ、諸ロノ勞働協會ヨリ選出セラレタル代表者ヨリ組織セラレタルモノ是レナリ、而シテ此勞働會所ハ最近僅カ數年間ニ著シク進歩發達シタリ、一千九百六年ノ初メニ於テハ伊太利國ニ勞働會議所八十二ケ所アリ、二千七百三十二協會ヨリ組織セラレ、而シテ其會員總數ハ二十九萬八千四百四十六名ノ多キニ達シタリ、而シテ是レヨリ二年後ニ至リテハ其會議所ノ數增加シテ九十二ケ所トナリ、之ヲ組織スル協會ノ數モ增加シテ三千七百四十七トナリ、尚ホ之カ會員ノ數モ大ニ增加シテ五十四萬六千五百七十四人トナレリ

一千九百七年ニ於テ此等ノ諸會議所ノ收入總額ハ四十三萬二千二百四十一「リラ」ニシテ、同シク支出總額ハ四十萬二千二百六十六「リラ」ナリシ

然レトモ商業組合ノ聯合會ニ至リテハ勞働會議所ノ進歩發達ニ比シテ大ニ及ハサル所ナクンハアラス、一千九百七年ノ初メニ於テハ其聯合會二十一、之ヲ組織スル組合二千四十五ニシテ之カ會員ノ總數ハ二十萬四千二百七十一人ナリシカ、其翌一千九百八年ノ初メニ至リテハ其聯合會二十二トナリ（之ヲ組織スル組合二千五百九十九人トナレリ、且ツ此一ケ年間ニ新タニ聯合會ノ組織セラレタルモノ三會アリシカ故ニ結局一會增加シタルコト、ナレリ、又タ右一ケ年間ノ歳入ハ殆ント五十八萬三千六百四十二「リラ」ニシテ其支出ハ四十八萬零五百二十六「リラ」ナリシ

勞働協會ノ第三ノ重要ナル團體ハ農耕勞働ノ方面ニ屬スルモノ是レナリ、伊太利國ノ農耕勞働者ヨリ組織セラル、協會ハ最近僅カ數年間ニシテ著シク發達進歩シタルモノト謂フヘキナリ、一千九百六年ノ初メニ於テハ其協會數九百八十二ニシテ之カ會員數ハ二十二萬一千九百十三人ナリシカ、其レヨリ二年後ニ至リテハ協會數增加シテ一千八百九トナリ、之カ會員ハ四十二萬五千九百八十三人トナレリ

勞働會議所々員ハ五十四萬六千五百七十四、商業組合ノ聯合會々員ハ十九萬一千五百九十九、農耕勞働者ノ聯合會々員ハ四十二萬五千九百八十三ナルカ故ニ、伊太利國ニ於ル勞働組合ノ總人員ハ百十六萬四千百五十六人ト算セラル、モノ、如シ、然レトモ此總數中ニハ二重ニ計算セラレタルモノモ多カルヘキナリ、蓋シ商業組合員及農耕勞働者ノ多クハ勞働會議所ニ屬シ居ルヘケレハナリ

以上揭ケタル諸組合ヲ綜合シタル統計（地方、中央及國家的協會等ノ關係ヲモ示セルモノ）一千九百八年一月（一千九百七年ノ初メニモ係リ居レリ）公表セラレタリ

今マ左ニ示ス所ノ表ハ伊太利國ニ於ケル諸協會數及勞働組合員ノ總數殆ント六十八萬四千人ヲ示セルモノナリ

一千九百七年ノ初メニ於ル諸協會數、勞働組合員ノ數及勞働ノ種類、他ト聯合ノ狀況

勞働ノ種類及合同	協會數	會員數
農耕的勞働	五五一	一〇二、九七三
勞働會議所ト合同……	七五二	一七六、五四〇
獨立……		
小計	一、三〇一	二七九、五一三
工業的勞働		
只タ勞働會議所トノミ合同……	一、四三八	一四四、一〇〇
只タ聯合會トノミ合同……	六六一	五二、九六〇
勞働會議所及聯合會ノ二者ト合同	五六九	一二二、一六四
獨立……	二八二	四三、三〇九
小計	二、九五〇	三六二、五三三
鐵道雇人……	六〇	四二、〇〇〇
總計	四、三一三	六八四、〇四六
只タ勞働會議所トノミ合同……	一、九八九	二四七、〇七三
只タ聯合會トノミ合同……	七二一	九四、九六〇
勞働會議所及聯合會ノ二者ト合同	五六九	一二二、一六四
獨立……	一、〇三四	二一九、八四九
勞働會議所ト合同シタル者ノ合計	二、五五〇	三六九、二三七
聯合會ト合同シタル者ノ合計	一、二九五	二一七、一二四

(イ)印 ハ鐵道雇人ヲ包含スルモノ

今マ左ニ揭クル所ノ表ハ個別ニ各工業ノ有樣ヲ示シタル所ニシテ、以上揭ケタル事實ヲ尙ホ一層精密ニ顯ハシタルモノニ外ナラス、即チ左表ハ當ニ協會數及大ナル各工業團體ノ會員數ヲ示シタルノミナラス、其他夫々團體ノ合同組織セラレタル勞働團體數ト殆ント總テノ團體ニ使用セラレタル勞働者全數トノ比例ヲモ示セリ、今マ其レ各工業ニ使用セラル、勞働者ノ數(一千九百一年ノ調査ニ係ルモノ)ヲ以テ一千九百七年ノ初メツ方ノ調査ニ係ル各工業ニ使用セラル、勞働者ノ數ヲ除シタランニハ、勞働組合員トナレル勞働者ノ百分比例ヲ知ルヲ得ヘキナリ、但シ其後ノ調査數ハ尙ホ未タ知ルコトヲ得サルナリ

一千九百七年ノ調査ニ係ル勞働者ヨリ組織セラレタル協會數、勞働組合ノ會員、勞働ノ種類、合同ノ有樣及勞働組合ノ雇人ノ百分比例

勞働ノ團體ト合同協會

左記ノ團體ト合同獨立合計

單ニ勞働會議所ノミ　單ニ聯合會ノミ　勞働會議所ト聯合會トノ二者

勞働ノ種類	協會數	會員數	協會數	會員數	協會數	會員數	協會數	會員數	一千九百一年ノ調査ニ係ル雇入ノ全數	勞働組合員數ニ對スル百分比例
農耕業	五五一	一〇二、九七三	—	—	—	—	七五二	一七六、五四〇	一、三〇三、五一三、〇八〇	四・九
漁業	一	六〇	—	—	—	—	一	八五	一四五	三
金屬礦業	三	二四〇	一	五〇	—	—	三	六五五	二一、七二七	四・四
大理石其他ノ石切業	五八	四、三二六	四四	二、七〇〇	—	—	一五	八三四	六四、三〇六	一六・八
硫黄礦業	六	一、八四五	—	—	—	—	一四	八〇七一	四一、四〇二	一九・五
冶金業	一〇〇	二、七三三	八二	九、八九五	—	—	八	一九四	六一、二三二	二一・四
貴金屬細工業	一二	八九一	—	—	—	—	二	八〇	一二、二〇八	一七・九
陶器業	七	八九一	二〇	一、〇九一	六	四、二五五	二	九五	三五、一七	三・八
煉化業等	四五	五、六六三	三一	二、九二一	一八	一、一四一	九	一、〇八二	一〇三、九一一	一〇・三
硝子業	三一	二、〇七九	一八	一、一四一	一五	一、六五五	二	一八	四九、四九六	四・〇
建築業	一三〇	一三、四二八	二四	一五、六五五	四五	二六、六四八	四三	四、二三五	六〇、〇〇二	五・九
化學業	一八	二、一〇九	五	二、〇〇七	七	二、六二九	三	一七〇	五九、一一五	三・三
木工業	九一	八、〇〇一	二七	九七二	三三	一、二一四	一六	六九四	一二、一四六	五・九
籃細工業	五	三七	—	—	一	二〇	二	八	五九九	一・三
藁工業	一六	一、二二	—	—	—	—	一〇	七七	一五、二〇〇	一・三

製紙業	六	三九六	二	二八二	三	八、三六八	二	一、八二四	一二、二七〇	七・九
印刷業	三四	二、二八三	二四	二、二二〇	三四	三、二九六	三四	三、二一二	四〇、七	八・三
紡績、織物、染工業	六二	七、七九九	二四	一、六二二	四五	一〇、一〇二	四五	一四、九四六	四〇、七	三・八
革工業	二一	二、〇三三	五	一三六	八	一四、四五九	八	二、〇七三	二六、七	一・六
衣服業等	五二	四、〇三〇	四	二六九	九	九三三	九	一、六八三	一一、一四八	一・六
製帽業	五	三五二	二	一〇九	一八	四、八五一	一八	一、八五〇	一〇、一〇二	一・八
製靴業	三七	二、二五四	五八	三、八四二	三五	五、二八二	二六	一、〇二一	一五、二〇〇	一・三
理髮業	二二	一、六八三	六	一九七	五	八九〇	一	八二	二、八六二	三・四
穀物及糊業	五〇	五、〇〇九	七	二五五	五	三四〇	七	二、八六八	二三、八九〇	六・九
麵麭燒業	二九	二、四三八	三〇	一、二六一	三八	四、一七八	一二	三九九	一〇、三〇二	三・四
製糖業	二	二九五	一	六〇	一	一四八	二	二八三	一、八二四	一・三
其他ノ食物調製業	五二	八、四九六	—	—	—	—	五	九、五〇七	四四、〇六三	二一・六
海港業	四六	九、二八三	七	三、一四〇	八	一、二九二	二	一〇三	一、〇五〇	四・八
航海業	一三	九一八	一六	一、八五〇	一〇	三、七二五	二	一〇二	一、〇五〇	四・八
政府建築業	—	—	—	—	—	—	一	二〇二	一四、二〇八	四〇・六
市街鐵道業	二四	四、〇一六	—	—	—	—	—	—	—	—
各種ノ公共事業	九九	八、五一八	—	—	—	—	—	—	—	—
看護婦業等	一五	九〇四	一三	一、一六〇	三五	三、一七一	—	—	—	—
特ニ指名サレタル業	三四七	三〇、六九四	一	三五	一	五〇〇	七	一五、二〇〇	四二六	四六・四二九

合計	一九八九	二四七〇七三	六六二	五二九〇	五六九	一三二六四	一〇二四	二九八四九	四二五三	六四二〇四六	（ロ）	—

（イ）印ハ一千九百七年ノ初メニ於テ調査サレタル勞働組合員ノ數ト一千九百一年ノ調査ニ係ル雇人ノ數トニ依リテ計算サレタル百分比例ナリト知ルヘシ

（ロ）印ハ報告ナキモノト知ルヘシ

伊太利國ニ於ケル地方勞働協會及其聯合會ノ官能タルヤ、甚タ多クシテ且ツ其趣ヲ異ニセスンハアラス、就中其官能ノ最モ多數ニ亘レルハ恐ラクハ勞働會議所ノ活動ナラント思ハル、但シ聯合會ナルモノハ一層特別機關ニシテ集團的事務ヲ取ルモノト知ルヘシ、今マ勞働會議所ノ官能トシテ爲ス所如何ト云フニ、凡ソ勞働社會ノ利便トシ云ヘハ進ンテ之ヲ爲サヽルハナシト謂ツヘキナリ、例之ハ職業紹介所、法律上ノ爭論調停、敎育事業、職業新聞發行雇主ト雇人トノ中間ヲ融和スル仲介裁判所設立等皆ナ是レ勞働會議所ノ活動ニ某ツカスンハアラス、此外一千九百八年ニ於テハ三十九ケ所ノ勞働會議所ハ職業紹介所ヲ有シ、六十五ケ所ノ勞働會議所ハ法律的幇助事務所ヲ有シ、同シク三十ケ所ハ醫師ヲ雇ヒ入レ、十九ケ所ハ小學校ヲ有シ、四十四ケ所ハ文庫ヲ有スル等皆ナ是レ勞働社會ニ利便ヲ與ヘスンハアラス

勞働組合ノ失職救助ノ事

失職保險ニ關スル一ノ報告カ近キ頃衆議院ヘ提出セラレタルカ、其報告書中ニハ左ノ如キ事實カ記載セラレタリ、曰ク勞働協會ニ屬スル勞働者約五十萬アリ、內失職保險ノ保護ヲ受クルモノハ僅カニ五萬ニ過キス

伊太利國ノ勞働協會ハ概シテ少額ナレトモ其會員ヨリ會費ヲ徵收スルコト、セリ、故ニ其上或ル保險ノ種類ヲ設ケンハ不可能ナルモノ、如シ、今マ玆ニ失職保險ヲ實行スルニ足ルヘキ最モ大ナル國民勞働機關ナルモノアリ、伊國帽子製造業者ノ聯合會ナルモノ是レナリ、而シテ此聯合會ニハ三十六ノ支會ナルモノアリテ其會員總數ハ五千八百九十六名ニ及ヘリ、苟クモ此會員タルモノハ左ノ如キ有樣ニ遭遇シタル時失職的保護金ヲ給與セラルヽモノトス、曰ク此保護金ヲ受ケンニハ會員ニ加ハリテヨリ少ナクモ一ケ年ヲ經過シ居ラサルヘカラス、其職ヲ失フタルコト決シテ自カラ求メタルニアラス、畢竟スルニ止ムヲ得サルニ出テタルニ外ナラス、斯タ其職ヲ失フテ其他ニ賃銀ヲ得ル職ヲ失ヒ居タルコト少ナクモ一週間ナランコトヲ要ス

失職的保護金ハ十二週間以上與フヘキモノニアラス、又タ其之ヲ與フルヤ甚タ少額ナラスンハアラス、例之ヘハ最初ノ三週間ハ每週僅カニ二「リラ」ニ過キス、其次ノ三週間ハ每週三「リラ」其次ノ四週間ハ每週四「リラ」、五〇、而シテ最後ノ二週間ハ每週六「リラ」ヲ給與スルカ如キ是レナリ、第二等ノ團體ニ至リテハ其受クヘキ保護金尙ホ一層少ナキモノト知ルヘシ、即チ每週ニ就テ僅カニ一「リラ」ニ過キサルモノアリ、其レヨリ以上一「リラ」、五、三「リラ」四「リラ」、五ニ區別シテ給與セラルヽカ如キ是レナリ、蓋シ此等ノ保護金ハ會員ヨリ平生納付

シタル掛金ニ準スルモノナリ、但シ此掛金ナルモノハ强制的ニ納メシムルモノト知ルヘシ、斯クテ會員ノ二團體ノ納付スヘキ掛金ハ毎週十「センテシミー」及五「センテシミー」ニシテ此内ヨリ失職保險料トシテ四「センテシミー」及二「センテシミー」ヲ引キ去ルヘキモノトス、尙ホ此上聯合會ヨリ一千九百八年中ニハ失職保護金トシテ二千九百八十六「リラ」ヲ分擔シ旅費トシテ一千九百十四「リラ」ヲ支出シタレハ總計四千九百「リラ」トナレリ

又伊國硝子職工聯合會ナルモノアリ失職救護法ヲ實行セリ、乃チ此等ノ硝子職工ニシテ左記ノ如キ三種ノ境遇ニ陷リタランニハ聯合會ヨリ救護スルコト、セリ、曰ク第一、一旦休業シテ後二ケ月以内ニ同一ノ會社ニテ元ノ業ニ復スルコト能ハサル場合若クハ同一ノ地方ニ於テ復業スルコト能ハサル場合、第二、或ル會社ニテ雇人ノ數ヲ減少セサルヘカラサル必要アリテ、其必要ナルコトハ既ニ其筋ヨリ認定セラレタル所ニシテ之カ爲メニ解雇セラレタル場合、第三、職工自身ノ失業不都合ニアラスシテ已ムヲ得ス解雇セラレタル場合ノ如キ是レナリ、乃チ此等ノ場合ニ於テハ三者共ニ是レ聯合會ノ元資金中ヨリ斯ル失職者ニ對シテ規定ノ保護金ヲ給與スルモノトス

石版工聯合會モ亦タ是レ失職保護金ヲ給與スルコト、セリ、蓋シ其保護金ヲ給與スルヤ中央委員會ノ監督ノ下ニアリテ强制的ニ之ヲ給與センコトヲ要ス、然レトモ其會員タルモノニシテ其保險ニ加入スルト否ラサルトハ會員ノ隨意タラスンハアラス、然レトモ一旦其保險ニ加入シタル會員ハ一週間毎ニ十「センテシミー」ノ保險料ヲ納付セン事ヲ要ス、既ニ斯ル保險料ヲ納付シタランモノハ、勞働社會不景氣ノ爲メカ若クハ自カラ責任ヲ有セサル原因ノ爲メ、其職ヲ失フタル場合ニ於テ保護金ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノトス、而シテ其受クヘキ保護金タルヤ一日ニ就キ一「リラ」ヨリ二「リラ」マテトス、且ツ此保護金ヲ給與セラルヽニ就テハ極メテ嚴重ナル規定ニ從ハサルヘカラス、即チ此保護金ヲ受ケント欲スル會員ハ少ナクモ一週間ニ三回其團體ノ本部ニ出頭セサルヘカラス、又タ其地方部ノ委員會ヨリ命セラル、或ル業務ニハ甘ンシテ服セサルヘカラサルカ如キコト是レナリ

印刷業者聯合會ハ失職救護機關ヲシテ其會員中ノ個人團體ニ委任セシムル事トセリ、蓋シ此個人團體ノ數ハ總計百二十五ト算セラル、而シテ一千九百八年中此等ノ團體ヨリ失職救護トシテ支出セラレタル總金額如何ト云フニ、旅費トシテ支出セラレタル金額九千七百九「リラ」八〇ニ加フルニ失職日數四萬百五十三日ニ對シテ給與セラレタル金額六萬二千三百三十九「リラ」四五ヲ以テセハ此總計七萬二千零四十九「リラ」二五トナルヘキナリ

一千九百五年ニ於テミラン博愛慈善協會ノ勞働局ヨリ出版セラレタル一書アリ、名ケテ失職救助法研究ト云フ、而シテ此書ノ内容如何ト云フニ、當時ミラン勞働機關ニ於テ實行シタル失職救護法ノ各種類ヲ詳細ニ記述シタルモノ是レナリ、當時ハ此博愛慈善協會ニテ失職資金ノ設備ナルモノ曾テアラサリシナリ、一千九百三年ミラン勞働會議所ニ於テ行ハレタル調査ニ依レハ勞働機關ナルモノ百十五アリ、此等ノ機關中失職

救護法ノ設備セラレタルモノ四十一、實際之カ設備ヲ爲シツヽアルモノ三十二アリ、且ツ此失職救護法ナル者ハ冶金工場及器械工場ノ雇人中ニ行ハル、コト多キニ居レリ、即チ斯ル工場十七ケ所ノ内此救護法ノ設ケナキモノハ僅カニ二ケ所アルノミ、此外印刷業者團體十四ノ内此救護法ノ設ケアルモノ八ケ所ニ及ヘリト云フ、而シテ斯ル救助金拂渡ノ方法順序等ハ各々異ナル所ナクンハアラス、蓋シ此等ノ機關ハ全ク民間有志者ノ組織ニ成リタレハナリ、而シテ會員ヨリ納付スヘキ掛金ハ全會員ヲ通シテ同額ナルアリ、或ハ年齡別ニ從ツテ夫々異ナルモノアリ、或ハ年齡十八歳末滿ノ雇人ヨリハ一層少額ノ掛金ヲ徵收スルアリ、或ハ器械取扱長及徒弟等ヨリハ前數者ヨリ異ナリタル掛金ヲ爲サシムルコトアリ、或ハ給料額ニ準シテ納メシムルモノアリテ殆ント一定スル所ナキモノ、如シ、然レトモ普通一般ノ掛金額ハ毎週間ニ就テ十「センテシミー」乃至十五「センテシミー」トス、而シテ毎日受クヘキ失職保護金ハ一「リラ」ナリト知ルヘシ

會員ニ給與セラル、失職保護金額ハ區々ニシテ一定スル所アラス、或ハ會員ニ加ハリシ以來ノ年數ニ關係スルコトモアルヘシ、又タ失職保護金ヲ拂ヒ渡スヘキ期間制限ニ關スル規則ナルモノアリ、通常此保護金ヲ拂ヒ渡スヘキ期間ハ六週間乃至八週間ノ定メナリシカ、或ハ斯ル期間ヲ經過シテ後モ尙ホ同一ノ期間内以前ノ保護金ノ半額ヲ給與スル團體モ之レアルナリ、而シテ今マ左ニ揭クル所ノ表ハミラン ニ於ル失職保險團體ノ會員ノ掛金額ト團體ヨリ給與セラル、保護金ニ關スル統計ヲ示シタルモノ是レナリ

失職救護團體ノ掛金及保護金

職業別	毎週會員ノ掛金（セント）	毎日給與セラルヘキ失職保護金（仙）
象眼細工師	一仙、九〇三仙、九〇五仙、八 （イ）	九仙、七〇十四仙、五〇十九仙、三〇 （ロ）
武器製造人	二仙、九〇四仙、八〇六仙、八〇 （イ）	十四仙、五〇十九仙、三〇二十九仙、〇〇
青銅細工師	一仙、〇〇一仙、九〇二仙、九〇 （イ）	九仙、七〇二十仙、三〇二十九仙、〇〇
眞鍮細工師	二仙、九〇三仙、九〇	十九仙、三〇二十九仙、〇〇
彫刻師	四仙、八〇	二十仙、〇〇三十八仙、六〇五十仙、二〇
植字職工	一仙、〇〇一仙、九〇	九仙、七〇十九仙、三〇
鍛冶師	二仙、九〇	十五仙、四〇
印刷女工	二仙、九〇	三十仙、九〇
「タイプ」職工	一仙、〇〇一仙、九〇二仙、九〇	九仙、七〇十九仙、三〇二十九仙、〇〇
鑄物師	一仙、〇〇一仙、九〇二仙、九〇	九仙、七〇二十仙、三〇二十九仙、〇〇
鐵工	四仙、八〇 （ホ）	十九仙、三〇二十四仙、一〇二十九仙、〇
印刷彫刻師	十一仙、六〇十七仙、四〇廿三仙、二〇 （イ）	九仙、七〇十四仙、五〇十九仙、三〇
器械製造者	一仙、九〇三仙、九〇五仙、八〇 （イ）	十九仙、三〇二十九仙、〇〇
錫鍛冶師	二仙、九〇三仙、九〇	十四仙、五〇十九仙、三〇
寫眞師助手	二仙、九〇四仙、八〇	九仙、七〇十九仙、三〇二十九仙、八〇
金屬蛇腹職工	一仙、九〇二仙、九〇三仙、九〇 （イ）	

器械學者	一仙、九。四仙、八。	(イ)	九仙、七。十九仙、三。
美術器械職工	二仙、九。四仙、八。	(イ)	十一仙、六。十九仙、三。
石版師	三仙、九。七仙、七。九仙、七。	(イ)	十九仙、三。
屠畜者	二十一仙、二。	(ホ)	九仙、七。
模型製造人	一仙、九。二仙、九。三仙、九。		十九仙、三。二十九仙、〇。三十八仙、六
金細工人	七仙、七。十一仙、六。	(ヘ)	十四仙、六。二十四仙、一。
毛皮革類職工	五仙、八。十一仙、六。	(ホ)	十九仙、三。二十一仙、一。二十九仙、〇
研師	一仙、九。		十九仙、三。
鉛管職工	一仙、九。二仙、九。		九仙、七。十九仙、三。
馬具師及革嚢職工「ステ」オタイプ」及「ガルヴハニ」鍍金師	(ト) 九仙、七。		十九仙、三。二十九仙、〇。
染工、形付職等	二仙、九。三仙、九。		二十九仙、〇。
金屬挽物師	一仙、九。二仙、九。四仙、八。六仙、八		九十六仙、五。百三十五仙、一。(チ)
金屬彫刻師等	一仙、九。二仙、九。三仙、九。五仙、八		九仙、七。十九仙、三。二十九仙、〇。
亞鉛蝕鏤師	一仙、六。一仙、九。二仙、九。		四仙、八。九仙、七。十四仙、五。十九仙、三
			十九仙、三。二十七仙、〇。卅三仙、八。
合計	—		—

(イ)印 ハ同盟罷工保護金ニ關スル掛金ヲモ含メルモノ

(ロ)印 ハ報告ナキモノ

(ハ)印 ハ失職期間ヲ全通セルモノ

(ニ)印 ハ會員ノ年數ニ從フモノ

(ホ)印 ハ毎月ヲ示スモノ

一千九百二年ノ調査ニ係ルミランニ於ル保險機關

失職保護金拂渡ノ期間		年内保護金拂渡ノ日數					年内ニ拂ヒ渡シタル保護金額	
保護金全額	保護金半額	會員數	此年内失職者ノ數	日數	會員一名ニ付テノ平均日數	保護金受領ノ毎會員ニ付テノ平均日數	總計	保護金平均額
八週間	八週間	九五〇	八四	二、五三二	二・七	三〇・一	三〇〇・三三弗	四・六五弗
(ロ)	(ロ)	一〇九	二五	三二九	三・〇	一三・二	五八・八六	二・三五
八週間	八週間	三〇〇	一	九六	〇・三	九六・〇	一三・九〇	一三・九〇
(ハ)	……	二三三	二四	三四九	一・五	一四・五	八三・八三	三・四九
六週間	……	一〇一	六	二三〇	二・三	三八・三	六六・五八	一一・一〇
六十日	……	八九八	一四五	六、九五九	七・七	四八・〇	一、九九三・一六	一三・七五
八週間	八週間	八二五	五	二四六	・三	四九・二	三八・二一	七・六四
六週間	……	二九七	一八	二二一	・七	一二・二	三六・一七	二・〇一
六週間ヨリ十二週間ニ至ル(ニ)	……	一一九	五	六六	・六	一三・二	二三・六二	四・七二
八週間	四週間	一、二〇〇	二五	六九七	・六	二七・九	一三四・五二	五・三八
(ロ)	……	一九〇	三八	一、五二五	八・〇	四〇・一	三七三・九〇	九・八四

六十日	……	七五〇	一〇三	三、二二九	四・三	三一・三	八九五・三三	八・六九
八週間	……	一三八	四七	二六四	一・九	五・六	六七・七九	一・四四
十週間	……	七五	…	…	…	…	…	…
八週間	八週間	二一〇	…	…	…	…	…	…
(ロ)	……	四一	一	四二	一・〇	四二・〇	八・一一	八・一一
十三週間	……	九五	…	…	…	…	…	…
八週間	……	一一七	一三	三五一	三・〇	二七・〇	六四、八五	四・九九
八週間	八週間	二三〇	一〇	三九二	一・七	三九・二	六四・一五	六・四二
六十日	……	五二七	四八	一、七一六	三・三	三五・八	三三一・一九	六・九〇
(ロ)	(ロ)	二三〇	一〇	二九五	一・三	二九・五	二八、四七	二・八五
六週間	六週間	七五	一四	二二九	三・一	一六・四	六七・五五	四・八三
六週間	……	三六〇	一〇	二五六	〇・七	二五・六	六二・七六	六・一八
廿四日、卅日、四十二日	……	九八七	四八	五〇六	〇・五	一〇・五	一一五・三七	二・四〇
八週間	八週間	二四〇	一五	一七五	〇・七	一一・七	三二・六二	二・一七
六週間	……	一〇八	…	…	…	…	…	…
二ケ月	……	一七〇	…	…	…	…	…	…
六週間	……	六〇	三	六〇	一・〇	二〇・〇	一九・一一	六・三七
三ケ月	……	六六六	一四	三八五	〇・六	二七・五	五九・四四	四・二五
八週間	八週間	一、四〇〇	一三五	四、八四七	三・五	三五・九	九五七・三三	七・〇九
八週間	八週間	一三八	…	…	…	…	…	…
六週間	六週間	一四四	二〇	三三三	二・三	一六・七	八〇・九八	四・〇五
合計(前者ヲ含ム)		二、九八三	八六七	(リ)二五、六二九	二・一	二九・六	六、〇六七・一三	七・〇〇

(ヘ)印　ハ二ケ月ヲ示スモノニシテ同盟罷工保護金ニ對スル掛金ヲ含メルモノ

(ト)印　ハ聯合會議ニテ定メラレタルモノ

(チ)印　ハ毎週ヲ示スモノ

(リ)印　ハ此合計ニ正確ナル金額ヲ示スモノニアラス、本來ノ報告中ノ數字ヲ示シタルニ過キス

久シキ年月間失職保險ヲ行ヒ來リタル二個ノ勞働機關アリ、活版職工ノ團體ト植字工ノ團體ニシテ此二者終ニ一致結合セリ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ此等ノ二者活動ノ重モナル結果ヲ示シタルモノ是レナリ、蓋シ植字工ノ方ニアリテハ一千八百七十七年ヨリ一千九百一年ニ至ルマテノ期間ニ係リ、活版職工ノ方ニアリテハ一千八百八十年ヨリ一千九百二年ニ至ルマテノ期間ニ關スルモノト知ルヘシ

若干ノ年月間ニ於テミランノ植字工ト活版職工トノ聯合團體ニテ實行シタル失職保險ノ結果

條目	一千八百七十七年ヨリ一千九百一年ニ至ル植字工	一千八百八十八年ヨリ一千九百二年ニ至ル活版職工
納付金		
通常……	二三、一六九・八一 邦	九、三四四・一二 邦
非常……	一、五九九・五五	一、〇〇二・三二

合計			
毎年毎會員ニ付テノ平均額	二四、七六九・三六	一〇、三四六・四四	
	一・三二	一・二六	
拂渡保護金			
通常	二三、六一六・八八	六、六七二・〇九	
	一、〇二八・六一	七三・四八	
非常			
合計			
毎年毎會員ニ付テノ平均額	二四、六四五・四九	六、七四五・五七	
毎年ノ平均額	一・三〇	〇・八二	
	九八五・八二	二九三・二九	
失職保護金ノ支拂			
保護金支拂ヲ受ケタル人員	七一、七九九	二四、五七三	
毎年ノ平均數	二、九七二	一、〇〇八	
毎年毎會員ニ付テノ平均額	三・八	三・〇	
會員			
數年ヲ通シテノ全數	一八、九二九	八、二〇八	
保護金ヲ受領セル人員	一、一八二	九二四	
保護金ヲ受領セル百分比例	六・二四	一一・二六	

有志家ノ私設ニ係ル失職保險ノ事

相互共益協會

相互共益協會ハ小規模ナカラ年齡二十五歲以上ノ勞働者ノ爲メニ失職救助ノ事ニ關シテ何等カノ活動ヲ爲シタルコトアリシ、今マ此事ニ就テ聊カ論述スル所アラントス、相互共益協會ニ關スル統計的報告ニ據リテ之ヲ觀レハ、一千八百八十五年ニ於テハ此等ノ協會ノ數百八十四アリシ、勿論此等ノ協會ノ諸ロノ事業中ニハ彼ノ失職救助ノ事モ含ミ居ルモノト知ルヘシ、而シテ一千八百九十五年ニハ其協會ノ數二百三十四トナリ、一千九百四年ニハ尙ホ增加シテ四百十七トナレリ、即チ此等ノ協會全數ノ六・二%ハ失職救助ヲ爲シ居レルモノナリ、然レトモ此等ノ協會カ失職救助ノ爲メニ果シテ幾許ノ金額ヲ支出シタリシヤハ之ヲ知ルコト能ハサルナリ、尤モ一千八百八十五年ニ係ル失職救助ノ費用ノミハ之ヲ明ラカニスルコトヲ得タリ、即チ其費用ハ三萬二千七百八十七「リラ」ナリシナリ

失職保險問題ナルモノハ事態一種格段ナルモノナルカ故ニ、之ヲ實行スルニ就テハ一種特別ナル機關ナカルヘカラス、最近十ケ年間ニ伊太利國ニ於テ特種ノ失職保險會社ナルモノノ設立セラレタル一ニシテ足ラスト雖モ、皆ナ是レ試驗的ニ屬スルモノニシテ決シテ完全ナルモノニアラス、好シ此等ノ協會ノ活動スル範圍狹小ナルニモセヨ、漸ヲ逐フテ完全ナル方法モ設ケラルヘケレハ兎ニ角重要ナル計畫ト云ハサルヘカラス、請フ是レヨリ此事ニ就テ簡短ニ述ル所アラントス

特種失職保險會社ノ事

ボロナ、一千八百九十六年ニ於テ早既ニボロナ貯金銀行ノ頭取某ハ個人ノ貯金計算ニ關シテ一ノ新案ヲ提出シタリ、所謂ル其新案トハ勞働者自身ノ所爲ニアラスシテ止ムヲ得サルノ事情ヨリ其職業ヲ失フタル場合、之ニ對シテ保護金ヲ給與スヘキ考案ニシテ此保護金ニ充ルカ爲メニ二十萬「リラ」ノ特別資金ヨリ生スル利子ヲ讓與スルコトヽシタルコト是レナリ、

苟クモボロナニ生レテボロナニ住居シ年齡十四歳以上ニシテ賃銀取ノ勞働者タランモノハ、ボロナ貯金銀行ヨリ貯金通帳ヲ交付セラルヽモノトス、今マ其勞働者ノ種類ヲ擧ケンニ石工、大工、鍛冶師、屋根屋、洗濯屋、大理石職工、錫鍛冶師、硝子職工、左官ノ如キ是レナリ

斯クテ各貯金者ハ其規定ノ年齡ニ從ツテ或ル期間内ニ三「リラ」乃至五「リラ」ヲ預ケンコトヲ要ス

右ノ如ク貯金ヲ爲シタル後其預主タル勞働者ニシテ自カラ爲シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其貯金銀行ヨリ保護金ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノトス、即チ其勞働者ノ年齡如何ニ從ツテ日々六十「センテシミー」若クハ一一「リラ」ヲ受クヘキモノトス、斯クテ此保護金ナルモノハ其失職當日ヨリ起算シテ六日目ヨリ三日分ツヽ、一纏メニシテ支拂ハルヽモノトス、但シ此保護金ヲ給與セラルヽ期間四十日間トス

然レトモ彼ノ特別資金ノ利子カ全ク盡キタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ預金者タランモノハ其預金ノ元利トモ受ケ取ルヘキ權利ヲ有スルモノトス、但シ其全額カ四十「リラ」ヲ踰ヘサルモノトス、然レトモ其職ヲ失ヘルコトカ疾病若クハ變災ニ起因スル時ハ保護金ヲ與フルノ限リニアラス、斯ル失職者ニ對シテハ別ニ救助ノ方法ナクンハアラス

預金者カ右ノ如キ保護金ヲ得ント欲スル場合ニハ必ラス適當ノ證明書ナクンハアルヘカラス、即チ其雇主及同職ノ者四名ノ證明書是レナリ、所謂ル同職ノ者トハ同一ノ雇主ノ下ニアリテ同一ノ業務ヲ取レルモノニシテ、現在其業務ニ從事シ居ルモノヽ謂ナリ

右ノ如キ被保險人ニ尚ホ未タ其保護金ヲ受ケスシテ保險期間内ニ死亡シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其相續人カ死者ノ預金ノ元利共ニ受クヘキモノトス、又タ貯金銀行ノ方ニ於テ保護金給與ヲ中止シタラン場合モ右同樣ニ有效ナルモノトス

尚ホ此銀行ノ計畫スル所ニテハ被保險人ニシテ保護金ヲ受クヘキ權利ヲ買收スルコトヲ得ヘキナリ、即チ三「リラ」若クハ五「リラ」ヲ拂ヒ込ミテ失職シタル時四十日間保護金ヲ受クヘキナリ、然レトモ他ノ方面ヨリ之ヲ見レハ被保險人ニシテ若シ其保險期間内ニ其職ヲ失フコト之レナシトセンカ、其預ケ入レタル金額ヲ失フノ恐レナクンハアラス、畢竟スルニ是レ相互保險制度ノ常則ノ適用ノ結果ニ外ナラサルナリ、此保險制度尚ホ未タ充分發達セサルカ故ニ斯ク預金ヲ失フノ恐レナキ能ハス、サレハニヤ此保險制度カ一般ノ人氣ヲ得ルコト能ハサルナリ、此保險制度實行ノ初年中ニ被保險人トナリタル勞働者ハ僅カニ二十七名ニ過キス、而シテ其預

金額ハ利子ヲ併セテ百十七「リラ」五九ナリシカ、給與シタル保護金額ハ六百六十「リラ」四〇ニ達シタリ

斯クテ第二年目ニ至リテハ石工、屋根屋、洗濯屋、左官等ハ既ニ失職セル場合ノ保險之アルヲ以テ之ヲ除外スルコト、セリ、且ツ左ノ如キ論ヲ立ルモノアリ、曰ク抑モ此保險制度ノ學說タルヤ不意若クハ測リ知ルヘカラサル事變ニ對シテノミ保護ヲ與フヘキモノナリ、故ニ保險料ノ如キモ其不意ナル事變ノ生シ易キ度合ニ準スルヲ至當ト謂フヘキナリ、然レトモ若シ其事變ノ生スルコトカ確實ナランニハ之カ爲メニ保險ハ實ニ不必要ナリト云ハサルヘカラス、又タ以上除外セラレタル職業ノ代リニ更ニ他ノ職業カ付ケ加ヘラレタリ、即チ彈藥製造所ノ職工、鞄師、帽子製造者、車製造人、製革職工、麵包屋、蹄鐵工、眞鍮細工師、橋梁職工、馬具師、石切工、染工、撓物師等是レナリ、斯クテ此等ノ勞働者ニシテ彼ノ保護金ヲ受ケンニハ貯金通帳ヲ所持シテ以來少ナクモ一ケ年間ヲ經過シ居ラサルヘカラス、又タ同一ノ雇主ノ下ニ久シク使用セラルヽモノニ常ニ雇主ヲ變更シテ働クモノニ對シテ好模範ヲ示スモノト謂ツヘキナリ、此ニ於テカ少ナクモ一ケ年間同一ノ雇主ノ下ニアリテ働キタルモノニ限リテ保護金ヲ給與スルコト、定メタリ、此外保護金給與ノ期間モ四十日ト定メ、且ツ其金額ノ如キモ其全額ヲ「二十四」リラ乃至四十「リラ」トスルコト、定メタリ、又タ失職ニ關スル證明書モナカルヘカラス

斯クテ一千八百九十八年ー九十九年ニ至リテ其他ノ變更ヲ生シタリ、即チ貯金通帳ヲ所持シ居ル期間一ケ年ナリシヲ短縮シテ三ケ月トナシ、尚ホ其後之ヲ減シテ一ケ月トナシタリ、又タ同一ノ雇主ニ使用セラルルコト一ケ年ナリシヲ減少シテ六ケ月トナシタリ、特種ノ工業ニ從事スル女工モ亦タ是レ許シテ此保險制度ニ屬セシムルコト、セリ、又タ從事ノ職業別ヲ一層擴張シテ左記ノ如キ職業ニ從事スルモノヲモ許スコト、セリ、曰ク兵器廠、煙草製造業、礦物製造業等ニ從事スル職工及撒水人夫ノ如キモノ是レナリ、然レトモ斯ク其規則上ニ改正變更スル所アリト雖モ勞働者ノ利益ヲ計ルニ是ラサリシナリ、兎ニ角保險料トシテ納付シタル五「リラ」ヲ失フノ恐レアルコトカ此保險制度橫張ノ妨碍トナリタルモノト謂ツヘキナリ、今マ等等ノ銀行頭取ヨリ發セラレタル報告書ニ據リテ之ヲ視ルニ、失敗ノ重モナル原因ハ此保險制度ノ原則ニアリト云ハサルヘカラス、失職期間長キニ亘リ勞働者ノ困難スルコトボロナニ於テハ左マテ甚ハタシカラサルナリ、但シ建築業ニ從事スル勞働者ハ保險制度ヲ適用スルコト能ハサルカ故ニ此限ニアラサルモノト知ルヘシ、斯ク建築業ニ從事スル勞働者ハ保險制度ノ恩澤ニ浴スルコト能ハサルヨリ止ムヲ得ス他ノ方法ニ從フコト、ナレリ、即チ一ノ定マリタル目的ニ對シテ個人トシテ貯蓄スルノ方法是レナリ、而シテ貯金銀行ニテハ斯ル貯金ヲ奬勵センカ爲メニ斯ル貯金ヲ爲スモノニ對シテ補助金ヲ給與スルコト、セリ、蓋シ一千九百一年ニ於テ斯ル貯金法ニ關スル新規則カ制定セラレタリ

右新規則ノ主意如何ト云フニ個人ヲシテ貯金銀行ニ金圓ヲ預ケシメント欲スルニアリ、貯金銀行ニ於テ之カ利殖法ヲ取ルハ勿論ナリト知ルヘシ、且ツ此銀行ニ於テハ十萬「リラ」ノ資金ヨリ生スル利子ハ、之ヲ個人預金者ノ團體中ニ分配スルモノト知ルヘシ、但シ之ヲ分配スル金額ハ預金額ニ比例スルコト、セルモ、

一人一ケ年ノ預金額ハ四十「リラ」ニ踰ヘサルモノトセリ、又タ右ノ補助金ナルモノハ預金ノ元金ト均シク利子ヲ生スヘキモノトス、斯クテ預金者ノ預金ヲシテ失職保護金タラシメンニハ夫々規則ニ從ハサルヘカラス、今マ其規則ノ概要ヲ揚ケンニ、預金者ノ職ヲ失ヘルコトカ其預金者自身ノ失策ニ依ラス、止ムヲ得サルニ出テタル場合ニノミ限リテ保護金ヲ給與スルコト、ナシ、其保護金ハ其預金中ヨリ引キ去ラルヘキモノニシテ、其保護金額ハ一日ニ就キ一「リラ」、五〇ヲ踰ユヘカラサルモノトス、又タ此保護金ナルモノハ之ヲ受クヘキ預金者自カラ出頭シテ之ヲ受ケサルヘカラス、若シ充分ナル理由ヲ申シ述ヘスシテ他ノ者ヲシテ之ヲ受ケ取ラシメントスル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ支拂フヘキ保護金、積算セラレタル利子及補助金ハ皆ナ之ヲ沒收セラルヽモノトス、但シ此内補助金及之ヨリ生スル利子ハ此預金者ノ帳簿上翌年度ヘ繰リ越サシムヘキモノトス、若シ又タ斯ル被保險人ノ死亡シタル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ補助金及補助金ヨリ生スル利子ハ共ニ沒收セラレテ元ノ資金中ニ組ミ入レラルヽモノトス、然レトモ其死者カ生前ニ納付シタル掛金及其掛金ヨリ生スル利子ハ共ニ是レ其相續人ニ支拂ハルヘキモノトス、斯クノ如キ次第ナルカ故ニ一ノ勞働者ニシテ斯ル失職救助機關ニ加名シタランニハ、其掛金ヲ失フカ如キ危險ハ曾テ之レナキモノト知ルヘシ、又タ一千九百一年ノ新計畫ニテハ銀行ヨリ任意ニテ若干ノ金圓ヲ支出スルカ故ニ、預金者ノ方ニ取リテハ毫モ危險ナカルヘキナリ、抑モ此計畫ハ一層多ク一般ノ人氣ヲ博シ從ツテ預金者ノ數大ニ增加シ、彼ノ規則ニテ定メラレタル保護金ノ最多額ナル四十「リラ」カ果シテ支拂ハルヽヤ否ナヲ疑ハシムルマテニ至レリ、事態斯クノ如クシテ世人ヲシテ保護金ノ最多額ハ實際支拂ハルヽニ相違ナカルヘシトノ觀念ヲ生セシムルニ至レリ、サレシテ此最多額ノ制限ハ全ク行政會議ニ一任スルコト、ナレリ

又タ同年ニ於テ十八歲未滿ノモノハ被保險人タルコトヲ許サヽルコト、シ、而シテ十八歲以上二十一歲マテノ者ニ對シテハ日々ノ保護金ヲ一「リラ」ト制限シタリ、是レ他ナシ斯ル少年ヘノ日々ノ保護金額ヲシテ其日々儲ケ得ヘキ賃銀ヨリ多カラシメタランニハ、其怠惰及失職ヲ鼓舞奬勵スルノ動力タルノ恐レアルヘケレハナリ、其後幾干モナクシテ婦人ノ勞働者ヲ除外スルコト、セリ、是レ他ナシ女子ノ取ルヘキ職業ニシテ其職ヲ失ヘルコトヲ確證スルコト甚ハタ困難ナルヘケレハナリ、尙ホ一千九百一年ノ末ツ方預金者ノ數最モ著シク增加シタルヨリ從來ノ資金ニ尙ホ十萬「リラ」ヲ增加スルノ必要起リ、且ツ會員ヲ郡ノ居住者ニ求メス、ボロナ市ノ住民ニ限ルヘキコト、セリ、保險機關ノ形式斯クノ如クナリタルニモ拘ラス、預金者ノ數著シク增加シ來リタリ、而シテ一千九百三年ニ至リテハ左ノ如キコト甚ハタ明ラカトナレリ、曰ク是レマテ給與セラルヘキ保護金額ニシテ是レナラハ充分ナルヘシト思惟セラルヽ程度アリシカ、保護金ヲ受クヘキ人員著シク增加シタルヨリ從來ノ儘ニテハ支拂上差シ支ヘルコトアルヲ以テ、其金額ヲ右程度以下ニ引キ下クルノ必要起レルコト是レナリ、但シ既ニ被保險人トナリタルモノニ對シテ其他ノ禁制ノ設ケラレタラン場合ハ此限ニアラス、又タ規定ノ年齡ニ達セサル賃銀取ノ勞働者ハ皆ナ之ヲ除外スルコト、セ

リ、是レ他ナシ斯ル年少者ハ其職ヲ失ヘル時往々其家庭ヨリ救助セラルヘキ機會アレハナリ、其他年齢六十五歳以上ノモノハ之ヲ除外スルコト、セリ、是レ他ナシ斯ル年齢ニ達シタランニハ、働力損耗シテ事ニ堪ヘサルハ自然ノ結果ニシテ老衰者トシテ取リ扱フヨリ外ニ途ナケレハナリ、右ノ如キ種々ノ制限ヲ設ケラレタルニモ拘ラス、此保險制度ニ關スル費用ハ急激ノ速度ヲ以テ增加シ來レルナリ、斯ク其費用ノ增加シ來レルハ畢竟スルニ此制度ノ誤用セラル、コト一ニシテ足ラサレハナリ、例之ヘハ失職ニ關スル事柄ノ詐欺ニ出ルアリ、或ハ貯金上詐欺ノ行爲ニ出ル等皆ナ是レ此保險制度ノ費用ヲ多大ナラシムル所以ナリ、然レトモ實際斯ル詐欺行爲ヲ見顯ハサンハ甚タ困難事ナリト云ハサルヘカラス、最モ普通一般ニ行ハル、詐欺ト云ヘルハ、實際或ル業務ニ從事シテ相當ノ賃銀ヲ得ツヽアルニモ拘ラス、詐欺ノ申立ヲ爲シテ失職保護金ヲ得ント欲スルモノ是レナリ、蓋シ斯ル詐欺ヲ防止センニハ策ナキニアラス、實際其職ヲ失ヒ居ルコトヲ證明セシメンカ爲メニ、其保護金受取トシテ日々必ラス保險會社ヘ出頭セシメサルヘカラサルコト、ナスカ如キコト是レナリ、或ハ失職者クランモノハ一日内ニ二回保險會社ヘ出頭セシメサルヘカラスト云ヘル說サヘアリ、此二回說ヲ主張スルモノ、理由ニ曰ク實際其職ヲ營ミナカラ其職ヲ失ヘリト僞ハルモノハ一日二回出頭スルコト能ハサルナリ、即チ或ル工場若クハ店舖ニ雇ハレ居リナカラ毎日二回宛保險會社ヘ出頭スルコトハ到底不可能ナリト云ハサルヘカラス、故ニ此種ノ詐欺ヲ防止センニハ此方法ニ依賴センコトヲ要スト、然レトモ此方法ニ反對スルモノ、說ニ曰ク失職者ヲシテ天候ノ良否如何ニ拘ラス必ラス毎日二回ツヽ、出頭セシメンコト、取リ分ケ往復ノ途ニシテ甚ハタシク隔タリ居ランニハ斯クセシメンコト、失職者ニ取リテ甚ハタ迷惑ナリト云ハサルヘカラス

右ノ如キ欺詐ヲ防止スヘキ方法ノ完全ナルモノ未タ曾テアラサルナリ、斯クテ一千九百三年ニ至リテ關係ノ銀行頭取某カ集會ノ席上ニ於テ左ノ如キ意見ヲ述ヘタリ、曰ク彼ノ失職者ノ詐欺ヲ防止スヘキ何等カノ方法ノ設ケラレサル以上ハ、此方面ニ向ツテノ銀行ノ活動ハ中止セサルヘカラサルノ非運ニ陷ラスンハアラスト、此ニ於テカ勞働代表者委員會ナルモノカ選定セラレタリ、此委員會ナルモノハ五名ヨリ組織セラレタルモノニシテ其協議ノ結果左記ノ如キ意見ヲ提出スルニ至リタリ、曰ク凡ソ其職ヲ失ヘルモノニシテ保護金ヲ受クヘキ者ハ必ラス日々銀行ニ集マリ來ラサルヘカラス、而シテ午後一時ヨリ三時マテ二時間銀行ニ留マリ居ランコトヲ要ス、但シ此時間後ハ銀行ノ門戸ヲ閉チラルヘキモノトス

然レトモ右ノ計畫ハ甚タシキ怨嗟ト憤怒ヲ生スルノ恐レアル所ヨリ竟ニ之カ實行ヲ見スシテ終レリ、此外警戒委員會ナルモノヲ設立セントノ意見ヲ持チ出シタルモノアレトモ、此委員會ヲ組織スル委員カ他ヨリ敵視セラルヽノ恐レアルヘシトノ反對說出テ、、是レ亦タ實行スルマテニ至ラサリシ

此外右ニ揭ケタル詐欺ニ抵抗シ得ヘキ方法ヲ設クンハ實ニ困難ナリト謂ハサルヘカラス

一千九百三年ニ於テ此保險制度若クハ其他ノ救濟法ニ從ツテ登記ヲ經タルモノ總計六百九十一名アリシカ、斯ル被保險人ノ預金及其他補助金ノ資金トモ言ツヘキモノハ、一千九百三年十二月卅一日ノ現在高三

萬一千五百七十「リラ」八七トナレリ、既ニシテ冬季失職期間後即チ三月三十一日ニ至リテハ其金額二萬〇二百五十二「リラ」トナリ、五月三十一日ニ至リテハ同シク二萬〇六百六十五「リラ」八六トナレリ、又タ資金ノ利子ヲ以テ被保險人ヘ交付スヘキ補助金ニ充ツヘキ其資金ハ三十五萬六千三百「リラ」トナレリ

今マ其レ保險制度ノ實驗史中實ニ判然タル二期間アリシト云ハサルヘカラス、第一期間ト云ヘルハ抑モ保險制度ノ始メテ實行セラルコノ際、之カ被保險人トナルヘキ階級ノ者カ此事ニ關シテ利害ノ觀念ヲ有スルニ至ラサリシコトヲ是レナリ、是レ全ク當初ノ失敗ト云ハサルヘカラス、而シテ其第二期間ト云ヘル個人ノ貯金ヲ補助スルノ仕組ハ遠カニ一般ノ人氣ヲ博シ得タレトモ、虚病若クハ詐僞等ノ惡弊ヲ惹起スルニ至レリ、又タ左ノ如キ不都合ナル點モ見顯ハサル、ニ至リタリ、曰ク此失職保險ノ救助法ト職業ヲ見出スヘキ團體トノ聯絡之レナキヨリ、失職期間ヲ短縮スヘキ結果ヲ生シタルコト曾テ之レナキコト是レナリ

一千九百四年十月三十一日ヲ最終トナシテポロナ貯金銀行ヨリ失職保險ヲ目的トセル貯金通帳ヲ發シタル總數ハ八百六十五ナリシカ、内自然消滅ニ歸シタルモノ百七十三ナリシヲ以テ實際現存セルハ六百九十二帳トナレリ、今マ此等ノ貯金通帳ヲ所有セルモノヲ職業別ニシテ示セハ左ノ如シ

一千九百四年十月三十一日マテニポロナ貯金銀行ヨリ失職保險ヲ目的トセル貯金通帳ヲ發シタル數ヲ職業別ニシタル表

職業別	貯金通帳ノ數 發行	消滅	現存
官工	一二九	五六一	六九〇
洗濯屋	六一	四〇	二一
器械師	二二	一六	六
勞働者	一七	一六	一
「ニス」塗師	一四	一〇	四
其他全部	四八	八	四〇
總計	八六五	一七三	六九二

此種類ノ保險制度ハ殆ント主トシテ建築業ニ從事スル勞働者ニ適用セラルヽモノヽ如シ、是レ他ナシ斯ル勞働者ハ其職ヲ幾千期間失ヘル場合多ケレハナリ、蓋シ銀行ノ方ヨリ補助金ヲ分與スルノ計算ハ規則トシテ年ノ十二月三十一日ヲ以テ結了スルコトヽセリ、尤モ是レヨリ先キ十月三十一日ヲ以テ終末トセル十二ケ月間ニ拂ヒ込ミタル預金額ハ基礎トシテ補助金ヲ分與スルコト、知ルヘシ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ一千九百三年十一月ヨリ一千九百四年十月ニ至ルマテノ一ケ年間月々納付シタル預金額ヲ示シタルモノ是レナリ、此表ノ示ス所ニ據レハ其預金額ナルモノ歲末マテニ左マテノ高ニ達セサルコト知ルヘキノミ

一千九百四年十月三十一日ヲ以テ終末トセル會計年度間ニポロナ貯金銀行ヘ失職保險ノ爲メ納付シタル預金ノ數及金額

年次及月別	預金		年次及月別	預金	
	數	額		數	額
一千九百三年			一千九百四年		
十一月	一四	一二、三五弗	五月	二二三	一六八、三〇弗
十二月	三	四、二五	六月	三三五	二六一、七一
一千九百四年			七月	四五四	三七二、七〇
一月	一	一、九三	八月	四一五	三五〇、六八
二月	一	一、二九	九月	三九七	三四三、二八
三月	一七	五、六〇	十月	四一七	三五八、四六
四月	八五	五二、七八	合計	二、三六二	一、九三二、三二

一千九百三年十月ニ於テハ彼ノ貯金銀行ノ貯金通帳ヲ所有シ居タルモノ六百九十二人アリシカ、此預金ノ總額ハ一萬八千九百三十一「リラ」〇二ニシテ之ニ一千九百四年十月三十一日マテニ預ケ入レタル總金額ヲ合算スレハ二萬八千九百四十三「リラ」二二トナレリ、而シテ銀行ヨリ分與セラレタル補助金額ハ七千四百四十「リラ」ニシテ、之ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノハ僅カニ三百二十八人ニ過キサリシナリ、又タ次キノ八ケ月間即チ一千九百四年十一月ヨリ一千九百五年六月ニ至ルマテノ期間ニ於テ、月々失職保護金トシテ給與サレタル總金額ハ一萬六千二百九十「リラ」ニ上レリ、左ノ如シ

一千九百五年六月ヲ以テ最終トセル八ケ月間ニ於テデポロナ貯金銀行ヨリ失職保護金トシテ給與シタル金額ト其失職日數

年次及月別	失職日數	保護金額	年次及月別	失職日數	保護金額
一千九百四年			一千九百五年		
十一月	七四	二一、四二弗	三月	一、七三二	五〇一、四一弗
十二月	五四五	一五七、七八	四月	一八七	五四、一四
一千九百五年			五月	一四六	四二、二七
一月	三、九五六	一、一四五、二六	六月	二八	八、一一
二月	四、一九二	一、二一三、五八	合計	一〇、八六〇	三、一四三、九七

此種ノ保險制度ノ被保險人ノ實數ハ貯金奬勵法ノ一ト謂ツヘキナリ、即チ冬季失職期間ノ豫防用トシテ夏季儲高ノ内ヨリ幾千カヲ貯金スル習慣ヲ養成スルモノト謂ツヘキナリ、蓋シ季節ニ關係スル職業ニ至リテハ冬季其職ヲ失ヘルコトハ亦タ避クヘカラサル事態ナリ、彼ノ建築工事ニ關係スル勞働者ノ如キハ好適例ト謂ツヘキナリ、試ミニ見ヨポロナ貯金銀行ニ於テ保險事業ヲ取リ扱フ内斯ル勞働者ノ保險數カ殆ント五〇%ニ當レリ、其數ノ多キコト知ルヘキノミ

此種ノ保險制度實行ニ就テハ相當ノ制限法ノ設ケアルモノニ拘ラス、一千九百五年ニ至リテ今マ一層之カ取締法ヲ嚴重ニスルノ必要起レリ、即チ此銀行ノ頭取等カ左ノ如キ意見ヲ提出スルニ至レリ、其ノ意見ノ要領ニ曰ク勞働者ノ保護法タル保險法カ從來ノ儘ニテ据ヘ置カレクランニハ、銀行ハ其負擔ニ堪フルコト

能ハサルヘシ、因テ何等カノ救濟策ヲ講セサルヘカラスト、此ニ於テカ一千九百五年ニ之カ救濟策トモ謂ツヘキ新規則カ制定セラレ、其翌一千九百六年ノ初メヨリ實行セラレタリ、抑モ此新規則ナルモノハ新タナル二原則ヨリ成レルモノナリ左ノ如シ、曰ク第一、苟クモ失職保護金ヲ受ケント欲スルモノハ、取調ノ結果實際失職者タルノ證憑充分ナルモノニ限レルコト是レナリ、而シテ此事ハ極メテ嚴重ニ取リ扱フヘキモノト定メラレタリ、第二、保險期限ニンテ既ニ盡キタランニハ其預金ハ全ク被保險人ニ下ケ渡サル、コト、定メラレタリ

一千九百五年ニ制定セラレタル規則ハ今マ尚ホ現行セラレ居リテ、失職救護ノ方法左ニ記載スル所ノ如シポロナ貯金銀行ハ失職救護ノ費用ニ充テンカ爲メ三十萬「リラ」ノ特別ヲ有セリ、然レトモ勞働者ニシテ斯カ或ル場合ニ於テ其職業ヲ失フタル期間之ニ保護金ヲ給與スルモノ是レナリ、蓋シ失職救護トハ勞働者保護金ヲ受ケント欲セハ自分モ亦タ相當ニ分擔スル所ナクンハアルヘカラス、尚ホ之ヲ詳言スレハ勞働者カ其職業ニ從事シテ相當ニ賃銀ヲ得ツ、アル際、其職ヲ失フテ困難スル時月アルヲ慮ハカリテ、其賃銀中ノ幾分カヲ割キテ銀行ヘ預ケ置クコト是レナリ、又タ此保護金ヲ受クヘキ勞働者ノ資格如何ヲ擧クレハ左ノ如シ、曰ク年齡二十一歳以上六十五歳以下ノ男子ニシテポロナニ生レポロナニ於テ何等カノ手工ニ從事シ、日々拂若クハ週間拂ノ賃銀ヲ得ルモノニ限リテ此保護金ヲ給與セラル、モノトス、又タ此保護金ヲ受ケント欲スル勞働者ハ銀行ヨリ失職貯金特別通帳ヲ申シ受ケサルヘカラス、但シ此通帳ナルモノハ一人一

帳ニ限ルヘキモノトス

今マ此規則中最モ重要ナルケ條ト云ヘルハ、右ノ失職貯金特別通帳ヲ毎年總冊發行シテ然ルヘキヤ之ヲ決定スルノ權能ヲ特別資金取扱局ニ委任スルコトヲ定メタルト是レナリ、而シテ斯ル貯金通帳下渡願ヲ差シ出スハ年ノ或ル期間内ニ限ルヘキモノトス、即チ年ノ三月一日ヨリ五月三十一日マテト定メ、夫々發布セラレタル命令ニ從ハンコトヲ要ス

斯クテ勞働者ヨリ銀行ヘ預ケ入ルヘキ金圓ハ勞働者自身ノ賃銀中ヨリ支出スヘキモノニシテ、毎週五「リラ」ヲ踰ユヘカラサルモノトス、而シテ此等ノ預金ヨリ生スル所ノ利子ハ其他ノ預金利子ト全ク同一ナルモノトス、然レトモ斯ル勞働者ニ對シテハ右ノ如キ普通一般ノ利子ノ外失職資金ノ利子ヲモ加算セラル、モノトス、斯クテ此保護金ハ之ヲ分チテ二種トナス、即チ其第一種ナルモノハ四十「リラ」若クハヨリ以上ヲ預ケシモノヨリ組織セラレ規則ノ明文ニ從ツテ斯ル預金者ヨリ預ケ入レタル一「リラ」毎ニ更ニ一「リラ」宛ヲ貯蓄セラル、モノトス、但シ其貯蓄額ハ四十「リラ」ヲ踰エルコトヲ得ス、尚ホ之ヲ換言スレハ第一種ノ預金者ハ實際其預金額ノ外ニ尚ホ四十「リラ」ノ貯金ヲ有スルモノト謂フヘキナリ、而シテ第二種ニ屬スル預金者ハ十「リラ」未滿ノ金圓ヲ預ケシ者ヨリ組織セラレ、其預金額ノ二十「リラ」ニ達スルヤ毎ニ一「リラ」ニ就テ更ニ半「リラ」宛ヲ貯蓄シ置キテ終ニ之ヲ本人ニ渡スヘキモノトス

右二種ノ預金及之ニ對スル貯金ハ共ニ是レ失職救護ノ目的ニ充テラル、モノト知ルヘシ、且ツ本年爲シタ

ル預金ハ明年ノ救助金ニ充テラル、規定ナルカ故ニ本年爲シタル預金ハ本年之ヲ引キ出スコトヲ得ス、然レトモ翌年ニ至リテハ其預金ヲ引キ出スコトヲ得ヘク、又タ之ト兼ネテ補助金ノ分配ヲモ受ルコトヲ得ヘシ、但シ斯ル保護金ヲ受ケンニハ其職ヲ失フタルコト、固ヨリ自己ノ失策ニ出テタルモノニアラス、萬止ムヲ得サルニ出テタルコトヲ充分ニ證明セサルヘカラス、若シ斯ル證明ヲ與ヘサル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テモ其預金丈ケハ之ヲ引キ出スコトヲ得ヘシト雖モ、他ノ補助金ニ至リテハ之ヲ受クルコト能ハス、蓋シ失職保護金ナルモノハ其失職期間中日々給與セラル、モ、尚ホ之ヲ細別スレハ畢竟スルニ一半ハ自己ノ預金ニ基キ他ノ一半ハ之カ爲メニ貯ヘ置カレタル補助金ニ外ナラス、今マ其比例ヲ擧ケンニ第一種ノ預金者ニアリテハ自己ノ預金中ヨリ日々〇、「リラ」、七五ヲ受ケ、他ノ貯ヘ置カレタル補助金中ヨリ同シク〇、「リラ」、七五ヲ受クルカ故ニ合計一「リラ」、五〇ヲ受クルコトヽナレリ、而シテ第二種ノ預金者ニアリテハ自己ノ預金中ヨリ一「リラ」ト他ノ貯ヘ置カレタル補助金中ヨリ〇、「リラ」、五〇トヲ受クヘキモノトス

預金者ニシテ右ノ如キ保護金ヲ受ケント欲スル塲合ニハ、夫々規定ニ從ツテ自カラ銀行ニ出頭シテ要求セラル、カ儘ニ充分其失職ノ次第ヲ說明セサルヘカラス、且ツ此等ノ預金者ニシテ其職業ヲ失フタルヨリ相當ノ職業ニアリ付カンカ爲メ、ボロナヲ去ツテ他ノ地方ニ赴キタルモ其職業ニアリツクコト能ハス從ツテ再ヒボロナニ立チ歸リタル塲合ト雖モ、尚ホ且ツ右ノ保護金ヲ給與セラルヘキモノハ、但シ此際失職ノ次第ヲ充分ニ證明セサルヘカラス

近コロボロナ貯金銀行ノ事務局ヨリ一ノ完全ナル報告書ヲ發行シタリ、即チ同銀行カ一千九百四年ヨリ一千九百十年ニ至ルノ期間ニ於テ活動シタル有樣ヲ叙述シタルモノ是レナリ、今マ其報告書ノ示ス所ニ據レハ新タニ發布セラレタル規則ハ貯金ヲ取リ締ルヘキ効果アルモノト謂ツヘキナリ、殊ニ新規則ヲ充分ニ實行セル初年即チ一千九百七年ノ如キハ最モ然リトナス、此銀行ヨリ拂ヒ出シタル彼ノ保護金總額カ年ヲ逐フテ減少シタルノミナラス、預金總額ニ對スル保護金ノ比例モ亦タ是レ同シク減少シタリ、乃チ保護金總額ニ就テ之ヲ云ハンニ一千九百六年ニ於テハ其總額一萬一千八百六十二「リラ」、九七ナリシニ、一千九百九年ニ至リテハ減少シテ四千五百五十三「リラ」二五トナレリ、又タ預金總額ニ對スル保護金ノ比例如何トニ云フニ一千九百四年ニ於テハ六六・五%ナリシニ、一千九百九年ニ至リテハ減少シテ僅カニ二六・七%トナレリ、然レトモ之ト同時ニ寄附資金ナルモノ實際增加シ來リタルカ故ニ、彼ノ新規則ナルモノハ非常ナル損害ノ生スルコトヲ防止シタルモノト云ツテ更ニ妨ケナカルヘキナリ、斯クテ一千九百六年及一千九百七年ニ於テハ銀行ヨリ保護金ヲ給與スヘキ人員ノ最大限カ四百五十名ナリシカ、翌年ニ至リテハ七百五十名トナレリ、斯ル經驗ニ依リテ之ヲ考フレハ私設貯金銀行ニ於テ失職救助事業ヲ行ハンコトハ甚タ困難ナリト云ハサルヘカラス、蓋シ私設貯金方法ナルモノハ人ノ品性ヲ養成スル上ニ於テ最モ効力アルモノト謂ツ

ヘキナリ、即チ之ヨリ生スル經濟上及敎育上ノ効果ヲ併セ得テ失職救助法ノ最良ナルモノト謂ツヘキモノナリ、然ルニ之ニ反シテ失職救助法トシテ補助金ヲ給與スルコトニ就テハ最モ深ク注意スル所ナクンハアルヘカラス、即チ補助金ヲ給與スルニ就テハ其範圍ヲ制限シテ最モ其取締ヲ嚴重ニセサルヘカラス、否ラス人ハ之ヨリ弊害生セスンハアラス

今マ左ニ示ス所ノ表ハ一千九百四年ヨリ一千九百十年七月三十一日ニ至ルマテノ期間ニ於テ、ボロナ貯金銀行ノ失職保護資金ノ活用ニ係ルモノ是レナリ、

一千九百四年ヨリ一千九百十年ニ至ルマテノ期間ニ於ケルボロナ貯金銀行ノ失職保護資金ノ活用

年次	預金通帳ノ數		年內ノ預金高								
	年ノ年內年末一月一日ニ於テ保險ニ入ルモノ	年ノ一月一日ニ於ケル預金總額	保護金ヲ受クヘキ權利アルモノ	同上ノナキモノ	總額	預金利子	寄附賞金ヨリノ分額、利子、保護金、（イ）	預金總年末ニ於ケル通帳ノ數	總額	各預金者ニ付テノ平均
一九〇四年	六九〇	五五、六五八、〇六〇、八三一	九一七八四		九一七八四	六四、九四二、九三五、九四		一〇、一〇		
一九〇五年	六八〇	五四、七五二、六九三、〇四二	四四九、五四		九六、三五二、五四五、八九	一五二、二七二、八九五、四九	八七、一八四、〇二七、五	一一、一七		
一九〇六年	七五一	五五、七三二、八四〇、二七五	二四四四、三三		二四四四、三三	一六七、六二二				
一九〇七年	七三二	五九、七二九、六六、四二、五八八三	一三、八六二、二七二、九		一三、八六二、二七二、九	（ロ）	二、六二一、八五六、六二四、六一	九、〇五		
一九〇八年	七二九	九七、七五二、四三、二五七、九五	一〇、九五二、三三六、六九		一〇、九五二、三三六、六九	八八四、〇八三、二五、六六四、二五七、九九		五、八四		
一九〇九年	七五二	七六、七五二、四三、二五七、九五	四九七、二七二、八三六、二五四、七三四、四九		四九七、二七二、八三六、二五四、七三四、四九	一一二、二四		六、三〇		
一九一〇年	七九五	八九、七、七八	二、二二、二四八三、二九		八、九七、七八三、四七八、四五四、九三二、九	二一六、二六		六、一九		
	七九五	八四三、七八四、九三二、九	（ニ）		（ニ）	三七六、七八四、三六四、〇三七、六五		五、一三		

年次	寄附賞金額	保護金ヲ受クヘキ年ヨリ一年前名簿ニ記載サレタル會員數	入會許可ノ會員數 第一級	第二級	一時會員資格ヲ停止セラレタルモノ	拂渡保護金預金 金額	總額ニ對スル百分比例	金額	總額ニ對スル百分比例	總計	失職日數
一九〇四年	六七、三四七、〇〇弗	五三	八一	四三八		三一八、五五、四九弗		六六、六六		三三四、一七八、七六六（ニ）	
一九〇五年	六八、八〇四、五〇	三三三	一八三	一四五		五一、六五七、二九		九三、一七		五一、九二、〇〇（ニ）	
一九〇六年	七〇、〇三九、七〇	三七二	二八六	七二		一五二、二九、五九		四七、一一、八六、七一		四七、八四、二九〇、〇〇	六、一〇七
一九〇七年	七〇、六八、八七〇	四五〇	二九六	四六	一〇八	一五、七四、三四、三三		五二、二二、一〇〇、四五		八、四四、〇、八	六、一九四
一九〇八年	七一、〇一、二〇	四四四	三一四	一一〇	一〇	二、一一、八六、一四四		一五、七四、三四、三三		七八、九、二、五九、六二	三、四五二
一九〇九年	七一、〇一、二〇	五六四	三九九	一三七	二八	二六、七二、四一〇、七七		一五、三二〇、八六、二二		七、三、二、二九、五五	五、九七七
一九一〇年	七一、〇一、二〇	五五二	四〇〇	一四二	一〇	三七六、七八		一五、三二〇、八六、二二		八四、七、二四〇、二〇九	二、五九二

（イ）印ハ一千九百四年及一千九百五年ノ報告ニ係ル金額ハ夫々年末ノ計算中ニ組ミ入レラレタルモノ是レナリ

（ロ）印ハ制度變更ノ爲メニ此年ハ保護金ヲ給與セサリシナリ

（ハ）印ハ此年ノ前半七ケ月ヲ示スモノト知ルヘシ

（ニ）印ハ報告ナキモノナリ

ヴェニス、一千九百一年ニ於テヴェニス勞働者失職保護協會ナルモノカ慈善ノ目的ヲ以テ設立セラレタ

リ、此協會ハ有志家ノ私設ニ係ルモノニシテ同年六月三十日勅令ヲ以テ正式ニ認可セラレタリ

抑モ此協會ノ目的トスル所ハ失職勞働者ノ困難ヲ出來得ヘキ丈ケ輕減セシメント欲スルニアリ、但シ其職業ヲ失ヘルコト自己ノ失策行爲ニ出ルニアラス、止ムヲ得サル事情ニ基ツキタルモノナラサルヘカラス、斯ル失職勞働者ニ對シテ一時的補助金ヲ給與シ或ハ雇主ト勞働者トノ間ニ起リタル爭論ヲ融和調停セシムヘキ勞ヲ取ル等其重モナル任務トス

此協會カ其第一ノ目的トシテ行動スル所ハ、失職勞働者ヲ扶助救濟スルノ方法手段ヲ講究スルコト是レナリ、時ニ或ハ市外ニ出テ、職業ヲ求メント欲スルモノニ對シテハ旅費ヲ給與スル事モアルヘキナリ

此協會ヲシテ雇主ト勞働者トノ間ニ起レル爭論ヲ調停融和セシムルノ任ニ當ラシムルコトハ元ト是レ細則ノ規定スル所ナルカ、此規定ハ所謂ル空文ニ屬シテ實行スルニ至ラス、但シ此協會ノ重モナル任務ハ失職勞働者ニ對シテ補助ヲ與フルコトニシテ、此任務ノ方ハ決シテ忽カセニセラレサリシナリ、且ツ此協會ノ組織タルヤ元ト是レ私設ニ屬スルモノナレトモ、ヴエニス市等ヨリ之ヲ補助スルニ至レリ、即チ一千九百四年ニ於テハヴエニス市ヨリ補助金トシテ一萬「リラ」ヲ給與シ、ヴエニス縣ヨリ一千「リラ」ヲ交付シ、名譽會員及慈善家等ヨリ寄付シタルモノ殆ント二千「リラ」ニ及ヘリ

此協會設立ノ當初ヨリ三ケ年間ハ被保險人トシテ加入シタル賃銀取ノ勞働者ヨリ、毎月四十「センテシミ」ヲ納メシメタリシカ、一千九百四―五年ニ至リテ此協會ノ行政會議ノ議決ニ從ツテ之ヲ增加シ、毎月一「リラ」宛ヲ納メシムルコト、セリ、斯ク納付金額增加シタリト雖モ給與ヲ受クヘキ保護金額ノ方モ亦タ增加シタルヲ以テ互ニ相殺スヘキナリ、彼ノ失職保護金ナルモノハ一日ニ就キ一「リラ」、二五ナリシカ、後之ヲ增加シテ同シク一「リラ」五〇トナシ、結婚シタル婦人及二人以上ノ子供ヲ有スル寡婦ニ給與スルコト、セリ、然レトモ勞働者ノ月々ノ納付金ヲ增加シタルハ別ニ理由ノ存スルアリ、他ニアラス是レヨリ先キ保護金ヲ受クヘキ期間ニ關シテハ何等ノ制限アルニアラス、且ツ其掛金ノ如キハ甚ハタ低廉ナルヨリ加入者速カニ夥シク增加シ、從ツテ其支出額多大ナルヨリ會計上ノ困難アルヲ免カレス、扨コソ之ヲ豫防スルノ一方法トシテ其納付金額ヲ增加スルコトトナレリ

此協會ノ行動中經驗上大ニ研究ヲ要スヘキコトアリ、殊ニ研究ノ最モ必要ヲ感スルハ會計上整理ノ事是レナリ、當初此協會ノ有樣タルヤ慈善事業ノ變形トモ謂ツヘキモノニシテ、被保險人ノ掛金ノ如キハ歲入トシテ甚タ少額ナルカ故ニ會計上ノ困難ナル事ハ固ヨリ云フヲ要セサルナリ

今マ左ニ揭クル所ノ表ハ會計年度一千九百二―三年ヨリ同シク一千九百三―四年ニ至ルノ期間ニ於テヴエニス失職勞働者保護協會ヨリ保護金ヲ給與シタル會員數、金額、及金額ノ百分比例

職業別	一千九百二—三年					一千九百三—四年				
	會員數	保護金ヲ受クヘキ人員	保護金受領ノ百分比例	保護金總額	每保護金一付テノ平均額	會員數	保護金ヲ受クヘキ人員	保護金受領ノ百分比例	保護金總額	每保護金一付テノ平均額
冶金職(イ)	一九〇	吉四	六三・九	五七二・三三	七・七三	一五一	九五	六二・九	八九四・四六	九・四三
造船業等	二四一	二五	一〇・五	二二九・九六	九・二〇	六三	五八	九二・一	五七六・四五	九・九四
建築業	九二	三三	三五・三	三〇六・八七	九・九九	七九	四五	五七・〇	四七六・四二	一〇・五九
木工	一五	六	四〇・〇	六〇・〇五〇	一〇・〇八	一六	七	四三・八	九一・一九	一三・〇三
「ペンキ」塗師絨飾屋等熟練ヲ要セサル勞働者及其他特技ナキモノ	九八	七〇	七一・四	六七〇・五八	九五八	二一九	一〇〇	八四・〇	一〇一・九五	一〇・一六
	一七	八	四七・一	八四・四四	一〇・五六	二四	二四	一〇〇・〇	二六六・九八	一一・一二
合計	四四五	二二五	四八・三	二、九二四・六八	八・九五	四五二	三二九	七二・八	三、三二一・〇五	一〇・〇九

（イ）印ハ一千九百三—四年ニ於ル鐵及鋼鐵製造業ノミヲ合メルモノ

ミラン、失職勞働者保護事業中最モ雄偉ニシテ望ミ深キモノハ恐ラクミラン博愛慈善協會ノ行動是レナリ、抑モ此協會ナルモノハ慈善事業ヲ目的トスルモノニシテ、社會改正事業ノ各種ニ亘リテ發展セント欲スルモノナリ、此慈善協會ノ基礎ニシテ甚ハタ鞏固トナレルハ或ル人ノ遺産寄贈ニ歸セスンハアラス、即チ一千八百九十二年十月二十八日ヲ以テ逝去セラレタル、ブロスペロー、モ井セ、ローリア氏カ、其生前ニ於テ其遺産全額一千萬「リラ」餘ヲ此慈善協會ニ寄贈スヘシト遺言セラレタルモノ是レナリ、然レトモ此慈善協會ハ引キ續キテ訴訟事件之レアリタルカ爲メ一千九百年マテハ何等ノ活動ヲモ爲スコト能ハサリシナリ、此年ニ至リテ右寄贈金ノ元利合計一千三百萬「リラ」ノ巨額ニ上リタリ、而シテ此協會ノ計畫セル事業ハ其範圍甚ハタ廣クシテ一々枚擧スルニ遑マアラス、今マ其重モナルモノヲ擧レハ、敎育事業、家屋改良事業、職業紹介所及勞働問題ノ統計的研究等是レナリ、中ニ就テ失職勞働者救助問題ハ其重モナルモノ、一タラスンハアラス、斯クテ此慈善協會ニ於テ採用シタル失職勞働者救助法即チ之カ保險法タルヤ一種ノ趣味アルモノト云ハサルヘカラス、既ニシテ失職保險資金ナルモノカ活用セラル、コト、ナリタルハ、一千九百五年七月一日ニシテ左ニ記載スル憲法ノ規定スル所ニ從ヅテ之カ取締ヲ爲スモノト知ルヘシ

ミラン失職保護資金ノ憲法

第一條　會員ノ會計上ノ有樣ヲ改良スルノ目的ヲ以テ組織セラレタル職業協會中ニ、及貯金協會中ニ各々失職救助局ナルモノヲ設置センコトヲ要ス而シテ此等ノ失職救助局ハミラン聯合協會、博愛慈善協會及其他ノ協會ノ扶助協力ヲ受クヘキモノトス

第二條　失職救助局ノ目的トシテ失職救助用ニ充テンカ爲メニ資金ヲ調達センコトヲ要ス、其之ヲ調達スルノ方法ハ第一條ニ記載シタル職業協會、貯金協會ノ中ニ貯ヘアル個人々々ノ出資ニ係ルモノヲ失職救助用ニ轉セシムルコト是レナリ、而シテ失職救助用ニ充テンカ爲メニ資金ヲ調達センコトヲ要ス、其之ヲ調達スルニ方リテハ失職救助局ハ斯ル資金ト共他聯合協會、博愛慈善協會及其他ノ團體ヨリ補助金トシテ得タル金圓トヲ併セ得テ失職救助用ニ充ツヘキモノトス

第三條　勞働者ニシテ失職保護金ヲ受クヘキモノハ左記ノ如キ事實ノ證明セラルヘキ場合ニ限ルモノトス

曰ク其職ヲ失ヘルコト自分ノ失策ニ出テサル事、失職ノ原因カ工業上ノ不景氣、勞働ノ需要供給ノ變動、工事ノ中止、工場ノ移轉、器械ノ破損、火災等ニ基ク場合ノ如キ是レナリ

第四條　茲ニ或ル協會アリ失職勞働者救助ノ外他ノ社會改良事業等ノ計畫アリトセンカ、斯ル場合ニ於テモ尙ホ且ツ失職救助局ヲ設置スルコトヲ得ヘキモノトス

第五條　個人々々ノ組織ニ成レル職業協會ナルモノアリ、此等ノ協會ハ自カラ左記ノ如キ條件ヲ議定スヘキモノトス、曰ク會員掛金ノ拂込ニ關スル條件、同一ノ職業ニ屬スル勞働者ノ各團體ニ對シテ給與スル補助金ニ關スル條件ヲ議定スルカ如キ是レナリ、然レトモ此等ノ條件ハ協會ノ評議會ノ承認ヲ得テ後初メテ確定セラルヽモノトス

第六條　數個ノ協會カ互ニ相謀リテ一ノ聯合協會ヲ組織スルコトアリ、斯ル場合ニ於テハ之ヲ組織スル協會ハ聯合協會ノ費用ヲ分擔セサルヘカラス、但シ斯ク分擔シテ納付シタル費用ハ此聯合會ヲ組織スル協會ノ會員ニ限リテ用ヒラルヘキモノトス

第七條　一個獨立シタル協會ニ於テ定メラレタル失職保護金ノ外更ニ追加セラルヘキ給與金ハ、協會ノ資金中ヨリ支拂スルヘキモノニシテ其金額ハ失職保護金ノ五〇%ト定ム、然レトモ一日分ノ給與額五十「センテシミー」ニ踰ユルヲ許サス、且ツ一ケ年間通算シテ六十日ニ踰ヘサルモノトス

然レトモ協會ノ行政會議タランモノハ左ノ如キ權能ヲ有スルモノトス、曰ク失職勞働者ノ數餘リニ多大ナルカ協會ノ會計上ノ有樣如何ニ由リテ追加給與金額ヲ幾分カ減少シ得ヘキ權能ヲ有スルコト是レナリ

第八條　協會々員ニシテ失職保護金ヲ受クルコト一日ニ付キ一「リラ」、五〇以上ニ及ヘル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ協會ハ彼ノ追加給與金ヲ支拂ハサルモノトス

追加給與金ナルモノハ其協會ニ屬スル勞働者カ其職ヲ失ヘル場合ニ於テ交付スヘキ失職保護金以外ノモノナリ而シテ其追加給與金ハ每月々末ニ支拂フヘキモノトス、但シ其之ヲ受ケ取ラント欲スル場合ニハ失職保護金ヲ受ケ取リタル證據書類ヲ提出シテ之カ檢査ヲ受ケンコトヲ要ス

第九條　凡ソ或ル協會ノ會員トナリテ失職保護金ヲ受クヘキモノハ、皆ナ是レ勞働取締局ニ行キテ登記セラレンコトヲ要ス

第十條　此等ノ協會ハ皆ナ會員名簿ナルモノヲ調製シ置キテ、失職保護金給與ニ關スル一切ノ事柄ヲ記載セン事ヲ要ス、但シ其樣式ハ行政部ニ於テ定メタル同一ノ書式ニ從フヘキモノトス

第十一條　今マ左ニ記載スル所ノモノハ失職保護金ヲ受クルコト能ハサルモノトス、曰ク行政會議ノ意見ニテ勞働社會ニ屬スルモノニアラスト認定シタル者。實際失職者ニアラサルモノカ失職者ナリト僞リタルモノ、若クハ斯ル詐欺ヲ行ハントシタル者。勞働取締局ヨリ振リ向ケタル職業ヲ嫌忌シタル者等ハ、皆ナ是レ失職保護金ヲ受ルノ權能ナキモノトス

第十二條　一種ノ會議ナルモノアリテ協會ノ行動ヲ監督シ、且ツ之ヲ處理スヘキモノトス、而シテ此會議

ハ左記ノ數者ヨリ組織セラルヽモノトス

(イ)、博愛慈善協會々長

(ロ)、右協會ヨリ今マ一名ノ代表者ヲ出シテ會議ノ長タラシムル事

(ハ)、本協會ニ屬スル職業協會ヨリ選出サレタル二名ノ代表者

(ニ)、本協會ノ費用ヲ分擔セル聯合協會ヨリ一名ノ代表者

最後ノ代表者ト謂ツヘキモノハ左ノ如キモノヲ是レナリ、曰ク本協會ノ費用トシテ年々五千「リラ」ヲ支出スル協會ヨリ一名ノ代表者ヲ出スヘキモノトス

本協會ハ年々一ノ總會ヲ開催スルコトヽナシ、此總會ニハ各協會及聯合會ヨリ代表者ヲ出席セシメテ以テ職業協會及聯合協會ヨリ差シ出スヘキ代表者ヲ選定スヘキモノトス、各協會ハ當然一ノ發言權ヲ有スルモノトス

百名以上ノ會員ヲ有スル協會ハ失職保護金ヲ受クヘキ會員百名毎ニ一ノ發言權ヲ有スルモノトス、又本協會ノ役員ノ任期ハ一ケ年ト定メラルヽト雖モ、再選セラルヽハ妨ケナキモノトス

第十三條　博愛慈善協會ハ本部、事務所及出版部ヲ設ケンコトヲ要ス

第十四條　本協會ハ一ケ年間ヲ實驗的期間ト定ム

此失職保險制度ノ組織及計畫如何ハ以上拔萃シタル簡單ナル憲法ニ依リテ知ラルヘキナリ、此保險制度ハ所謂ル「ゲント」制度ニ最モ善ク近似シタルモノト謂ツヘキナリ、而シテ此失職保險制度ハ一千九百五年七月一日ヨリ實行セラレタリ

斯クテ一千九百九年ノ春期ニ際シテ失職保護協會カブレツシアニ設立セラレタリ、蓋シ是レミラン博愛慈善協會ノ同地方支部ノ發起ニ係レルモノナリ、因リテ此新協會ノ憲法ナルモノハミラン協會ニ最モ善ク類似セルモノト知ルヘシ、而シテ此新設協會ヨリ失職保護金ヘ追加トシテ給與セラル、補助金ハ、四十日ヲ與ヘサル期間内毎日五十「センテシミー」ト定メラル、然レトモ失職保護金ヲ給與スヘキ職業協會ノ二會若クハ三會ヘ加入シタランモノハ增加シタル補助金ヲ受ルコトヲ得ヘキナリ、即チ七十五「センテシミー」及九十「センテシミー」ヲ補助金トシテ給與セラルコト是レナリ、然レトモ最近ノ報告ニ據リテ之ヲ觀レハ此新協會ハ尚ホ未タ實地活動セサリシナリ、是レ他ナシ必要ナル職業協會カ失職資金ノ準備ヲ爲サヽリシニ依ル

ミラン博愛慈善協會ノ失職保險資金活用ノ結果ハ左記ノ表ニ示ス所ノ如シ、蓋シ此表ハ一千九百五年七月一日ヨリ一千九百九年末ニ至ル四ケ年半ニ亘レル者ト知ルヘシ、抑モ此ノ失職保險資金ノ活用ヲ始メタルハ一千九百五年七月一日ニシテ、之ニ聯合シタル勞働協會ハ二十七ニシテ其會員ノ全數ハ六千四百四十九名ト算セラル、斯クテ其年ノ終末ニ至リテハ來リテ聯合ニ加ハリタル勞働協會ノ增加シテ三十三トナリ、一千九百六年末ニ至リテハ同シク增加シテ三十六トナレリ、中ニ就テ勞働協會增加ノ最モ多大ナリシハ一千

九百一年ニシテ其數四十六トナリ、終ニ一千九百九年末ニ至リテハ其數五十二トナリタリ、而シテ此四ケ年半ノ間ニ於テ會員ノ全數如何ニ增加セシヤト云フニ、最初ハ僅カニ六千四百四十九名ナリシモノカ、終ニ一萬二千八百十五名トナレリ、又タ保護金交付ノ數モ初年ニ比フレハ終年ノ方一倍ヨリ稍ヤ以上ナリシカ、是レトテモ驚クヘキ增加ト云フヘキモノアラス、但シ一千九百七年ノミハ一時的事態ノ爲メニ例外ニ屬スルモノト知ルヘシ

一千九百六年ニ於テハ失職保護金ヲ受クル所ノ會員數、全會員數ノ六・六%ナリシカ、一千九百七年ニハ同シク一二・四%トナリ、一千九百八年ニハ同シク九・四%トナレリ、又タ被保險人タル會員一名ニシテ保護金ヲ受ケタル日數ノ平均數ハ年ノ異ナルニ從ツテ一定セス、即チ一日・四ヨリ三日間ニ至ルカ如キ是レナリ、且ツ保護金ヲ受クヘキ日數ノ平均數ハ二十日・八及二六・二ナリシナリ、此外保護金ノ全額ハ左マテ多大ナラサリシナリ、然レトモ一千九百七年ハ保護金額ノ最モ多大ナリシ年ニシテ、其金額五萬六千四百六十七「リラ」、五ナリシカ、其內殆ント三一%ハ博愛慈善協會ノ負擔ニ屬シ、其殘部ハ勞働協會ノ負擔ナリト知ルヘシ、一千九百七年ニ於テ被保險人一名ニ對シテ支拂ハレタル保護金ノ平均額ハ九十一仙ナリシカ、一千九百八年ニ至リテハ僅カニ七十二仙トナレリ、而シテ斯ル保護金ヲ受ケ取ル所ノ會員ニ對シテ追加トシテ給與セラレタル補助金ノ平均額ハ年ノ異ナルニ從ツテ一定スル所アラス、即チ六弗・八八乃至八弗二五ノ如キ是レナリ尙ホ此四ケ年半ノ間ニ於テ日々給與サレタル保護金ノ平均額ハ殆ント三十二仙ナリシカ、內三分ノ二强ハ勞働協會ノ負擔ニ屬シ、殘リ殆ント三分ノ一ハ博愛慈善協會ノ負擔ニ屬スルモノト知ルヘシ

ミラン博愛慈善協會失職保險資金活用ノ統計 一千九百五年ヨリ一千九百九年ニ至ル

年次	聯合シタル協會數	十二月一日會員現在數	保護金ヲ受クヘキ會員數 數	保護金ヲ受クヘキ會員數 百分比例	保護金拂渡ノ日數	保護金拂渡金額 聯合會ヨリ	保護金拂渡金額 博愛慈善協會ヨリ	保護金拂渡金額 合計
一九〇五年自七月至十二月	三三	八、三六三	四六九	五・六	一二、三一七	二、七七六・一二弗	一、〇九一・〇五弗	三、八六七・一七弗
一九〇六年	三六	八、九一三	五八八	六・六	一二、二四二	二、九二〇・五二	一、一二四・七六	四、〇四五・二八
一九〇七年	四六	一一、九四四	一、四七七	一二・四	三六、〇四六	七、四八九・四九	三、四〇八・七五	一〇、八九八・二四
一九〇八年	四九	一二、一九八	一、一四五	九・四	二六、三〇九	六、三四七・一八	二、四八五・六八	八、八三二・八六
一九〇九年	四九	一〇、九三一	一、一九四	九・三	二五、〇九〇	六、九五八・八三	二、三七二・四二	九、三三一・二五

年次	保護金拂渡日數ノ平均數 每會員ニ就テ	保護金拂渡日數ノ平均數 每保護金ニ就テ	保護金支拂ノ平均額 每會員ニ就テ	保護金支拂ノ平均額 每保護金ニ就テ 聯合會ヨリ	保護金支拂ノ平均額 每保護金ニ就テ 博愛慈善協會ヨリ	保護金支拂ノ平均額 每保護金ニ就テ 合計	保護金支拂ノ一日ノ平均額 聯合會ヨリ	保護金支拂ノ一日ノ平均額 博愛慈善協會ヨリ	保護金支拂ノ一日ノ平均額 合計
一九〇五年自七月至十二月	一・五	二六・二	弗・四六	弗五・九二	弗二・三三	弗八・二五	弗・二三	弗・〇九	弗・三一
一九〇六年	一・四	二〇・八	・四五	四・九七	一・九一	六・八八	・二四	・〇九	・三三
一九〇七年	三・〇	二四・四	・九一	五・〇七	二・三一	七・三八	・二一	・〇九	・三〇
一九〇八年	二・二	二三・九	・七二	五・五四	二・一七	七・七一	・二四	・一〇	・三四
一九〇九年	二・一	二一・〇	・七三	五・八三	一・九九	七・八二	・二六	・〇九	・三五

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ一千九百七年及一千九百八年ニ於テ、失職保護金ヲ受ケタル人員、其保護金給與ヲ受ケタル日數、及失職ノ原因ヲ示シタルモノナリ、一千九百八年ニ於ル不景氣ノ季節及工業上ノ變動ノ爲メニ職業ヲ失フタルモノ最モ夥シクシテ失職全日數ノ八〇%ニ當リシ程ナリシ、又タ一千九百七年ニ於テハ工業停止及勞働的爭論等ノ爲メ其職ヲ失ヘル者、失職者全數ノ半數以上ニ達シタリ

一千九百七年及一千九百八年ニ於テ、ミラン博愛慈善協會ヨリ失職保護金ヲ給與シタル人員、其日數及失職ノ原因

失職ノ原因	保護金ヲ受クル人員		保護金給與ノ日數			
	一千九百七年	一千九百八年	一千九百七年		一千九百八年	
			日數	全日數ノ百分比例	日數	全日數ノ百分比例
不景氣ノ季節	六五三(イ)	七七七	一五、三一二(イ)	四二・〇四	二〇、三六八	七・四三
賃銀表改正ニ係ル解雇	八六	六三	三、九八三	三・六九	二、〇〇七	七・三三
工業停止（他ノ勞働者同盟罷工ヲ爲セルカ爲工業停止）	四五八	六〇	三五、六四	三二・九八三	一、五九四	六・六〇
	一五	六〇	五五一（ロ）	一・五一	八七八	三・三四
工業上ノ變動	（ロ）	七	（ロ）	—	七一二	二・七〇
勞働的爭論ノ爲メ解雇	（ロ）	九四	六、三七（ロ）	一七・三	六〇五	二・三〇
工場破産	二六六				九六	〇・六
店卸ノ爲メ停工	七（ロ）	一七	（ロ）	—	五〇	〇・一九
合計	一、四七	一、一四五	三六、四二六	一〇〇・〇〇	二六、三〇九	一〇〇・〇〇

（イ）ハ工業上ノ變動即チ破産ノ爲メ工場閉鎖、及店卸ノ爲メ停工等ヲ含ム

（ロ）ハ不景氣ノ季節ヲモ含ム

（ハ）ハ二協會ヨリ同一ノ勞働者ニ仕拂フタル保護金ノ受領日數ノ倍數三百八十日ヲモ含ム

ミラン失職保險資金ノ活用ノ重ナル結果ハ左ニ掲クル所ノ表中ニ於ル年ノ月々ノ數字ノ示ス所ヲ見テ知ルヘキナリ、今マ此表ノ示ス所ヲ以テスレハ、年ノ如何ナル季節カ失職者ノ生シ易キカヲ斷定スル事ノ甚ハタ困難ナルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證スヘシ、一千九百五年ニ於テ失職者ノ最モ多カリシハ七、八、九ノ三ケ月、一千九百六年ニ於テハ七、八ノ兩月一千九百七年ニ於テハ八、九、十二ノ三ケ月、一千九百八年ニ至リテハ一月ト云ヘル如ク區々ニシテ一定スル所アラサリシナリ

其他左表ノ示ス所ニ據レハ彼ノ博愛慈善協會ヨリ保護金ヲ受ル所ノ失職者ノ數ニ比較スレハ稍ヤ少ナキナリ、蓋シ是レ博愛慈善協會ヨリ保護金ヲ受ケント欲スル場合ニ方リテ、規則中ノ何レニカ該當セサル所アリトテ拒絶セラルル、コト往々之レアリシニ依ル

一千九百五年七月ヨリ一千九百五年十二月ニ至ル期間ニ於テ月々ミランノ博愛慈善協會及職業協會ヨリ仕拂ハレタル失職保護金

年ト月	保護金ヲ受ケル所ノ人員	保護金支拂ノ日數	職業協會ヨリ仕拂フタル保護金額			職業協會博愛慈善協會ノ二者ヨリ受ケタル保護金總額
	職業協會ヨリ	博愛慈善協會ヨリ	失職者全部ニ	博愛慈善協會ヨリ保護金ヲ受クル者ニ	博愛慈善協會仕拂フタル保護金額	
一千九百五年 七月	一七三	二〇〇	二、三九三	四八七弗	一七四弗	六〇二弗
八月	二〇八	一八五	二、九九二	六四四	二二九	八七三
九月	二二二	二〇三	三、四九一	八一二	二七五	九六三
十月	二一四	一二六	一、四六六	三一五	二一八	四四九
十一月	二一九	一〇七	一、三六四	二八八	一〇五	三四八
十二月	二一八	二一五	一、六九二	四〇七	一三三	五〇一
合計六ヶ月	九八四	八九六	一三、三九八	三〇七二	一、〇四四	三、七三七
一千九百六年 一月	二一二	二一〇	一、四五四	二九五	二七	四二三
二月	二一〇	二一一	九〇八	一五六	一二	二三七
三月	二一四	二一〇	四八六	九〇	三六	一二六
四月	二一四	二一四	四八七	一一九	三一七	一四三
五月	二一四	二一四	四九七	一一三	三一八	一四三
六月	二一四	二一四	五〇二	一一二	三一九	一四六
七月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
八月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
九月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十一月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十二月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
合計	一、一〇〇	一、〇二六	一三、八五六	一、二四二	三一三	二、九一〇
一千九百七年 一月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
二月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
三月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
四月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
五月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
六月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
七月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
八月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
九月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十一月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
十二月	二一四	二一四	五一〇	一一二	三一九	一四六
合計	一、一〇〇	一、〇二六	一三、八五六	一、二四二	三一三	二、九一〇

月	十二月	一千九百八年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一千九百九年一月
合計	二、六四九	四〇五	一三五	一二八	一三六	一五五	一五六	二〇一	二〇五	二三四	一九二	一九三	一五九	一一三
合計	二、五〇八	四〇五	一三五	一二八	一三〇	一五五	一五〇	二〇一	一九四	二一六	一七〇	一五九	一三六	一一三
合計	二、六二一	五、二二七	二、〇三〇	一、三三四	一、五〇一	二、五〇六	一、七五	二、四七一	二、七二〇	三、一一六	二、五三三	一、九九六	二、四六二	一、六六三
合計	二、五四九	五、一五七	二、〇三〇	一、三三八	一、四〇八	二、一八七	一、六四三	二、一八四	一、九五六	二、七三二	二、〇四〇	一、五八七	二、一〇〇	一、六六三
合計	二、五四三	一、二七四	五〇八	三九九	二九四	五九六	三六九	五〇三	六三五	七七四	五五五	五一三	六〇二	三一五
合計	二、四三五	一、二七四	五〇八	三六〇	二八四	五一九	三四七	四一七	六〇一	六九九	四一七	四〇二	五一〇	三一五
合計	二、四八二	四九四	一八九	一一七	一一八	一九一	一五〇	二一七	二三七	二四三	一八四	一五一	一九九	一四五
合計	二、〇八九	一、七六八	六七七	四七七	四〇二	七一〇	四九七	六二六	八三八	九四二	六〇二	五五三	七〇九	四六〇

月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
合計	一、二八	一、二〇	一、四七	二五三	一七八	一七一	一七五	一八二	二〇〇	一九五	一九五	二、二一三
合計	一、二八	一、二八	一、四六	二五二	一七五	二、六七	一、六九	二、一一八	一八五	一七二	一四八	二、一三八
合計	一、三五八	一、四四八	一、六七八	三、五〇六	二、二九一	三、九六一	二、五一六	二、七九六	一、八五九	一、二三七	一、二八五	二六、七五七
合計	一、二九八	一、四〇六	一、六三一	三、三八二	二、二二二	三、八三五	二、三五四	二、二九六	一、八五九	一、八二六	一、二一〇八	二四、九三〇
合計	三〇五	三一五	三一三	七一九	六〇九	一、一〇四	九四八	九六九	七一四	六三八	三三三	七、三八七
合計	三〇五	三一九	三四八	七一五	五五八	一、〇七八	九二六	八六〇	六二九	六一五	二九一	六、九五九
合計	二二七	一三八	一五九	三一一	二〇八	三四七	二二二	二一八	一八九	一六三	一一三	二、三六三
合計	四三二	四五七	五〇七	一、〇三六	七六六	一、四二五	一、一四八	一〇八一	八一八	七八八	四〇四	九、三二三

イ印ハ　此總計ハ全ク正確ノモノニアラスト雖モ元來ノ報告中ニ示サレタルモノト知ルヘシ

職業協會ヨリ給與サレタル失職保護金ノ事

以上掲ケタル表ニ依リテ之ヲ考フレハ聯合協會全部ノ會員カ計算セラレタルモノト知ルヘシ、抑モ救助サレタル失職者ノ數、失職保護金ヲ給與シタル日數、給與サレタル保護金額等ハ、此失職保險制度ノ聯合會ヘ加ハリタル各勞働協會ニテ報告セラレタリ、但シ此等ノ統計ハ一千九百六年ヨリ一千九百八年ニ至ルマ

テト知ルヘシ、斯クテ百分比例ヲ得ンカ爲メニ一千九百六年及一千九百七年ノ一月ト十二月トニ於ル各協會々員ノ平均數ヲ取ルコト、セリ、然レトモ此等ノ會員ノ平均數ニ至リテハ一千九百八年ノ分カ、正確ナルモノト思惟セラル、カ故ニ此平均數ヲ利用スルコト、セリ

或ル場合ニ於テハ失職保護金ヲ受クル者ノ數ノ多大ナルハ畢竟スルニ或ル協會ノ會員ノ平均數ヨリ一層多キ場合アリ、斯クキハ或ル協會ノ會員ノ如キハ年ニ一回ヨリ多クノ保護金ヲ受ケ、從ツテ之ヲ二人ト見做シテ計算シタルニ外ナラス、今マ實例ヲ擧ケテ其多大ナルコトヲ證明センカ、一千九百六年ニ於テ失職保護金ヲ受ケタル硝子磨職及白色硝子職工ノ數ハ平均會員總數ノ一九・二六%ニ當リ、一千九百八年ニ於テ百分比例ノ最モ高キハ金屬鍛鍊師ニシテ同シク三五・四%ニ當レリ、兎ニ角三ケ年ヲ通シテ他ノモノニ比較シテ百分比例ノ高カリシハ活版組方、活版職工及石版師等ナリト知ルヘシ

一、千九百六年、一千九百七年及一千九百八年ニ於テ博愛慈善協會ミラン職業協會及職業協會ヨリ給與セラレタル失職保護金

職業協會	會員（イ）	左記ノ會ヨリ保護シタル度數 職業協會	左記ノ會ヨリ保護シタル度數 博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與日數 職業協會 毎會員ニ付テノ平均	左ノ會ヨリノ保護金給與日數 博愛慈善協會 毎保護金ニ付テノ平均	左ノ會ヨリノ保護金給與額 職業協會	左ノ會ヨリノ保護金給與額 博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與額 合計
一千九百六年								
青銅細工師	五七	—	—	—	—	—	—	—
彫刻師	六六	三	四・五	一七	一七	四弗・九二	一弗・四	六弗・五六
活字組方	一三〇〇	三八三	二九五	一〇・三	一四・九六五	一四・九六五	四・九六五	一四・九六五
匠鐵	四四	—	—	—	—	—	—	—
鑄物師	九〇〇	二六	二九	一五六	一五六	八三・五〇	一五・〇六	五三・五六
活版職工	九七七	三五三	三六・一	二	二	一五・〇	一五・〇	三四・八五七
器械製造師	三	—	—	—	—	—	—	—
製本師（ロ）	三一三	一四	四三	四・八	四・八	一三・三	一三・三	四・〇四〇
石版工	四八三	一四	一四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四
鐵工	七〇	七〇	一五・一	一〇・三	一〇・三	一五・四	一五・四	一〇・八〇
金細工師	一四〇	二	一四	六・〇	六・〇	二・三	二・三	一〇・八〇
機械師	一〇八	七	六・五	二・〇	二・〇	一七・〇	一七・〇	二〇・八四四
磨工及鍍金工	二〇五	六	二・九	一八・三	九・〇	一八・	一八・	二〇・八四四
製革工	八二	六	四・三	二・三	七・二	四・三	四・三	七・二
新聞賣捌人及配達夫	一〇八	—	—	一・五	八・四	二・六	二・六	二・九・二六

染物師	二六五	二〇	七・五	二〇	一八四	・七	九・二	一八四	四一・四〇	一七・九五	五九・三五
金屬挽物師	一、〇七五	四二	三・九	五四	三五四	・三	八・四	三四五	七四・八〇	三三・八一	一〇七・六一
役所雇人	五三二	一九	三・六	一九	四九六	一・〇	二六・一	四九六	一〇六・九二	四七・八七	一五四・七九
印刷女工	一六六	六	三・六	六	五三	・三	八・八	五三	四・三二	四・三二	八・六四
「リボン」製造人	三一〇	五	一・六	五	五二	・二	一〇・四	五二	九・九八	五・〇二	一五・〇〇
粧飾師	一八	一	五・六	一	一三	・七	一三・〇	一三	二・七〇	一・二六	三・九六
活字製造人	一六七	一七	一〇・二	一七	一四七	・九	八・六	一四七	三四・四七	一四・一八	四八・六五
帽子製造人	七五	六	八・〇	六	四八	・六	八	四八	二・七〇	一・三五	四・〇五
硝子工	七四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
「バケツ」製造人	七八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
印刷業組合	三一五	五二	一六・五	五〇	六六二	二・一	一三・七	六四四	一〇一・八〇	三一・四九	一三三・二九
製本師(ロ)	一二〇	五	四・二	五	五一	・四	一〇・二	五一	四・九二	四・九二	九・八四
金屬切斷工	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
眞鍮細工師	三一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鍛冶師	五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬具師	一五〇	三七	二四・七	三七	三〇二	二・〇	八・二	三〇二	七二・八六	二九・一四	一〇二・〇〇
藥劑的雇人	一〇二	七	六・九	七	一〇四	一・〇	一四・九	一〇四	一〇・〇三	一〇・〇四	二〇・〇七
編物工	一五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鍍金師	一一六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
「レース」製造人	三〇	三	一〇・〇	三	二〇	・七	六・七	二〇	一・九三	一・九三	三・八六
室內粧飾人	六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蹄鐵工	三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	八、七九〇	一、一〇〇	一二・五	(ハ)一、〇五五	一三、八五〇	一・六	一三・六	(ニ)一二、七一二	二、九一〇・五二	一、一三四・七六	四、〇四五・二八

イハ 一千九百六年及一千九百七年ノ會員平均數ヲ示スモノ

ロハ 製本師二ケ所ニ出テタルハ二個別々ノ協會ナルコトヲ示スモノ

ハハ 二十九件ノ重複セルコトヲ含メルモノナリ、是レハ印刷業三協會ヨリ同一ノ人ニ對シテ保護金ヲ給與シタルモノト知ルヘシ、又タ此合計ハ元來ノ報告ニ基ケルモノニシテ正確ナル計算ニアラス

ニハ 活版業組合、活字組方組合、印刷業組合等ヨリ同一ノ人ヘ給與シタル保護金ノ日數ヲ倍シタルモノヲ含ムモノト知ルヘシ

一千九百六年、一千九百七年及一千九百八年ニ於テ博愛慈善協會、ミラン職業協會、職業協會ヨリ給與セラレタル失職保護金、(前段ノ續キ)

職業協會	會員(イ)	左記ノ會ヨリ保護シタル度數			左ノ會ヨリ保護金給與日數				左ノ會ヨリ保護金給與額		
		職業協會		博愛慈善協會	職業協會			博愛慈善協會	職業協會	博愛慈善協會	合計
		會員	會員ノ百分比例		數	毎會員ニ付テノ平均	毎保護金ニ付テノ平均				
一千九百七年											

青銅細工師	一八二	三二	六六・五	三二	一、九八七	一〇・九	一六・四	一、九八七	弗五六五・四九	弗一九一・七〇	弗七五七・一九
彫刻師	七七	六九	八九・六	六九	一、一一六	一四・五	一六・二	一、一一六	三二一・九三	一〇七・六九	四二九・六三
活字組方	一、四五〇	五七六	三九・七	五三二	六、七一六	四・六	二・七	五、八六九	一、五三二・五八	五三六・〇五	二、〇六八・六三
鐵匠	三五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鑄物師	八〇〇	七九	九・九	七七	九六五	一二・二	一二・二	九六五	二五八・四三	八八・五一	三四六・九四
活版職工	一、〇一五	四六八	四六・一	三九九	五、九七〇	五・九	一三・八	四、七一七	一、〇二一・九八	四三四・五五	一、四四六・五三
製本師	五一四	三二	六・〇	三二	二四八	〇・五	八・〇	三四八	六七・一〇	二四・〇〇	九一・一〇
石版工	五四六	一四七	二六・九	一四六	二、〇三六	三・七	一三・九	二、〇二四	五一四・六三	一九五・九〇	七一〇・五三
鐵工	一五〇	五	三・三	五	八四	〇・六	一六・八	八四	一六・二一	八・二一	二四・三二
金細工師	一二〇	五	四・二	五	七一	〇・六	一四・二	七一	八・五九	六・八五	一五・四四
機械師	一〇三	七	六・八	七	九〇	〇・九	一三・九	九〇	一七・三七	八・六八	二六・〇五
磨工及鍍金工	二〇八	二一	一〇・一	二一	二〇四	一・〇	九・七	二〇四	三九・三七	一九・六九	五九・〇六
製革工	七八	九	一一・五	九	六五	〇・八	七・二	六五	一四・六七	六・二七	二〇・九四
新聞賣捌人及配達夫	一一一	二	一・八	二	七二	〇・六	三六・〇	二七	一三・九〇	六・九四	二〇・八四
染物師	三四四	六	一・七	六	六七	〇・二	一一・二	六七	一五・一三	六・四六	二一・五九
金屬挽物師	八五八	一八六	二一・七	一八六	一、五八七	一・八	八・五	一、五八七	四二三・九一	一五二・六八	五七六・五九
役所雇人	五九九	二〇	三・三	一九	四五二	〇・八	三・六	三九七	九一・一九	三八・三一	一三九・五〇
印刷女工	三三五	二〇	六・二	二〇	二三六	〇・七	一一・三	二三六	二〇・五五	二〇・四六	四一・〇一
「リボン」製造人	二七九	一〇九	三九・一	一〇九	五八五	二・一	五・四	五八五	一三三・八二	五六・〇五	一七九・八七
粧飾師	一三六	二	一・五	二	四四	〇・二	二二・〇	四四	八・四九	四・二五	一二・七四

活字製造人	一九一	九	四・七	九	五六	〇・三	六・二	五六	一六・三五	六・〇八	二二・四三
帽子製造人	九九	一五	一五・二	一五	三一八	三・二	二一・二	三一八	五二・七九	二〇・八四	七三・六三
硝子工	一三三	三	二・三	三	二九	〇・二	九・七	二九	五・六〇	二・八〇	八・四〇
「バケツ」製造人	八八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
印刷業組合	三三五	五〇	一五・四	四九	八一七	二・五	一六・三	七七九	一〇三・九一	三六・九三	一四〇・八四
製本師（ロ）	九八	三	三・二	三	一一七	一・三	九・八	一一七	一一・八七	一一・二九	二三・一六
金屬切斷工	一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
眞鍮細工師	三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鍛冶師	七七	二	二・九	二	一一	〇・二	五・五	一一	一・九三	一・〇六	二・九九
馬具師	一二五	二	一・六	二	五四	〇・四	二七・〇	五四	一一・〇〇	五・二二	一六・二二
化學的職工	一三三	二七	二三・〇	二七	一五一	一・三	五・六	一五一	二〇・二六	一四・四八	三四・七四
編物工	一五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鍍金師	一六二	一	〇・六	一	一八	〇・一	一八・〇	一八	二・六〇	一・二二	三・八二
室內粧飾人	七二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
硝子粧飾人	三八[は]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
聯合協會ノ雇人	一九三[は]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蹄鐵工	一〇〇[は]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
櫛製造人	四〇[は]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
寫眞銅版師	八〇[は]	一	一・三[に]	一	二四	〇・三[に]	二四・〇	二四	三・二四	一・一六	四・四〇
織機製造人	二九〇[は]	一九九	六八・六[に]	一九九	二、九九七	一〇・三[に]	一五・一	二、九九七	八一七・八四	二六九・二二	一、一〇七・〇五

職業協會	會員(イ)	左ノ會ヨリ保護シタル度數 職業協會 會員	會員ノ百分比	博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與日數 職業協會 數	每會員ニ付テノ平均	每會員ニ付保護金ノ平均	博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與額 職業協會	博愛慈善協會	合計
手袋製造人	は一六九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
硝子磨工 / 白色硝子職工	は は 二〇〇	四四三	に一九二・六	四四三	一一,四三〇	に四九・七	二五・八	一一,四三〇	一,三七二・七一	一,一〇三・〇〇	二,四七五・七一
石鹼及香水製造人	な七二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
印刷店ノ助手	は八八	二	に二・三	二	二四	に〇・三	三・〇	二四	四・〇五	二・三二	六・三七
「ステレオタイプ」製造人	は一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	二,六四九	—	は二,五三三	三八,六三二	—	一四・六	三六,四二六	七,四八九・四九	三,四〇八・七五	一〇,八九八・二四

(イ)ハ一千九百六年及一千九百七年ノ會員平均數ヲ示スモノ

(ロ)ハ製本師ニケ所ニ出テタルハ二個別々ノ協會ナルコトヲ示スモノ

(ハ)ハ年末ニ於ル會員數

(ニ)ハ年末ニ於ル會員數ニ基キテ

(ホ)ハ二協會ヨリ同一ノ人ニ對シテ保護金ヲ仕拂フタル二十五件ノ重複セルコトヲ示スモノ

(ヘ)ハ二協會ヨリ同一ノ人ニ對シテ保護金ヲ仕拂フタル日數三百八十日ノ重複セルコトヲ示スモノ

一千九百六年、一千九百七年及一千九百八年ニ於テ博愛慈善協會、ミラン職業協會及職業協會ヨリ給與セラレタル失職保護金

職業協會	會員(イ)	左ノ會ヨリ保護シタル度數 職業協會 會員	會員ノ百分比	博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與日數 職業協會 數	每會員ニ付テノ平均	每會員ニ付保護金ノ平均	博愛慈善協會	左ノ會ヨリノ保護金給與額 職業協會	博愛慈善協會	合計
一千九百八年											
印刷業											
活字組方	一,四八四	二三八	一六・〇四	(ロ)	九,九二九	六・六	三四・九	八,三二七	二,〇三七・八〇	七三一・五五	二,七六九・三五
活版職工	一,〇五一	二〇〇	一九・〇三	(ロ)	四,七三五	四・五	二一・五	四,三一二	八〇六・六六	三八八・五〇	一,一九五・一六
製本師(ハ)	五一五	三一	六・〇二	(ロ)	九六八	一・九	三一・二	九六八	二五四・〇八	九四・九	三四八・一七
石版師	五四四	九二	一六・九一	(ロ)	三,三〇四	六・一	三五・九	二,九五四	七八五・三二	二八五・〇六	一,〇七〇・三八
印刷女工	四一五	五四	一三・〇一	(ロ)	一,三二一	三・二	二四・五	一,三二一	一四一・一四	一二七・四八	二六八・六二
「スラレオタイプ」師	七二	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
寫眞銅版師	六三	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
活字製作人	一七五	二四	一三・七一	(ロ)	三八五	二・二	一六・〇	三八五	九二・一六	三七・〇七	一二九・二三
新聞掛	一二三	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
印刷店助手	九六	三	三・一三	(ロ)	六五	〇・七	二一・七	六五	六・二七	六・二七	一二・五四
印刷會社	三二〇	六二	一九・三八	(ロ)	八三三	二・六	一三・四	八三三	一六六・〇七	四二・七八	二〇八・八五
製本師(ハ)	一二〇	一〇	八・三三	(ロ)	五〇	〇・四	五・〇	五〇	七・三四	五・四〇	一二・七四
冶金業											
青銅細工師	二三七	四九	三〇・六八	(ロ)	三七六	一・六	七・七	三七〇	一〇三・七四	三五・六一	一三九・三五

鐵匠	二一〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
鑄物師	五五〇	八一	一四・七三	(ロ)	二・〇八一	三・八	二三・三	一、八八五	六四七・二四	二二一・九八	八五九・三三
鐵細工師	三九〇	九	二・三一	(ロ)	九五	・二	一〇・六	九五	一八・三三	九・一七	二七・五〇
磨工及鍍金師	二八四	三六	一二・六八	(ロ)	三九一	一・四	一〇・九	三九一	七五・四六	三七・七三	一一三・一九
金屬挽物師	五〇二	三三	六・五七	(ロ)	七五〇	一・五	三・七	七五〇	一九二・〇三	七〇・六四	二六二・六一
眞鍮細工師	二四	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
鍛鐵者	七九	二八	三五・四四	(ロ)	一三八	一・七	四・九	一三八	三八・九八	一三・三三	五二・三〇
石類挽物師	二六七	五五	二〇・六〇	(ロ)	三五三	一・三	六・四	三五三	一〇一・六二	三四・〇六	一三五・六八
金屬打物師	八五	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
美術的工業											
彫刻師	八七	一八	二〇・六九	(ロ)	二二一	二・六	一三・三	二二一	三三・五八	二一・四三	五五・〇一
器械的美術細工師	七〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
及物師	一七	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
黃金打物師	五〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
玉工	一一一	一	・九〇	(ロ)	三六	・三	三六・〇	三六	一〇・四二	三・四八	一三・九〇
織物工業											
織物師	一、一三〇	三四	三・〇〇	(ロ)	七六四	・七	二二・五	七六四	一八一・一八	七三・七三	二五四・九一
「リボン」製造人	四〇二	一一	二・七四	(ロ)	九二	・二	八・四	九二	一六・〇八	八・四四	二四・五二
粧飾師	二一九	四	一・八三	(ロ)	四九	・二	一二・三	四九	九・五五	四・七三	一四・二八
染工及形付師	四二四	四九	一一・五六	(ロ)	七四七	一・八	一五・二	七四七	二一九・三三	七二・一八	二九一・五一

室內粧飾師	七〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
硝子業											
硝子職工	二五〇	九	三・六〇	(ロ)	二四五	一・〇	二七・二	二四五	七〇・九三	二三・〇六	九三・九九
硝子篏合師	一四八	一	・六八	(ロ)	一三	—	一三・〇	一三	二・三二	一・一六	三・四七
硝子粧飾師	三八	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
革業											
革工	八二	一二	一四・六三	(ロ)	二一四	二・六	一七・八	二一四	五八・五八	二〇・八四	七九・四七
手袋製造人	一〇五	一二	一一・四三	(ロ)	二九九	二・八	二四・九	二九九	四九・二三	二四・三九	七三・六一
鞍師	一〇三	二	一・九四	(ロ)	六六	・六	三三・〇	六六	一九・一一	六・三七	二五・四八
化學的工業											
化業的職工	一五〇	八	五・三三	(ロ)	四六	・三	五・八	四六	八・一一	四・四四	一二・五五
石鹼及香料製造人	七〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
諸種ノ工業											
帽子製製人	一三一	一五	一一・四五	(ロ)	五〇〇	三・八	三三・三	五〇〇	六四・九四	二八・八一	九三・七五
「バケツ」製造人	九〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
櫛製造人	二六	三	一一・五四	(ロ)	一三三	五・一	四四・三	一一三	二五・六七	一三・八三	三八・五〇
鍍金師及「ワニス」塗師	二五〇	一	・四〇	(ロ)	一八	—	一八・〇	一八	二・四一	一・二二	三・六三
紙製懸物師	一二四	四	三・二三	(ロ)	三〇	・二	七・五	三〇	五・八〇	二・八九	八・六九
車製造人	五〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—	—	—
役所向雇人											

雇人聯合會	四八七	九	一·八五	(ロ)	二九四	六	三二七	二八三七	九〇九〇
商賣上雇人	一六〇	—	—	(ロ)	—	—	—	—	—
聯合店ノ雇人	一九九	八	四·〇二	(ロ)	一七二	九	二二五	一六六〇	四九七九
合計	二六四八	一,一〇六	九五四	(ロ)	二九七二三	二三五	二七二三六四七二八二四公五八八八二八六六		

(イ) ハ一千九百六年及一千九百七年ニ於ケル會員ノ平均數ヲ示セルモノ

(ロ) ハ報告ナキモノ

(ハ) ハ製本師二ケ所ニ出テタルハ二個別々ノ協會ナルコトヲ示スモノ

國立失職保險制度ニ關スル提案

內務大臣ヨリ一千九百十年六月十六日ヲ以テ衆議院ヘ一ノ議案ヲ提出シタリ、失職保險制度ヲ國立トシテ設ケント欲スル議案ナルモノ是レナリ、而シテ此議案ナルモノハ「ゲント」式保險制度ニ基ケルモノト知ルヘシ、政府ヨリ斯ル議案ヲ提出シタルコトハ未タ曾テアラス、乃チ政府ハ勞働者ノ失職保護金トシテ十萬「リラ」ヲ支出スルコトヲ條件トシテ提出シタルモノナリ

此議案ニ伴フ所ノ報告ニ基キテ失職救護ニ關スル問題カ討論セラレ、且ツ此救護ニ關スル種々ノ方法手段カ對照比較セラレタリ

抑モ此提出議案ノ主意ハ甚タ簡短ナルモノト謂ツヘキナリ、其要領ヲ擧レハ左ノ如シ、曰ク政府ヨリ失職保險保護金トシテ一千九百十年ヨリ一千九百十一年ニ跨カレル會計年度ニ於テ十萬「リラ」ヲ支出スル事、此等ノ保護金ハ勞働者ノ失職セル者ヲ救助スル勞働協會ニ給與スルモノニシテ、農工商務大臣ニ於テ之ヲ管理スルモノトス、而シテ此議案ノ特ニ要求スル條項ハ僅カニ左記ノ如キモノニ過キス、(一)、此等ノ勞働協會ヨリ給與スル所ノ失職救助金ナルモノハ純然タル慈善的ニアラス元ト是レ貯蓄心ヲ養成セシメント欲スルノ意ニ出テタルモノナリ、尙ホ之ヲ詳言センニ斯ル協會ノ歲入ノ全部若クハ一部分ハ會員ノ掛金ヨリ成リ立ツ事トナシ、之カ會員タルモノハ夫々規定スル所ニ從ツテ必ラス若干ノ掛金ヲ爲サヽルヘカラサルコト、定ム、(二)、此等ノ協會ノ會員ニシテ失職保護金ヲ受ケンニハ其會員ニ加入シテヨリ若干ノ年月ヲ經過シ居ラサルヘカラス、失職保護金ヲ受ケント欲スル時ノミニ限リテ協會ニ加入スルモノアランカ、斯ルモノハ保護金ヲ受ルコトヲ得ス、(三)、保護金ヲ受クヘキモノハ其身體健全ナラサルヘカラス、其他病人、負傷者、老人、働力損耗者及分娩後ノ婦人等ハ皆ナ是レ此議案ノ主意ニ從ツテ救助セラルヘキモノニアラストス、是レ他ナシ此種ノ人々ハ既ニ他ノ方法手段ニテ救助セラルヽ居レルカ、救助セラルヘキ途アレハナリ、(四)、勞働者自カラノ意志ニ反シテ其職ヲ失ヘルモノニ限リテ此失職保險制度ニ從ツテ救助セラルヽコトヲ得ヘキナリ、然レトモ同盟罷工ノ勞働者若クハ自分ノ隨意ニ其職ヲ罷メタルモノ、其他自分ノ失策不都合ニテ解雇サレタルモノハ救助セラルヘキ限リニアラス、(五)、或ル季節ヲ限リタル職業ニ就ケル勞働者ニシテ其季節以外ニ失職セルモノハ救助スヘキモノニアラス

此條例實行ニ關スル詳細ナル事柄ハ此議案中ニ記載セラレサリシナリ、但シ此等ノ事柄ハ勞働高等會議等ノ熟考審議ヲ經由シテ後勅令ヲ以テ規定セラルヘキモノナリ

此議案ハ殆ント討論セラル、コトナクシテ衆議院ヲ通過シタリ、然レトモ貴族院ニ於テ中央委員會附託トナリシカ、一千九百十年七月七日ニ至リテ不幸ニモ否決セラレタリ

○社會的病因を國家は如何に防衛するか

一、國家的健康維持法ト衛生

住所缺乏、職業幷ニ勞働ニヨリテ受クル被害、營養不良及貧困ハ、既ニ說カレシ如ク、現今工業時代ニ大影響ヲ及ホスヘキ社會的疾患ノ原因トナルモノナリ。嬰兒疾患、結核及酒精中毒ハ、上記ノ原因ニ基ク三大疾患トナスヘキコト疑ヲ容レス。彼等ハ實ニ戰慄スヘキ國民ノ兒害者ナリ。然レトモソレハ或ハ工場ノ煤煙ノ中ニ、或ハ大都市ノ熱キ空氣ヲ吸ヒツヽ、狹クルシキ且ツ薄暗キ家ニ住ミテ、或ハ吾人ノ神經ヲ興奮セシムヘキ雜踏ノ中ニアリテ吾人ノ生計ニ脅迫ヲ加フル唯一ノモノニハアラス。寧ロ古クヨリ確認セラル、如ク、個々ノ病因作用相集リテ、肉體的及精神的疾病ニ對スル抵抗力ヲ低下セシメ、教育及兵役服務能力ヲ減少シ、神經幷ニ精神病患者、自殺者、犯罪者ノ增加ヲ來シ、花柳病蔓延ヲ促シ、遂ニハ癌及齒牙疾患サヘモ之ト深キ關係ヲ有スルニ至ル。今時ノ文明ハ之レト共ニ大ナル陰影ヲ伴ヘルモノニシテ、ソレハ若生ニ厭フヘキ泉源ヲナスノミナラス、現在ト共ニ將來迄モ甚タシキ危險ヲナスモノナリ。サレハ是カ防衛ヲナスハ國家ノ重大問題ナリ。即チ彼レ等カ國民ニ及ホス影響ノ偉大ナル事、病因ト病症ニ對シテ國家ハ其過去ノ方針ヲ根本的ニ改良スルニ値スルモノナリ。

不健康地　一定疾患ニ對スル防衛及飢饉救濟ノ爲メニ設ラレタル官廳ノ施設ハ既ニ古代ヨリ行ハレ、衛生

警察條例ハ埃及、猶太、希臘及羅馬ニ於テ見ラレタリ。中世紀ノ體育ハ專ラ看病ノ爲メニ餘裕ヲ失ヒタル如クナレトモ、尙當時ノ都市行政ハ法規ヲシテ豫防的性質ヲ貫ハシメタリ。更ニ深ク觀察スルニ、一國ノ權力政策及經濟政策ヲ主トシテ其領土、人口及商業取引ニヨリテ定メタル專制國及商業國ノ時代ニアリテ公衆衞生ヲ講セリ。乃チ國家衞生ノ基礎ハ、此時ニ起リテ十九世紀中ニ於テ改良セラレタリ。簡單ナル處置法例ヘハ十九世紀初期ニ於ケル癩患者ノ隔離、天然痘豫防、其後二十年ノ虎列剌豫防ノ如キハ、公衆利益ノ爲メニ行ハレタリト雖モ、當時ノ國家的衞生ハ其主眼タルヤ、國民個人々々ノ健康保護ニ止リタリキ。

大都市ノ增加及膨脹　工業發達及交通發達ニ伴フ近時ノ社會的關係ハ、國家衞生ノ問題トナレリ、一千八百七十一年獨逸ニ於テ大都市ノ住民ハ(人口十萬以上)ハ四•八%、一千八百八十年七•二%、一千八百九十年一六•二%、一千九百十年二一•三%トナリ、各國殊ニ獨逸ニ於テ移住民ノ部落的群集生活カ如何ニ急激ニ變化シタルカ、又移民群稠密度カ如何ニ急激ニ增加シタリシカハ、次表ニヨリテ明カナリ。

一千八百五十年以後ニ於ケル各國都市ノ發達

國名	一千八百五十年	一千八百八十年	一千八百九十年	一千九百年	一千九百十年
獨逸	四	一五	二六	三三	四八
英吉利	一〇	二六	三二	三九	五一
墺太利、何牙利	三	四	六	八	九
佛蘭西	五	一〇	一二	一五	一五
伊太利 (1)	一〇	一一	―	一一	一三
西班牙 (2)	四	五	―	六	七
歐羅巴露西亞	二	四 (3)	一〇	一四	一九
白耳義	二	四	四	四	四
和蘭	一	三	三	四	四
合衆國	六	一九	二五	三六	五〇

(1)此中五ハ一千八百六十二年ノ調査、(2)其中三ハ一千九百五十七年調、(3)ハ一千八百八十五年調、表中ノ數字ハ人口十萬以上ノ都市ノ數ヲ示ス

此ノ莫大ナル數ニ對シテ、住居ト職業ト食料ハ供給セラレサル可カラス、新事業ノ資本主的性質幷ニ生存競爭ハ諸種ノ勞働力ヲ、女子供ノ勞働マテモ要求スルニ至レリ工業ノ發達及猛烈ナル機關ノ運轉ハ、怪我ト職業上ノ危險ヲ增加セシメ、若シ一旦事業ノ失敗、疾病或ハ不幸ノ爲メニ、勞働機會又ハ勞働力ヲ失フ時ハ、其勞働力ニノミ依賴セル人々ノ數ト相並ンテ、貧困ニ陷ル機會モ多クナリ、職業ト交際ノ爲メニ起ル家族ノ離散ハ、以前ヨリモヨリ早ク風俗習慣ヲ亂シ、彼此相待ツテ彼ニ未知ノ經濟的、德義的、衞生的危害ヲ加フ。乃チ財政及社會的狀態ノ變遷ハ一個人ノミナラス、一團ノ人、一般社會國民ニ危害ヲ及ホス社會的病因ト病症トヲ釀スモノナリ、故ニ國家衞生ニ於テハ、國民個々ノ健康ヲ重ンスルト共ニ、國民全般ニ

對スル顧慮モ益々必要ナリ。

科學ハ公衆衛生ト結果ニ於テ相類似シ、同時ニ新研究及事業範圍ノ基礎ヲナスニ與ツテ力ヲナセリト雖モ唯原因ヲ同シウスルニ過キス。衛生學ハ其方法タルヤ、自然科學ノ一部及最近醫學ニ負フ所多シトスルモ問題トナルモノハ凡テ社會的狀態及疾病ニ對シテ、一箇人ノミナラス團體ヲモ保護セントスル必要ニアリペッテンコーフェル氏ハ、先ツ人民健康ニ對スル科學及國家ノ義務ヲ述ヘテ曰ク、健康ハ人一個ノ財產ナルノミナラス、國家財產タルヘク、其價値ハ總和ニ於テ確定セラレ、其利害ハ個人的及ヒ國民全般ニ涉リテ計算セラルヘキモノナリト口ヲ極メテ說ケリ。更ニ彼ハ衛生學ヲ以テ、健康科學ナリ、國家經濟ノ一部トシテノ健康學ナリ、疾病豫防案タリ、健康法ナリ、然ル醫師ノ專有物ニアラス、建築家、機械技師及行政官ノ共有物ナリト論セリ。

斯ノ如クシテ社會的病因ト鬪フニ當リ、國家ハ衛生學上有力ナル同盟者ヲ得、彼ハ精密ナル方法ニヨリテ此等ノ病因ヲ發見シ、其破壞作用ヲ減シ、或ハ除却スル方法ヲ講セルナリ。

二、國家的衛生法及社會的疾病豫防統計

社會的疾病原因攻擊ハ、諸方面ヨリ又種々ノ武器ヲ以テ試ミラレタリト雖モ、尙國家的衛生法カ、攻擊ノ最初ヲナセルモノナリ。サレハ其編成ニ就テ、少クトモ獨逸ニ於ケルモノニ就テ一瞥ヲ下シ置クハ又無用ノ事ニモアラサルヘシ。

聯邦各國ハ各所轄ニ應シテ、公衆衛生法ノ設備ヲ設ケタリ。憲法ニ據レハ醫師法及獸醫法ハ、一國ノ監督及法制ノ下ニナリ。（第十五章第四條）憲法ハ緒言ニ於テ既ニ建國ノ命令ノ一條トシテ、獨逸國民ノ安寧ヲ保スヘキ旨ヲ揭ケタリ、領土ノ擴張ハ衛生法施行上行政並ニ交通範圍內ニテ、其目的ヲ統一制度ニヨリテノミ行ハントスルニ必要ナリ。衛生法ハ內務省所轄ニ屬スルモ、技術的權限トシテハ一千八百七十六年以來其下ニ帝國衛生局ヲ置キ、立法準備、監督權ノ施行殊ニ法ノ施行ニ關シテ補佐セシム、衛生局ハ之ヲ四部ニ分チ、醫學部、化學衛生部、畑園部及獸醫部トス。一千九百年以來一方ニ帝國衛生顧問ヲ置キ、地方官憲ノ要求ニ應シテ意見ヲ述ヘ、又文書ニヨリ或ハ代表者ヲ出張セシメテ事件ノ解決ニ任セシム、此衛生顧問會ハ次ノ九委員會ニ分ツ。

(一) 一般衛生殊ニ住居、室溫法、採光法、衣服、學校、浴場、屍體ノ埋葬ト運搬
(二) 營養法殊ニ肉類檢查
(三) 給水及廢棄物排除殊ニ下水淸淨法
(四) 工場衛生
(五) 傳染病豫防並ニ消毒
(六) 一般治療法殊ニ患者運搬處置、保護、醫師法
(七) 治療材料、毒物賣買

(八)船舶及熱帶病衞生

(九)獸醫制度特ニ獸類傳染病統計、獸醫師法及肉類檢査

故ニ社會的疾患ノ防禦法ハ第一第二及第四委員會ノ範圍ニ屬ス。國家カ提出シタル健康法ハ、立法、司法行政及同一又ハ同等ナル命令ヲ布告セル聯邦內ノ一致ニヨリ規則トシテ表ハレ、法ノ實行ハ各聯邦ヲシテ行ハシメ、之ヲ內務省又ハ特別ノ場合ニハ、監督官ノ任命ノ下ニ監督セシム。

聯邦ニアリテハ衞生法ノ規定ハ內務部ニ屬シ、其政務ハ衞生局及協議ノ委員ヲシテ議セシム。普魯西ニテハ醫務行政ハ一千九百十一年以來、內務大臣ノ職權ニ屬シ、地方ニテハ、洲長官、縣知事、郡長ニ隷屬ス內務大臣ノ職權ニハ醫務學術委員會、藥局審査會及藥物ニ關スル技術委員會之ニ屬ス。洲長官ノ下ニ洲醫師會、縣知事ノ下ニ縣醫師會、郡長ノ下ニ郡醫師會ヲ置ク、バイエルンニテハ衞生事務ハ內務大臣、洲廳、內務官房、郡市長及郡會ニ司ラル。八洲ニハ八洲會ト八洲醫師會トアリ。百六十三ノ郡會ニハ百六十七人ノ郡醫ト、百四人ノ醫師代表者アリ。顧問トシテ高級醫師委員會ハ各地方長官ニ屬ス、斯ノ如ク他ノ各聯邦モ衞生行政ヲ布ケリ。聯邦ハ獨逸帝國カ公布シタル布告ノ完成及各聯邦ノ事務ヲ施行スル爲メニ法、施行法、刑法ヲ以テ各洲行政權ニ從ヒ又、特別ナル統治權並ニ制度ヲ設ケタリ。

一千八百六十九年、ペッテンコーフェル氏ノ經營ニヨリテ、最初ノ衞生學教室カミユンヘン ニ開設セラレテ以來、年ト共ニ起サレタル類似學校ハ、社會的病因豫防ノ開拓者タリシカ、伯林ニハウルヘルム皇帝紀念基本財產中ヨリルブネル氏指導ノ下ニ勞働生理學敎室ヲ設置シ、此ニ於テ人類ノ精神的及肉體的作業能力ニ關スル凡テノ問題ハ研究セラルヽモ、殊ニ吾人社會ノ一員ヲシテ、當ニ然ラシムル勞力要求ノ自然的條件ヲ研究セリ。其研究スル所ニヨレハ作業能力ト健康トノ境界ノ間ニハ一定ノ關係アリ、又國民ノ營養ト各種職業階級ノ營養ノ研究モ系統的ニ始メラレタリ。

然レトモ社會的疾病豫防ニハ、衞生行政ノ外ニ一國ノ統計的調査モ亦特別ノ意義ヲ有ス以上述ヘ來レル所ニ據レハ、統計ハ曾ニ現今ノ社會的問題ヲ職業別數、消耗品額、勞銀及物價騰貴ニ照シテ調査シタルノミナラス、病因及其豫防手段ヲ探究スルニ當リテ肝要ナル事ヲ知ルヘシ。統計法ノ改良ハ住居缺乏、職業災害、營養不良及貧困カ、國民ノ健康ニ及ホスヘキ、影響ヲ明ニスル事ヲ得ヘシ。衞生學研究ノ發達ト共ニ、統計ニヨリテ國民衞生ノ社會的危害ニ對スル施設カ設ケラレ、其ノ成績カ發表セラレタリ。獨逸帝國ノ統計中樞機關ハ、一千八百七十二年設立セラレタル帝室統計局ニシテ、一般統計、通商貿易並ニ租稅統計及勞働者統計ノ三部ヨリ成リ、一千九百〇二年ニ設立セラレタル勞働者統計部ハ、勞働者統計報告ノ編成及其繼續的發表ト、重要ナル報告ノ勞働者的干係、調査ニヨル特別ナル試驗ノ利益並ニ報告ノ發送ヲ其事務トナス。勞働者統計課專任ノ顧問ヲ置キテ事務ヲ補佐セシメ、更ニ特ニ社會的病因ヲ明ニスル爲メニ、內務省ニテ調査シタル工場管理統計、帝國衞

生局ノ醫事統計及帝國保險局調査ノ勞働保險統計モ之ニ關與ス。

社會政策及社會衞生學ノ統計ハ、一面ニ案內者ナルト同時ニ、其結果ヲ說明スルモノナレハ、旣ニ此書中ニ一部批評的ニ二三項ヲ記載セルモ、尙茲ニ問題ト成績トヲ說明スヘシ。

一國ニ於ケル社會的狀態ヲ判定スルニハ、大工場數ヲ以テ其基礎トナス。獨逸ニ於テハ正ニ社會的保護ヲ行フ前提トセラレサルヘカラス。故ニ一千八百八十二年、一千八百九十五年、一千九百〇七年ノ調査ハ、經濟學及社會政策ノ並立セル相互關係ニ應シテ統計ヲ取リ、更ニ社會的病因研究ノ根本ハシルベルクライト氏以來發達セル疾病及死亡統計ナリ。

各病因カナシタル作用ハ特別ナル調査ヲ要シ、從テ統計ニ特殊ノ分技ヲ作ルヘキ必要ヲ生シタリ、卽チ住居問題ハ住居統計事業ノ內容充實ヲ致サシメタリ、然レトモ國家的統計ハ第二線ニ落ツヘキモノナリ、コレ貧民窟ナルモノハ、主ニ大都會ノミニ見ラルヘキモノニシテ、當該統計ハ都市ノ各官廳ニテ作製セシムル事ヲ得レハナリ、古キバーデンノ統計（一千八百六十七年及一千八百八十五年）ノ他ウュルデンベルグニテハ一千八百九十五年、一千九百年及一千九百五年ニ其五大都會ノ戶數ヲ調査シ、サクセンニテハ三都市ノ戶數調査ニ着手シ、又バイエルンニテハ各自ニ統計局ノナキ都會ニ於テ、中央部ノ手ニテ技術的及科學的調査ヲナシタリ。帝國統計局ハ一千九百三年以來獨逸ニ於ケル住宅地ニ對スル報告ヲ帝國勞働新聞ニ公表セリ。

國家ハ勞働者保險及勞働者保護ノ統計ニ與ツテ力アリ、勞働保險統計ハ、此關係ニ特ニ興味アル補償方法治療法ト疾病、災害頻度、廢疾、年金並ニ遺族扶助料及災害ト廢疾ノ原因、疾病災害並ニ廢疾ノ期間トノ結果等ニ對スル指針ヲナスモノナリ。聯邦會議ニ保留セラレタル勞働者保護法ノ準備トシテ、一定ノ計畫ノ下ニ勞働狀態及特ニ今此處ニ問題トセントスル種類ノ工場ニ於ケル作業時間ニ關スル多クノ統計カ注意セラレ、又セラレツヽアリ。職業疾病豫防統計ニ關スル一例トシテ、政府ノ發表スル處ニヨレハ脾脫疽罹患及死亡例アリ。人類ノ脾脫疽ハ其原因充分明カナラサル故ニ、今日マテ豫防ノ確實ナル基礎ナカリキ。統計ハ今ヤ或種ノ工場ニ常ニ存在スル疾病ノ豫防法ヲシテ、有效ナラシムル道案內者タルヘシ、一千九百七年及一千九百八年帝國統計局カナセル如ク、消耗品調査、價格、工賃、屠獸及肉類檢査ノ持續的調査並ニ經濟調査ハ、勞働問題ヲ說明シ得、貧困狀態調査ニハ、貧民統計、職業紹介、無職業者數及租稅統計カ其基礎ヲナス。社會的保險統計ノ結果ヲ見ルニ、保險ニヨリ貧民救濟ノ要少クナル事ハ說明セラル。二三ノ社會的疾病ハ、嬰兒死亡率、嬰兒扶養統計（一千九百八年、一千九百十年バーデン）結核豫防統計、狼瘡意延調査及酒精中毒ニヨル犯罪統計（一千九百十年以降バイエルン一千九百十年バーデン）ニ於ケル犯罪統計）ニヨリテ明ナリ。

同時ニ戰時社會的病因ニ對スル官衞ノ統計モ、說明ニ重要ナルモノニシテ、其結果ハ社會衞生學研究ニ缺クヘカラサルモノナリ、勿論旣ニ度々記載セシ如ク、諸種ノ問題殊ニ種々ノ病因カ相並ンテ存在シ、然モ

其綜合作用カ確知シ得サル時、之ニ明確ナル報告ヲ與フル事ヲ得ス、然レトモ統計法構成ノ進歩ニヨリ、研究成績ヲ確實ナラシメ、殊ニ社會政策學及社會衛生學ノ官廳統計ヲ要スル事益々擴大シツヽアルヲ期待セシム。

社會衛生學ノ研究力及教授力促進ノ好手段ハ、社會衛生學及醫事統計學ヲ、專門學校教育ニ結合セシメ及得ラルヘキモノニシテ、故ニバイエルンニ於テハミュンヘン大學醫科大學内ヘ工場衛生、醫事統計社會衛生法ノ一講座ヲ設ケタリ。

三、住居缺乏ニ對スル國家的豫防

社會的保護ノ領域ニ於テ國家ノ事業トシテ住居問題程多クノ施設ヲ要スルモノナシ、邸宅管理、建築物警察、土地政策、小家屋ノ國家經營、建築ノ保證、土地投機税、小家屋ノ減税、取引ノ低減等ハ國家ノ採ルヘキ住居政策トシテ主要ナルモノナリ。

國家ノ住居監督ハ、佛國ニテハ既ニ千八百五十年、英國ニテハ千八百七十五年ニ始マリ、獨逸ニテハ千八百九十年ニ及ヒテ始メテ或ハ法律ニヨリ、或ハ命令的ニ之ヲ施行セリ。

住居監督ハヘツセンニハ一千八百九十三年、バイエルン及ウュルテンブルグニハ千九百一年、バーデンニハ千九百七年ニ施設セラレ、サクセンニハ千九百一年政府ノ命ニヨリ、郡長ヲシテ少クトモ人口二萬以上ヲ有スル都會ニ、居住監督法及住居整理法ヲ施行セシメ、普魯西ニテハ千九百一年省令ヲ以テ、行政官廳ハ必要上法規ヲ採用フヘキ事ヲ規定セリ、千九百四年住居改良法ハ、住居監督實施ヲ規定シタルモノニシテ後千九百十三年更ニ現行ノ、普魯西住居法ヲ公布セラレタリ。

國家ノ住居監督トハ、住居狀態ヲ常ニ檢査シ、不都合ヲ除キ、改良ヲ加ヘ、殊ニ此等ヲ下級社會民ノ爲メニ行フヘキ事業ニシテ、通常先ツ存在スル不備ノ點ハ之ヲ教示シテ除去セシメ、若シコレカ効ナキ時ハ、始メテ警察權ヲ以テ施行セントシツヽアリ。コレ即チ國家ノ採ル住居行政ノ管理ノ意義ニ全然相應スルモノナリ。始メ住居監督ノ施行ハ殆ント全ク内務部監督ノ下ニハ地方行政ノ手ニアリシカ、後ニ各聯邦ハ之ヲ各特殊官廳ニ移管シ、ヘツセンニテハ千九百二年ウュルデンベルグニテハ千九百九年地方住居監督局ニ、バイエルンニハ千九百六年中央住居監督局ニ之ヲ命スル事トナレリ。

バイエルンニ於ケル住居監督機關ハ、人口三千以上ノ市町村ニ對シテハ、千九百十一年王國統計年表ニ次ノ如ク記載セリ。

主務官廳		
常任建築技師	一五官吏	一二町村
補助官廳		
常任建築技師	二七	二七
臨時建築技師	八	八
其他ノ町村吏	四七	二二

名譽評議員	共同又ハ交互或ハ代表的ニ執務スル建築技師及地方官吏	九	九
		一	八二

住居監督法實施

千九百四年及千九百十三年普魯西議案ニヨレハ、住居制度ニ關スル監督ハ、地方警察署ノ一般的法律權以外ハ、市町村長ニ屬セシメ、人口十萬以上ノ都市ニハ、住居法實施ノ爲メニ住居局ヲ設置シ、之ニ適當ノ訓練ヲ施セル所要人員、殊ニ充分多數ノ監督官ヲ配置スルヲ要ス。多數ノ市町村及地方圖體ハ、共同ノ住居局ヲ置クコトヲ得。二三ノ地方住居局ニ實施シテ効ヲ收メタル小住居紹介ヲ、住居監督ニ結合スルコトハ、極メテ合理的ノ如シ。警察ハ其ノ命令ニヨリ、小住居ノ貸主ヲシテ、提供シ得ヘキ住居ヲ通知スルノ義務ヲ負ハシメ得ヘシトノ提案サヘアリキ。市町村及地方警察署ノ、施行ニ對スル監督ヲ實施スル爲メニ必要ナル塲合ニハ縣知事ニ、伯林ニ對シテ洲長官ニ住居監督署ヲ附屬セシム。

都市ニ於ケル住居狀態ノ發達不良ナルハ、一部ハ建築設計及建築規則ニ基クモノナレハ、其改正ハ國家ノ急務ニシテ、以テ不健全狀態ノ益々蔓延スル事ヲ防止スヘキナリ、エトベルスタットガ稱セシ如ク、今日ノ都會ノ建築ハ、全然道路崇拜ノ爲メニ支配セラレ、交通路ト貸家カ其特徴ヲナス。兩現象ハ急ニ發達セル地方市町村ニモアリ、交通路及多クノ貸家ハ、土地投機ノ原因タルト同時ニ又結果タリ。一面ニ於テ投機ト街路整理トノ爲メニ騰貴ヲ來シタル土地ハ、土地ニ應シ少數ノ立派ナル或ハ多數ノ小住居ノアル大貸家建築ヲ要求シ、他方ニ於テハ都市膨脹ニ伴フ、大交通路ノ發達ト大貸家建築力トニヨリ土地投機ニ刺戟ヲ與フ。大貸家ハ然レトモ安全ト健康トノ爲メニ、數多ノ建築學的要件ト設備トヲ要シ、而モ夫レハ建築ニ又借料ニモ高價ヲ來スモノナリ。市區ヲ多數ノ貸家ニテ飾ルニハ、交通ノ安全ト衞生學上、高價ナル廣キ道路ヲ要ス。都市建造ノ此法ニヨリ得ラレタル經驗ヨリ、國家ハ交通路對大貸家ノ傍、住宅通路對小家屋建築ノ要アリ、建築設計整理上適當ナル處置ヲ以テスレハ、小家屋建築ニ對シ、建築警察的取締上其ノ建築ヲ容易ナラシムルノ途ヲ講スルヲ得ヘシ。此模範ハ都市建設ノ全然新法ニアラスシテ、既ニ歷史的ニアウグスブルグ、ウルム等ノ諸市ニ於テ行ハレタリ。

此等ノ見解ニ基キサクセン、ウュルテンブルク及バーデンニ於テ、街路法、建築法及建築規則ハ作製セラル。

普魚西ニ於テハ千九百九年、田舍ニ對シテモ、建築警察規則ニ新指針ヲ示シタリ、新普魯西住居法ハ、市街地及田舍ニ於テ、建築設計改革ヲ現時ヨリモヨリ以上、完全セシメント企ツル、モノニシテ、更ニ建築警察規則公布ニ當リテ、地價ヲ常ニ相當ノ範圍内ニ保タシメ、小家屋ノ建築並ニ住宅街路開設及保持ヲ易カラシメンカ爲メニ、建築スヘキ地面及階數ニ關シテ土地ノ使用ニ制限ヲ加フル基礎ヲ作レリ。同樣ニ千九百十年バイエルンノ改正建築規則ハ小家屋建築ヲ易カラシムルモノナリ。

既ニ現存スル住居法ノ不條理ヲ豫防スル事ニ重キヲ置カスシテ。却テ此ヲ未發ニ防クヲ以テ住居政策ノ問題トナツタ市町村ニ於テハ此ノ施設ハ重大ナル價値ヲ有スル事明ナリ。乃チ投機ハ此規則ノ爲メニ妨ケラレ、地價騰貴ハ抑壓サレ、土地問題ノ構成ハ不可能トセラルル建築法及財產狀態カ、既ニ住居缺乏ヲ惹起シタル時ニハ、國家ノ援助ハ益々困難ナリ、茲ニ夫レハ特殊建築上ノ發達ト、中心土地ノ獨占的性質トニ干係シ、將來ニ望マル、借賃ヲ資本ニ組入ルヽヘキ所以ヲ以テ、地價ハ住宅保護ニ對シ一定ノ制限ヲ生ス、此場合土地政策トシテハ、例令國家カ之ニ何等命スル事ナシトスルモ、社會的目的ニ對シテ公共的手段ヲ採リテ、投機ノ事務上ノ缺點ヲ改良スル爲メニ、一般的干係ヲ參照セサルヘカラス。諸國ハ土地問題上住居法ニ存在スル困難ニ對シ、街路建設ヲ容易ナラシメ、非健康地ヲ除キ、又交通ノ防害トナルル殘餘地域ヲ除去シ得ルヤウニ、市町村ニ對シ强制收用權ヲ賦與シタリ。先ツ此干係ニ於テ、サクセンニテハ佛國及ベルギーノ例ニ倣ヒ、建築物及家屋群ヲ、交通或ハ公衆安全ノ爲メニ破壞セントスル法律公布セラレタリ。千九百十年及千九百十年公布セラレタルウュルテンベルグ建築規則ハ、健康ノ爲メニ舊地區除去ニ對スル洲收用權ヲ豫知セリ。

バイエルンニテハ、市町村道路用地收用法ハ、千九百十年ノ改正强制收用法補則會議ニハ、尙可決セラレサリキ。

國家ノ强制法トシテハ、轉用法ヲ行フ事ヲ得。建設地ノ轉用法トハ、農業的耗地整理ノ處置ヲ都會ノ建設地ニ轉用シ、其經濟的利用ニヨリ、製造費ヲ少クシ、益々健康ノ促進ニ適セシメントスルモノナリ。

普魯西ニテハ、千九百二年「レツラス、アテイックス」カ建築用地轉用ヲ、フランクフルトニ對シテ行ハシメ、千九百十一年以前ポーゼン及、キヨルンニ千九百十二年以來ウーエスパーデンニ應用セラレタリ。建築用地轉用ノ强制的實行ニ對スル法律的施行不充分ハ、切ニ必要ナル宅地ノ開拓ヲ妨ケ、或ハ少クトモ阻害シタル爲メニ、住居法案ハ夫ノ全國ニ擴張セラレンコトヲ發議シ、之カ爲メニ多クノ場合ニ於テ、發展ノ間ニアル市町村ハ、不適當ナル否更ニ衞生上大ニ顧慮スヘキ建築ノ生スル事稀ナラス。故ニ法律擴張ニ關スル動議ハ、全國ノ市町村ニ其數ヲ增シバーデンハ轉用處置ヲ、地方道路法ニヨリ、サクセンハ一般建築條例ニヨリテ施行シ、尙バイエルンニ於テモ亦夫ノ法律的規定ノ必要ヲ政府ニ於テ認メタレハ、恐ラク强制收用法改正ノ際ニ實行セラルヘシ。

土地問題ノ解決ハ、又公衆土地所有權ノ增加ヲ來スモノナリ、此問題タルヤ、勿論主トシテ都市ニ關スルモノナレトモ、國家モ亦一國ノ鐵道、運河、鑛山經營ノ發展ト共ニ其所有權ノ擴張ヲ企テシメラレタリ。然レトモエーベルスタツトハ、公衆土地所有權ノ擴張ニ非ラスシテ、其監理ト行政法トカ、社會的ニ又經濟的ニ滿足スヘキ土地政策及住居法ノ、改良ヲナサシムルモノナリト附言セラレサルヘカラス。

住居地監理ヲ目的トスル國有地利用法ハ、地主權及再買法ノ形式ヲ採ルモノニシテ、帝國及各聯邦ハ、住居地監督ニ際シテ、其使用者及勞働者ノ爲メニ地上權ヲ使用シタリ。千九百十年十二ケ町村ニ存セシ、二

百十「ヘクタール」ノ國有地ノ內、五十五「ヘクタール」ノ地上權ヲ讓與シ、組合ハ國有地ニ勞働者、職工、薄給者及社會的ニ此等ト同等ノ人々ノ爲メニ、住宅ヲ建設セントシ、國庫ハ貸借賃ノ確定ニ對スル影響ヲ制限シ、普魯西ハ又各官吏階級ニ、國有地國庫支辨ノ家屋建築ヲ許シタリ。

バイエルン鐵道金庫ハ、同金庫カ最初ニ自ラ勞働者官舍ヲ作リタルニ「ミュルンベルグ」市ノ、所謂鐵道員町ニ七十年間其土地ノ地上權ヲ許シタリ。再買法ノ法型ハ、建築者ニ確實ナル所有權ヲ與ヘ、建築シタル小家屋ヲ維持シ、又共同使用スル事ヲ保證スル爲メニ、各都市ヨリ地上權ヲ賦與セラレタリ。地上權ハ既ニ獨逸民法一〇一二條乃至一〇一七條ニ記載セラレ、住居監理ノ目的ニハ、此規則ヲ擴張セントシテ、屢々奬勵セラレタリ。帝國議會ニ於テ地上權ノ法律的及實施的意義ニ關スル議事錄編成ノ議屢々提出セラレ、千九百八年政府ハ聯邦ニ於テ、此法式實施ノ範圍、目的及條件ニ關スル調査ニ從事セルモ、詳細ノ報告ハ甚タ豐富ナラサリシナルヘシ。

千九百十二年二月、議會ニ於テ內務秘書官ハ、事務ニ深ク立入ル以前ニ、立法者ノ建築物ニヨル地上權賦與請求權ニ關スル、獨逸法曹會審理ヲ希望セント欲スト述ヘタリ。

墺國ハ千九百十二年、地上權法ヲ發布シテ、其住所政策的處置ヲ採レリ、建築法ノ規定ハ「規則トシテ公衆地域（國家、洲、縣、市町村、公資金）ニ制限セラレ、敎會、寺扶持、敎會堂或ハ共有地及共同建築物設定ハ、常ニ公衆利益ノ有無ニヨリ、官廳的制定ニヨルモノトナス。茲ニ特記スヘキハ、負擔カ建設權ノ半價ヲ超ヘス。又負債カ合意ノ有限定期金ニヨリ、或ハ月極一ケ年以內ノ月賦拂ニテ、遲クトモ第五年目內ニ、建築權ノ消失マテニ更正セラルヽトキハ、建築權ニ對スル質權ハ、法律上有效ナリトナス事ナリ。建設權消失ノ場合ニハ、建築物ハ地主ノ手ニ落チ、地主ハ他ノ協定不充分ノ爲メニ、建築權利者ニ對シ、現存スル又規定ニヨリ計算セル建築物價格ノ¼以內ニ於テ、損害倍償ヲ請求スル事ヲ得。

地上權使用ノ際ノ如ク、小家屋建設奬勵ニモ、信用問題ハ全然利害關係ヲ主トス。大貸家建設ニ對スル土地信用ハ、偉大ニシテ一番抵當カ、之ヲ以テ二番抵當構成困難ヲ一部分說明スルニ足ル程有力ナルニ、小家屋建築者ニハ、慘酷ニモ之レカ賦與ヲ好マス。故ニ不信用ハ、住所監督問題ニ當リテ公共手段ヲ無效ナラシメタリ。

故ニ帝國ノ一九〇一年乃至一九一二年ノ豫算ハ、國家ノ經營又ハ管理ニ屬スルカ、或ハ陸軍省所轄ニ屬スル勞働者及薄給者ノ小官舍建設費ノ貸付トシテ個人及共同計畫ニ對シテ、總計四千五百萬馬克ヲ計上シタリ。近時帝國會計ノ漸次改良セラレテ、一時二百萬馬克ニ制限セラレシ年額カ、再ヒ四百萬馬克ニ增加セラレシハ好マシキコトナリ。普魯西ニテハ、一九一〇年會計年度末マテニ、鐵道廳所轄小住宅建築費トシテ、國庫ヨリ三千二百二十萬馬克ヲ支出シ、其總額ノ內一部ヲ以テ官舍ヲ建テ、一部ハ貸付ケニ使用セラレタリ。普魯西ノ此使用法ノ成蹟一覽ハ次キノ如

キ統計ヲ示セリ。

一九一〇年度末マテニ國庫及勞働者恩給基金支出ニヨリ建築セラレタル鐵道廳所轄家屋總數

總數　一五、四一四

其内料理室付一室ノモノ　一三〇

二室　一、四九五

三室　七、一〇四

四室　四、八六二

五室　一、五五一

六室以上ノモノ　二七二

鐵道廳管轄ニ屬スル一九一〇年度末マテニ作ラレタル固有家屋

總數　五三、八三二

其内料理室付一室ノモノ　二六四

二室　三、七八六

三室　二二、二一二

四室　一八、〇九四

五室　六五三七

六室以上　三九三九

都市ハ地方ノ土地抵當機關設立ニヨリテ、大ニ信用必要ヲ救ハント努メタル故ニ、一九一二年内務大臣ノ農業ニ關スル訓令、大藏大臣ノ訓令ハ大ニ、其ノ創立ヲ容易ナラシメ、要求スル信用取返シニ適スル條件カ適ヘラレタル時ニノミ、債券ノ發行ニヨリテ、所要基本資金ヲ供給スヘキ種類ノ機關創立ヲ說明セリ。故ニカヽル機關ヨリ許サルヘキ貸付ハ、償還貸付トシテ「又債權者側ニ公然ノ原則的除外トシテノミ供給セラルヘシ。剩餘ノ使用ハ、負債償還目的及殘留並ニ經營及監督費ノ構成ニ限ラル。且ツ貸付ハ、特ニ注意ヲ拂ヒテ、確實ナル貸付價格調査ノ許ニ其ノ七〇%マテノ之レヲ許シ、第二抵當ハ之レヲ許可セス。バイエルンニテハ、一九〇八年地方通貨局モ小家屋建設ニ使用スルヲ許シ、一九一〇年末マテニ此目的ノタメニ交付セラレタル貸付額四百四十萬馬克ニ達セリ。

保險局ハ信用準備ニヨリ、大ニ小家屋建築ノ社會的保證ヲ助ケ、殊ニ一八九九年以後、後見人監督ノ價格以外ニ存スヘキ財產ノ一部ハ主トシテ、住所保護ノタメ、其ノ額ヲ四分ノ一ヨリ半額ニ增加セリ。勞働者住宅目的ニ地方保險局ヨリスル信用貸ハ一九一〇年ニ二億八千〇五十萬馬克ヲ算シタリ。多クノ公益的建築組合ハ、公債ニ三分五厘ノ利子ヲ附シタルタメ、一九一〇年五月十一日發布ノ帝國保險條例ハ、之レニ從ッテ、保險局カ其ノ財況ト永續的供給能力ノ爲メニ、勞働者住宅ニ對シテモ三分五厘以下ニテ貸シ出ス

ヘカラサリシニヨリ、少ナカラサル不安ヲ惹起シタリ、然レトモ酷シキ頑固ハマツ避ケサルヘカラス。一面ニ於テ、發行ノ廻及力ハ起ラス、他ニ於テ、利率ノ昇高ハ償還額ノ減少ノタメニ平均セシメラル。一九一一年ノ帝國新保險法(一三五六條)ニヨレハ、全部又ハ大部分ヲ保險義務者ニ供給スル企業財産ノ半ハ、其ノ代リニ將來ノタメニ保險局ヨリ、小家屋建築者ニモ貸出サルヘシ。之レニ反シ保險局ハ强制的ニ其ノ財産ノ大部分ヲ處置スルニ當リテ、其ノ四分ノ一マテハ紙幣ニ制限シタリ。之レ住所監理ノ爲メニ信用供給上大影響ヲ及ホス所ナリ。

墺太利ハ一九一〇年住居監理基金法ヲ公布シ、小家屋建築ニ對スル信用調達ノ面白キ試ミヲナシタリ。基本金ニ一九一一年乃至一九一二年ニ家政財産ノ中ヨリ、二千五百萬「クーロン」ヲ支出シ、之レヲ直接貸付供給(直接基本貸付)、及共用住所建築ニナレル法人(間接信用保證)ノタメニ、保證ヲ受クルコトヲ定メラル。基本金擔保ハ、通常貸スヘキ不動產ノ半價以上九〇%マテノ貸付ニ對シテ與ヘラル。又基金ヲ擔保トスル貸付ハ被後見人保證ノ特權ヲ有ス。世人ハ斯クノ如クシテ、一定度ニ制限セラレタル財產ヲ以テ、債權者、債務者及社會的目的ノ完全ナル安全ヲ保ナツヽ、小家屋建築ニ多大ノ信用ヲ得ント希望ス。投機的地價騰貴ヲサケ、又小家屋建築ヲ容易ナラシムル爲メニ、國家ハ稅法ヲ試ミタリ。然レトモ掌ヲ返スヨリモ明ニシテ、土地投機ノ酷稅ハ借家人ニ轉歸セシメラレ、減稅ハ彼レニ及ハサルナリ。故ニ斯ル事カ起リ得ル事ハ、立法ノ際ニ詳シク調査セラレサルヘカラス。今迄ハ屢々收入稅ノミ課セラレタル建築地

ノ增稅ハ、最モ有効ナルモノヽ如シ。之レニヨリテ、建築ニ對シ下落セラレタル投機阻止カ困難トナル。一般價格稅又ハ特別宅地稅ナル收稅法アリ。一般價格稅收稅法ハ、普魯西ニ於テ、數多ノ都市ニ其ノ收稅自治制ノ下ニ實施セラルヽモ、轉落ノ危險ハ極メテ多ク、賣上稅、殊ニ土地市場ノ極メテ好景氣ナル時、又ハ商業發達ノ盛ナル地ニ於テ然リ。最モ適法ナル課稅ハ、確ニ不當價格增加ノ徵稅ニシテ、獨逸ニテハ暴騰稅法トシテ、一九一一年公布セラレタリ。其ノ社會的効果ニ就テハ、勿論轉落問題ヲ十分ニ顧慮シ、法律ニヨリテ、多年ノ經驗後始メテ之レヲ知ルヘキナリ。

減稅ハバイエルンニ於テ、一九一〇年租稅改正ノ際、建築共同組合及小家屋建築者ニ施行セラレ、建築共同組合ハ、所得稅及營業稅ヲ賦課セラレス。小家屋建築者ハ、貧民或ハ農業勞働移民ヲ目的トスルモノニハ六年、四戶以下ヲ有スルモノ、又ハ市町村或ハ權利能力アル共同組合カ貧民ノタメニ建築スル時ハ十二ケ年間免稅セラル。貧民向キ家屋ノ建築創立、或ハ改築ニ關スル所有又ハ權利移渡ノ際ニハ、所有權變更稅ハ之レヲ徵收セス。共同組合及小家屋建築ニ對スル減稅ノ制限ニヨリテ、事實上借家人カ恩惠ヲ蒙ル大ナル保證ハ與ヘラルヽモノナリ。

住居保護ト交通ノ便利或ハ價格低下トノ間ニ、密接ナル關係カ存ス。小家屋建築ニ對シ、勞働者村又ハ田舍町、及ヒ、大都市ヨリ遠ク隔レル地方ニハ通常商投機ハ存在セス。小家屋建築者又ハ田舍町ノ住所ニハ、町ノ中心トノ間ニ便利ナル且ツ安価ナル交通聯絡ヲトルコトハ必要ナリ。郊外列車ヲ時間表ニ組ミ入

ル、コト、停車場建設、電車ノ建設及發動機郵便線ノ創設ハ土地ノ關係ニヨリ住居保護ヲ大ニ助ケ得ヘシ。補助機關設立ノ害ハ大ナラサルヘシ。通常、交通カ交通ヲ作リタルコトハ、交通吏ノ一般ニ經驗スル所ナレハナリ。田舍町又ハ小住所ヨリ都會ノ郊外ニ移住スルコトハ、交通ノ便利ナルニモ不拘、職業能力カ他ノ時間的調節ニ影響スレトモ、尚全ク之レヲ可能ナラシム。官衙又ハ私立會社ノ執務時間制定セラレサル所ニテハ、(大抵ハ制定セラル)好都合ナル住所機會ヲ得ルコトハ、唯時間ノ損失ト、交通費ノ高價トニ苦シムノミナリ。屢々監督ノ奬勵ハ惰性ヲヤブリ、一定ノ職務時間ニ同志者ヲ得、又住所保護ヲ得クルニヨキコトアリ。職務時間ノ制定ハ、小學校及中學校ノ教課間時ノ制定ト幷行セサルヘカラス。此處置ハ、例令都會住民ノ一部ニノミ行ハル、トモ、市民ノ市外移住ニヨリ、市内ノ住所町ヲシテ負損ヲ免カレシメ、又ヨリ好キ交通機關ノ設立ト同時ニ、周圍ノ建設モ行ハル。

住居問題ノ解決ハ、現時ノ社會問題トシテ目下ノ急務ナリ。特ニ家賃ノ騰貴ハ、衣食ノ道ニ追ハレ、質量的ニ浪費ヲ制限セラル、貧民ヲシテ、營養不良ニ導ク危險アリ。生活ニ缺クヘカラサル條件タル住居ノ騰貴ノ影響ハ、子女ノ數、總テ出産ノ數制限ニ迄及ヒ、自然國民發展ノ根元ニ斧鉞ヲ加フルモノナリ。前述ノ如ク住居問題ハ、結核、嬰兒死亡率及酒精中毒ノ蔓延ト、密接ノ關係ヲ有ス。獨逸ニ於テハ大都市ノ建設ハ迅速ノ進歩ヲナス故ニ、住居問題ノ解決ハ寸時モ之レヲ忽セニスヘカラサルナリ。

故ニ同盟國及多クノ都市ノ前例アルニモ不拘、帝國議會ハ、帝國住居法設定ノ問題ニ從事セリ。一九一二年五案以上ノ發議アリテ、多少ノ詳細研究辯論ノ下ニ、遂ニ聯邦政府ハ住居法ニ關スル議案(都會ト田舍トノ狀況ト適合スル住宅建設及利用ニ對スル最小要求ノ辯論、官廳的住居監理ノ設置、抵當債券寫設置、住所證明規則、地上權改良法)ヲ提出シ、住居監督、住居及土地市場ノ狀況、家賃貸借及建築能力ノ成績ヲ、年々發表シ、又小家屋ノ建設ハ、地方立法ニヨリテ、促進セシメ得ルコトヲ適當ナル方法ニテ營ムヘキヲ議決シタリ。然レ共、今ヤ同盟國ハ、住居監督ノ範圍ニ於ケル權利ヲ保留セントスル如ク、又普魯西ハ已ニ、新住居法議案ヲ公表シ、其ノ提議ハ此發表ニヨリテモ尚ホ有効タリ。

實際ニ於テ住居保護ハ、聯邦ノ行政權、警察權及ヒ建築權ト密接ノ關係ヲ有シ、而シテ帝國住所法ハ邊緣法ニスキサリキ、故ニ帝國政府モ之レヲ同盟國ノ住居政策カ否ムヘキモノナリシトセハ、單ニ最後法トシテ認ムルノミ。之レニ反シ、最近一九一三年一月二十一日、二十二日ノ豫算委員會ノ辯論報告ニヨレハ、土地及建築信用改良ニ對スル帝國ノ處置ハ可能ノ範圍ヲ脫セス。同盟國及ヒ市町村ト相共ニ、大抵當債券局ヲ設置スルコトハ、第二番抵當ノ許可或ハ擔保ニ關係ス。塊國住居保護基金ニ採用シタル前例カ此ノ計畫ニ對シ効果アリシ事ハ明カニ認メラル。

住居改良ノヨリ詳細ナル社會衞生學的意義ノタメニハ、立法者的且ツ組織的新計畫ヲ直チニ完全センコトヲ欲ス。國家的住居保護問題ハ命令的ノモノニシテ、其ノ完成ノ遲延ハ、物質的及ヒ心的價値ニ、無限ノ損失ヲ來スモノナリ。

四、勞働及職業危險ノ國家的掬抗

勞働及職業カ齎ラス社會的危害及危險ニ掬抗スルタメニ勞働者保護法及社會的保險ノ手段ヲ講スルハ現代國家ノ任務ナリ。十九世紀初期英國ニ於ケル工業ノ發達カ、ロバートピール氏ノ努力ニヨリ國家的勞働者保護ヲ工場法案トシテ始メタルニ獨逸ノ工業ノ偉大ナル發達ハ以前英國ヨリ採用シタル勞働者保護法ノ完成ヲ得タルノミナラス却テ社會的保險事業ノ紹介ヲナシ其ノ先例ハ他邦殊ニ墺國伊太利、英國、佛國、露國ニ於ケル社會的發達ノ源泉トナレリ。

勞働者保護ノ最舊ノ法ハ、勞働者殊ニ婦人及幼者ノ勞働時間延長ニ基因スル過度ノ勞力使用ヲサクルニアリキ。勞働時間ハ勞働カ一々ノ場合場合ニヨリテ勞務ノ强サニ大ニ關係ヲ有スヘキモ、其勞働ノタメニ惹起サル、疲勞ノ最モ一般的ノ尺度ヲナスモノナリ。過勞ノ健康ニ及ホス影響及過度疲勞ト災害危險トノ間ノ關係ハ已ニキヨルシユ氏ノ著ニ明言セラレ他方ニ於テ、經驗ニヨレハ、人類ノ勞働能力ハ之レヲ極度ニ使用スルヨリモ幾分保留スル方カ、個人經濟ニモ國家經濟ニモ勞働成績ノ爲メニ大ナル保證ヲナスモノナリ。勞働時間規定ハ一八〇二年英國ノ「道德ト健康法」及一八三九年普魯西ノ法律トニ始マレリ。獨逸ニ於テハ一八九〇年代ノ初期、政府ハ勞働者保護法ニ勞働時間ニ關スル規定ヲ設ケントシタルカ一九〇八年工場法改正ニヨリテ社會的改良ヲ見タリ。

勞働者保護ノ見解ヨリシタル勞働者時間制限ハ、日曜休業ト日々ノ勞働時間制限ナリ。

鑛山營業場、製鹽場、選鑛場、石堀場、鑛坑、熔鑛場、製造工場、大工其他ノ仕事場、織物工場、及諸種ノ建築場ニテハ、日曜及祭日ニ勞働者ノ從業スルヲ禁セラル。

勞働者ニ許サレタル休憩時ハ時間ニヨリ一定ニシテ、規則的ニ晝、夜業スル工場ニアリテモ始業終業ノ時ニヨリ一定セラル、商業ニアリテモ番頭、小僧ノ從業時間ハ適當ニ制定セラル、日曜休業ノ擴張或ハ其レヲ完全ニ行フコトハ一地方或ハ大ナル地方團體ノ命令的規則ニ一定セラルヘク、但シ地方關係上來レル「クリスマス」ノ一週間前、又ハ一定ノ祭日ノ大商業取引ハ此限リニアラス。

如斯勞働者保護問題カ社會的ニ重要ナル丈ケ、公衆的及工場的ニ利害關係ヲ顧慮スヘキコトハ必要ナリ。勞働ノ狀態ハ理論的ニ制定セラルヘキニアラス、商工業ノ時間的、地理的、及營業狀況ニ關係ヲ有スルモノナリ。故ニ日曜休業ノ制定ハ、一部ハ法律ニヨリ、一部ハ中央官廳或ハ行政廳ニヨリテ詳細ヲ規定シタル例外ヲモ認メサル可ラス、其際止ムヲ得ヌ場合、公衆利害、法律ニ規定シタル勞働、必要ナル工場勞働、原料消耗額、勞働成績ノ不成功、營業ノ中止又ハ遷延ヲ許サヽル工場、勞働期及定期屋勞働、每日又ハ日曜祭日ニ所要等ニ付テ顧慮セラルヘシ。近世ノ經濟生活ニ關スル各立法ハ、經濟的及社會的發達ニ適合スル樣ニ、大ニ融通カ付カサル可ラス。故ニ工場法モ亦、他ノ職業ノ日曜休息ニ對スル規定ハ同盟國ノ同意ヲ經タル帝國法律ニヨリ廣ク分布シ得ルコトヲ制定セラル。特別ナル考慮ハ日曜祭日ノ幼年者勞働ニ關スル件カ幼年者保護法ニ記載セラレタリ。鐵道廳ハ已ニ一八九四年鐵道運輸ニ當

リテ、日曜休息ノ實行ニ關スル原則ヲ獨逸鐵道ノ貨物運輸事業中ニ採用セリ。

日常勞働時間ニ關シテハ一般規則ハ應用セラレス。然レトモ工場ニ於ケル女工ノ夜業禁止ハ一九〇六年ベルン會議ニ於テ可決セラレ、決議ニ基キテ一九〇八年ノ獨逸法律ハ一定ノ除例外ヲ許シ婦人ノ日常勞働時間ハ十時間、日曜祭日ノ前日ハ八時間ニ制限セリ。幼年者及女工ニハ繼續的休息時間ハ少クトモ十一時間以上存セサル可ラス、而シテ夜八時ヨリ朝六時マテハ從業セシム可ラス。此レト同時ニ女工及幼年者ニハ內職ヲ禁止セラル勞務ノ非常ニ繁忙ナル時、日曜祭日ノ前夜、天災時ニ許スヘキ過度勞働モ女工ニハ一定ノ制限アリ、兒童ノ從業時間ハ一九〇三年ノ兒童保護法ニヨレハ、夜間安息ヲ確實ニシテ學校出席スルニ、其身體的及精神的ニ元氣アリ、且終日健康ニ害ヲ及ホスヘキ過勞ヲ避ケ得ル程度マテニ制限セリ。商業ニテモ公賣所ニ於ケル番頭、小僧、及勞働者ニ對シテハ最小休憩時間及中食時間ヲ規定セラレ、實行ハ法律的及隨意閉店ノ規定ニヨリ非常ナル出來事及必要ヲ察シテ許可セラル。

特殊ノ商店又ハ工場ニ於ケル干係ヲ先見シ得サル聯邦會議中央政廳或ハ所轄警察署ハ警察法ヲ以テ日々ノ過度從業時間ノ爲メニ勞働者ノ健康ヲ危害スル如キ工場ニ對シ許可スヘキ日常勞働時間ノ終始及休憩時間ヲ制定シ得ルコトトセリ。如斯規定ナキ爲メニ特殊工場ニ命令ハ施行サレタリ。此ノ勞働時間制定ハ聯邦會議コレヲ一八九六年「バン」燒工場及菓子屋ニ、一八九九、及一九〇三年ニハ穀物市場ニ、一九〇二年ニハ宿屋及酒亭ニ採用シ、一九一一年石工及石匠工場ニ關スル規則、「トーマス」鐵鑛滓ヲ搗キ、「トーマス」鐵鑛粉ヲ貯藏スル工場規則ニ同年ヨリ勞働時間及休憩時間ニ關スルレハ屢々十四乃至十六時間ニ延長セラル、長キ勞働時間ハ看護人ノ場合ニ限ラレタリ。故ニ立法的處置ハ看護其物ヲ根本トスルモノト同樣社會衞生的根據ヨリ命セラレ、又直チニ期待セラル可シ。

勞働時間過長ノ危險ヨリモ繁雜ナルハ職工カ從業及仕事場ニ滯留スルコトニヨリ受クル衞生的危害ナリ。故ニ國家ノ勞働者保護ハ、一定物質ヲ以テ從業スル際、大小ノ機械ヲ以テ從業スル際、工作法運用ノ際及非衞生的仕事部屋ニ滯留スル際等ニ於ケル生命ノ危險、損害及罹病ノ危險ヲ除キ又ハ減少セントスルヲ以テ問題トナス。工業ノ發達及方法ノ變化ト共ニ此ノ危險ハ消長變化ス、故ニ國家ハ特殊ノ規則カ經濟的、專問的、社會的及衞生的、狀態ノ變化ニ從ハサル可ラサル問題ニ、專ラ勞働及職業危險ニ抵抗スヘキコトヲ一步ノ〳〵研究シ勞働者保護ヲ確定スルコトヲ得。

工場法ハ一般ニ許可スヘキ企業ノ認可ノ際ニ健康及生命危險ニ對シ、勞働者保護ノ條件制定ヲ規定スル他、企業者ハ營業及仕事場ノ特性ヲ顧慮シテ出來得ル限リ生命及健康ノ保全ノ爲ニ必要ナル凡テノ設備ヲ設置スル義務アリ、一八九一年ノ勞働者保護法案ニ此レニヨリ最近勞働者保護法ニ發達シ、其ノ後企業者ハ一般ニ仕事部屋營業設備、器械道具ヲ適當ニ設備供給シ營業ヲ規則正シクシテ以テ出來得ル限リ勞働者ノ生命、及健康保全ニ努力スヘキ義務ヲ負ハセラレ殊ニ採光及換氣ヲ充分ニシ、空間ヲ大ニシテ營業ノ際發生スル塵埃、蒸氣、瓦斯、削屑ノ除去其他危險ナル器械ニ觸ル、コト、工場火傷、仕事部屋又ハ營業ノ

性質上存在スル他ノ危險ヲ防クヘキ裝置ヲナスコトニ注意セシム、最後ニ尙ホ工場法ハ營業ノ秩序及職工ノ狀態ニ關シ危險ノナキ職業ヲナスニ必要ナル規定ヲ制定セサル可ラス。一九一一年此工場法ハ制定セラレタル規定ヲ自宅仕事ノ狀態ニ適當ニ移シテ、有力ナル社會政策的擴張ヲ見タリ。此工業ニ對シテハ、生命及健康保全ノ要アル仕事ニハ特ニ夫レト知ラル、部屋ニ限リテ從事スル事ヲ得ル特別規定ヲ設クルコト極メテ重要ナリ。

特殊設計ニ關シテハ所轄警察署ハ其命令ニヨリ必要ナル規定ヲナサシムル事ヲ得。一定種類ノ企業ニハ聯邦會議地方中央政廳及警察署ハ當該規定ヲ發布ス。

故ニ聯邦會議ハ諸種工場ニ對シテ設備及營業ヲ規定シ、鉛色及鉛糖工場ニ對シテハ一八九三年及一九〇三年ノ「クローム」「アルカリー」鹽類製造所ニハ一八九七年及一九〇七年、鉛及鉛化合物ノ蓄電器製造所ニハ一八九八年及一九〇八年、馬毛紡績工場、獸毛工場、刷毛及書筆製造所ニハ一九〇二年、「トーマス」鑛滓粉碎貯藏工場ニハ一八九九、一九〇九、及一九一一年、亞鉛工場ニハ一九〇一年、及一九一二年、「ゴム」硬化工場ニハ一九〇二年、一九〇九年及一九一一年、鉛工場ニハ一九〇五年、大鐵工場ニハ一九〇八年公布シタリ。

協同組合ハ組合員ヨリ其ノ工場ニ於ケル災害豫防ニ必要ナリト認メタル設備及制定並ニ被保險者カ同等ノ目的ト認メタル狀態ニ關シ規定ヲ設ケ、又災禍豫防規則實施ニ注意スヘキ義務ヲ有ス。(帝國命令八四八條、八七四條、一〇三〇條、一一九九條、一二〇九條、)斯クシテ社會的勞働保險ノ側ヨリ云ヘハ之レト勞働及職業危險ニ對シ隔壁ヲ作ラレタリ。

商業上ハ商法ニヨレハ(六二一條)從業家及職業用ト定メラレタル設備及器械並ニ職業ト時間トハ、從業者カ健康ノ危害ヲ保護セラル、樣、制定セラレサル可ラス。此規定ヲ實行スルタメニ、特殊公賣所ニ對シテハ警察命令ヲ以テ必要ナル處置ヲ施行スルコトヲ得。聯邦會議ハ店、仕事場、倉庫、ニ關シ、又道具、機械類ニ關シ從業者保護實施ノ爲メニ社會衞生的規定ヲ公布スヘキ權利ヲ有ス。

兒童及年少者ハ彼等ニ及ホス偉大ナル健康的危害ト、彼等ノ力及素質ヲ非衞生的作業ニ對シ障害ヲ蒙ラサル樣ニナス爲メニ大ニ保護スルヲ要ス。獨逸ノ法律カ、小供及年少者ニ勞働時間過長ノ爲メニ蒙ル被害ヲ防カントスル手段ハ已ニ述ヘタリ。然レトモ健康上ノ危險ハ、工場ニ働ク小兒及年少ノ勞働者ヲ仕事ノ困難ト危險トニヨリテモ追害ヲ及ホス、故ニ獨逸ニ於テハ帝國工場法及一九〇三年ノ兒童保護法ニ、一定種類ノ職業ニハ全ク從事スルコトヲ禁シ特別ノ場合ニハ輕減シ、又ハ規定ニ從ヒ保護ヲ大ニスルコトヲ得セシメ、他ノ工場ニ於テハ他人ノ小供ハ十二歲以下、自己ノ子供ハ十歲以下ハ從業スルコトヲ得ス。家庭仕事ノ社會的關係ハ警察署ヲシテ小供ノ勞働ヲ衞生的考慮ヨリ全然禁止シ、或ハ一定ノ製造所ニ對シ年少勞働者ノ使用ヲ嚴禁シ、又ハ或條件ノ下ニ許可スルコトヲ得。

年少勞働者ノ從業ハ例ヘハ硝子工場ニハ一九〇二年「モートル」ヲ使用セル「キクヂシヤ」製造所及「キクヂシヤ」工場ニ對シテハ一九〇二年及一九〇九年、紡績工場、毛織工場、屑、襤褸工場等ニ對シテハ一九〇三年及一九〇九年、粗製砂糖製造所、精糖所並ヒニ糖蜜分離所ニハ一九〇二年及一九一一年之レヲ規定セラレタリ。

十八歳以下ノ職人ヲ使用スル工場主ハ一般ニ工場設計ノ際及營業ヲ規定スル際ニコノ勞働者ノ年令ノ爲メニ禁セラレタル健康ニ關シ顧慮スヘキ義務アリ。

少兒及年少者ニ對スル勞働者保護ニ遲ル、コト久シクシテ、婦人ニ對スル保護カ英國ニテハ一八四四年、獨逸ニテハ產褥婦保護ハ別トシテ一八九一年漸ク承認セラレタリ。婦人ノ體質ハ其母トシテノ務メノ如ク、判然タル社會衞生的保護ヲ國家ニ要求ス。現今獨逸勞働者保護法制ニハ、婦人ハ年少勞働者トハ其ノ勞働時間カ事實ヲ證スル如ク兩者ハ屢々同等ニ取扱ハレ健康ノ爲メニ特殊ノ危險ヲ伴フ或ル製造業ニハ、女勞働者並ニ年少勞働者ニハ全ク禁セラレ、或ハ唯注意規定ノ許ニ於テノミ許可セラル、鑛山、造鹽場、運鑛場、地中工業、石掘所、地下鑛坑ニ於テハ婦人ノ勞働ハ禁セラル。此保護法以前、褥婦ニハ實行セラレ居タリ。一八九一年以前ニハ工場法トシテハ唯分娩後三週間以內ノ褥婦ハ從業スルコトヲ得スト規定セルノミナリキ。勞働者保護規則ニヨレハ分娩後四週以內ノ婦人ヲ工場ニ使用スルコトヲ禁シ、其後二週間ハ醫師ノ意見ニ從フ。一九〇八年ノ改正法ハ產褥婦保護ニテ八週間ニ延長シ少クトモ其中六週間ハ分娩後ニ相當セサル可ラス、トナセリ。此規則ニヨリ婦人ハ同時ニ自己ニ對シテモ、保護セラル。之レ知ラル、如ク、褥婦カ之レマテ四週間經過後ハ直チニ働キニ出サレ、醫師モ勞働ニ從事スルコトヲ許スヘキモノトシタレハナリ。褥婦ノ保護ハ帝國保險法カ近來之レヲ彼レ等ニ與ヘタル社會保護ニヨリテ益々其ノ必要ヲ明ニシタリ。

已ニ姙娠中ニ於テ勞働不可能者ニハ疾病保險金ノ額ニテ隨意ニ給與セラル、コトヲ得、其他姙娠障害ノタメ必要トナル場合ニハ、產婆及醫師ノ處置ヲ受クルコトヲ得。褥婦ハ疾病保險金ノ額ニテ產褥給ヲ八週間受ク、其中少クトモ六週間ハ分娩後ニ相當セサル可ラス。地方療養資金組合員ハ制定的ニ四乃至八週間補助セラル、組合ハ產褥婦ノ求メニヨリ週給金代リニ產褥婦療院ニ於テ治療ト看護ヲナシ、又ハ週給金ノ半額マテ減價シテ家庭看護婦ノ世話ヲ受クルコトヲ得。法律ハ保險加入ノ妻、又ハ凡テノ保險加入婦人ハ更ニ分娩ニ際シテ必要ナル產婆及醫師ノ助產處置ヲ許可スルコトヲ得。被保險者ノ保險セサル妻ニ對シテモ隨意產褥補助ヲナシ得ルコトハ有力ナル母體保護ヲ示スモノナリ。

勞働者保護規定嚴守ニ關スル監督ハ、一八七八年以來特別ニ或ハ普通警察署ノ官廳的命令權殊ニ、工場ノ臨時檢查權ヲ有スル官廳ニ移サレタリ。

勞働者保護ノ豫防作用補充ヲナスハ、社會的勞働者保險ナリ。諸種ノ勞働者保護ニモ不拘疾病及災害カ避ケ得ラレサル時治癒力ハ疾病保險並ヒニ災害保險ニ關係ス、兩保險ハ一八八四年及一八八五年即チ我經濟

界ノ大發展時ニ効力發生以來大工場ニ起レル職業及勞働障害ヲ再ヒ改良シタリ。彼等ハ一八八七年交通業ノ或ル營業ニ、其翌年農業ニ擴張シ、一八八七年建築不幸保險法及海上保險法次テ起リ此ノ關係ニ於テ疾病ノ豫防診斷及經過ヲ記述スル說明ハ豫決セラレサル可シトスルモ職業ハ勞働障害治癒及婦人ニ與ヘラレタル保險保護ニヨリテノ重大問題ハ帝國立法完成ニヨリ解決セラレタル特殊動機ヲ示スコトヲ得ヘシ。一八八五年ヨリ一九一〇年マテニ疾病保險會社ハ其加盟者ニ職業不可能ノ罹病總數八千五百七十萬例ニ補助ヲナシ病氣日數十五億五千二百萬日ニ對シテ疾病保險金ヲ支拂ヒ又ハ病院治療ヲ施セリ。姙婦及產褥婦ニ對シテハ同時日間ニ七千萬「マルク」ヲ使用シ此ノ二十六年間ニ於ケル醫師ノ治療費、藥價及ヒ其他ノ治療費ニ十四億九千二百八十萬馬克ヲ投シタリ。但シ之レニハ自宅又ハ病院ニ於ケル恢復期ノ治療費及看護費並ヒニ死亡吊慰金ヲ計算セス。二十六ケ年間ノ疾病救護ニ使用シタル疾病保險金總額ハ殆ト四十億馬克ニ達ス。此ノ財政成績ニヨリテ此ノ保險法ノ廣キ編成ト熱心ナル作用トヲ知ルコトヲ得。

災禍保險者ハ一八八五乃至一九一〇年ニ醫師法療費、藥價、及其他ノ療養費ニ（療養所處置ヲ除ク）四千八百四十萬馬克ヲ使用シタリ。又彼等ハ屢々規定給料ノ代リニ、負傷者ニハ職業不可能ノ障害ヲ出來得ル限リ減少スル爲メ官費ニテ病院治療及看護ヲ與ヘ、家族ニハ金錢給與ニヨリテ補助シタリ。病院療養ハ七千二百三十萬馬克ヲ使用シタリ。協同組合ハ最初ノ十三週間助力ヲ疾病保險ニ托セスシテ出來得ル限リノ凡テノ手段ヲ以テ負傷者ノ勞働能力ヲ恢復スル爲メニ、不幸後直チニ治療手續ヲ取ル、年額減少關係ハ被保險者ノヨク知レル根治快復ニ關係ス。豫防看護ハ廢疾保險ヲ許可シ之レニヨリテ健康又ハ職業能力恢復ノ爲メニ保險要求ノ發生又ハ永續ヲ防ク此邊ノ消息タルヤ副作用ニ關係スルト雖モツアーン氏カワシントンニ於ケル社會學及衞生學大會ニテ述ヘシ如ク、獨逸廢疾保險機關ハ之レニヨリテ社會衞生ヲ發達セシメントスルアラユル努力ノ重要ナル支柱トナレリ。保險者ハ他ノ關係ニ於テ詳シク實行セラルヘキ如ク結核豫防ノ際ニ特別ノ作用ヲ表ハス。然レトモ齒科及生殖器疾病豫防ハ已ニ色々ニ考ヘラレタリ。遂ニ大地方ニテハ保險局ノ補助ヲ受ケタル人々ヲ置ク共同救護所救會組合等ニ對シ保險局ハ二六〇一例三十六萬七千六百三十二馬克ヲ支辨セリ。

更ニ大問題ハ社會保險ニ對シ一九一一年ノ帝國保險法ニヨリ制定セラレタリ。强制疾病保險ハ農業勞働者、僕婢、家庭勞働者及ヒ不定勞働者ニ普及セラレタリ。被雇人ニ對スル保險範圍ハ二千五百馬克ニ達セリ。患者保護ハ法律ニヨリテ普及スルコトヲ得。又支拂局ノ義務的實行モ增加セラレタリ。支拂局ハ將來患者救護、疾病金看護及病院處置ノ他看病人、及看護婦ヲ以テ家庭看護ヲナシ又入院セル同胞ノ家族ニ家賃ヲ支給スヘシ。新規定ノ產婦救護法ハ已ニ記載セリ。支出局ハ隨意尚以前ヨリモ立チ至リテ恢復期患者ヲ恢復者病院ニオクコトヲ得。災害保險改良ハ、保險義務範圍ノ擴張、雇官吏ノ收入增加、租稅調查ノ際ニ增加セル所得年額考慮及殊ニ社會衞生上殊ニ必要ナル職業疾病ヲシテ保險義務アラシムヘキ聯邦會議權能トヲ含ム。此ノ進步ニ反對シテ他ノ希望及要求殊ニ統一的處置及疾病救助基金法編成ニ關スル要求ノ不實